

# 研 究 編

第 1 章 研究抄録関係

第 2 章 研究発表関係

# 第1章 研究抄録関係

## 1. 病院における研究（課題別研究費）

### <研究課題1>

がん治療におけるインターベンショナル・ラジオロジーの応用についての研究

Clinical evaluation of interventional radiology in oncology

### <研究者氏名>

所属部 放射線診断・IVR部（泌尿器科部）

研究者氏名 稲葉吉隆

共同研究者 山浦秀和、佐藤洋造、小野田 結、加藤弥菜、村田慎一、長谷川貴章、金原佑樹、守永広征、山口久志（泌尿器科部：林 宣夫、曾我倫久人、小倉友二）

### 【目的】

腹部・骨盤部手術後の尿管合併症には、尿管損傷に伴う尿管狭窄や閉塞、尿漏（瘻孔形成）等が挙げられる。その対応策として、まず経尿道的に膀胱鏡を用いて逆行性に尿管損傷部を通過させて尿管ステント（ダブルJカテーテル）の留置が試みられる。これが困難な場合は、経皮的に腎を穿刺し腎盂から順行性に尿管損傷部へアプローチすることとなる。しかし、順行性操作でも、尿管損傷部の通過やカテーテル挿入が困難な場合があり、最終的には順行性・逆行性の協同操作により尿管ステント留置を目指すこととなる。

そこで、術後尿管損傷に対する順行性・逆行性の協同操作による尿管ステント留置手技の実行性を検証した。

### 【方法】

平成7年～26年に、当科および泌尿器科との協同手技により、順行性・逆行性同時操作で尿管ステント留置を20患者に対して21手技試みた。患者内訳は、男性2例、女性18例、年齢中央値59歳（42～79歳）で、子宮・卵巣手術後16例、直腸・肛門手術後2例、膀胱手術後1例、骨盤内臓全摘術後1例であった。片側尿管へのアプローチが19例、両側尿管へのアプローチが1例で、18尿管に瘻孔形成、3尿管に閉塞を生じていた。

全例、経尿道的または回腸導管孔から鏡視下での逆行性アプローチのみによる対処が困難であり、経皮的腎瘻造設により順行性アプローチを行い、最終的に順行性・逆行性の協同手技により尿管ステント留置を試みていた。腎瘻造設と同日に行ったのが18手技、別日が3手技であった。

順行性または逆行性に尿管損傷部をガイドワイヤーが通過しても、ステントカテーテルが追従しない（損傷部を通過できない）場合は、通過したガイドワイヤーを一方側からスネアカテーテル（0.018"ガイドワイヤーでループスネアを作製）を用いて把持して引き出し、尿道孔または回腸導管孔と腎瘻刺入部との間で尿管を介した貫通経路を形成して、経路を安定させてカテーテルの通過を試みた。また、瘻孔形成例で、ガイドワイヤーが瘻孔から尿管外に逸脱してしまい一方側尿管に到達できない

場合は、尿管外瘻孔部で一方側からのスネアで他方側からのガイドワイヤーを把持して同様に貫通経路を形成してステントカテーテルの留置を試みた。

これら20例（21尿管手技）について、ステントカテーテル留置の成否とその後の経過を調査した。

### 【結果】

全21尿管手技中、19尿管にステントカテーテルを留置することができ、技術的成功率は90.5%（19/21）であった。8尿管ではダブルJカテーテルによる内瘻化、11尿管ではストレートカテーテルによる内外瘻化が成されていた。スネア把持操作を行った部位は、11手技が尿管内、2手技が回腸導管内、6手技が尿管外瘻孔部であった。不成功例は、完全閉塞のためガイドワイヤーの通過が不可能であったものが1手技、瘻孔形成部が広範囲で操作を断念したものが2手技であった。手技に伴う重篤な合併症は認めていない。

観察期間中央値37.6か月（0.3～111か月）での臨床経過は、ステントカテーテル抜去可能となり再燃のないものが4例、定期的にステントカテーテルを交換しているものが9例、ステントカテーテルを留置するも機能不全で腎外瘻状態となったものが4例、同じく外科的に尿路変更を行ったものが1例、ステントカテーテルを留置できずに腎外瘻状態となったものが1例、同じく外科的に尿路変更を行ったものが1例であった。前2者でステントカテーテル留置が功を奏しており、臨床的成功率は65.0%（13/20）であった。

### 【考察】

尿管損傷の合併症は標準的な子宮・卵巣または結腸・直腸手術において0.5～15%の発生率と報告されている。また、尿管瘻を形成している場合での、尿管ステント留置成功率は、逆行性アプローチで10～40%、順行性アプローチで90%との報告があるが、逆行性アプローチでは膀胱鏡や尿管鏡の精度が向上しており、その成績は実際にはもっと高いと推測される。

順行性・逆行性アプローチでのスネアカテーテルを用いたの協同手技による尿管ステント留置は1992年に初めて報告されて以降、その成功率は60～100%とされている。

当院での、スネアカテーテルを用いた順行性・逆行性協同アプローチでの尿管ステント留置の技術的成功率は90%であり、高い実行性を有していた。しかし、臨床的成功率は65%にとどまり、完全回復率は20%未満であった。これには組織再生を促すステントカテーテルの開発が必要である。

### <研究課題2>

治療感受性と再発リスクによる乳癌術後補助療法の選択に関する研究

The selection of adjuvant therapy for breast cancer, based

on the treatment sensitivity and the relapse risk

#### <研究者氏名>

所属部 乳腺科部

研究者氏名 岩田広治

共同研究者 澤木正孝、服部正也、吉村章代、石黒淳子

#### 【1年間の総括】

この1年間にも乳癌の術前後薬物療法に関する膨大な情報が世界中から流入し、我々が参加している国内・国外の臨床試験も多方面にわたって進行した。

##### 1：術後内分泌療法に関する研究

報告：2016年に閉経後ホルモン陽性乳癌に対する長期アロマターゼ阻害剤の有効性に関するランダム化比較試験 (MA-17R) の結果が報告された。長期ホルモン治療を行うことで、対側乳癌の発生や局所・領域再発は有意に減少するが、遠隔転移の頻度は両群でそれほどの違いは認めなかった。また有害事象としての骨折の頻度が増すことから、日本においてアロマターゼ阻害剤の長期投与の是非は更なる議論が必要と考えている。2014年に出された試験の結果の後、当院での閉経前ホルモン感受性陽性乳癌に対して、Zoladexを使用する頻度が減少しTAM単独での投与が圧倒的に多くなった。

##### 2：術後化学療法に関する研究

報告：術後化学療法の適応をmolecular subtypeで考えようとする方向性は定着したが、以前“luminal B like 乳がん”と定義される乳がんでは化学療法の是非がカンファレンスでよく議論になる。OncotypeDXが解決の1つのツールであるが、保険適応がなく高額な為に、普及していないのが現状である。2015年12月に術前化学療法でnon pCRの患者を対象にゼロダを6か月内服することで有意に生存率が改善することが日本からの試験結果として報告された (CREATE-X)。この結果を受けて、術後high risk患者に対しては積極的にゼロダ内服を勧めている。

##### 3：術後分子標的治療に関する研究

報告：2015年に術後Trastuzumab 1年投与後にNeratinibを継続して1年投与することによって再発率が有意に減少することが報告された (ExteNET試験)。副作用の下痢のマネージメントが大変な薬剤であるが、Trastuzumab以外の投与で、術後の予後を改善した薬剤としてNeratinibに注目が集まっている。Neratinibは現在再発乳癌の適応もなく、今後どのように日本での承認を取得するかが問題になっている薬剤である。高齢者HER2陽性乳癌患者における化学療法省略の是非を問うN-SAS-BC07試験 (PI：当院の澤木先生) は現在経過観察中であり、今後の発表が待たれる。

##### 4：術前化学内分泌療法に関する研究

報告：閉経後ホルモン感受性乳癌では術前ホルモン療法の効果で術後の抗がん剤の必要性を検証する第III相多施設共同比較試験 (NEOS study：PIは岩田) の登録が終了し、経過観察中である。閉経後の方を対象にホルモン剤と併用してゾメタと投与する医師主導治験は登録が終了した。新しい術前化学療法の医師主導治験も開始されたが、当院が参加するためのインフラ整備が不十分であり、今後の課題になっている。

#### <研究課題 3>

臨床検査における各種癌診断手法の改善、開発

Investigation for methods of cancer diagnosis in clinical laboratories

#### <研究者氏名>

所属部 臨床検査部

研究代表者 谷田部 恭

共同研究者 亀井慶子、尾関順子、長谷川かおり、柴田典子、藤田奈央、早川 登、野中綾子

#### 【研究成果】

臨床検査部では各部門別に、本年度に得られた成果および研究経過を報告する。

生化学部門では、全自動化学発光酵素免疫測定システムの更新を機に感染症の検査法を見直した。HBs抗原定量検査を以前よりも高感度としたことで、今まで感度未満のため検出できなかったHBs抗原を検出できるようになり、近年問題となっている抗がん剤や免疫抑制剤投与患者におけるHBウイルス (HBV) の再活性化に対する早期診断に貢献した。また、HIV検査を第二世代から第四世代にしたことで、HIV-1/2 IgG抗体だけでなくHIV-1/2 IgM抗体やHIV-1 P24抗原も検出できるようになり、ウィンドウペリオドが短縮し早期診断に貢献した。また、以前のシステムよりも処理能力が向上し検査時間を短縮した。

血液検査部門では、新たな自動血球分析装置が導入されたことに伴い、自動再検基準を作成した。自動再検条件やシステムによるアラートを設定することで、自己抗体による寒冷凝集や採血手技の不良による血小板凝集、異常細胞の出現など、血算の結果を承認する際の人為的な見逃しを防ぐことに寄与している。また、以前は血算依頼検体に対して非常に多くの割合で標本作製し目視確認を行っていたが、血液像の機械的分類能の精度向上に伴い、標本作製基準をも見直し、目視確認を行う検体数を大幅に減らすことができた。採血から最終報告までのTAT短縮に繋げている。

生理検査部門では、術前検査として、また治療による副作用の確認のため、肺拡散能 (DLCO) を測定している。貧血により低値になることがわかっているが、実際は貧血を考慮せず報告している。そこで貧血を考慮した場合の影響について検討した。

##### ・方法

2014年にDLCOを測定した男性392名、女性192名のうち% DLCOが80%未満、かつHb濃度が基準値以下 (男性14.6g/dl未満、女性13.4g/dl未満) の症例を対象とした。日本呼吸器学会推奨の補正式を使用し、男性は14.6g/dl、女性は13.4g/dlにHb濃度を補正し、% DLCO値を再算出した。

##### ・結果

% DLCOが80%未満の症例は男性392名中58名 (14.8%)、女性192名中42名 (21.9%)、その中でHb濃度が基準値以下だったのは男性37名 (63.8%)、女性26名 (61.9%) だった。補正により% DLCOが80%以上の正常になったのは、男性37名中11名 (29.7%)、女性26名中5名 (19.2%) だった。

## ・考察

% DLCO低下の約6割に貧血傾向を認めた。より正確な評価のためにはHb補正が有用であると考えられた。

病理検査部門では、通常のHE染色に加え、癌の確定、補助診断に必要な不可欠な免疫染色を行っている。今年度は骨などの硬組織におけるHE染色の染色性についての検討を行った。骨組織は、そのままの状態では薄切不可能であり、薄切標本作製するためには脱灰操作を必要とする。一般的に用いられる迅速脱灰液は塩酸を初めとする強酸を多く含むため、組織の変性が強くなり、染色性の低下、特に核染色性の低下が著しく、診断への影響が無視できない。そのため当院では、組織の変性が少ない、キレート剤であるエチレンジアミン四酢酸(EDTA)を主成分とする中性脱灰を日常法としていた。しかし、この方法では脱灰完了までに要する時間が長く、病理診断報告に時間が掛かることが課題であった。そこで核を染めるヘマトキシリンの濃度について検討した。その結果、従来の1.75g/Lのヘマトキシリンに対し2.5g/Lのヘマトキシリンに濃度を上げることにより、脱灰処理をした組織を初めとする染色性が低かった組織においても十分な染色性が認められ、且つその他の部分は過染しない染め分けが可能であった。この結果により、多くの骨を含む検査材料については、迅速脱灰法を選択することが可能となり、結果報告までの時間の短縮につながった。

細胞診検査室では、日本臨床細胞学会ワークショップの濾胞性腫瘍に関する検討に参加した。甲状腺癌は組織型により生物学の特徴が極めて異なり、術前の診断が治療に大きな影響を与える。しかしながら、濾胞癌と濾胞腺腫の鑑別は細胞診では困難であり、時に腺腫様結節との鑑別も問題となる。また観察者間での診断のバラツキがあることも報告されている。本検討は当院を含め複数施設が参加し、甲状腺専門病院である隈病院(兵庫県)で実際に用いられている診断アルゴリズムに則り、背景所見やコロイドの有無、濾胞細胞の出現様式、核所見を評価項目とし組織型の診断を行った。その結果、高い診断一致率を得た症例もあったが、多くは施設間での評価にバラツキがみられ診断一致率は高くなかった。当施設の結果は濾胞癌、濾胞型乳頭癌、低分化癌では診断不一致で、濾胞性腫瘍の診断の難しさを再確認する結果であった。今後は今回提示された診断基準を参考にし、日常の細胞診断業務に取り入れていく。

細菌検査室では、血液培養の複数セット採取率の改善で血流感染症の精度の向上に取り組んだ。血液培養は、血流感染を診断する目的で実施される。血液中から原因微生物を捉え、最適な治療へ導くことができる最も重要な検査である。コアグラゼ陰性ブドウ球菌アクネ菌、コリネバクテリウムなどの皮膚の常在菌は、血液採取時の汚染頻度が高いため複数セット中の1セットのみ陽性であればコンタミネーションの可能性が高くなる。逆に皮膚の汚染頻度の低い大腸菌などの腸内細菌や肺炎球菌などは1セットでも陽性となれば起因菌と判断できる。つまり、複数セット採取によりコンタミネーションの判断と、検出感度の向上が期待できる。

当センターの2セット率を2009年度から2014年度について調査した。血液培養の検体ラベルの発行時間が3時間以内を2セットとした。2セット率は2009年度から2011年度までは数%であったが2014年度には35%まで増加していた。他施設では

70%以上の施設が多くなっており90%実施の報告もある。感染防止委員会で現状を報告し、平成26年4月1日からの診療報酬改定で血液培養においては2セットの保険点数算定が可能となったことを踏まえ、2セット採取の実施に協力を依頼するなどした。その後2セット率は改善傾向にあり、感染制御活動のひとつとして血液培養の2セット採取を推進している。

遺伝子検査部門では、主に分子標的薬の効果予測としての遺伝子検査を行っており、その検査方法や、測定項目は年々変化している。検査室として臨床側からの要望に応えられるよう、検体の保存、結果のデータベース化を進め、新規検査方法、検査項目を迅速に取り入れられるよう体制を整えている。平成26年度に取り入れた新規分析機器(LUMINEX)は、一度の測定で74の遺伝子異常を測定可能であり、これまで解析できなかった領域の遺伝子変異も報告可能となった。具体的には抗EGFR抗体医療薬の効果予測因子として今までのKRAS遺伝子だけでなく、NRAS遺伝子変異も検出し、さらには予後不良因子、再発高リスク因子として有効であるBRAF遺伝子変異も検出することで、進行期大腸がん治療に非常に有用な検査結果を提供できるようになった。H27年度にはさらに広範囲な遺伝子変異を一度に検出可能な次世代シーケンサーを導入し、日常検査として導入できるよう、検討を続けている。

## <研究課題 4>

病理細胞診断における分子腫瘍診断法の研究

Development of molecular analysis on cancer diagnosis

## <研究者氏名>

所属部 遺伝子病理診断部

研究代表者 谷田部 恭

共同研究者 佐々木英一、村上善子、橋本光義

## 【背景】

近年の分子生物学の飛躍的な発達により、がんの発生・悪性度の評価・薬剤応答性などの知見が蓄積され、それは現在も増えつつある。これら情報の一部は実臨床に直結しており、その応用により適切な診断・治療に結びつくものも多い。そこで、これらの知見を検証した上で、実際の病理診断、細胞診断に導入、応用することを目標に掲げた。その際に、診断に用いられる臨床検体は、生検検体などの小さな組織を利用しなければならなかったり、正常細胞が多数混じているなどの問題点も多い。そこで、それらの点を踏まえた新たなアッセイ系の確立を検討した。

## 【方法】

本年度はMET遺伝子におけるalternative splicing検出アッセイ系について検討した。MET exon 14 skippingについてはこれまで世界に先駆けてalternative splicing mutationとして報告したが、近年この変異に対するcrizotinib応答性が高いことが報告され、ルーチン検査に加えるべく、簡便で判別のよい方法の確立を試みた。この変異ではintron 13に遺伝子変異などが加わることでexon 14のskippingが生じるが、その変異は一定の



コドンに集積しないことから、skippingそのものを検出する転写産物によるアッセイ系とした。転写産物を蛍光ラベルにて標識したプライマーを用いてRT-PCRにて増幅し、その産物をGenetic analyzerにてfragment解析をすることで、skipping産物を異なるシグナルとして認識することを試みた。

#### 【結果】

配列の異なる6つのプライマーセットを作成し、あらかじめdirect sequencingにて確認しあるMET exon 14 skipping variantを有する症例6例、正常転写物を示す症例3例を用い、検討を行った。パラフィン切片から抽出したRNAを用いることも考慮し、最も増幅効率のよいプライマーセットを選択した。そのプローブを蛍光標識し、Fragment解析を施行したところ、判別よくexon 14を欠失した変異型を6例で検出することができた一方で、正常型では通常の転写物のみであった。さらに、一部の症例ではパラフィン切片からRNAを抽出し、変異型を検出できることを確認した。

#### 【考察】

MET exon 14 skipping variantはすでに承認されている薬剤であるcrizotinibに対して効果が予測される他、開発中のMET阻害剤に対しても有用と考えられ、ルーチンに検査を行うことで、これらの薬剤を用いての治療に対する患者選択に役立てることが可能となった。

#### <研究課題 5>

トモセラピーを用いた強度変調放射線治療の臨床応用  
Clinical application of IMRT using Helical Tomotherapy

#### <研究者氏名>

所属部 放射線治療部  
研究者氏名 古平 毅  
共同研究者 立花弘之、富田夏夫、牧田智誉子

#### 【はじめに】

当院では2006/6にトモセラピー（TomoTherapy社 TomoTherapy Hi-Art System）が設置されて以来、臨床例のIMRTによる治療を開始してきた。今回われわれはIMRTの治療効果とその有用性の指標である唾液腺機能を評価検討し当院での頭頸部IMRTの臨床的評価を試み、臨床的有用性・妥当性の評価を行うことを目的とした。

#### 【方法】

我々は今回IMRTの臨床的評価の目的で咽頭がんおよび頭頸部リンパ腫症例に対し、治療前後での唾液腺機能評価の目的で唾液腺シンチグラフィを実施してきた。

2006/6-2015/12に頭頸部癌に対しヘリカルトモセラピーを用い683例の頭頸部癌へのIMRT治療の経験を得た。上咽頭および中咽頭はIMRTによる耳下腺の線量低減のメリットが大きいと考えられ、積極的にIMRTの適応を勧めてきた。誌面の関係で上咽頭癌の成績を紹介するにとどめる。対象は1990年以降2013年までに化学放射線療法を行った上咽頭がん患者で年齢は

中央値54歳（11-76）、男性80：女性26という内訳だった。WHOの病理組織分類のtype Iは24例type II-IIIは81例、のこり1例は組織型判別不能であった。予後調査の解析時点で観察期間中央値は47.2月（16-97ヵ月）、無病生存は71例、担癌生存は16例、原病死が12例、他病死7例の内訳だった。3/5年粗生存率は83.3/79.5%、3/5年無増悪生存率は69.8/63.6%という結果であった。G2の口腔乾燥割合は6ヶ月：1年：2年で66.23:16%と経時的な改善傾向を認めた。また中咽頭癌、下咽頭癌のトモセラピーの治療成績を英語論文として発表した。

#### 【まとめ】

当院におけるトモセラピーを用いた頭頸部癌のIMRTにおいて治療効果および治療後QOL改善の点で、その高い臨床的有用性が示された。

## 2. 研究所における研究（人当研究費）

### 疫学・予防部

#### <研究課題> 1-1

(主題) がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録資料を活用した、がんの流行と転帰の分析

(副題) 地域がん登録データに基づく乳がんの長期予後の変化について

#### <研究者氏名>

吉村章代<sup>1)</sup>、伊藤秀美、細野覚代、尾瀬 功、西野善一<sup>2)</sup>、服部昌和<sup>3)</sup>、中山富雄<sup>4)</sup>、田中英夫、伊藤ゆり<sup>4)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

乳癌の罹患率は増加し続けているが、乳癌の予後は臨床研究の結果では治療の進歩と個別化により改善している。しかし2000年代における一般集団の予後に関しては、欧米において5年相対生存率(Relative Survival:RS)の改善が報告されているのみであり、長期の予後は検討されていない。さらに予後規定因子である診断時の年齢や進行度毎の予後の変化は明らかではない。

今回 2000年代における乳癌の長期予後の変化を明らかにするために、長期生存率の算出可能な6府県(山形 宮城 新潟 福井 大阪 長崎)の地域がん登録データを用い、1993-2006年に乳癌と診断された63,348人(非浸潤癌と男性乳癌を除く)を対象に10年相対生存率を算出した。1993-1997年に乳がんを診断された患者の予後をコホート法で算出、2002-2006年に乳癌と診断された患者の予後をピリオド法で算出した。両年代の予後を比較する事で、2000年代における予後の変化を評価した。さらに年齢(-35歳、35-49歳、51-65歳、66歳-)、進行度(限局、領域、遠隔転移)に分けて予後の変化を評価した。

両年代間で10年相対生存率は24%改善していた(76.9% vs 79.3%)。年齢、進行度毎の検討では、35-49歳(+2.9%: 78.1% vs 81.0%)、50-69歳(+2.8%: 75.2% vs 78.0%)、領域(+3.4%: 64.9% vs 68.3%)で生存率が明らかに改善していた。一方 15-34歳(+0.1%: 68.2% vs 68.3%)、70-99歳(+1.0%: 87.6% vs 88.6%)、限局(+1.1%: 92.6% vs 93.7%)、遠隔(+0.9%: 13.8% vs 14.7%)では改善が少ない事が分かった。極めて改善が少なかった15-34歳や遠隔では新たな治療戦略が必要であることが示唆された。

#### <今後の方向>

今回の検討では長期生存率の算出可能な6府県のデータを用いたが、これは日本全体の約13%に値する。今後 癌登録の法制化に伴いさらに大規模なデータを用いた検討が可能となる。また 今回2000年代の10年相対生存率を算出するためにピリオド法を用いたが、今後は更に最新の予後データを入手し2000年代の予後をコホート法で算出する事が必要である。それによりコホート法で算出した予後を年代毎に直接比較する事で、予後

の変化をより正確に評価する事が可能となる。

<sup>1)</sup> 連携大学院生、<sup>2)</sup> 金沢医科大学、<sup>3)</sup> 福井県立病院

<sup>4)</sup> 大阪府立成人病センター

#### <研究課題> 1-2

(主題) がん対策の企画・評価に必要な地域がん登録資料を活用した、がんの流行と転帰の分析

(副題) 愛知県の二次医療圏別主要部位がんの生存率較差—進行度分布による検討—

#### <研究者氏名>

山口通代<sup>1)</sup>、伊藤秀美、中川弘子<sup>2)</sup>、田中英夫

#### <目的・概要・進捗状況>

地域がん登録資料から算出される生存率は、その地域におけるがん患者の平均的予後を表し、早期診断と適切ながん治療の普及(均てん化)を包括する、がん対策の重要な評価指標である。また、生存率の地域較差を確認することにより、早期診断・治療体制の提供に関する改善の余地を知ることが出来る。

愛知県では、2001年診断症例から従来の「非がん死亡との照合」に加え、県内全市町村を対象とした「住民票照会」による生存確認調査を実施し、より正確な生存率の把握に努めている。「全国がん罹患モニタリング集計(MCIJ)2006-08年生存率報告」においては、本県の登録精度が、2012年診断症例で、DCN割合11.9%、DCO割合6.2%、I/M比2.31と、全国生存率集計の基準(DCN割合<30%あるいはDCO割合<25%)、及び、I/M比>=1.5]を満たしており、また、診断から5年経過した時点における「予後不詳患者の割合」についても5%未満の水準に達したことから、初めて集計対象県に採用された。

今回、愛知県がん登録資料を用いて、主にがん検診を実施している主要5部位がんの生存率を県内の二次医療圏別に算出し、その較差を定量した。また、その比較にあたっては、生存率に影響を及ぼす最大要因の一つである「進行度」の分布と生存率との間に、どれくらいの地域相関があるかを部位ごとに調べた。

愛知県がん登録資料より、2006-08年に診断された症例で、生存率の集計対象とされた70,672件(男:41,089、女:29,583)の罹患データを用い、性別、部位別(胃、大腸、肺、乳房(女)、子宮頸部)に、県内二次医療圏別(名古屋医療圏は東部と西部に区分)に生存率を算出した。

5年相対生存率の集計にあたっては、2006-08年診断症例のうち、以下の6つの条件の者を除外した。①DCO症例、②多重がんのあるケースでは第2がん以降、③上皮内がん・大腸の粘膜がん、④良悪不詳、⑤遡り調査による登録、⑥100歳以上の者。相対生存率はEdererII法を用いた。また、生存率に影響を及ぼす要因である「進行度分布」は、「限局」、「領域(所属リンパ節転移+隣接臓器浸潤)」、「遠隔」の3群に分け、各医

療圏毎にその割合を算出した。更に、「限局割合」については、 $\text{限局割合} = (\text{限局} / \text{全体から不明を除く}) \times 100$ として求め、これと対応する医療圏・部位の5年相対生存率を用いて散布図を作成し、それぞれの部位における単線形回帰分析を行い、「限局割合」と「5年相対生存率」の関係について分析した。なお、5年相対生存率の算出にあたり、二次医療圏の中で、DCO割合が25%を上回っていた1医療圏については、今回の解析から除外した。

二次医療圏の性別、部位別の5年相対生存率は、全部位（男：51.9-62.2%、女：62.6-70.6%）、胃（男：56.5-67.8%、女：45.0-61.2%）、大腸（男：66.3-72.1%、女：64.8-77.0%）、肺（男：19.5-32.9%、女：31.2-60.7%）、乳房（女）86.5-93.8%、子宮頸部60.0-84.8%であった。医療圏別生存率を全愛知と比較すると、全部位、胃、肺の男女で有意に低い医療圏が認められた。

また、限局割合については、全部位（男：44.3-52.5、女：45.2-53.0）、胃（男：45.9-55.9%、女：39.2-50.9%）、大腸（男：39.8-53.1%、女：37.6-47.9%）、肺（男：18.2-27.5%、女：31.0-44.2%）、乳房（女）52.8-66.7%、子宮頸部42.9-69.6%であった。進行度分布割合と生存率との関係を見るために、生存率が最高及び最低の2つの医療圏と、全愛知の3群での分布割合を見た。生存率と進行度分布を比較すると、「限局割合」は大腸（男）を除く全ての部位において、生存率最大の地域が最小の地域より3から26%高く、「遠隔割合」は1から17%低かった。大腸（男）では、限局割合は生存率最大の地域が最小の地域より5%低かったが、限局及び領域割合を合計した値で観察すると、1%高かった。

次に、「限局割合」と「5年相対生存率」の各値を用いて、それぞれの部位における散布図と近似曲線を求めた。それらについて単線形回帰分析を行った結果、回帰係数は、全部位（男：1.065、女：0.808）、胃（男：0.946、女：0.733）、大腸（男：-0.667、女：0.434）、肺（男：0.662、女：1.013）、乳房（女）0.365、子宮頸部0.618であった。全部位、胃、肺（男）、乳房、子宮頸部については有意な正の相関関係がみられた。

#### <今後の方向>

今回、5年相対生存率を医療圏別・性別・部位別で比較したところ、全部位、胃、肺において、全愛知より有意に低い医療圏が確認された。その部位の中で、胃及び肺（男）については限局割合と生存率に正の有意な関係が認められるため、がんの早期発見が生存率向上に繋がることが示唆された。また、生存率と進行度分布を比較すると、「限局割合」は大腸（男）を除く全ての部位において、生存率最大の地域が最小の地域より3から26%高く、「遠隔割合」は1から17%低かったことから、進行度分布は生存率に密接に関係していることが確認できた。

更に、「限局割合」と「5年相対生存率」について単線形回帰分析を行った結果、全部位、胃、肺（男）、乳房、子宮頸部については、正の有意な関係が確認できた。大腸（男）においてその関係が認められなかったことは、進行度別生存率が「領域」においても比較的良好である影響が考えられた。

今回の結果から、限局割合と生存率の回帰式から大きく外れている医療圏については、その原因を分析することが、当該部位のがん患者の予後改善のために重要であると考えられた。

がん対策を正しく評価するためには、生存率に影響を与える要因を正しく理解して、生存率を解釈した上で、地域間比較をする必要があるため、今後、さらに、進行度分布、進行度別生存率を合わせたより詳細な評価を進め、医療計画やがん対策への活用につなげていきたい。

1) 研修生、2) リサーチレジデント

#### <研究課題> 2-1

（主題） がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究

（副題） *PSCA-rs2294008*多型、ピロリ菌感染、その他の既知のリスク要因による胃がんリスク予測モデルの構築と精度評価

#### <研究者氏名>

伊藤秀美、尾瀬 功、細野覚代、渡邊美貴、田中英夫、松尾恵太郎<sup>1)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

分子疫学の進歩により、がんの個別化予防において遺伝的要因の果たす役割について検討されるようになってきている。しかし、胃がんリスクの決定において、生物学的あるいは生活習慣に関連するリスク要因と組み合わせた場合、遺伝的要因がどの程度寄与するかについては、評価されていない。本研究では、がん予防介入への実用化の可能性として、遺伝的要因（*PSCA-rs2294008*多型）とその他の既知のリスク要因を組み合わせ、リスク予測モデルを構築し、その精度を評価した。

愛知県がんセンター病院疫学プログラムの参加者を対象に、性、年齢を適合させた2つの症例対照研究を実施した。モデル構築を目的とした研究1では2001-2005年初診の697例の胃がん症例と1372例の非がん対照者が、外的妥当性の評価を目的とした研究2では2006-2013年初診の678例の胃がん症例と678例の非がん対照者が対象である。研究1で、年齢、ABCD分類（ピロリ菌感染と胃粘膜萎縮により定義）、喫煙、野菜果物摂取と*PSCA-rs2294008*多型を予測因子として、条件付きロジスティック回帰モデルにより予測モデルを構築した。さらに、両研究において、識別（ROC解析におけるAUC）、較正（calibration plot）、再分類（Integrated discrimination improvement, IDI）指標を算出し、再現性を評価した。

すべての予測因子を含むモデルAUCは0.78（95%信頼区間、0.76-0.80）で、calibration plotにおける較正勾配は0.99（0.90-1.09）、IDI指標は0.12（ $p < 0.00001$ ）と、高いリスク予測精度を示していた。研究2では、それぞれ、0.79（0.77-0.81）、0.98（0.88-1.09）、0.12（ $p < 0.00001$ ）で、構築したリスク予測モデルの外的妥当性は担保されていた。また、両研究において、モデル構築に用いた予測因子の中で最も高いAUCとIDIを示したのは、ABCD分類 [AUC, 研究1 = 0.75（0.73-0.77）、研究2 = 0.76（0.74-0.79）; IDI, 0.09（ $p < 0.00001$ ）、0.11（ $p < 0.00001$ ）] で、*PSCA*多型ではなかった [AUC, 0.61（0.59-0.64）、0.57（0.54-0.59）; IDI, 0.09（ $p < 0.00001$ ）、0.11（ $p < 0.00001$ ）]。



【結論】 遺伝的要因PSCA-rs2294008多型を含めた4つのリスク要因を用いて胃がんリスク予測モデルを構築した。胃がんリスク決定において、PSCA多型の貢献度は大きくないものの、ABCD分類を初めとする既知のリスク要因と組み合わせることにより、高い識別、校正、再分類精を持つ胃がんリスク予測モデルを構築でき、精度の再現性を確認できた。本研究で開発したリスク予測モデルは、個別化予防プログラムにおいて、日本人を適切な胃がんリスク群に分類するのに有用である可能性が示唆された。

#### <今後の方向>

リスク予測精度向上を目的として、近年GWAS研究で同定された複数の遺伝子多型を加えたりリスク予測モデルを再構築する。

1) 遺伝子医療研究部

#### <研究課題> 2-2

(主題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究

(副題) エストロゲン代謝関連遺伝子多型と閉経女性性ホルモン濃度との関連：日本多施設コホート研究 (J-MICC study) 横断研究

#### <研究者氏名>

細野覚代、松尾恵太郎<sup>1)</sup>、伊藤秀美、尾瀬 功、渡邊美貴、田島和雄<sup>2)</sup>、田中英夫、J-MICC Study Group

#### <目的・概要・進捗状況>

近年乳がんなどのエストロゲン依存性腫瘍の罹患数が増加している。また、*CYP19A1*、*HSD17B1*や*HSD17B2*などのエストロゲン代謝関連遺伝子の遺伝子多型が血中性ホルモン濃度と関連するとの報告もある。日本多施設共同コホート研究 (J-MICC研究) のデータを用いて、閉経女性の血清性ホルモン濃度と*CYP19A1* (rs12148604, rs4441215, rs936306)、*HSD17B1* (rs605059)、*HSD17B2* (rs4888202, rs6564961, rs2955160) 遺伝子多型との関連を検討した。

本研究対象者はJ-MICC研究に参加した自然閉経女性 (年齢47-69歳) で現在ホルモン治療を受けていない785名である。生活習慣情報は自記式質問票より収集した。保存血清を用いてエストロン (E1)、エストラジオール (E2)、アンドロステジオン、テストステロンをLC-MS/MS法で測定した。遺伝子型はMultiplex PCR-based Invader assayにより決定した。各SNPと性ホルモン濃度平均値の検定には年齢、閉経年数、喫煙、飲酒、現在のbody mass index、身体活動、ホルモン治療歴、SHBGレベルを共変量とした共分散解析を用いた。

rs605059を除いた各遺伝子多型の遺伝子型頻度はHardy-Weinberg平衡に従っていた。*CYP19A1*のrs4441215 GG型とrs936306 CC型、*HSD17B1*のrs605059 CC型ではE1の平均値が有意に低かった ( $p<0.05$ )。また、統計学的に有意ではなかったが、*CYP19A1*のrs12148604 TT型とrs936306 TT型はE2

濃度が高かった。

エストロゲン代謝に関連する遺伝子多型が日本人閉経女性の血清性ホルモン濃度と関連する可能性が示された。

#### <今後の方向>

長期間のエストロゲン曝露はエストロゲン関連腫瘍のリスク因子であり、今後このコホート集団のがん罹患等の追跡調査を実施していく。

1) 九州大学大学院医学研究院予防医学分野、

2) 三重大学大学院医学系研究科公衆衛生・産業医学分野

#### <研究課題> 2-3

(主題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究

(副題) びまん型胃がんの早期発見マーカーとしてのmiRNAの検討

#### <研究者氏名>

尾瀬 功、長崎洋美<sup>1)</sup>、島田 周<sup>1)</sup>、秋山好光<sup>1)</sup>、谷田部 恭、細野覚代、伊藤秀美、田中英夫、松尾恵太郎、湯浅保仁<sup>1)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

びまん型胃がん (diffuse-type gastric cancer; DGC) は予後不良であり、早期発見が望まれるが効果的な方法は未だない。我々はヒトと形態学的・分子的に同様のDGCを発生するモデルマウスとしてE-cadherinとp-53のdouble conditional knockout (DCKO) マウスを作成した。このマウスでは3種のmiRNA (miR-103, miR-107, miR-194) がDGCの早期発見マーカーとなり得る事を報告した。これらmiRNAがヒトでも同様に早期発見マーカーとなるかを検討した。

愛知県がんセンター初診患者のうち、DGCと診断された50人と年齢・性別を一致させた非がん患者50人を対象として症例対照研究を行った。対象者の血漿からmiRNeasy Serum/Plasma KitでRNAを抽出し、miScript II RT Kitで逆転写を行った。miRNAの定量はmiScript SYBR Green Kitを用い、Spike-in cel-miR-39をコントロールとした。

非がん患者の3種のmiRNAレベルは臨床要因等とは相関が見られなかった。miR-103, miR-107, miR-194のROC曲線の曲線下面積 (AUC) はそれぞれ0.55, 0.56, 0.51であった。組織型で層別化すると、混合型 (DGC優位) ではmiR-103, miR-107, miR-194のAUCはそれぞれ0.54, 0.58, 0.55、DGCのみではそれぞれ0.53, 0.61, 0.56であった。

マウスと異なりヒトのDGCでは血中miRNAレベルと関連が見られなかった原因は、単純に種の違いによる可能性以外に、ヒトDGCの発生要因が多様であることなどが考えられた。

#### <今後の方向>

早期診断マーカーとして可能性のある他のmicroRNA等を検討する。



1) 東京医科歯科大学分子腫瘍医学

#### <研究課題> 2-4

(主題) がんの環境要因、宿主要因、および両者の交互作用を解明するための病院疫学研究

(副題) 日本人におけるコーヒー摂取と大腸がんリスクの関連について

#### <研究者氏名>

中川弘子<sup>1)</sup>、伊藤秀美、細野覚代、尾瀬 功、松尾恵太郎<sup>2)</sup>、田中英夫

#### <目的・概要・進捗状況>

大腸がんは2011年のがん罹患統計において男性4位、女性2位のがんである。近年疫学研究においてコーヒー摂取と大腸がん発生率低下との関連が報告され、コーヒーが大腸がん予防に有用であるとの期待が高まっているものの、大腸がんリスクにおけるコーヒーの効果は未だに確立されておらず、更なるエビデンス構築が必要とされる。そこで我々は、コーヒー摂取と大腸がん発症リスクについて症例対照研究を実施しメタ解析により検討を行った。

愛知県がんセンター病院疫学プログラム (HERPACC) への参加者を対象とした2つの症例対照研究 [HERPACC-I (1988-2000年) とII (2001-2005年)] を実施した。対象は、HERPACC-Iの大腸がん症例1867名と非がん症例9335名、及び、HERPACC-IIの大腸がん症例829名と非がん症例4145名である。各々の研究において、コーヒー摂取と大腸がんリスクの関連を、飲酒、喫煙、肥満、運動習慣、大腸がんの家族歴等を調整因子とした条件付きロジスティックモデルを用い、コーヒーを飲まない群と比べ、コーヒー摂取群 (1日に1杯未満、1-2杯、3杯以上) のオッズ比を算出した。さらに、Random-effects modelによるメタ解析法により、統合オッズ比を算出した。

コーヒーを飲まない群と比べ、コーヒー摂取群 (1日に1杯未満、1-2杯、3杯以上) のオッズ比は、HERPACC-Iではそれぞれ0.86 (95%CI:0.73-1.00)、0.89 (0.78-1.01)、0.75 (0.61-0.91) (傾向性 $p=0.009$ )、HERPACC-IIでは0.93 (0.72-1.20)、0.94 (0.74-1.21)、0.86 (0.63-1.19) (傾向性 $p=0.482$ ) であり、メタ解析による統合オッズ比は、それぞれ0.88 (95%CI:0.77-1.00)、0.90 (0.80-1.01)、0.78 (0.65-0.92)、傾向性 $p=0.009$ であった。部位別リスクについて同様に評価したところ、コーヒーを飲まない群と比べ、3杯以上/日飲む群の統合オッズ比は、右側、左側結腸、直腸それぞれ、0.97 (95%CI:0.62-1.53)、0.76 (0.55-1.07)、0.77 (0.55-1.07) で、傾向性 $p$ 値はそれぞれ、0.833、0.048、0.068と、特に左側結腸で有意な関連がみられた。以上より、コーヒー摂取と全体および部位別大腸がんリスク低下との関連を示すことができ、部位別ではとくに左側結腸において関連が強く観察された。

#### <今後の方向>

GWAS研究により日本人のコーヒー摂取行動関連遺伝子多

型を同定することで、遺伝子情報を考慮した上でのコーヒー摂取と大腸がんリスクとの関連の検討を行う。

1) リサーチレジデント 2) 遺伝子医療研究部

#### <研究課題> 3

(主題) 「健康日本21あいち」に基づく愛知県民のためのがん予防啓発技術の開発研究

(副題) 禁煙治療受療者における禁煙成功に関連する諸要因の同定 セルフエフィカシーとの関連を中心に

#### <研究者氏名>

田中英夫、谷口千枝<sup>1)</sup>、伊藤秀美、尾瀬 功

#### <目的・概要・進捗状況>

2006年から開始されたニコチン依存症管理料の算定では、患者は薬物療法に加えて、医師や看護師から12週間に5回の頻度で禁煙支援を受ける。セルフエフィカシー (自己効力感) は、禁煙を始めとした健康行動との関連が強いと報告されており、禁煙支援ではセルフエフィカシーを強化することが重要とされている。しかし、禁煙治療の中でどの程度までセルフエフィカシーを強化することが、その後の禁煙成功確率を上げるかは報告されていない。本研究では、2008年から2012年に愛知県がんセンター、名古屋医療センター等の協力6施設を受診した患者660名 (うち、がん患者119名を含む) を対象に、診療毎のセルフエフィカシーの高さと、禁煙治療終了時 (開始から12週目) の禁煙成功との関連を多重ロジスティック回帰分析にて算出した。95%以上の高いセルフエフィカシーを持つ者は、初回では全体の12%程度であったが、5回目の禁煙治療終了時には半数を超えた。禁煙治療終了時に禁煙を成功していた者の初回のセルフエフィカシーは、禁煙に失敗していた者に比べて高めであり、初回から2回目にかけて急激に上昇し、その後もなだらかに上昇し続けた。一方で禁煙に失敗した者のセルフエフィカシーは、上昇がほとんどみられなかった。診療毎のセルフエフィカシーは、初回から5回目まで全て60%以上に保つことで禁煙成功との関連が見られた (性、年齢、基礎疾患の有無を調整)。

#### <今後の方向>

禁煙治療においてセルフエフィカシーを高く保つことは、禁煙治療終了時の禁煙成功確率を上げることが示唆された。今後はセルフエフィカシーのみでなく、様々な要因ごとに禁煙成功との関連を詳細に分析し、禁煙治療に携わる医師や看護師に必要な知見として広めていく必要があると考えた。

1) 椋山女学園大学看護学部

#### 分子腫瘍学部

#### <研究課題> 1

(主題) 肺がんの発症・進展機序の解明と分子標的療法の探

索

(副題) 肺がんの浸潤・転移に関連する新規遺伝子CLCP1の機能解析と治療への応用

#### <研究者氏名>

長田啓隆、立松義朗、関戸好孝、谷田部 恭、小野健一郎<sup>1)</sup>、柳澤 聖<sup>2)</sup>、高橋 隆<sup>2)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

多くの先進諸国において癌死亡率第一位を占める難治性の肺癌の予後改善のために革新的な新規治療法の開発が求められており、そのために肺癌の発生・進展機序に関する分子生物学的な解析が精力的になされ、肺癌に特徴的な遺伝子発現プロファイルが、肺癌の病理組織像や臨床予後と強い関連を持つことが明らかとなってきている。そのような知見の蓄積のもと、現在我々は、高転移性の肺癌細胞株で高発現しているI型膜貫通型の新規転移関連遺伝子CLCP1の機能解析を進め、その知見を新規のがん診断法・治療法へ応用することを目的とし研究を進めている。この転移関連分子CLCP1についてこれまで、ホモ二量体及び受容体型チロシンキナーゼ (RTK) とのヘテロ二量体を形成することや、抗CLCP1抗体がEGFRの内在化と分解を惹起することを明らかとしてきた。そこで、平成27年度はさらにCLCP1とRTKとの関連性について、RTKが伝達するシグナルによるCLCP1のリン酸化修飾の機能的役割を中心に検討を加えた。

CLCP1上の五箇所のリン酸化候補部位のチロシンをアラニンに置換した各種変異体を作成し、野生型CLCP1あるいは作成したリン酸化部位変異型CLCP1を肺がん細胞株に導入して、多層的な比較検討を進めた。その結果、特定のリン酸化候補部位について、単独に、或いは、複数個所のチロシンをアラニンに置換した変異体において、有意な増殖抑制が惹起されることを見出した。また、CLCP1の野生型あるいはリン酸化変異体を導入した肺がん細胞株を用いて、マイクロアレイ解析を行って遺伝子発現プロファイルデータを取得し、gene set enrichment analysis (GSEA) 法によって影響をうける遺伝子セットの探索解析を進めた。その結果、EGFR阻害剤によってEGFRから伝達されるシグナルを抑制した際に変動する、遺伝子セットとの有意な関連性を検出した。一方、CRISPR/Cas9システムを用いてノックアウト、或いは、siRNAによってノックダウンしたところ、METの自己リン酸化の著減と、HGF添加に対する反応性の減弱が引き起こされた。これらの検討によって、CLCP1は、EGFRやMET等のRTKが伝達するシグナルによってリン酸化を受けて制御を受けているとともに、逆に恐らくそのリン酸化を介して、RTKシグナリングに促進的に働く機能を持つ分子であり、CLCP1とRTKとの間に機能的なクロストークが存在することを示唆する研究成果が得られた。

#### <今後の方向>

RTKの内在化・活性抑制を誘導する抗CLCP1抗体が、in vitro及びin vivoにおいて単独でどの程度、腫瘍増殖抑制及び浸潤転移抑制作用を発揮し得るかも検討していく。

<sup>1)</sup> 医学生物学研究所、

<sup>2)</sup> 名古屋大学大学院医学系研究科分子腫瘍学分野

#### <研究課題> 2

(主題) 中皮腫の発がん機序の解明と細胞生物学的研究

(副題) スタチンはYAPを制御して悪性中皮腫細胞の増殖を抑制する

#### <研究者氏名>

田中広祐、長田啓隆、村上優子、堀尾芳嗣、樋田豊明、関戸好孝

#### <目的・概要・進捗状況>

悪性中皮腫は胸膜あるいは腹膜に存在する中皮から発生する腫瘍で、アスベスト曝露によって引き起こされる極めて予後不良の腫瘍である。診断時には既に進行していることが多く、現在、有効な標準治療法は確立していない。他の高頻度に発症する腫瘍に比べて、その分子病態の解析は極めて遅れており新規の診断法や分子標的治療法の開発への大きな障壁となっている。がん抑制遺伝子異常としては、CDKN2A、NF2、BAP1 遺伝子の高頻度不活化変異が認められるが、がん遺伝子異常は稀である。NF2 遺伝子産物（転写産物はマーリンと呼ばれる）は細胞内の増殖抑制性のHippoシグナル伝達系を制御し、転写コアクチベーターであるYAPの活性を抑制する。悪性中皮腫細胞はNF2やHippoシグナル伝達系の構成因子をコードするLATS2 遺伝子等の変異により約70%の症例でYAPが恒常的に活性化していることを当部は明らかにしてきた。

抗高脂血症薬であるスタチンは、様々な腫瘍において抗腫瘍効果を示すことが示されている。一方、最近、スタチンはメバロン酸経路を通じ、YAPを負に制御することが示された。我々は、スタチンが悪性中皮腫細胞の増殖にどのように影響を与え、さらに、その効果が中皮腫細胞のHippoシグナル伝達系の異常の有無によって差が見られるか否かを明らかにするために研究を進めた。

悪性中皮腫細胞株13株に対してスタチン (fluvastatin) を投与したところ、細胞株毎に細胞増殖抑制効果の顕著な差が認められた。不死化中皮細胞株MeT-5A株よりスタチンに対して高感受性の株は6株、低感受性の株は7株であった。高感受性株はいずれもNF2あるいはLATS2 遺伝子変異を有しており、Hippoシグナル伝達系の不活性化が認められた。一方、高感受性株の中にはNF2あるいはLATS2の遺伝子変異を有する株があるものの、BAP1 遺伝子変異の共存が認められた。BAP1 遺伝子変異の影響を疑い、BAP1 変異を有するY-MESO-25株に野生型BAP1を導入したところ、スタチンによる感受性が中等度回復した。

スタチン投与による効果についてYAPのリン酸化（リン酸化によりYAPは不活性化される）を検討したところ、高感受性株ではYAPの優位な高リン酸化（不活性化）が検出された。同時に、YAPの転写標的遺伝子である結合組織成長因子 (CTGF) 遺伝子等の発現が抑制された。さらにメバロン酸経路の中間代謝物であるGeranylgeranyl-PP (GGPP) を投与した

ところ、スタチンによるYAPのリン酸化、細胞増殖抑制効果はキャンセルされた。一方、その下流であるF-actinに対する阻害剤Latruncin AによってGGPPの効果はキャンセルされたため、悪性中皮腫細胞株においてメバロン酸経路→RhoA→F-actinの系がYAPの制御に重要であることが明らかとなった。

最後に、YAPの新たな転写標的遺伝子としてCD44を同定し、CD44遺伝子のプロモーター領域にYAPおよび転写因子TEADが結合することを明らかにした。さらに、スタチンはYAP/CD44アキシスをブロックし、OCT 4、SOX 2 遺伝子などの転写を抑制することにより、悪性中皮腫細胞のがん幹細胞様の表現型を減弱させることを明らかにした。

#### <今後の方向>

悪性中皮腫細胞において腫瘍抑制性に機能するNF2-Hippoシグナル伝達系の不活性化は極めて重要であり、その機能的な意義、および本シグナル伝達系の不活性化によって恒常的に活性化されるYAPに対する候補薬剤を見出すことが中皮腫に対する新たな治療法開発への足がかりになるものと期待される。今回の検討により、1) スタチンは悪性中皮腫細胞に対して腫瘍抑制性に機能すること、2) スタチンはメバロン酸経路を通じてYAPを不活性化すること、3) スタチンはYAP/CD44アキシスを制御し、がん幹細胞様の表現型を減弱させること等、が明らかとなった。これらの知見は、実際の中皮腫患者に対してスタチン投与による治療戦略を構築する上で極めて重要な示唆を与えるものと考えられた。

## 遺伝子医療研究部

#### <研究課題> 1-1

(主題) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用

(副題) 悪性リンパ腫の初発/再発共通クローンに対する染色体異常解析

#### <研究者氏名>

片山 幸、高原大志<sup>1)</sup>、垣内辰雄<sup>2)</sup>、竹内一郎<sup>3)</sup>、Toby Dylan Hocking<sup>4)</sup>、都築 忍、瀬戸加大<sup>5)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

悪性腫瘍は、治療によっていったん寛解した後でも、しばしば再発する。この再発は予後不良の原因となるため、再発のメカニズムを明らかにすることは、重要である。我々は、悪性リンパ腫に対する同一症例に対する初発および再発腫瘍に対する染色体増幅欠失異常の検討から、この再発の原因であると考えられる初発/再発共通クローンの存在を見出した。自験例と他験例を合わせた150例の検討では、B細胞性リンパ腫の約40%の症例における初発/再発共通クローンに18番染色体の増幅異常が存在しており、これらの症例の多くは3番染色体の異常を同時に持っていることが判明した。

#### <今後の方向>

いくつかの染色体異常の組み合わせが存在することで、B細胞性リンパ腫の腫瘍クローンは長期生存することが可能となり再発すると考えられる。このような染色体=遺伝子異常の組み合わせを明らかにし、これらの異常に対する治療を行うことで、再発予防を目指す。

<sup>1)</sup> リサーチレジデント、<sup>2)</sup> 研修生、<sup>3)</sup> 名古屋工業大学、

<sup>4)</sup> McGill University、<sup>5)</sup> 久留米大学医学部・病理

#### <研究課題> 1-2

(主題) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用

(副題) マウスモデルを用いたDLBCL (Diffuse Large B Cell Lymphoma) 関連遺伝子の機能解析

#### <研究者氏名>

高原大志<sup>1)</sup>、都築 忍

#### <目的・概要・進捗状況>

DLBCL (び慢性大細胞型B細胞性リンパ腫) は悪性リンパ腫の一亜型であり、その多くは遺伝子発現解析により Germinal center B cell like (GCB)-DLBCL と Activated B cell like (ABC)-DLBCL に分類される。いずれも胚中心B細胞から発生するとされている。DLBCL については多数の遺伝子異常がこれまでに報告されているものの、何れの遺伝子異常が発症に寄与しているのか、また複数の遺伝子異常の間に協調作用があるのかといった問題は十分に解明されていない。この問題を検証するため、以前我々が確立した、*in vitro* で成熟B細胞から胚中心B細胞を誘導し、レトロウイルスにより腫瘍関連遺伝子を導入して免疫不全マウスに移植する系を用いた。今回我々はDLBCLのリンパ腫関連遺伝子として知られている *Card11*<sup>L225L1</sup>、*Bcl2*、*Bcl6* について評価した。これらの3種の全てと、任意の2種の遺伝子を導入したところ、3種すべてを導入した群と *Card11*<sup>L225L1</sup>、*Bcl6* を導入した群においては、いずれの個体においても2か月以内にDLBCLの発症がみられた。一方、それ以外の群においては、リンパ腫の発症は大きく遅延するか、認められなかった。

腫瘍細胞における転写因子の発現を検討したところ、腫瘍細胞はABC-DLBCLのマーカーであるIRF4とFOXP1を発現していた。今回の結果により、NF-κB経路の恒常的な活性化をもたらす変異型 *Card11* と、分化の停止をもたらす *Bcl6* の協調がABC-DLBCLの発症に重要な役割を果たしていることが示された。

#### <今後の方向>

DLBCLにおいて報告されている多数の遺伝子異常に関しても今回の検討と同様の評価が可能と考えている。さらに治療薬の *in vivo* モデルとしての応用を期待している。

<sup>1)</sup> リサーチレジデント



### <研究課題> 1-3

(主 題) 造血器腫瘍発症機構の分子生物学的研究及び診断治療への応用

(副 題) ATLマウスモデルの系を応用した化合物スクリーニング

### <研究者氏名>

春日井由美子、都築 忍

### <目的・概要・進捗状況>

成人T細胞性白血病 (Adult T-cell Leukemia: ATL) はhuman T-cell leukemia virus type 1 (HTLV-1) 感染者に発症する予後不良のT細胞性腫瘍で、約60年という長い期間を経て、感染者の約5%以下に発症する。このことから、ATL発症にはHTLV-1感染だけでは不十分で、他の要因の蓄積が必要であることが示唆されるものの、その特定には至っていない。また、近年、ATLに対する免疫抗体療法の臨床試験なども行われており、約50%に効果があると言われているが、残りの50%に有効な薬剤は見つかっていない。

我々は、独自のデータや公開されている情報をもとに、ATL発症に加担する遺伝子異常の候補を探索し、さらにこれらの遺伝子異常とHTLV-1が発現している遺伝子を組み合わせることにより、急性型ATL様疾患を発症するマウスモデルを以前確立した。この系を応用し、ATL特異的に有効な新しい薬剤を検出するため、化合物ライブラリースクリーニングを行うことにした。

in vitroで分化・増殖させたマウスT細胞に、*HBZ*、*BCLxL*、*Akt*の3遺伝子を導入し、OP9-DL1細胞上で培養し、サイトカインを加えなくても増殖する細胞を作製した。この細胞に、東京大学創薬機構から提供された、化合物約1万個を反応させて、特異的に細胞の増殖を抑制、または死滅させる薬剤を検出できるように現在、条件設定を行っている。

### <今後の方向>

ATL特異的に有効な薬剤を検出できるよう、スクリーニングの感度を向上させる。

### <研究課題> 2-1

(主 題) 造血器細胞の分化・増殖に関する遺伝子の血清学的、分子生物学的研究

(副 題) リンパ性白血病関連遺伝子の機能解析

### <研究者氏名>

都築 忍

### <目的・概要・進捗状況>

白血病は様々な遺伝子異常によって生じるヘテロな疾患群だが、その疾患単位を特徴づける遺伝子変異も存在する。今回AYA世代臨床検体解析から見いだされた3種のリンパ性白血病関連遺伝子の機能解析を通して、その遺伝子が白血病の成立・維持に果たす役割を考察した。さらに白血病の表現型との相関

について検討した。

コントロールのマウス未分化Bリンパ球は、移植後マウス体内で急速に分化し、1か月程度で体内から検出できなくなった。これに対して、DUX4-IgHをマウス未分化Bリンパ球に発現させて移植すると、細胞は最も未分化なプロBの段階で分化が停止して、マウス体内に長期(1か月以上)存在し続けた。さらに、DUX4-IgHを発現させたこのBリンパ球は2次移植後も分化が停止したまま体内で増殖し続け、さらに3次移植も可能であった。EP300ZNF384をマウス未分化Bリンパ球に発現させてマウスに移植すると、細胞はプレBの段階で分化が停止し、それ以降への分化が完全に阻害された。同細胞も2次移植が可能であった。MEF2DBCL9の機能解析は現在進行中であるが、Bリンパ球の分化抑制作用は不完全であるという予備的結果を得ている。

以上より、DUX4-IgH、EP300ZNF384は各々異なる分化段階で細胞の分化を止めること、MEF2DBCL9の分化抑制作用が弱いことから、各々の遺伝子は白血病の異なる表現型と相関を示す可能性がある。さらに3種の各遺伝子を発現させたBリンパ球を移植したマウスは時期に違いはあれ、いずれも白血病を発症し、各々異なる細胞表面形質を示した。

### <今後の方向>

遺伝子機能のさらなる解析のために遺伝子発現解析などを行う。

### <研究課題> 2-2

(主 題) 造血器細胞の分化・増殖に関する遺伝子の血清学的、分子生物学的研究

(副 題) 不死化中皮細胞株に対する遺伝子導入による悪性化の検討

### <研究者氏名>

垣内辰雄<sup>1)</sup>、高原大志<sup>2)</sup>、中西速夫<sup>3)</sup>、長田啓隆<sup>4)</sup>、関戸好孝<sup>4)</sup>、瀬戸加大<sup>5)</sup>、都築 忍

### <目的・概要・進捗状況>

悪性中皮腫においても造血器腫瘍と共通する遺伝子異常がみられることがあるため、悪性中皮腫の増殖、腫瘍化における遺伝子異常の役割について検討した。これまで悪性中皮腫に関連する遺伝子異常は、中皮腫の細胞株を用いてその機能が評価されて来たが、正常中皮細胞から悪性中皮腫への形質転換における役割に関しては評価されていない。今回、われわれはヒトパピローマウイルスE6/E7およびhTERTを導入した不死化中皮細胞株を用いて、中皮腫関連遺伝子の形質転換能を検討した。

悪性中皮腫臨床検体や細胞株に認める遺伝子異常は、Hippo経路を高頻度に不活化させる。Hippo経路の不活化により、転写活性化補助因子YAPのリン酸化が抑制され、その結果YAPは核内に移動し、特定の遺伝子発現を制御する。

今回我々は不死化中皮細胞株を用いてYAPを過剰発現させることでHippo経路の不活化を再現した。その結果、YAPを過剰発現させた不死化中皮細胞株はin vitroでの増殖能が亢進し、



ヌードマウスに移植すると腫瘍を形成することを見出した。YAPによる形質転換において重要な役割を担う遺伝子を明らかにするために、YAP遺伝子導入前後の不死化中皮細胞株に対して遺伝子発現解析を行った。その結果、YAPの下流にあって、細胞増殖に関与する遺伝子としてphospholipase C beta 4 (PLCB4)を同定し、またPLCB4はin vitroにてYAP活性化を示す中皮腫細胞株の増殖に関与していることを見出した。

#### <今後の方向>

PLCB4が中皮腫細胞株のin vivoにおける腫瘍増生の役割を明らかにする。

- 1) 研修生、2) リサーチレジデント、
- 3) 愛知県がんセンター愛知病院 臨床研究検査科、
- 4) 愛知県がんセンター分子腫瘍学部、
- 5) 久留米大学医学部・病理

#### <研究課題> 3

(主題) 遺伝背景を考慮する事による新たな発がん要因の探索

(副題) アルコール代謝酵素関連遺伝子と膀胱がん

#### <研究者氏名>

正岡寛之<sup>1)</sup>、松尾恵太郎、伊藤秀美<sup>2)</sup>、尾瀬 功<sup>2)</sup>、細野覚代<sup>2)</sup>、渡邊美貴<sup>2)</sup>、田中英夫<sup>2)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

喫煙や職業曝露といった化学曝露は、膀胱がん発症の危険因子であることが知られている。アルコールの代謝産物であるアセトアルデヒドは、頭頸部、食道がんなどの飲酒関連がんにおける化学発がんにおいて重要な役割を果たすことが知られているが、膀胱がんリスクと飲酒・アセトアルデヒドとの関連は明らかではない。アルコール代謝に関与するアルデヒド脱水素酵素2 (ALDH2; rs671, Glu504Lys) やアルコール脱水素酵素1B (ADH1B; rs1229984, His47Arg) の遺伝子多型を考慮することで、飲酒と膀胱がんリスクとの関連が明らかになる可能性が考えられたため、愛知県がんセンター病院疫学研究 (HERPACC2) に登録された、膀胱がん症例74人と対照740人にて症例対照研究を行った。その結果、飲酒者において、アセトアルデヒド代謝活性の低いALDH2 Glu/Lysは、代謝活性の高いALDH2 Glu/Gluと比較して、膀胱がんリスクの有意な上昇と関連していた。しかしながら、非飲酒者では、ALDH2 Glu/LysはALDH2 Glu/Gluと比較して膀胱がんリスクの上昇は認められなかった。また、アルコール代謝活性の低いADH1B Arg+は、代謝活性の高いADH1B His/Hisと比較して膀胱がんのリスクは有意に上昇しており、ALDH2 Glu/LysとADH1B Arg+を有する者は、ALDH2 Glu/GluとADH1B His/Hisを有する者と比較して、最も膀胱がんのリスクが高かった (オッズ比 4.00, 95% 信頼区間 1.87-8.87)。以上の結果より、飲酒に由来するアセトアルデヒドが、膀胱がんの発がん物質である可能性が示唆された。

#### <今後の方向>

上記の結果が確固たるものかを検証するために、別の日本人集団にて追試験を行う、もしくは、アセトアルデヒド代謝活性の低いALDH2 Lysキャリアーの多い中国人を対象とした症例対照研究を行う。

- 1) リサーチレジデント
- 2) 愛知県がんセンター疫学・予防部

#### 腫瘍免疫学部

#### <研究課題> 1

(主題) 腫瘍抗原の免疫学的、分子生物学的検索

(副題) がん細胞では異常なTAP分子によりエピトープを提示する

#### <研究者氏名>

岡村文子、赤塚美樹<sup>1)</sup>、葛島清隆

#### <目的・概要・進捗状況>

細胞傷害性Tリンパ球 (CTL) は受容体を介してがん細胞のヒト白血球抗原 (HLA) とペプチドの複合体を認識して、がん細胞を特異的に殺傷できる。しかしながらがん細胞にはしばしば免疫細胞からの攻撃から回避する免疫回避機構が備わっている。抗原提示機構でペプチドを小胞体内へ運んでいる transporter associated with antigen processing (TAP) の欠損はがん細胞でのみ起こる。その結果、大部分のペプチドの供給が行われなくなり、CTLによる免疫監視から回避しやすくなる。しかしながら、TAP欠損時にどのような免疫応答が起こるか詳しくわかっていない。そこで、CRISPR/Cas9システムによりTAP2遺伝子を標的としてゲノム編集法により遺伝子改変がん細胞を作製し、CTLによる免疫応答を検討した。本年度は、昨年度作製中であった遺伝子改変がん細胞から樹立したクローンの解析および、CTLによる免疫応答を行った。

TAP2遺伝子を標的としたCRISPR/Cas9システムにより膀胱癌細胞株KP-3細胞にゲノム編集を行い、限界希釈法にてクローンを樹立した。これらの細胞について、TAP2遺伝子のDNA配列を調べた。また蛋白質発現をウェスタンブロット法にて、細胞表面HLAの発現をフローサイトメトリーにて確認した。ゲノム編集KP-3クローンに対するCTL応答をIFN- $\gamma$ 産生を指標にELISAにて測定した。

【結果】ゲノム編集KP-3クローンの標的付近DNA配列を調べたところ、TAP2遺伝子が全くゲノム編集されていなかったクローンはサロゲートマーカーであるHLAの発現が高かった (high)。ゲノム編集されていたがTAP2蛋白質の発現が微弱ながらも残っていたクローンでは、HLAの発現は中程度であった (intermediate)。またゲノム編集の結果TAP2遺伝子が破壊されたクローンではHLAの発現が非常に低く (low) なっていた。これら3群に対して、エピトープ生成過程においてTAP必要性の異なるCTLの反応を調べた。エピトープ生成においてTAPを必要とするCTLはlow群には全く反応しなかった

が、intermediate群には若干反応した程度であった。一方でエピトープ生成においてTAPを必要としないCTLはlow群、intermediate群によく反応してIFN- $\gamma$ を産生した。また、TAPの発現が低下した時やTAPの機能を阻害されるとエピトープが生成されるCTLはintermediate群のみを認識した。

【考察・結論】がん細胞にTAP 2 遺伝子を標的としてゲノム編集を行って、クローンを樹立することができた。ゲノム編集細胞に対するCTL応答は様々で、TAPの発現が低下した時のみ生成されるエピトープが存在することが明らかとなった。これらの結果はがん免疫応答を考える上で重要な知見になると考えられる。

1) 客員研究員（藤田保健衛生大学・血液内科）

## <研究課題> 2

(主題) 免疫診断及び免疫治療の前臨床的及び臨床的研究  
(副題) 高親和性T細胞受容体による分子標的治療薬の開発

## <研究者氏名>

太田里永子、葛島清隆

## <目的・概要・進捗状況>

がんに対する特異的な細胞傷害性T細胞 (CTL) は、がん患者において存在したとしても、その機能は制御性T細胞や、腫瘍に発現しているPD-L1 などにより、強く抑制されている。そこで腫瘍を効率よくターゲティングし、免疫応答による腫瘍破壊を誘導するために、T細胞受容体 (TCR) 分子に着目した。TCRは、主要組織適合複合体 (MHC) /抗原ペプチド-複合体に結合する。抗体と同様、多種多様な抗原に対して、遺伝子再構成によって様々なバリエーションのTCRが作られる。抗体と抗原の結合は強力 (解離定数:  $K_D=10^{-9}\sim 10^{-11}$  M) であるのに対して、TCRとMHC-ペプチド複合体との結合は比較的弱い ( $K_D=10^{-4}$  M $\sim 10^{-7}$  M)。しかしながら、抗体は、がん細胞表面に発現している抗原にしか反応できないのに対し、TCRは、HLAを介して提示された細胞内抗原も認識することができる。私共は、抗体に匹敵する親和性の可溶性TCRを得ることで、新規の分子標的治療薬の開発を目指している。例えば、高親和性のTCRと抗CD3抗体のscFv (single chain fragments variant) を繋げた分子は、免疫アナジーや免疫疲労に陥っていない“元気な”CD3陽性T細胞を腫瘍局所に集積させ、活性化し、腫瘍の破壊に動員することができると考えられる。

in vitroにおいてTCRを親和性成熟 (affinity maturation) させるリーディング実験として、研究室に解析システムが完備されている、サイトメガロウイルス由来のタンパク質pp65を用いた。HLA-A\*24:02拘束性pp65特異的CTLクローンの $\alpha$ および $\beta$  TCR遺伝子を、ファージミドベクターpUC119に構築し、大腸菌HB2151に形質転換したTCRの $\alpha$ 鎖と $\beta$ 鎖の二量体の分子量を確認した。

次に、 $\alpha$ 鎖及び $\beta$ 鎖のCDR3領域のアミノ酸にランダム変異を導入したファージミドライブラリーを作製した。大腸菌

TG1を用いてファージ溶液を作製後、HLA-A24/pp65複合体をコートした磁気ビーズで4回パニングした。しかしながら、得られたファージクローンは全て元のTCR構造を有していなかった。そこで、実験の諸条件を再検討するため、すでに報告済みのHLA-A\*02:01拘束性HTLV-1 Tax特異的TCRを用いてライブラリーの構築を行った。変異導入のためのPCRの条件も検討した。HLA-A2/Tax複合体をコートした磁気ビーズで3回パニングしたところ、高親和性TCRとして報告済みの変異に類似したアミノ酸配列を持つファージが濃縮された。このことから、TCRファージライブラリーを用いたin vitro affinity maturationのシステムが構築できた。

## <今後の方向>

現在、今回確立した方法でpp65特異的TCRのライブラリーを再作製し、パニングを行っている。高親和性のTCRクローンを取得した後、CD3発現293T細胞に導入してHLAテトラマーとの結合性の改善を評価する予定である。

## <研究課題> 3

(主題) 乳がんの発症にかかわる遺伝子の解析と臨床応用  
(副題) 非遺伝性散発性乳癌におけるTRESK 2 複合体の機能解析

## <研究者氏名>

権藤なおみ<sup>1)</sup>、桑原一彦<sup>2)</sup>、葛島清隆

## <目的・概要・進捗状況>

乳癌の90%以上を占める非遺伝性散発性乳癌は多因子疾患と考えられる。我々は転写共役型DNA傷害の研究の過程で哺乳動物TRESK 2 複合体の一員であるGANPが乳癌発症に関与することを二種類の遺伝子欠損マウスの解析から明らかにし、さらにヒト乳癌検体の解析からGANPの発現が低い乳癌は高い乳癌に比べて予後が悪いことを示した。また、GANPの一塩基多型がヒト乳癌発症に関わる可能性をがんセンター疫学研究から得ている。哺乳動物TRESK 2 複合体はGANP-Pcid2-DSS1-Centrin3/4-ENY2からなり、出芽酵母ではTRESK 2 複合体のどの因子が欠損しても転写共役型DNA傷害が誘導される。我々はGANP以外の他のTRESK 2 複合体の分子DSS1に着目して解析を行ってきた。

非遺伝性散発性乳癌検体を用いたDSS1の発現解析から、DSS1高発現群がDSS1低発現群に比べて無再発生存期間が短縮しているということを見出した。この結果は、DSS1高発現乳癌細胞株がコントロール細胞と比較して化学療法感受性が低下しているというin vitroの解析結果と相関する。逆にDSS1低発現乳癌細胞株はコントロール細胞と比べて化学療法感受性が亢進する。DSS1は家族性乳癌の原因の一つであるBRCA2やプロテアソーム構成分子と結合することが知られている。BRCA2は相同組換えに重要な分子だが、DSS1の発現による化学療法感受性への影響はBRCA2非依存性であった。さらに二重鎖切断に影響するプロテアソームもDSS1の発現による化学療法感受性には関与していなかった。これらの結果は、乳癌

細胞における化学療法感受性にはDSS1の発現量そのものが重要であることを示唆しており、化学療法抵抗性を示す乳癌（例えばトリプルネガティブ乳癌）の治療効果改善のためにDSS1が良い標的となることが期待される。

TREX2複合体を構成する別の分子Pcid2もDSS1と同様な機能があることが明らかになった。非遺伝性散発性乳癌検体を用いたPcid2の発現解析から、Pcid2高発現群がPcid2低発現群に比べて生存期間が短縮している傾向を認めた。またPcid2高発現乳癌細胞株がコントロール細胞と比較して化学療法感受性が低下しているという*in vitro*の解析結果も得られている。

#### <今後の方向>

DSS1はTREX2複合体の一員として働くことで薬剤感受性亢進に関与することが考えられた。TREX2複合体の機能として転写共役型DNA傷害の制御が重要であるが、この時に出芽酵母の解析からRループと呼ばれる一本鎖DNAが関与することが知られている。このRループ形成と薬剤感受性亢進が実際にリンクしているかを解析する。

<sup>1)</sup> 研修生

<sup>2)</sup> 客員研究員（新潟大学大学院医歯学・分子細胞病理）

## 感染腫瘍学部

#### <研究課題> 1-1

(主眼) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用

(副眼) 脂質ラフトによるシグナル分子の空間的制御とがん進展

#### <研究者氏名>

小根山千歳、栗原 敦<sup>1)</sup>、渡邊理沙代、宮田眞美子

#### <目的・概要・進捗状況>

最初に同定されたがん原遺伝子産物であるチロシンキナーゼc-Srcは、様々ながんにおいて発現や活性の亢進が認められる。しかし腫瘍組織においてもsrc遺伝子自体の変異はほとんど見られず正常型として発現している。即ち細胞にはSrcの恒常性を維持する巧妙な分子メカニズムが存在し、その破綻ががん進展に深く関わっていると示唆されるがその詳細は未だ明らかとなっていない。そこで、c-Srcのラフト外への移行に伴いがん形質が発現する際にラフト外においてリン酸化が亢進する分子を探索し、非受容体型チロシンキナーゼFerがラフト外におけるc-Srcの標的分子であることを見出した。詳細な解析の結果、ラフト外で活性化したSrcによるFerの自己リン酸化部位のリン酸化がトリガーとなり、オリゴマーで存在しているFerにおける効率的な自己活性化が起こることで、がんシグナルが増幅されることを明らかとした。Ferのリン酸化は大腸がん患者組織において高頻度に見られ、それらの検体ではSrc活性化も同時に起こっていることもわかった。これらの結果からFerが

Srcがんシグナルを中継する鍵分子であり、ラフトの軌を逃れたc-SrcはFer及びその下流分子を通じがん進展シグナルの発信に至ると考えられる。

#### <今後の方向>

Ferのリン酸化抗体を用いて様々な癌種におけるFer活性化を調べ、Ferが寄与する癌種を解析する。また正常細胞においてFerに結合する分子を探索し、その分子の役割を明らかにすることにより、Ferの制御機構の破綻がどのようにがん進展につながるかを明らかにする。

<sup>1)</sup> 研修生（大阪大学大学院理学研究科）

#### <研究課題> 1-2

(主眼) がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明および治療戦略創出への応用

(副眼) microRNAによるシグナル分子の発現制御とがん進展

#### <研究者氏名>

小根山千歳、二宮悠一<sup>1)</sup>、渡邊理沙代

#### <目的・概要・進捗状況>

これまでSrc等によるがんシグナルの伝達やその制御機構については、主にリン酸化及びタンパク質間相互作用の側面から捉えられてきたが、そういった直接的ながんシグナル伝達経路の陰に、複数のmicroRNAが協調してシグナル分子の発現を制御する、いわば隠れたネットワークが存在することが示唆されていた。今年度は、Src活性化により発現量が低下するmicroRNAのうち機能が明らかとなっていなかったmiR-27bについて解析を行った。miR-27bはSrcの発現が高いことが知られる大腸がん組織や細胞において発現量が顕著に低下しており、これら大腸がん細胞にmiR-27bを導入すると足場非依存的増殖能や浸潤能などががん形質が抑制されることを見出した。詳細な解析の結果、miR-27bの標的遺伝子の一つでSrcの基質でもあるpaxillinの発現を保持すると、がん形質のうち浸潤能が完全に回復することを見出した。一方、足場非依存的増殖能の獲得においては、同じくmiR-27bの標的遺伝子であり、Src下流で増殖に関わるARFGEF1の発現を保持することによって回復することが認められた。これらの結果から、miR-27bはSrcを中心としてSrc近傍に存在する因子の発現を同時に抑制することにより、がん形質発現を制御していることが示唆された。

#### <今後の方向>

Srcの発現亢進におけるmicroRNAの関与を解析するため、c-src遺伝子を標的とし得るmicroRNAを探索しその機能を明らかにする。さらにこれまでの研究と合わせ、microRNAによるSrcシグナルネットワークの破綻とがん進展メカニズムを明らかにする。

<sup>1)</sup> 研修生（大阪大学大学院理学研究科）



## <研究課題> 2

(主題) ヒトがんウイルス感染による細胞発がん機序の解析

## <研究者氏名>

神田 輝、宮田眞美子

## <目的・概要・進捗状況>

ヒト腫瘍ウイルスであるEBウイルスは、Bリンパ球を主な感染宿主細胞とする一方で、咽頭や胃の上皮細胞へも感染し、その発がんに関与すると考えられている。しかしEBウイルスによる上皮細胞がん化のメカニズムの詳細は不明である。最近、シーケンズ技術の進歩に伴い、EBウイルス株間に予想以上の多様性が存在することが明らかになりつつある。がん組織に感染したEBウイルス株が発がんコファクターとして機能する特殊なウイルス株である可能性も否定できない。そこでゲノム編集技術を応用して、EBウイルス陽性がん細胞からウイルスゲノム全長を迅速かつ確実にクローン化できる新しい技術を開発した。この技術により、胃がん細胞株(SNU-719, YCCEL 1)に潜伏感染したEBウイルス株2株をクローン化して、第三世代シーケンサーで全塩基配列を決定した。さらに再構成ウイルスを感染させた上皮細胞は、がん遺伝子Rasの発現で誘導される細胞死を回避することを見出した。

## <今後の方向>

様々なEBウイルス感染細胞からEBウイルスゲノムをクローン化し、がん細胞由来のウイルスと正常リンパ球由来のウイルスの性質の違いの有無を調べる。

## 分子病態学部

## <研究課題> 1-1

(主題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明

(副題) 腸管腫瘍形成におけるJNK/mTORC1経路の活性化機構

## <研究者氏名>

梶野リエ、藤下晃章、武藤 誠<sup>1)</sup>、青木正博

## <目的・概要・進捗状況>

大腸がんの多くで最初に生じる遺伝子レベルの変化は、APCがん抑制遺伝子の変異と考えられている。Apc遺伝子にヘテロ接合変異を持つ遺伝子改変マウス(以下Apc変異マウス)では、腸上皮細胞のApc遺伝子座でのヘテロ接合性の消失(LOH)によりAPCタンパクの機能が失われる結果、Wnt経路が恒常的に活性化し、腺腫性ポリープを発症する。我々は、Apc変異マウスの腸管ポリープの成長にはWnt経路の活性化に加えて、mammalian target of rapamycin complex 1 (mTORC1)経路の活性化が重要な役割を果たすこと、mTORC1の活性化はその構成因子であるRaptorがJNKによってリン酸化されて引き起こされることなどを報告してきた。しかしながら、Apc変異マウスのポリープでJNKが活性化する機序については不明

であった。前年度までに、野生型マウスの小腸正常陰窩およびApc変異マウスのポリープに由来するオルガノイド培養を用いた解析により、JNKの活性化は細胞外因子によることを示唆する結果を得ていた。このJNKの活性化を引き起こす細胞外因子の候補としては、それまでの知見から、自然免疫応答に関わるTLR経路や炎症性サイトカインが挙げられた。まず、TLR経路について検討するため、TLR経路の主要なアダプター因子であるMyD88の機能を腸管上皮特異的に欠損させ、Apc変異マウスにおけるポリープ形成への影響を検討した。その結果、MyD88の機能欠損により、ポリープ形成数の減少傾向がみられたが、形成されたポリープではJNKの活性化がみられたことから、JNKの活性化におけるTLR経路の寄与は大きくないと考えられた。次に、サイトカインの寄与について、Apc変異マウスのポリープに由来するオルガノイド培養を用いて検討したところ、サイトカイン刺激によりJNKとmTORC1の活性化が引き起こされた。平成27年度は、サイトカイン刺激によるJNKの活性化について、正常部由来のオルガノイド培養も加えてさらに検討を進めた。その結果、IL-1 $\beta$ やTNFといったサイトカインの刺激によってJNKの活性化が引き起こされることを見出した。また、この活性化は正常部由来よりもポリープ由来のオルガノイドにおいて亢進していた。次に、ヒト大腸がん細胞株を用いて、Apcとその下流の $\beta$ -cateninの変異の有無によりJNKの活性化に違いがみられるか検討した。その結果、Apcまたは $\beta$ -cateninに変異を持つ大腸がん細胞では、IL-1 $\beta$ やTNF刺激によるJNKの活性化が顕著にみられた。これらのことから、Apcに変異が生じた細胞ではサイトカインによるJNKの活性化が引き起こされやすい可能性が示唆された。

## <今後の方向>

腸管腫瘍におけるJNK活性化の分子機序の解明について、引き続き取り組んでいく。サイトカインによるJNK活性化の亢進にApcや $\beta$ -cateninの変異が関与するか、Apcや $\beta$ -cateninを機能消失させる実験系等によりさらに検討を進める。また、Apcや $\beta$ -cateninの変異に依存したJNK活性化が腫瘍細胞の増殖に与える影響についても検討し、JNK/mTORC1経路の腫瘍形成における役割を解明していきたい。

<sup>1)</sup> 京大・国際高等教育院

## <研究課題> 1-2

(主題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明

(副題) 腸管腫瘍の悪性化におけるmTORC1経路の役割

## <研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、武藤 誠<sup>1)</sup>、青木正博

## <目的・概要・進捗状況>

家族性大腸腺腫症のマウスモデルであるApc変異マウスは良性的腺腫性ポリープを発症し、さらにSmad4遺伝子のヘテロ接合変異を併せ持つcis-Apc/Smad4マウスは、局所浸潤性の腸がんを発症する。我々はこれまでに、Apc変異マウスの腸管



ポリープおよび*cis-Apc/Smad4* マウスの腸がんの管腔側への成長にはmTORC1経路の活性化が重要な役割を果たし、mTORC1選択的阻害薬RAD001によって腫瘍形成が顕著に抑制されることを明らかにした。一方、*cis-Apc/Smad4* マウスの腺がんの浸潤はRAD001投与およびmTORC1、mTORC2の両方を阻害するmTORキナーゼ阻害薬AZD8055でも抑制できないことを見出した。平成26年度にはmTORキナーゼ阻害薬投与によるフィードバック経路の活性化を介して、特定の受容体型チロシンキナーゼとその下流シグナル経路が顕著に活性化していることを見出し、このチロシンキナーゼを阻害する薬剤を投与したところ、腺がんの形成とそれに伴う浸潤を強力に抑制した。平成27年度は、mTOR阻害薬による新たなフィードバック経路としてMEK/ERK経路が活性化されること、そしてこの活性化はがん細胞よりも周囲の線維芽細胞様の間質細胞で引き起こされることを見出した。間質細胞のMEK/ERK経路の役割を解明するため、mTORキナーゼ阻害薬AZD8055に加えMEK阻害薬を併用したところ、ある種のサイトカイン・ケモカインの発現を抑制し、腺がん形成及び浸潤を強力に抑制したことから、がん周囲の間質細胞もまたmTOR阻害薬抵抗性の獲得に関与することが明らかになった。

#### <今後の方向>

大腸がんがmTOR経路阻害薬に対する抵抗性を獲得する分子機構を明らかにし、その克服戦略を確立したい。また、mTOR阻害薬と併用することで腺がんの浸潤を抑制できる分子標的薬の探索・評価を行う。さらに、抵抗性に関与する間質細胞の役割を解明し、微小環境を標的とした抵抗性克服法の開発につなげたい。

<sup>1)</sup> 京大・国際高等教育院

#### <研究課題> 1-3

- (主 題) がんの発症・悪性化における微小環境の役割の解明  
(副 題) マウスモデルを用いた大腸がんのがん関連線維芽細胞の解析

#### <研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、武藤 誠<sup>1)</sup>、青木正博

#### <目的・概要・進捗状況>

KRAS遺伝子の変異は大腸がんを含む多くのがんで確認されている。KRASは様々な下流のシグナル経路を調節するが、なかでもRAS/RAF/MEK/ERK経路の活性化は細胞増殖を促進させることから、KRASに変異のあるがんの治療標的として、この経路を阻害する薬剤の開発が進められている。特に日本で開発されたMEK阻害薬trametinibはBRAF変異メラノーマの治療に既に利用されている。我々はKRAS変異大腸がんにおけるMEK/ERK経路の役割を検証することを最終目標としているが、この経路が良性の腸管ポリープにおいて果たす役割が明らかではなかったことから、まず*Apc*変異マウスの腸管ポリープを用いて検証した。MEK/ERK経路は、腫瘍上皮細胞よりも、

むしろ管腔側に存在する間質細胞、特に血管内皮細胞及び線維芽細胞で強く活性化していることを見出した。また、*Apc*変異マウスにTrametinibを投与したところ、腸管ポリープの形成が顕著に阻害され、腫瘍上皮細胞の増殖と血管新生が抑制されていた。これらの結果は、間質細胞のMEK/ERK経路の活性化が何らかの形でポリープ形成を促進することを示唆している。平成27年度はポリープ形成における間質細胞のMEK/ERK経路の役割について検証を行った。ポリープ形成には間質細胞のCOX2 (cyclooxygenase-2)が必要であることから、ポリープにおけるMEK/ERK経路活性化細胞とCOX2発現の関係について検証したところ、COX2を発現している細胞の殆どがMEK/ERK経路の活性化が認められ、trametinibを投与した*Apc*変異マウスの腸管ポリープではCOX2の発現が減少したことから、MEK/ERK経路の活性化を介してCOX2の発現を制御していることを見出した。さらにMEK/ERK経路を介したCOX2は*Apc*変異マウスのポリープ形成を促進することが報告されているケモカインCCL2の発現も制御していることを解明した。

#### <今後の方向>

MEK/ERK経路の腸管良性腫瘍の形成における役割を解明したことから、次により悪性度の高い大腸がんマウスモデル(*cis-Apc/Smad4* マウス)におけるMEK/ERK経路の役割、及び治療標的としての可能性を検証する。

<sup>1)</sup> 京大・国際高等教育院

#### <研究課題> 2-1

- (主 題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索  
(副 題) 新規大腸がん転移抑制遺伝子HNRNPLLの機能解析

#### <研究者氏名>

佐久間圭一朗、佐々木英一<sup>1)</sup>、木村賢哉<sup>2)</sup>、清水泰博<sup>2)</sup>、谷田部 恭<sup>1)</sup>、青木正博

#### <目的・概要・進捗状況>

大腸がんの罹患数は年々増え続けており、その死因の大半に転移が関与するといわれる。転移の機序は未解明の点が多く、転移促進因子は数多く報告されている一方で、転移抑制因子はほとんど同定されていない。我々は、shRNAライブラリーを用いたマウス生体内スクリーニングによって、新規大腸がん転移抑制遺伝子Hnrnp11を同定した。平成26年度までに、Hnrnp11のノックダウンによってマトリゲル浸潤能と生体内での肺転移能が亢進すること、HNRNPLLはCD44 pre-mRNAと結合しvariant exon 6のスプライシングを制御すること、大腸がん細胞の上皮間葉転換 (EMT) によってHNRNPLLの発現が低下することなどを報告した。

平成27年度は、大腸がん細胞におけるHNRNPLLの役割の全体像をより明らかにするため、大腸がん細胞株SW480にHNRNPLL cDNAあるいはHNRNPLL shRNAを導入し、次

世代シーケンサーを用いて両者のmRNA発現パターンを網羅的に比較した。2倍以上の発現増加を示したスプライスバリエントを有する遺伝子群を抽出し、公共データベースDAVID (Database for Annotation, Visualization and Integrated Discovery) によるクラスタリング解析をおこなったところ、*HNRNPLL* cDNAを導入した細胞では“DNA replication”や“Cell cycle”などのパスウェイが上位に検出され、*HNRNPLL* shRNAを導入した細胞では“Regulation of actin cytoskeleton”、“Adherence junction”、“Focal adhesion”などのパスウェイが上位に検出された。

#### <今後の方向>

個々のパスウェイについて詳細な検証をおこない、*HNRNPLL*によって制御されるCD44以外の分子群を明らかにしたい。

1) 遺伝子病理診断部

2) 消化器外科部

#### <研究課題> 2-2

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副題) トランスポゾンを用いた大腸がん転移制御因子の同定

#### <研究者氏名>

藤下晃章、梶野リエ、小島 康、青木正博

#### <目的・概要・進捗状況>

大腸がんの治療成績は、検出技術の発達や外科的切除・化学療法に進歩により顕著に向上しているものの、転移を伴う大腸がんについては依然として治療が困難なことが多い。近年のゲノム・トランスクリプトーム解析により大腸がん転移のシグネチャー遺伝子が同定され、大腸がん細胞株の移植実験などからも転移に関与するとされる遺伝子が発見されているが、これらの遺伝子を改変することによって安定的に転移する大腸がんマウスモデルが作出されたという報告はまだない。このことは、生体レベルで大腸がんの転移に関与することが証明された遺伝子は未だないことを示している。我々は、大腸がんの転移を制御する遺伝子を個体レベルで探索するために、PiggyBacトランスポゾンを用いたスクリーニングを開始した。現在、大腸がんモデルとして腸管に良性の腺腫を発症する *Villin-creER<sup>T2</sup>; Ctnnb<sup>+/loxEx3</sup>* マウス (VBマウス) および *Lgr5-creER<sup>T2</sup>; Ctnnb<sup>+/loxEx3</sup>* マウス (LBマウス) にトランスポゾン (ATP1-S2) マウス、さらにトランスポゼース (*Rosa-LSL-PBase*) マウスを交配させることにより (LBAPマウス)、タモキシフェン依存的に腸管ポリープを形成させると同時に、その細胞でトランスポゼースを発現させる系を構築している。このようなマウスに発生した腸管腫瘍細胞内では、トランスポゾンの転移により遺伝子の活性化または不活性化がランダムに起こり、その結果として転移能を獲得することが期待される。平成27年度では作出したLBAPマウスにタモキシフェンを投与し、

発生した腸管腫瘍の解析を行った。形成した腫瘍ではトランスポゾンの転移が認められ、トランスポゾン-トランスポゼースの実験系が想定通り機能していることを確認した。タモキシフェン投与6ヶ月後に解析したところ、一部の腫瘍では浸潤が認められたものの、粘膜下層に到達する程度であり、その他大部分の腫瘍では浸潤が認められなかった。

#### <今後の方向>

*Ctnnb*マウスを用いたトランスポゾンにより転移関連遺伝子を探索する実験系は、浸潤・転移に必要な変異が蓄積する期間が不十分なために、現状のまま続けることは困難な可能性が高い。より長期間LBAPマウスの観察を行うと共に、大腸がんの悪性化に関わる *Smad4* や *Kras* 遺伝子の変異を導入し、浸潤・転移に関わる遺伝子の蓄積する期間の短縮を試みる。

#### <研究課題> 2-3

(主題) 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索

(副題) 高転移性肺がん細胞における一次線毛下流シグナル経路の役割の解明

#### <研究者氏名>

佐久間圭一郎、米村重信<sup>1)</sup>、青木正博

#### <目的・概要・進捗状況>

ヘッジホッグ (Hh) シグナル構成分子であるPTCH1やSMOの遺伝子変異によるHhシグナルの異常な活性化は基底細胞がんや髄芽腫の原因として知られている。一方、これらの変異に依存しないHhシグナルの活性化も肺がん、膵がん、大腸がん、前立腺がんなどで報告されており、これらの活性化にはHhシグナルの上流制御因子である一次線毛が関与する可能性が考えられる。しかし、一次線毛-Hh経路のがんの病態生理における役割、特に転移における役割はほとんど解明されていない。

上皮間葉転換 (EMT) は転移の初期ステップでがん細胞に生じる形質変化である。平成26年度までに、ヒト肺腺がん細胞株のA549にEMTを誘導し免疫細胞染色で観察したところ、一次線毛マーカーのARL13Bとアセチル化 $\alpha$ チューブリンが陽性で特徴的な線状の形態を示す一次線毛様構造物が出現することを見出した。平成27年度は、神戸理化学研究所との共同研究で透過型電子顕微鏡による検証をおこない、免疫細胞染色で観察された構造物はBasal bodyから伸長するAxonemeやDistal appendageなど一次線毛に特徴的な所見を示すことを確認した。

#### <今後の方向>

EMTに伴う肺がん細胞の一次線毛発現について、A549以外の肺腺がん細胞株ならびに他の組織型の肺がん細胞株を用いて再現性の検証を進める。EMTに伴うA549の一次線毛発現の生理的意義について、Hhおよびその他の一次線毛下流シグナル経路に着目し、特に転移とのかかわりの観点から明らかにして

いきたい。

<sup>1)</sup> 理研・ライフサイエンス技術基盤研究センター

#### <研究課題> 3

(主 題) がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基盤構築

(副 題) マウスモデルを用いた網羅的解析

#### <研究者氏名>

小島 康、藤下晃章、梶野リエ、曾我朋義<sup>1)</sup>、武藤 誠<sup>2)</sup>、  
青木正博

#### <目的・概要・進捗状況>

がん悪液質は、腫瘍の病期とは必ずしも関係なく発症し、筋肉萎縮を伴う進行性の体重減少を主徴とする。筋肉萎縮は、がん患者のPerformance Status (PS)、Quality of Life (QOL)を著しく低下させ、抗がん治療の障害になる。がん悪液質の病態解明は遅れており、治療法も殆ど進歩していない。我々は、悪液質の病態解明と治療法の基盤構築を目指して、大腸がんマウスモデルの*Apc*変異マウスと*cis-Apc/Smad 4* 複合変異マウスの解析に取り組んでいる。

*Apc*変異マウスでは約20週齢から、*cis-Apc/Smad 4* 変異マウスでは14週齢から悪液質様病態を呈して衰弱し、数日で瀕死の状態に至る。衰弱個体の肉眼解剖所見では、骨格筋の萎縮、白色脂肪組織の萎縮、脾腫が特徴的である。前年度までに、悪液質を発症した*Apc*変異マウスと*cis-Apc/Smad 4* 複合変異マウスの肝臓、骨格筋、血漿、腫瘍組織の代謝変化に関して、キャピラリー質量分析法 (CE-MS) を用いた解析を行い、データに関して統計学的検討を加えて、肝臓に関して悪液質に特徴的な代謝プロファイルが存在することを確認した。平成27年度は、そのような特徴的代謝プロファイルを示す原因、およびその悪液質病態生理における役割を解明するため、薬理学的・遺伝学的手法を用いた実験を開始した。一方、悪液質を発症しているマウス肝臓のトランスクリプトーム解析を実施し、悪液質肝臓では特定の炎症関連シグナルが活性化していることを見出した。

#### <今後の方向>

悪液質発症肝臓に特徴的な代謝プロファイルについて、その詳細をさらに解析する。また悪液質発症肝臓で活性化していることが確認された炎症関連シグナルに関しては、各種分子生物学的手法によりその妥当性を検証し、さらに遺伝学的介入を行うための準備を進める。また、これまでに得られた知見の普遍性について、*Apc*/変異マウスや*cis-Apc/Smad 4* 変異マウス以外の悪液質発症モデルマウスを導入して検証する。

<sup>1)</sup> 慶應大・先端生命科学研究所

<sup>2)</sup> 京大・国際高等教育院

## 腫瘍医化学部

### <研究課題> 1-1

(主 題) がん細胞周期における新規キナーゼカスケイド

(副 題) がんの分子標的Aurora-Aキナーゼの制御機構

#### <研究者氏名>

稲葉弘哲<sup>1)</sup>、後藤英仁<sup>2)</sup>、笠原広介<sup>3)</sup>、熊本香奈子<sup>4)</sup>、  
米村重信<sup>5)</sup>、猪子誠人、何 東偉<sup>1)</sup>、山野荘太郎<sup>6)</sup>、  
鰐淵英機<sup>6)</sup>、谷川順美、川本恵理子、五島直樹<sup>7)</sup>、清野 透<sup>8)</sup>、  
広常真治<sup>4)</sup>、稲垣昌樹<sup>2)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

細胞は、自身の染色体の複製・分配過程を緻密に制御することによって、その遺伝情報を正確に2つの娘細胞に伝達している。しかし、様々な要因により染色体の複製・分配過程に異常が生ずると、染色体の恒常性が維持できなくなる (染色体の不安定性)。このような染色体の不安定性は、がんや細胞老化に起因する種々の疾患の基盤になっていると考えられている。染色体の複製・分配過程の調節には、状況に反応して特異的に活性化されるタンパク質リン酸化酵素 (キナーゼ) が中心的な役割を果たしている。

Aurora-Aは、大腸癌などの組織において遺伝子増幅が認められたり、多くのがん腫で発現が上昇したりすることが知られているキナーゼである。現在、Aurora-Aは、がん治療の分子標的としても注目され、多くの薬剤メーカーがAurora-A阻害剤を抗がん剤として開発している。これまで、Aurora-Aは、分裂期特異的に活性化するキナーゼとして位置づけられてきた。最近我々は、Aurora-Aが分裂間期においても活性を有し、一次線毛 (primary cilia) と呼ばれる細胞小器官の形成を抑制することによって細胞を増殖に向かわせていることを明らかにした。また、この一次線毛の抑制においてはTrichopleinがAurora-Aの活性化因子として働き、線毛形成時にはTrichopleinが分解を受け、Aurora-Aが不活性化され、抑制機構が解除されることを明らかにした。

この抑制機構に関与する分子群をさらに明らかにするため、siRNAスクリーニングを行った。その結果、足場タンパク質として知られるNdel 1 をノックダウンすると増殖細胞において一次線毛を形成し、細胞増殖が停止することがわかった。このNdel 1 のノックダウンによる一次線毛形成はTrichopleinの過剰発現によるAurora-Aの活性化で抑制された。また、血清飢餓によって一次線毛形成を引き起こす際にNdel 1 を過剰発現すると、Trichopleinの分解が抑制され、その結果、Aurora-Aの活性が維持され、一次線毛形成が抑制された。これらの結果から、Ndel 1 はTrichoplein-Aurora-A経路の上流で、一次線毛形成に抑制的に機能することが示唆された。

また、Ndel 1 のhypomorphic変異マウスでは、一次線毛の機能不全などによる線毛病でよくみられる、肥満の表現型がみられた。さらに、この変異マウスの新生児期の腎臓尿管においては野生型と比べて、一次線毛を形成する細胞の割合が多く、細胞増殖の低下もみられた。このことは、生体内でもNdel 1 - Trichoplein-Aurora-A経路が一次線毛形成を抑制し、細胞増殖



を制御することを示唆している。

#### <今後の方向>

多くのがん細胞においては一次線毛の形成能が失われていることが報告されている。線毛が形成しないことと、過増殖に向かうことが関連していると考えられるため、Aurora-Aを中心とした線毛形成抑制因子のがん細胞における発現や活性を調べ、がん治療の分子標的となりうるかを検討する。

- 1) リサーチレジデント、<sup>2)</sup> 名大・医・細胞腫瘍 (兼任)、
- 3) 名市大院・薬・腫瘍制御 (兼任)、
- 4) 大阪市大院・医・細胞機能制御、<sup>5)</sup> 理研 (CLST)、
- 6) 大阪市大院・医・分子病理、
- 7) 産総研・創薬分子プロファイリング研究セ、
- 8) 国がん研・ウイルス

#### <研究課題> 1-2

(主題) がん細胞周期における新規キナーゼカスケード

(副題) 抗がん治療の分子標的としてのChk 1

#### <研究者氏名>

後藤英仁<sup>1)</sup>、鐘巻将人<sup>2)</sup>、谷川順美、中井由希子、清野 透<sup>3)</sup>、  
稲垣昌樹<sup>1)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

細胞の遺伝情報であるDNAは、外来性（電離放射線、紫外線、DNA障害性薬物など）および内因性（フリーラジカル、細胞内代謝産物など）の要因によって、絶え間なく、損傷されている。DNA障害を受けた細胞は、細胞周期の進行を停止させること（細胞周期チェックポイント）で、DNA修復に必要な時間を生み出している。また、修復機能を上回るDNA損傷や欠損の場合は、細胞周期の進行を半永久的に停止したり（細胞老化）、細胞死（アポトーシス）を導いたりして、障害細胞を増殖細胞集団から排除する。

このようなDNA障害チェックポイントは、ATM-Chk 2-p53経路とATR-Chk 1-Cdc25A経路の大きく二つのシグナル伝達経路によって制御されている。ATM-Chk 2-p53経路は、多くのがんにおいて（遺伝子変異や欠失などによって）障害されていることが知られている。そのため、抗がん剤や放射線治療等でDNA障害を引き起こした後、Chk 1 阻害剤を併用することで細胞死をがん特異的に引き起こすことが期待され、多くの薬剤が臨床治験に入っている。

我々の研究グループは、これまでに、Chk 1 が、ATR以外のキナーゼからもリン酸化修飾を受けて機能変化していることが明らかにしてきた。そのなかで、Chk 1 がDNA障害チェックポイント応答だけでなく、外的なDNA損傷が引き起こされていない環境においても機能していることも明らかにしてきた。また、詳細は不明であるが、外的なDNA損傷がない状態においてもがん細胞のほうが正常細胞よりもChk 1 活性が高いことが数々のグループから報告されている。このことは、Chk 1 阻害剤が単剤でも抗がん治療に用いることを示唆しており、近年

ではこの方向で薬剤開発がされつつある。

しかしながら、外的なDNA損傷がない状態におけるChk 1 の機能はほとんどわかっていないのが現状といえる。その一つの要因として、RNA干渉法などの手法では特定の細胞周期でのみChk 1 を阻害できないため、出てきた表現型がどの細胞周期におけるChk 1 阻害による影響かを検討できないことがあげられる。

我々は、CRISPR/Cas 9 を用いて*CHEK1* 遺伝子座に特定の遺伝子を挿入することで、内在性のChk 1 が薬剤依存性に分解されるHCT116（大腸がん）細胞株（*CHEK1*<sup>mAID/mAID</sup>）を樹立することに成功した。親株のHCT116細胞（*CHEK1*<sup>WT/WT</sup>）と比較して、外的DNA損傷刺激に対するチェックポイント応答に（内在性のChk 1 を分解していない条件下では）大きな差異を認めなかった。*CHEK1*<sup>mAID/mAID</sup>細胞では、オーキシンの付加後15-30分という比較的短いタイミングで効率的なChk 1 の分解が誘導された。*CHEK1*<sup>WT/WT</sup>細胞ではオーキシン添加によって細胞増殖にほとんど変化認められなかったにもかかわらず、*CHEK1*<sup>mAID/mAID</sup>細胞ではオーキシン添加後2-3日目より細胞増殖が低下し、その後、細胞死（アポトーシス）が誘導されることが判明した。

以上の結果は、がん細胞において、外的DNA損傷がない状態においてもChk 1 が細胞の生存に関与していること、Chk 1 阻害剤が単剤で十分ながん細胞に細胞死を誘導できることを示唆している。

#### <今後の方向>

今後、DNA損傷や複製障害を外的に加えていない状況でなぜChk 1 機能を阻害すると細胞死が誘導されるのかについて明らかにすることで、Chk 1 阻害剤が抗がん治療の分子標的薬として機能しうるかを検討していきたい。

- 1) 名大院・医・細胞腫瘍 (兼任)、
- 2) 国立遺伝研・分子細胞工学、<sup>3)</sup> 国がん研・研・ウイルス

#### <研究課題> 2-1

(主題) 新しい中心体及び細胞間接着制御因子群の機能解析

(副題) trichoplein、Albatrossをはじめとした中心小体動態を制御する蛋白質群によるがん研究

#### <研究者氏名>

猪子誠人、林 裕子、五島直樹<sup>1)</sup>、清野 透<sup>2)</sup>、稲垣昌樹<sup>3)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

中心体は1umほどの小さな細胞内構造であるが、特徴的な動態変化として、①中心小体複製、②紡錘体形成、③一次線毛形成、の3つを示す。これらに付随する細胞分裂・増殖・分化は細胞の重要現象であるだけでなく、がん化の標的でもある。特にがんでは中心体数の異常や一次線毛形成能の欠失がみられる。このように小さい作用点で大きい現象効果を生む中心小体構造には、治療標的としての期待も持てる。一方で、その小ささゆえに困難な解析は、最近の高〜超解像顕微鏡やオミックス



解析技術の総合進歩による克服を待つ必要があった。

これまでに私どもは、一次線毛形成制御が細胞周期制御と連動する発見をtrichoplein-オーロラA分裂期キナーゼ分子経路と共に示した。具体的には、①一次線毛を強制的に形成させた正常二倍体細胞は増殖培地中でも細胞増殖休止が誘導されることを発見し、②この線毛動態制御の内在性分子機構は中心小体内におけるtrichoplein蛋白質の微小局在の有無によるオーロラA分裂期キナーゼの活性切り替えであることを提示した。これにより、一次線毛が形成できない培養がん細胞はオーロラA阻害で特異的に分裂期障害を起こし死滅する可能性を同時に提示し得た。

現在は、このような中心体機能分子を新たに検索し、補填中にある。これまでに、中心小体で動態制御にあずかる新規標的分子群を局在と機能の両面から検索し、新たに補填した。具体的には産総研が保有する蛋白質局在情報データベース(HGPD)に基づき、中心体局在を示す遺伝子約680個およびtrichoplein類似配列蛋白質約100個を抽出した。これらを配列特性やRPE1-hTRET細胞(不死化正常二倍体)を用いた遺伝子ノックダウンスクリーニングで絞り込み、trichopleinと類縁の機能蛋白質を数十個見出した段階にある。

本年度は、trichoplein類縁蛋白質であるAlbatrossが中心体の3機能を全て統括する新知見を得た。私どもが作成したAlbatross抗体は、生体組織において、気管多線毛の根元にある中心小体類似構造に加え、広く複製中の中心小体に局在を示した。そのため、正常二倍体培養細胞で以下の局在・機能相関実験を追加した。まず、詳細な局在観察では中心小体の遠位端と近位端の両方への局在を認めた。Albatrossノックダウンでは血清飢餓下での一次線毛形成が阻害されたが、これは先行報告で示唆された遠位端機能の障害による。一方で、血清存在下のAlbatrossノックダウンでは新たに中心小体複製の障害が明らかとなった。マーカーを用いた局在相関確認や・生化学的結合実験からは、これが近位端に局在するSAS6の障害によることが示唆された。さらにAlbatrossノックダウンでは紡錘体形成の障害が新たに見られた。こちらは近位端に局在するPlk1の障害との相関を示す強いデータを複数得ている。以上の結果は、Albatrossが3つの特徴的な中心体動態を統括するこれまでにない重要分子であることを示唆するものであり、さらなる確証を複数の細胞種、生化学的手法、点変異導入、断片変異体解析、によって求めている最中である。

#### <今後の方向>

Albatrossの中心体機能を先行研究との比較で詳細に提示し、論文報告としてまとめる。また、trichoplein、Albatrossをはじめとした一連の中心小体制御分子群について、細胞増殖だけでなく分化に及ぼす影響の可能性も分子レベルで検討するため、①相互作用分子の検索、②正常細胞分化・未分化アッセイ系の確立、③それらを用いた遺伝子欠失表現型の確認を行う。

<sup>1)</sup> 産総研・創薬分子プロファイリング、<sup>2)</sup> 国立がんセ・研、

<sup>3)</sup> 名大・医・細胞腫瘍(兼任)

#### <研究課題> 2-2

(主題) 新しい中心体及び細胞間接着制御因子群の機能解析  
(副題) ユビキチンシステムによる一次線毛の形成メカニズムの解明

#### <研究者氏名>

笠原広介<sup>1)</sup>、後藤英仁<sup>2)</sup>、青木啓将<sup>3)</sup>、清野 透<sup>4)</sup>、  
川本恵理子、五島直樹<sup>5)</sup>、稲垣昌樹<sup>2)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

一次線毛は細胞増殖停止期(G0期)に形成される細胞表面から突出したアンテナ様の構造物で、化学的/物理的刺激を受容し細胞増殖を制御する。その骨格は母中心体から変化した基底小体から伸びた微小管からなる。一次線毛の形成、機能不全は、腎嚢胞などの線毛病を引き起こすことが知られている。一方で、多くのがん細胞においては一次線毛の形成能が欠失しており、一次線毛形成、退縮の分子機構を明らかにすることは、がん細胞が無秩序に増殖する仕組みの解明に繋がると考えられる。

我々はこれまでに、TrichopleinとAurora Aの複合体が一次線毛の形成に抑制的に働くことを示した。血清飢餓などの増殖停止シグナルが入ると、TrichopleinはE3リガーゼCRL3<sup>KCTD17</sup>によってポリユビキチン化されプロテアソーム依存的に分解するため、抑制機構が解除され、一次線毛の形成が開始されることも明らかにした。我々は今回、増殖細胞において、Trichopleinを安定化して一次線毛の抑制に働く脱ユビキチン化酵素の同定を試みた。86種類のヒト脱ユビキチン化酵素についてヒト網膜色素上皮細胞(hTERT-RPE-1)を用いてsiRNAスクリーニングを行った。その結果、6つの脱ユビキチン化酵素が一次線毛形成に抑制的に働くことを見出した。さらに、その中の1つであるUsp8(ubiquitin-specific protease 8)がTrichopleinの脱ユビキチン化酵素であることが明らかになったので解析を進めた。

まず、増殖中のRPE-1細胞においてsiRNAを用いてUsp8をノックダウンしたところ、Trichopleinのタンパク質レベルが著しく減少し、約40%の細胞で一次線毛が形成された。この細胞にsiRNA抵抗性のUsp8を外来性に発現させると、Usp8の酵素活性依存的にノックダウンの表現型がレスキューされることも確認した。In vitro実験系において、Usp8は直接Trichopleinに結合して脱ユビキチン化することから、Usp8がTrichopleinの安定化を介して一次線毛の形成を抑制していることが示唆される。

次にUsp8の翻訳後修飾による活性制御メカニズムを解析したところ、Usp8は血清飢餓に伴い脱チロシンリン酸化されることが判明した。さらに、Usp8の酵素活性を測定したところ、血清含有培地で培養した細胞から免疫沈降したチロシンリン酸化されたUsp8が、血清飢餓細胞から免疫沈降した脱リン酸化されたUsp8より強い酵素活性を示した。また、λプロテインフォスファターゼによる脱リン酸化処理でもUsp8の酵素活性が減衰することも見出した。すなわち、Usp8はチロシンリン酸化修飾により酵素活性が亢進すること、血清飢餓により脱リン酸化されると酵素活性が減衰するため、トリコプレインの安

定化作用が消失して一次線毛の形成が引き起こされると考えられる。

#### <今後の方向>

これまでの解析により、チロシンリン酸化されたUsp 8が増殖細胞における一次線毛の形成抑制に働いていることが明らかとなったが、Usp 8のリン酸化を遂行するリン酸化酵素（プロテインキナーゼ）は不明である。血清により活性化するリン酸化酵素であることから、受容体型チロシンキナーゼ群やその下流にあるチロシンキナーゼの可能性が高い。今後の研究により解明したい。

- 1) 名市大院・薬・腫瘍制御（兼任）、
- 2) 名大院・医・細胞腫瘍（兼任）、<sup>3)</sup> 研修生、
- 4) 国がんセ・研・ウイルス、
- 5) 産総研・創薬分子プロファイリング

#### <研究課題> 3

（主題） がん細胞の細胞骨格・増殖にかかわる遺伝子の遺伝子改変マウスの作製

#### <研究者氏名>

牧原弘幸<sup>1)</sup>、稲葉弘哲<sup>1)</sup>、田中宏樹<sup>1)</sup>、榎本 篤<sup>2)</sup>、友野靖子<sup>3)</sup>、笠原広介<sup>4)</sup>、後藤英仁<sup>5)</sup>、林 裕子、谷川順美、稲垣昌樹<sup>5)</sup>

#### <目的・概要・進捗状況>

中間径フィラメントは、アクチンフィラメント、微小管ともに細胞骨格を形成する主要な構成成分である。中間径フィラメントの基本構造は、ヘッド、ロッド、テイルの3つのドメインから構成されており、フィラメントの重合・脱重合は、ヘッドドメインのリン酸化修飾によって時空間的に制御される。当研究室では世界に先駆けて部位特異的リン酸化状態を認識する抗リン酸化ペプチド抗体の開発し、細胞周期特異的なリン酸化部位の同定およびその酵素の同定をしてきた。また、リン酸化の生理的な意味を理解するために、リン酸化部位がリン酸化されない変異を導入した細胞では、細胞質分裂が終了したにもかかわらず娘細胞間が断裂されない架橋構造を認め、リン酸化が細胞質分裂の完了に必要であることを示した。しかしながら、マウスなどをを用いた個体レベルにおいて、それらのリン酸化シグナルの生理的機能は、ほとんど解明されていない。そこで、我々は細胞分裂期特異的リン酸化部位の11カ所のリン酸化部位をセリンからアラニンに置換したマウスを作製・解析を行った。

現在までに、変異マウスでは目の水晶体の形態形成不全、白内障の発症、皮膚の損傷治癒遅延を観察した。皮膚組織では、3か月齢において変異マウスではコラーゲン層減少に加え、脂肪層の増多を認めた。その脂肪細胞の核は大きく細胞質分裂障害の結果であることが示唆された。14か月齢のマウスでは、変異マウスで脂肪層がほとんど認められないという早老化の表現型を認めた。さらに、詳細に損傷治癒過程を解析すると、変異マウス特異的に2核細胞・ブリッジ構造の線維芽細胞の出現、

Aneuploidyを示す核の出現、DNA損傷反応を示す細胞、細胞老化に陥る細胞が経時的に認められた。中間径フィラメントリン酸化不全による細胞質分裂障害は、染色体不安定性の亢進、さらには細胞老化に至ることを個体レベルで明らかにした。

染色体異数性はがんのhallmarkとして考えられている。我々のマウスは、染色体異数性を示すことから、高発がんモデルマウスとなりうると予期された。しかしながら、生後2年以上にわたりマウスを観察したが自然発がんの亢進を認めなかった。また、皮膚に3週間おきに損傷を与えて、腫瘍形成の亢進を検討したが野生型と同様、全く腫瘍形成を認めなかった。そこで、化学発がんによる腫瘍形成を検討したところ、野生型に比べ変異マウスにおいて腫瘍発生の遅延および腫瘍による個体死の遅延を認めた。この腫瘍を組織学的に検討したところ、すべての遺伝子型で線維肉腫を形成し、染色体異数性を呈した。この結果から、腫瘍形成初期における染色体異数性が誘導する細胞老化(AIS; Aneuploidy-induced senescence) はがん化へのセーフガードとしての役割をしている可能性を示唆している。

我々は、中間径フィラメントのデスミンに関してこれまでに、Aurora-BとRho-キナーゼに関するリン酸化部位を報告してきたが、新たにCdk 1によるリン酸化部位としてSer-7、Ser-28およびSer-32を同定した。また、Ser-32のリン酸化部位特異的な抗体(TD 3-4)の作製にも成功した。この抗体により、Ser-32のリン酸化が分裂中期で起こることを明らかにした。さらに、個体発生時における細胞分裂部位を同定することができ、形態形成機構の一端を明らかにすることを可能にした。さらに、本抗体は、これまで腫瘍マーカーが存在しない横紋筋肉腫の診断の有用なツールになり得る。

#### <今後の方向>

ビメンチン点変異マウスでは染色体不安定性、細胞老化を認めたが、老化の主要な因子であるp53-p21経路依存的にこれらの現象が起きている可能性が考えられる。p53遺伝子破壊マウスとの交配し、その子孫マウスを解析することにより、発がんにおけるビメンチンリン酸化の役割を個体レベルで明らかででき、発がんの分子機構の一端が明らかになる。さらに、老化関連因子であるp21、16の遺伝子破壊マウスとの交配し、その子孫マウスの解析によりこれらの遺伝子に依存的か否かを検証する。

白内障、損傷治癒遅延をきたすビメンチン変異マウスに加えて、筋組織、皮膚、肝臓、脳などの特異的組織でaneuploidyを生じて老化をきたす細胞質分裂障害型中間径フィラメント・ノックインマウスを作製する。その後、種々の組織およびその損傷治癒モデルにおいて時系列発現プロファイル解析を通じてaneuploidyからの老化誘導に必須の分子群の同定を試みる。

また、デスミンのリン酸化の生体内における生理学的意義の解明するため、デスミンのリン酸化部位に変異を導入したマウスの作製に成功したので、今後はこのマウスの解析を遂行する。

- 1) リサーチレジデント、<sup>2)</sup> 名大院・医・腫瘍病理学、
- <sup>3)</sup> 重井医学研・分子細胞生物、
- 4) 名市大院・薬・腫瘍制御（兼任）、
- 5) 名大院・医・細胞腫瘍（兼任）

## 中央実験室

### <研究課題> 1

(主題) 食道がん、頭頸部腫瘍の分子遺伝学的研究

(副題) ミトコンドリアDNA の多型と食道がん発がんリスク

### <研究者氏名>

組本博司、松尾恵太郎<sup>1)</sup>、田中英夫<sup>2)</sup>、田島和雄<sup>3)</sup>

### <目的・概要・進捗状況>

ミトコンドリアゲノムDNA (mtDNA) は核ゲノムDNA と比べ、一般に変異が生じやすいといわれている。また最近では老化やがん化に伴ってmtDNAに変異を生じることも報告されている。我々は、食道がんについて高頻度にmtDNAの変異が蓄積していることを以前明らかにした。もともと食道は、喫煙・飲酒の影響を直接受ける器官であり、これらの生活習慣によって発がんリスクも上昇することが示されている。mtDNAに多くの多型が存在することで、酸化的リン酸化の過程で電子が漏れ、活性酸素がより多く産生されることが考えられる。そこで、本研究では、mtDNAのD-loop領域に存在する多型の数を数え、食道がんの発がんリスクとの関連を解析することを計画した。また、生活習慣に関わる発がんリスクとmtDNAの多型の数との関連も解析する。

本研究には、HERPACC (the Hospital based Epidemiologic Research Program at the Aichi Cancer Center) のデータベースより食道がん患者185例、食道がん患者に性、および年齢を一致させた非がん患者対照185例を用いた。喫煙、飲酒習慣を含む生活習慣に関する情報、さらに、血液からDNAを得た。

mtDNAのD-loop領域は、複製、転写をコントロールする領域であり、多型、変異が多数見つかっている領域でもある。現在、市販のリシーケンシングプライマーセットを用い、食道がん患者および、非がん患者由来のDNAの塩基配列を決定すると同時に、これらの解析した塩基配列と、mtDNAの基準配列であるrCRSと比較することによって、D-loop領域の多型を網羅的に検出しているが、塩基置換が全体の8割を占めた。現在のところ、平均で、食道がん患者で6.7多型/人、非がん患者で6.7多型/人の多型が検出されている。

### <今後の方向>

今後、これらの結果を用いて食道がんにリスクを与える多型の探索や、多型の数と食道がんリスクとの関連、さらに飲酒・喫煙のリスクを修飾する多型の探索を行う。また、核だけでなくミトコンドリアでも働いていることが明らかとなっている修復遺伝子、hOGG-1の多型 (Ser326Cys) をそれぞれのサンプルについて解析し、mtDNAの変異と喫煙・飲酒との関連や、さらに、mtDNAの変異と飲酒・喫煙習慣との関連を明らかにし、食道がんにおけるmtDNAの変異がどのような過程で生じるかを考察する。

<sup>1)</sup> 遺伝子医療研究部、<sup>2)</sup> 疫学・予防部、<sup>3)</sup> 三重大学医学部



### 3. 病院及び研究所における共同研究（共同研究費）

#### <研究課題 1>

肺癌・中皮腫細胞の解析と診断、治療法への応用

Analysis of lung cancer and mesothelioma cells for clinical application

#### <研究者氏名>

所属部 呼吸器内科部

研究者氏名 樋田豊明

共同研究者 田中広祐、大矢由子、吉田達哉、清水淳市、堀尾芳嗣、谷田部 恭、関戸好孝

#### <目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等>

EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対するEGFR阻害薬治療により著効が認められるが、多くの症例では次第に耐性を獲得し、その原因の約半分がT790M耐性遺伝子の出現に由来すると考えられている。今回、T790M耐性遺伝子の出現頻度が肺癌の原発部位によって異なるかどうか検討した。

背景：以前、肺腺癌のEGFR遺伝子変異は原発部位によって頻度が異なる（中葉・舌区で陽性率が高い）ことを報告しており、獲得耐性に関する原発部位別の解析を施行した。

対象：当センターでEGFR遺伝子変異の有無が判明しているI-IV期肺腺癌1124例のうち、2009-2015年にEGFR遺伝子変異陽性肺腺癌に対してEGFR-TKIを施行し病勢進行後にRe-biopsyにてT790M耐性遺伝子の有無を調べた135症例に関して後ろ向きに解析した。

結果：I-IV期肺腺癌全体におけるEGFR遺伝子変異陽性率は47%（528/1124例）で、中葉・舌区原発肺腺癌で有意にEGFR遺伝子変異が多かった（中葉舌区/上葉（左は上区、以下略）/下葉=66%/48%/42%、 $p<0.001$ ）。EGFR-TKIに対する耐性獲得後にRe-biopsyを施行した進行肺腺癌135例の臨床背景は、女性90例（67%）、非喫煙者89例（66%）、年齢中央値は62歳（範囲：35-84歳）であった。Gefitinib/Erlotinib/Afatinibがそれぞれ103/30/2例で投与され、9/95/31例がⅢ期/Ⅳ期/術後再発であった。19DEL/L858Rがそれぞれ70/65例で原発部位は上葉/中葉舌区/下葉が77/20/38例であった。T790M耐性遺伝子の陽性率は50%（68/135例）で臨床背景によって陽性率の違いは認めなかったが、原発部位別では中葉・舌区原発で明らかにT790M耐性遺伝子の陽性率が高かった（中葉舌区/上葉/下葉=80%/52%/32%、 $p=0.001$ ）。多変量解析でも原発部位がT790M耐性遺伝子の独立した予測因子であった（ $p<0.001$ ）。

結論：中葉・舌区原発肺腺癌はEGFR遺伝子変異が多く認められ、かつEGFR-TKI施行後にT790M耐性遺伝子を獲得しやすいという遺伝子学的特性を有する。一方、下葉原発肺腺癌ではT790M耐性遺伝子の出現頻度が低く原発部位によって耐性機序が異なる可能性も示唆された。

今回の検討で得られた知見は、今後のEGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌の治療戦略に重要な情報をもたらすものと考えられた。

#### <研究課題 2>

機能温存を目指す頭頸部癌の外科治療

Organ preservation surgery for head and neck cancer

#### <研究者氏名>

所属部 頭頸部外科部

研究者氏名 長谷川泰久

共同研究者 花井信弘、鈴木秀典、西川大輔、福田裕次郎、小出悠介

#### <目的、方法、進捗状況または結果のまとめ、考察等>

喉頭癌に対する手術療法

##### ① 喉頭温存手術

喉頭機能の温存手術である。一次治療として行われる場合と、放射線治療後の残存腫瘍や再発腫瘍に対して行われる場合がある。

##### A) 経口的切除

・経口的レーザー手術（TLM; Transoral Laser Microsurgery）

直達喉頭鏡を口から喉頭に挿入し、顕微鏡観察下にCO2レーザーやKTPレーザーなどを使用し病変を切除する。早期の声門がんが適応となる。早期がんは同時に放射線治療の適応でもあるが、放射線治療は治療後咽喉頭の違和感が遷延する場合があること、放射線誘発がんの可能性があること、二次性に頭頸部がんが生じた場合に再度の放射線治療が困難となることなど不利な点もある。早期声門がんに対する経口的レーザー治療の成績は放射線治療と同等とされており、放射線治療を避けたい場合に選択肢となる。

##### B) 喉頭部分切除

主に早期がんが適応となる。

・喉頭垂直部分切除

主に早期の声門がんが適応となる。患側の声帯と甲状軟骨を切除する術式である。健側声帯の一部も含めて切除することが多いが、健側声帯の大部分は温存されるため、頸部皮膚などで患側声帯を再建することで発声が可能となる。

・喉頭水平部分切除

主に早期の声門上がんが適応となる。声帯より上方の仮声帯、喉頭蓋、甲状軟骨上部などを切除する。両側声帯が温存されるため発声は比較的良好だが、嚥下障害が問題となることがある。

##### C) 喉頭全摘

CHEP（CricoHyoidEpiglottis-Pexy）と言われるものが一般的である。甲状軟骨、声帯、仮声帯を切除し、輪状軟骨、舌骨、喉頭蓋を上下に縫縮する術式である。主に声帯の前方中心の病変で部分切除では十分な切除が困難である病変が適応となる。術後嚥下機能の回復に時間を要するものの、発声機能が温存され、下記の喉頭全摘のような永久気管孔が不要であるなどの利点がある。

##### ② 喉頭全摘術

進行喉頭がんや放射線治療後の再発が適応となる。喉頭（甲

状軟骨、輪状軟骨、披裂軟骨)をすべて取り去り、気管を皮膚に縫合し永久気管孔という呼吸の経路を頸部に新しく造設することとなる。そのため、発声機能が失われるが、代用発声を使用してコミュニケーションをとることが可能である。また身体障害者の3級に認定される。

## 4. プロジェクト研究（共同研究費）

### <研究課題 1>

*ganp* 遺伝子多型の非遺伝散発性乳癌発症及び悪性進展への寄与の検討

Contribution of *ganp* polymorphisms to the occurrence and malignant progression of sporadic breast cancers

### <研究者氏名>

所属部 腫瘍免疫学部

研究者氏名 権藤なおみ

共同研究者 伊藤秀美、吉村章代、桑原一彦

### <目的>

GANP分子の発現異常がマウスにおいては乳癌発症を引き起こすことが明らかとなった (Kuwahara *et al.*, 2016)。ヒト乳癌の発症や悪性進展にもこの分子が関与する可能性を考え、ヒト *ganp* 遺伝子多型 (single nucleotide polymorphisms; SNPs) に着目して「愛知県がんセンター病院疫学研究」(HERPACC) のデータを解析した。

### <方法>

「愛知県がんセンター病院疫学研究」(HERPACC) で健常人694名、乳癌患者1376名(2001年から2005年に愛知県がんセンター中央病院で乳癌と診断された患者)のゲノム情報を検討した。イルミナ社iCOGSチップでジェノタイプを解析し、*ganp* SNPsを13カ所同定した。これらのSNPsはすべて*ganp* 遺伝子の3'側のイントロン領域に存在し、12カ所は35kbのBlock 1と1 kbのBlock 2に分けられた。Block 1とBlock 2からランダムにSNPを一つずつ選び(rs2839186とrs11702450)、これらのジェノタイプの頻度を解析した。

### <結果および進捗状況>

#### ① *ganp* SNPsと乳癌リスク

HERPACCのゲノム情報を検討したところ、*ganp* 遺伝子のBlock 1に存在する10ヶ所は連鎖不平衡(linkage disequilibrium; LD)の関係にあり、乳癌発症リスクと統計学的に有意な相関を示した。Block 1とBlock 2からランダムに選択したSNP(rs2839186とrs11702450)は、両SNPでマイナーアレルの頻度は乳癌患者では健常人と比較して1/2以下であることがわかった。さらに三種類のモデルを用いてオッズ比を計算した。Block 1内のrs2839186ではGenotype modelで計算すると野生型アレル(GG)を1とした時、マイナーアレル(AA)は0.41であった(95% CI, 0.23-0.72, p=0.002)。またRecessive modelではマイナーアレル(AA)のオッズ比は0.40であった(95% CI, 0.23-0.78, p=0.002)。一方、Dominant Modelではマイナーアレル(GA+AA)のオッズ比は0.95であった(95% CI, 0.78-1.16, p=0.635)。さらにBlock 2内のrs11702450に関してもオッズ比を計算した。Genotype modelとRecessive modelではマイナーアレル(AA)のオッズ比が0.42で、rs2839186と同様の傾向を示したが、統計学的に有意ではなかった(p=0.094とp=0.097)。

以上の結果から、*ganp* SNPs(特にBlock 1)ではマイナーアレルを有する集団はメジャーアレルを有する集団に比べて乳癌の発症が約40%に低下することが示され、*ganp* SNPsのマイナーアレルは乳癌発症リスクに対して抑制的に働くことが示唆された。なお、この抑制効果は乳癌のサブタイプによる差は認めなかった。

#### ② *ganp* SNPsと乳癌患者予後

ヒト乳癌患者検体を用いた後向きコホート研究により、GANP低発現群は高発現群に比べて乳癌特異的生存期間、無再発生存期間の両方において予後が悪いことが明らかとなっている(Kuwahara *et al.*, 2016)。そこで*ganp* SNPsが発症のみならず予後にも影響するかどうかを解析中である。現在、愛知県がんセンター中央病院の患者データをほぼ追跡し終え、ジェノタイプごとの予後を解析している。予備的な結果では、全生存期間では有意な差は認めていない。

### <考察>

*ganp*欠損マウスと乳癌発症との関連に基づき、本研究ではヒト乳癌発症とGANPの異常に関して*ganp* SNPsに着目して解析した。*ganp* SNPsのgermline変異では乳癌発症リスクが40%まで低下するということが示されたが、*ganp* SNPsがGANPタンパク発現にどのような影響を与えるかは本研究では明確にできていない。今回解析したSNPsが*ganp* 3'側に存在していることより、GANPのカルボキシル末端側に存在するヒストンAセチルフェラーゼ活性に影響を与えている可能性も考えられる。これまでGWASで同定された多くの乳癌疾患感受性遺伝子のオッズ比は2.0以下(もしくは0.5以上)であることを考えると、今回同定した*ganp* SNPsは0.4であり、乳癌発症に抑制的に機能するSNPsとして大いに有望である。

### <研究課題 2>

大腸がん転移抑制遺伝子の同定およびその機能解析

Identification and functional analysis of colon cancer metastasis suppressor genes

### <研究者氏名>

所属部 分子病態学部

研究代表者 佐久間圭一郎

共同研究者 佐々木英一、木村賢哉、清水泰博、谷田部 恭、青木正博

### <研究成果>

#### 【背景】

大腸がんの罹患数は年々増え続けており、その死因の大半に転移が関与するといわれる。転移の機序は未解明の点が多く、転移促進因子は数多く報告されている一方で、転移抑制因子はほとんど同定されていない。我々は、低転移性マウス大腸がん細胞株CMT93とshRNAライブラリーを用いたマウス生体内ス



クリーニング法を確立し、新規大腸がん転移抑制因子として pre-mRNA スプライシングファクターとして知られる Hnrnp11 を同定した。CMT93の *Hnrnp11* をスクリーニングで同定された shRNA 配列および別の配列の shRNA でそれぞれノックダウンするとマトリゲル浸潤能ならびに生体内での肺転移能が亢進し、さらに shRNA 抵抗性の *Hnrnp11* cDNA を導入することによってどちらの亢進も抑制された。その他、Hnrnp11 は Cd44v6 のオルタナティブスプライシングを制御することなどの予備成果を得た。本研究課題ではこれらの予備成果を発展し、Hnrnp11 のヒトオルソログである HNRNPLL と大腸がん浸潤転移の関係について検証をおこなう。

## 【平成27年度の研究成果】

### 1. HNRNPLL とがん浸潤転移の関係

#### I. ヒト大腸がん細胞株を用いた検証

SW480、HT29細胞の *HNRNPLL* を2種類の配列の shRNA でノックダウンしたところ、増殖能が有意に低下する一方で、マトリゲル浸潤能は有意に亢進した。これらの変化は shRNA 抵抗性の *HNRNPLL* cDNA を導入することで抑制されたことから、*HNRNPLL* はがん細胞のマトリゲル浸潤能を負に制御すると考えられた。さらに、SW480、T84、SW1116細胞の *HNRNPLL* をノックダウンすると、*CD44v6* の mRNA レベルでの発現上昇ならびに *CD44v* のタンパクレベルでの発現上昇を認めた。以上の結果はマウスの大腸がん細胞株 CMT93 において見られた結果と同じものであり、マウス Hnrnp11 のがん浸潤抑制機能および *Cd44v6* のスプライシング制御機能はヒトでも保存されていることが示された。

#### II. 臨床検体を用いた検証

大腸がん原発巣と転移巣の *HNRNPLL* 発現レベルを比較するため、同一患者の原発巣と肺転移巣手術標本の免疫組織染色をおこない、*HNRNPLL* の発現量を ImageJ で定量した。3症例の統計解析の結果、原発巣と転移巣の間で *HNRNPLL* の発現量に有意差を認めなかった。この結果から考察されることは、*HNRNPLL* は転移がん細胞全般で発現が低下しているのではなく、一部のがん細胞のみで発現が低下している可能性、あるいは、*HNRNPLL* は浸潤転移過程で一過性に発現低下するものの、転移巣で発現が回復する可能性などが考えられた。がん細胞の浸潤能を一過性に亢進させる現象として上皮間葉転換 (epithelial-mesenchymal transition: EMT) が知られていることから、EMT と *HNRNPLL* の関係の検証をおこなった。

### 2. HNRNPLL と EMT の関係

#### I. ヒト大腸がん細胞株を用いた検証

SW480、CaR-1細胞に EMT を誘導すると *HNRNPLL* の発現が低下し、間葉上皮転換 (mesenchymal-epithelial transition: MET) を誘導することで回復した。また、EMT を誘導し *HNRNPLL* の発現が低下した細胞では、*CD44v6* および *CD44v* の発現上昇を認めた。EMT に伴う *HNRNPLL* の発現低下は mRNA レベルでもみられたことから、SNAIL などの EMT 関連転写因子の関与も示唆されるが、今後の検討課題である。

#### II. 臨床検体を用いた検証

浸潤性大腸がん臨床検体の免疫組織染色をおこなった。浸潤先端部の Cytokeratin-18 陽性腫瘍細胞の一部に、腫瘍中心部の腫瘍細胞と比べて *HNRNPLL* の発現が低下した細胞を認めた。

また、浸潤先端の腫瘍細胞の一部は EMT の特徴である E-cadherin の発現低下を認め、それらの細胞では *HNRNPLL* の発現が腫瘍中心部の腫瘍細胞と比べて低下していた。この結果は EMT と *HNRNPLL* の生体レベルでの関係を示唆するものであり、今後、症例数を追加して検証を進めたい。

## <研究課題 3>

HER2 陽性胃癌患者のリキッドバイオプシーによるトラストズマブ耐性機序の解明とその克服法の検索

A pilot study to investigate the mechanisms of resistance to trastuzumab and promising combination therapy to overcome the resistance using liquid biopsy in HER2-positive gastric cancer

## <研究者氏名>

所属部 薬物療法部

研究者氏名 谷口浩也

共同研究者 宇良 敬、門脇重憲、田中 努 (内視鏡部)、  
中西速夫 (遺伝子病理診断部)、室 圭

## <目的>

切除不能進行・再発 HER2 陽性胃癌に対する標準治療は、抗 HER2 抗体薬トラストズマブを含む全身化学療法である。しかしながら、未だその治療成績は十分とは言えないのが現状である。本研究は、HER2 陽性胃癌患者から採取した腫瘍由来血中遊離 DNA および血液循環腫瘍細胞を用いてトラストズマブ獲得耐性機序を解明し、耐性克服を目標とした分子標的薬併用療法を企業・医師主導治験として提案することを目的としている。

## <方法>

当院通院中の HER2 陽性胃癌患者を含む胃・大腸癌患者に対し化学療法開始前、実施中、耐性後に血液採取を行い、腫瘍由来血中遊離 DNA (cfDNA) ならびに血液循環腫瘍細胞 (CTC) を採取する。cfDNA を抽出し BioRad 社 QX100 による droplet digital PCR 法にて HER2, EGFR, KRAS, PIK3CA, MET などの遺伝子変異/遺伝子増幅の有無を測定し、抗 HER2 薬治療前後での変化を検討する。CTC は院内で開発した方法にて測定し、可能であれば DNA/RNA を抽出、遺伝子発現解析を行う。

## <結果>

2016年9月末現在234検体の遺伝子変異解析を実施した。患者背景は年齢中央値(範囲)66(24-88)歳、男/女57%/43%である。ほぼ全ての胃癌患者から採取した血液検体から cfDNA の抽出は可能であった。腫瘍組織の RAS/BRAF 遺伝子状態との一致率を検討したところ、RAS 遺伝子は感度56.2%、特異度85.4%であった。BRAF 遺伝子変異は腫瘍組織由来の DNA で BRAF 変異型と診断された6例中3例で cfDNA からの BRAF 遺伝子変異が検出可能であった。一方、腫瘍組織からの診断にて HER2 遺伝子増幅のある胃癌における cfDNA での HER2 copy number の検討を行ったが、copy number の明ら

かな増加が認められたのは33.3%と低率であった。

#### <考察>

本研究は腫瘍組織を（再）生検することなく低侵襲に患者の癌の遺伝子状態を知り得る、いわゆる“リキッドバイオプシー”の臨床応用を目指す重要な研究として位置付けられる。血液（血漿）から癌由来の核酸（DNA）を抽出し、遺伝子状態を調べる技術は、近年急速に確立されつつあるが、未だ標準化されておらず発展途上である。本研究においても、遺伝子検査に十分なcfDNA量の抽出は可能であったものの、遺伝子変異/増幅の検出率は期待よりも低率であった。血液採取した患者の多くが、進行癌患者であるものの化学療法により癌のコントロールが出来ていたことも一因かもしれない。引き続き、最適な検体採取のタイミングを含めて研究を継続する予定である。

#### <研究課題 4>

悪性リンパ腫の治療効果・予後に関与する遺伝子変異の探索  
Investigation for genetic alterations associated with predictive and prognostic value in malignant lymphoma

#### <研究者氏名>

所属部 血液・細胞療法部  
研究者氏名 加藤春美  
共同研究者 都築 忍、山本一仁、木下朝博

#### <目的>

近年、がん治療における分子標的治療薬の研究開発は目覚ましく、今後さらなる臨床応用への一般化が必要とされている。有効な薬剤を投与するために薬剤反応性を事前に予測することは重要であると考えられている。しかしながら、悪性リンパ腫では病型ごとに分子生物学的・病理学的特徴が異なり、それに伴って臨床経過・予後も異なっているため、各病型ごとにモデルを構築することが重要な課題となっている。本研究は、悪性リンパ腫の一病型であるリンパ芽球性リンパ腫における薬剤反応性を事前に予測するシステムを構築することを目的とする。

#### <進捗状況>

成人リンパ芽球性リンパ腫の検体を用いて腫瘍細胞の解析を行った。対象は当院で化学療法をうけた8症例。治療として治療強度の高い化学療法であるhyper CVAD/MA交代療法にひきつづく強化・維持療法（Thomas et al. Blood 2004）をうけた症例を対象とした。まず細胞起源を同定するため、抗CD1a, CD2, cCD3, sCD3, CD7, CD34抗体を用いて表現型の解析をおこなった。4症例はcortical T-cell type、2症例はmedullary T-cell type、2例はpro T/pre T-cell typesであった。これら8症例のうち、2例で再発をみとめ、再発を認めた症例はpro/pre T-cell typesと診断された症例であった。

最近の報告によると、小児急性リンパ芽球性白血病では、細胞起源と予後との相関が検討されており、early T-cell precursor acute lymphoblastic leukemiaと診断される表現型を示す症例で不良な予後が示すことが報告されている（Coustan-Smith et al.

Lancet Oncol 2009）。Early T-cell precursorsの表現型としては、T細胞表現型（CD1a陰性, CD8陰性, CD5dim）を有する細胞において、myeloidまたはstem cell antigensとしてCD13, CD33, CD34, CD117, and/or HLA-DRを発現している細胞と定義されている（Bell et al. Nature 2008）。これらの表現型について検討を行ったところ、pro T-cell typeの症例がearly T-cell precursorsの表現型と診断された。本症例はhyper CVAD/MA交代療法中に早期再発を認め、治療抵抗性を示す症例であった。

#### <まとめおよび今後の方向性>

小児急性リンパ芽球性白血病で示されているearly T-cell precursor phenotypeは、成人リンパ芽球性リンパ腫においても認められる表現型であり、治療抵抗性を示す症例であった。成人リンパ芽球性リンパ腫においても表現型解析をもちいた細胞起源の同定は重要である可能性が示唆された。今後は遺伝学的検討を行う予定である。

## 第2章 研究発表関係

### 1. 学会等における研究発表テーマ調べ（名誉総長・総長）

#### 名誉総長

- 001 **Nimura Y**: Progress of Biliary Cancer Surgery - Nagoya experience. International College of Surgeons, Japan Section 2015, 2015, (Tokyo), [Hall of Fame Memorial Lecture]
- 002 **Nimura Y**: Right trisectionectomy for Hilar Cholangiocarcinoma. American College of Surgeons Clinical Congress 2015, 2015, (Chicago), [Subject Oriented Symposium I, ACS Multimedia Atlas of Surgery - Liver Volume]
- 003 **二村雄次**: Passion and Mission in Biliary Surgery. 第29回日本肝胆膵外科学会, 2015,(東京),[Lecture]
- 004 **二村雄次**: 胆道外科の課題と展望. 第70回日本消化器外科学会, 2015,(浜松),[教育講演]
- 005 **二村雄次**: 柔道教育—日本とフランスの比較から. 日本教育福祉学会 秋の研究例会 2015, 2015,(名古屋),[特別講演]
- 006 **二村雄次**: 最近のがん医療とがん対策. 日本柔道整復師会第50回東海学術大会 愛知大会, 2015,(名古屋),[特別講演]

#### 総長

- 001 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 小森康司, 川上次郎, 浅野智成, 木下 平: 迷わない確実な膵吻合術を目指して膵頭十二指腸切除術における確実な膵空腸吻合法 soft pancreas症例に対する陥入法. 第27回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2015,(東京),[ビデオシンポジウム]
- 002 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 小森康司, 川合亮佑, 川上次郎, 浅野智成, 木下 平: 膵嚢胞性疾患の治療方針主膵管型IPMNの治療方針 至適切除範囲と膵全摘の要否. 第27回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2015,(東京),[ビデオシンポジウム]
- 003 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 小森康司, 川合亮佑, 川上次郎, 浅野智成, 木下 平: 膵臓外科のドレーンの管理 2 膵頭十二指腸切除後、膵管チューブにおける膵液感染の臨床的意義. 第27回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2015,(東京),[ワークショップ]
- 004 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 木下 平: 合併症ゼロを目指した再建、吻合手術手技(胆道、膵臓)膵頭十二指腸切除術における膵空腸吻合法の工夫 soft pancreasに対する陥入法の有用性. 第77回日本臨床外科学会総会, 2015,(福岡),[ビデオシンポジウム]
- 005 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村

- 則久, 川上次郎, 木下 平: 膵IPMNの手術適応と術式主膵管型IPMNの治療成績 膵切除範囲と膵全摘の要否について. 第77回日本臨床外科学会総会, 2015,(福岡),[パネルディスカッション]
- 006 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 松井隆則, 廣田政志, 小島 宏, 清水泰博, 木下 平: CS再建による腹腔鏡下胃全摘・噴門側胃切除の導入期の安全性に関する前向き第Ⅱ相試験の成績. 第88回日本胃癌学会総会, 2016,(大分),[ポスターセッション]
- 007 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 清水泰博, 木下 平: P O C Y 1 症例の手術適応. 第88回日本胃癌学会総会, 2016,(大分),[ポスターセッション]
- 008 筒山将之, 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 木下 平: 当院におけるconversion surgeryの治療成績. 第88回日本胃癌学会総会, 2016,(大分),[ポスターセッション]
- 009 岩田至紀, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博, 木下 平: 残胃の癌の検討. 第88回日本胃癌学会総会, 2016,(大分),[ポスターセッション]
- 010 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 田近正洋, 清水泰博, 木下 平: 胃癌内視鏡治療非治療切除後の外科切除症例に関する検討. 第88回日本胃癌学会総会, 2016,(大分),[ポスターセッション]



## 2. 学会等における研究発表テーマ調べ (病院)

消化器内科部

- 001 **Hara K** : Usefulness of pCLE for biliary stricture. ワークショップ,2015,(Lisbon IPA),[ワークショップ]
- 002 **Hara K** : Endoscopic Biliary Intevention. International interventional Endocscopy Advisory Board,2015,(Boston),[講演]
- 003 **Hara K** : EUS-guided approach. International interventional Endocscopy Advisory Board,2015,(Boston),[講演]
- 004 **Morizane C, Machida N, Honma Y, Okusaka T, Boku N, Kato K, Mizusawa J, Katayama H, Hiraoka N, Taniguchi H, Ikeda M, Shibuya Y, Hosokawa A, Mizuno N, Sano T, Tsuda M, Yokosuka O, Kitagawa Y, Sasako M, Furuse J,(JCOG)JCOG** : Randomized phase III study of etoposide plus cisplatin versus irinotecan plus cisplatin in advanced neuroendocrine carcinoma of the digestive system: A Japan Clinical Oncology Group study(JCOG1213). Presented at the ASCO 2015,2015,(Chicago),[ポスター]
- 005 **Hara K** : EUS-guided Biliary Drainage for malignant lower biliary obstruction. 第89回日本消化器内視鏡学会総会,2015,(名古屋),[International Video Session 2]
- 006 **Hara K** : EUS-BD. T-CAP 2015,2015,(東京),[講演]
- 007 **Yoshida T, Hijioka S, Hosoda W, Mizuno M, Hara K, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Tsutumi H, Fujiyoshi T, Sato T, Hieda N, Okuno N, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K** : Treatment strategy for pancreatic neuroendocrine carcinoma. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[international session]
- 008 **Hara K** : EUS for pancreatic malignancy. 2nd AEG Train-The-Trainer EUS Course,2015,(香港),[講演]
- 009 **Hara K** : Case and Live Demo. 2nd AEG Train-The-Trainer EUS Course,2015,(香港),[ワークショップ]
- 010 **Hara K** : EUS-guided Biliary Drainage. 2nd AEG Train-The-Trainer EUS Course,2015,(香港),[講演]
- 011 **Hara K** : How to be a good trainer. 2nd AEG Train-The-Trainer EUS Course,2015,(香港),[講演]
- 012 **Hara K** : Case and Live Demo. 2nd AEG Train-The-Trainer EUS Course,2015,(香港),[ワークショップ]
- 013 **Hara K** : Interventional EUS. 2nd AEG Train-The-Trainer EUS Course,2015,(香港),[ワークショップ]
- 014 **Hara K** : Role of EUS for pancreatic malignancy. NKC workshop in 2015,2015,(Thai),[講演]
- 015 **Hara K** : Case and Live Demo. NKC workshop in 2015,2015,(Thai),[ワークショップ]
- 016 **Hara K** : Hands-On. NKC workshop in 2015,2015,(Thai),[ワークショップ]
- 017 **Yoshida T, Hara K, Bhanthumkomol P, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hieda N, Okuno N, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K** : Comparison of fully and partially-covered 6 mm self-expanding metallic stent for hilar malignant biliary stricture. JDDW2015,2015,(東京),[international panel discussion]
- 018 **Hara K** : EUS for Pancreas. 新華医院学会,2015,(上海),[講演]
- 019 **Hara K** : EUS-FNA LIVE Demo. 新華医院学会,2015,(上海),[ワークショップ]
- 020 **Hara K** : Case: EUS-PD. APFF 2015 in TOKYO,2015,(東京),[口演]
- 021 **Hara K** : Case: EUS-BD for benign biliary obstruction. APFF 2015 in TOKYO,2015,(東京),[口演]
- 022 **Hara K** : Standardize Teaching Aids and Assessment Methods. AEG 1st Training Material Sub-Committee Planning Meeting,2015,(台湾),[ワークショップ・司会]
- 023 **Hara K** : EUS-guided pseudocyst drainage. 1st NUH-NCI Endoscopic Joint Meeting,2016,(Bangkok),[講演]
- 024 **Hara K** : Video Symposium: EUS-FNA. 1st NUH-NCI Endoscopic Joint Meeting,2016,(Bangkok),[講演]
- 025 **Hara K** : ライブデモンストレーション EUS for pancreatic lesion. 1st NUH-NCI Endoscopic Joint Meeting,2016,(Bangkok),[ワークショップ]
- 026 **Ozaka M, Todaka A, Mori K, Boku N, Mizuno N, Ueno H, Kobayashi S, Uesugi K, Kobayashi N, Hayashi H, Sudo K, Okano N, Horita Y, Kamei K, Yukisawa S, Nakamori S, Yachi Y, Henmi T, Kobayashi M, Fukutomi A: JASPAC 06** : Observational study of FOLFIRINOX therapy for unresectable and recurrent pancreatic cancer-Preliminary report on serious adverse events. 2016 Gastrointestinal Cancers Symposium,2016,(San Francisco),[Poster]
- 027 **Hara K** : Usefulness of FV-EUS. 超声内镜新产品交流会, 2016,(天津),[特別講演]
- 028 **Hijioka S, Hosoda W, Matsuo K, Ueno M, Furukawa M, Yoshitomi H, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Nakamori S, Ishii H, Kodama Y, Morizane C, Yanagimoto H, Yane K, Notohara K, Furuse J, Yatabe Y, Mizuno N, Japan pNEC Study Group** : Clinicopathological features and response to platinum-based chemotherapy in pancreatic neuroendocrine carcinoma:A retrospective multicenter study of 70patients. 2016 Gastrointestinal Cancers Symposium,2016,(San Francisco),[POSTER SESSION]
- 029 **Hara K** : EUS-CDS vs. EUS-HGS. Round Table Meeting on international Consensus Guideline for EUS-guided Biliary Drainage,2016,(Seoul),[講演]
- 030 **Hara K** : Consensus Guideline for EUS-BD. Round Table Meeting on international Consensus Guideline for EUS-

- guided Biliary Drainage,2016,(Seoul),[panel discussion]
- 031 **Hara K** : Interventional EUS. “New Techniques in GI Endoscopy Workshop” in Cho-Ray Hospital,2016,(Ho Chi Minh),[講演]
- 032 **Hara K** : EUS-guided drainage. “New Techniques in GI Endoscopy Workshop” in Cho-Ray Hospital,2016,(Ho Chi Minh),[司会]
- 033 **Hara K** : Live Demo: EUS and EUS-FNA. “New Techniques in GI Endoscopy Workshop” in Cho-Ray Hospital,2016,(Ho Chi Minh),[ワークショップ]
- 034 吉田 司, 脇岡 範, 堤 英治, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次 : 当院における膵神経内分泌腫瘍に対するエベロリムスの使用成績. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台),[一般口演]
- 035 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生 : 膵NECに対する治療戦略ーワークショップ8: 胆膵領域におけるNET治療の新展開. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台),[口演]
- 036 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次 : CEA上昇を示す切除不能膵癌は高悪性度を示し予後不良である～切除不能膵癌における腫瘍マーカーの測定意義～. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台),[口演]
- 037 稗田信弘, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 吉田 司, 丹羽康正, 山雄健次 : ゲムシタピン耐性進行膵癌に対する、2次治療以降のFOLFIRINOXの検討. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台),[プレナリーセッション]
- 038 奥野のぞみ, 原 和生, 山雄健次 : 偶発症の軽減と容易なre-interventionを目指したEUSガイド下経肝胆道ドレナージ術. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台),[ワークショップ]
- 039 脇岡 範 : 膵消化管NET診断・治療の最前線～とつぎにくいNETを紐解きます～. 第4回GI Web in Aizu,2015,(福島),[講演]
- 040 原 和生 : 胆膵癌、診断・治療の最前線. 第13回海部津島消化器病研究会,2015,(津島),[特別講演]
- 041 脇岡 範 : わかった気になる胃NET. エーザイ株式会社社内研修,2015,(名古屋),[講演]
- 042 脇岡 範 : 膵内分泌腫瘍の診断(EUS-FNAの役割). 第27回日本内分泌外科学会総会,2015,(仙台),[講演]
- 043 原 和生 : サテライトセミナー 2. 第89回日本消化器内視鏡学会総会,2015,(名古屋),[座長]
- 044 吉田 司, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 丹羽康正, 山雄健次 : ステント抜去時の偶発症回避を目的とした大口径片フラップ膵管ステントの有用性. 第89回日本消化器内視鏡学会総会,2015,(名古屋),[一般口演]
- 045 稗田信弘, 原 和生, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 奥野のぞみ, 吉田 司, 今岡 大, 脇岡 範, 水野伸匡, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 山雄健次 : 悪性胃十二指腸狭窄に対するCovered Stentの有効性. 第89回日本消化器内視鏡学会総会,2015,(名古屋),[口演]
- 046 原 和生 : 口演58膵EUS下ドレナージ 1. 第89回日本消化器内視鏡学会総会,2015,(名古屋),[座長]
- 047 原 和生 : プースレクチャー. 第89回日本消化器内視鏡学会総会,2015,(名古屋),[座長]
- 048 原 和生 : EUS-CD 術後管理とトラブルシューティング. 第89回日本消化器内視鏡学会総会 附置研究会,2015,(名古屋),[講演]
- 049 奥野のぞみ, 原 和生, 山雄健次 : 膵疾患に対するEUS-FNAの正診率向上に向けて. 第89回日本消化器内視鏡学会総会,2015,(名古屋),[ワークショップ]
- 050 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次 : AIP-not otherwise specified(AIP-NOS)にステロイド維持療法は必要か?. 第46回日本膵臓学会大会,2015,(名古屋),[講演]
- 051 井岡達也, 上野秀樹, 池田公史, 上野 誠, 水野伸匡, 古瀬純司 : 切除不能進行・再発膵癌患者に対するnab-Paclitaxel + Gemcitabine療法第I/II相試験: 切除不能膵癌の治療選択. 第46回日本膵臓学会大会,2015,(名古屋),[パネルディスカッション]
- 052 原 和生 : Interventional EUS. Advanced GI & Liver Forum 3<sup>rd</sup>, 2015,(鹿児島),[特別講演]
- 053 脇岡 範 : 胆膵診療におけるEUSの役割. 藤元総合病院院内講演会,2015,(宮崎),[講演]
- 054 原 和生 : IPMN経過観察と膵癌早期発見. パープルリボンセミナーin名古屋,2015,(名古屋),[講演]
- 055 脇岡 範 : 家族性膵癌家系におけるスクリーニング検診. 第46回日本膵臓学会家族性膵癌登録制度公聴会,2015,(名古屋),[公聴会]
- 056 原 和生 : ビデオシンポジウム 膵疾患に対するInterventional Endoscopy. 第46回日本膵臓学会大会,2015,(名古屋),[座長]
- 057 吉田 司, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次 : PNETの集学的治療 エベロリムスの二次以降治療の有用性に関する検討. 第46回日本膵臓学会大会,2015,(名古屋),[ミニパネルディスカッション]
- 058 奥野のぞみ, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 吉田 司, 稗田信弘, 山雄健次 : 膵癌による胃十二指腸狭窄および胆管狭窄に対するステント留置術の検討. 第46回日本膵臓学会大会,2015,(名古屋),[ビデオシンポジウム]
- 059 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 吉田 司, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 細田和貴, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 丹羽康正, 山雄健次 : TS 1 a膵癌の臨床病理学的検討. 第46回日本膵臓学会大会,2015,(名古屋),[口演]
- 060 脇岡 範 : pNETにおける画像およびEUS-FNA診断の留

- 意点. 第46回日本膵臓学会大会,2015,(名古屋),[講演]
- 061 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 輿儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: GemおよびS-1に不応となった転移性膵癌に対しmFOLFIRINOX療法が奏功を示した2例. 第46回日本膵臓学会大会,2015,(名古屋),[ポスター]
- 062 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 輿儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 切除不能進行膵腺扁平上皮癌に対する予後の検討<膵管癌との比較を中心に>. 第46回日本膵臓学会大会,2015,(名古屋),[口演]
- 063 稗田信弘, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 吉田 司, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 輿儀竜治, 丹羽康正, 山雄健次: 進行膵癌に対する2次治療以降のFOLFIRINOXの検討. 第46回日本膵臓学会大会,2015,(名古屋),[ミニパネルディスカッション]
- 064 稗田信弘, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 吉田 司, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 輿儀竜治, 丹羽康正, 山雄健次: 手術不能膵癌に対する2次治療以降のFOLFIRINOXの検討. 第122回日本消化器病学会東海支部例会,2015,(三重),[シンポジウム]
- 065 鈴木博貴, 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 藤田 曜, 徳久順也, 山雄健次, 丹羽康正: S-1/CDDP術前化学療法により組織学的CRが得られた進行胃癌,大腸癌の重複癌の1例. 第122回日本消化器病学会東海支部例会,2015,(三重),[一般演題]
- 066 藤田 曜, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 徳久順也, 山雄健次, 丹羽康正: API 2-MALT 1陽性胃MALTリンパ腫の長期経過観察中にDLBCLが合併した1例. 第122回日本消化器病学会東海支部例会,2015,(三重),[一般演題]
- 067 近藤 尚, 石原 誠, 徳久順也, 藤田 曜, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 渋谷 仁, 平山貴視, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 吉田 司, 今岡 大, 田中 努, 脇岡 範, 原 和生, 田近正洋, 水野伸匡, 丹羽康正, 山雄健次: SSA/Pの癌化症例に対してESDを施行した一例. 第122回日本消化器病学会東海支部例会,2015,(三重),[一般演題]
- 068 奥野のぞみ, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 吉田 司, 稗田信弘, 山雄健次: Endoscopic ultrasound-guided rendezvous(EUS-RV)technique via various approach route. T-CAP 2015,2015,(東京),[ポスター]
- 069 脇岡 範: GEP-NET診断 臨床・病理・画像. NETアカデミー,2015,(東京),[講演]
- 070 原 和生: 胆膵領域におけるInterventional EUS. 第15回日本消化器内視鏡学会東海支部ガイドライン研修会,2015,(静岡),[講演]
- 071 脇岡 範: RECISTについて. ノーベルファーマ株式会社社内研修,2015,(名古屋),[講演]
- 072 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 輿儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 5-FU系薬剤不応転移性膵癌症例にFOLFIRINOX療法は有効か?. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[ポスター]
- 073 脇岡 範: 膵神経内分泌腫瘍の診断と治療. 群馬GIST/pNET学術講演会,2015,(群馬),[講演]
- 074 稗田信弘, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 吉田 司, 近藤 尚, 渋谷 仁, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 平山貴視, 藤田 曜, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 検診を契機に発見された微小膵癌の1例. 第4回膵癌早期診断研究会,2015,(品川),[口演]
- 075 吉田 司, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: Small cell neuroendocrine carcinoma(SCNEC)の1切除例. 第16回臨床消化器病研究会,2015,(東京),[一般口演]
- 076 近藤 尚, 脇岡 範, 鈴木博貴, 原 和生, 丹羽康正, 山雄健次: 膵神経内分泌腫瘍における造影所見と病理学的所見における検討. 日本超音波医学会第36回中部地方会学術集会,2015,(静岡),[一般演題]
- 077 脇岡 範: 早期診断のためのGEP-NETの画像診断. 第3回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2015,(仙台),[シンポジウム]
- 078 吉田 司, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 徳久順也, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 当院における膵神経内分泌腫瘍の予後の検討. 第3回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2015,(仙台),[ポスター]
- 079 渋谷 仁, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 平山貴視, 近藤 尚, 徳久順也, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 当院におけるストレプトゾシンの初期使用経験. 第3回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2015,(仙台),[一般演題]
- 080 鳥山和浩, 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 吉田 司, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 徳久順也, 近藤 尚, 鈴木博貴, 藤田 曜, 安部哲也, 室 圭, 古平 毅, 谷田部恭, 山雄健次, 丹羽康正: 当院における食道神経内分泌癌に関する検討. 第3回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2015,(仙台),[ポスター]
- 081 原 和生: 特別企画EUS-BD、手技の実際. 第51回日本胆道学会学術集会,2015,(宇都宮),[講演]
- 082 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 清水泰博, 千



- 田嘉毅, 夏目誠治, 山雄健次: 十二指腸乳頭部NETの5  
切除例. 第51回日本胆道学会学術集会,2015,(宇都宮),[ポス  
ター]
- 083 奥野のぞみ, 原 和生, 山雄健次: 胆管挿管困難例に対す  
るEUSガイド下ランデブー法の検討. 第51回日本胆道学会  
学術集会,2015,(宇都宮),[シンポジウム]
- 084 原 和生: EUS下ドレナージ術の進歩. 第38回重点卒後教  
育セミナー,2015,(東京),[講演]
- 085 水野伸匡, 上野秀樹, 池田公史, 上野 誠, 井岡達也, 小  
室泰司, 中島貴子, 古瀬純司: 切除不能進行・再発膵癌患  
者におけるnab-paclitaxel+Gem療法第I/II相試験: 追加解  
析. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワー  
クショップ]
- 086 脇岡 範, 原 和生, 清水泰博: 臨床病理学的特徴から見  
てくる1 cm以下(TS 1 a)膵癌の診断方法. JDDW2015,2015,(東  
京),[パネルディスカッション]
- 087 原 和生: セルビジオで明日をみる. pCLE研究会,2015,(東  
京),[講演]
- 088 今岡 大, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田  
中 努, 石原 誠, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清  
水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 膵癌遠隔転移症例における  
fibrinogenの予後への影響~Propensity score matchingを  
用いた検討~. JDDW2015,2015,(東京),[ポスター]
- 089 奥野のぞみ, 原 和生, 山雄健次: 胆管挿管困難例に対す  
るEUSガイド下ランデブー法の検討. JDDW2015,2015,(東  
京),[ワークショップ]
- 090 脇岡 範: 進行NETに対する薬物治療~数ある武器をどう  
使い分けるか: 診断も含めた治療戦略~. JDDW2015,2015,(東  
京),[ランチョンセミナー]
- 091 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生: EUS-FNAを用いた膵神  
経内分泌腫瘍の診断. JDDW2015,2015,(東京),[ワークショッ  
プ]
- 092 脇岡 範: 膵消化管神経内分泌腫瘍に対する化学療法の新  
展開. ケアネットwebセミナー,2015,(名古屋),[講演]
- 093 脇岡 範: 膵・消化管の神経内分泌腫瘍の診断・治療の最  
前線. Focus on NET&GIST,2015,(新潟),[講演]
- 094 脇岡 範: 膵・消化管の神経内分泌腫瘍の診断・治療の最  
前線. GIST&NET meeting in yamanashi,2015,(山梨),[講演]
- 095 鈴木博貴, 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原  
和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次, 丹羽康正: EMR  
後潰瘍瘢痕に発生し、出血を繰り返したPyogenic  
granulomaの1例. 第227回内科学会東海地方会,2015,(岐阜),  
[一般演題]
- 096 今岡 大, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 水野伸匡, 脇  
岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 丹羽  
康正, 山雄健次: 膵癌術後補助化学療法後のCA19-9値は  
予後予測に有用である~Elevated post-adjuvant serum  
CA19-9 level is associated with worse prognosis in  
patients with pancreatic cancer~. 第53回日本癌治療学会  
学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 097 脇岡 範: 第一部review 診断. NET Expert Seminar  
2015,2015,(東京),[講演]
- 098 脇岡 範: 第2部臨床診断分科会(臨床症状・画像・組織  
採取). NET Expert Seminar 2015,2015,(東京),[講演]
- 099 原 和生: Convex EUSを使いこなす!. 第27回日本消化  
器内視鏡学会東北セミナー,2015,(秋田),[講演]
- 100 脇岡 範: pNET,GI-NET 内科治療. 京滋NET academy,  
2015,(京都),[講演]
- 101 脇岡 範: 大腸NETの診断と治療. 第70回日本大腸肛門病  
学会,2015,(名古屋),[教育講演]
- 102 脇岡 範: 膵臓①. 第123回日本消化器病学会東海支部例  
会,2015,(名古屋),[座長]
- 103 平山貴視, 石原 誠, 丹羽康正: 当院における食道ステ  
ント挿入術の検討. 第123回日本消化器病学会東海支部例  
会,2015,(名古屋),[シンポジウム]
- 104 渋谷 仁, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田  
近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉  
田 司, 近藤 尚, 鈴木博貴, 徳久順也, 鳥山和浩, 平山  
貴視, 藤田 曜, 丹羽康正, 山雄健次: 当院における進行  
膵神経内分泌腫瘍に対する薬物療法の現状. 第123回日本  
消化器病学会東海支部例会,2015,(名古屋),[シンポジウム]
- 105 鳥山和浩, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 大  
瀬戸久美子, 田中 努, 石原 誠, 吉田 司, 稗田信弘,  
奥野のぞみ, 千田嘉毅, 夏目誠治, 田近正洋, 清水泰博,  
山雄健次, 丹羽康正: 膵神経内分泌腫瘍を契機に発端者と  
して診断に至った多発性内分泌腫瘍症1型の2例. 第123  
回日本消化器病学会東海支部例会,2015,(名古屋),[一般演題]
- 106 藤田 曜, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田  
近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目  
誠治, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 丹羽康正, 山雄  
健次: 化学療法が著効し、根治的外科手術を施行し得た  
StageIVb膵癌の2例. 第123回日本消化器病学会東海支部  
例会,2015,(名古屋),[一般演題]
- 107 脇岡 範: ここまで進歩したEUS-FNA~膵神経内分泌腫  
瘍を中心に~. 第54回日本臨床細胞学会秋期大会,2015,(名  
古屋),[ランチョンセミナー]
- 108 脇岡 範: 膵消化管神経内分泌腫瘍の診断・治療の最前線.  
沖縄NET講演会,2015,(沖縄),[講演]
- 109 原 和生: How to perform EUS-FNA. EUSトレーニング  
コース(オリンパス),2015,(八王子),[ワークショップ]
- 110 脇岡 範: 胆道・膵臓. 第58回日本消化器内視鏡学会東海  
支部例会,2015,(名古屋),[若手研究者優秀演題奨励賞選定  
セッション審査員]
- 111 原 和生: シンポジウム2 胆膵悪性腫瘍に対する内視鏡  
診断と治療のup-to-date. 第58回日本消化器内視鏡学会東海  
支部例会,2015,(名古屋),[司会]
- 112 吉田 司, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田  
近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 平  
山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田  
曜, 徳久順也, 丹羽康正, 山雄健次: 肝門部悪性胆管狭窄  
に対する6 mm fully covered self-expandable metallic stent  
のside by side留置の成績. 第58回日本消化器内視鏡学会東  
海支部例会,2015,(名古屋),[一般口演]
- 113 稗田信弘, 原 和生, 山雄健次: ERCP関連手技による

- 十二指腸乳頭部穿孔に対する、メタリックステント留置の有用性. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2015,(名古屋).[シンポジウム]
- 114 奥野のぞみ, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 吉田 司, 稗田信弘, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 徳久順也, 丹羽康正, 山雄健次: 術後膵管空腸吻合部狭窄に対し超音波内視鏡ガイド下膵管ドレナージ(EUS-PD)が有効であった1例. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2015,(名古屋).[一般演題]
- 115 平山貴視, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 渋谷 仁, 近藤 尚, 徳久順也, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田曜, 田近正洋, 山雄健次, 丹羽康正: 食道癌術後吻合部難治性狭窄に対してステロイド併用RIC(Radial Incision and Cutting)を施行した1例. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2015,(名古屋).[一般演題]
- 116 渋谷 仁, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 近藤 尚, 鈴木博貴, 徳久順也, 鳥山和浩, 平山貴視, 藤田 曜, 谷田部恭, 木下朝博, 山雄健次, 丹羽康正: 自然退縮を認めた濾胞性リンパ腫の1例. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2015,(名古屋).[一般演題]
- 117 鳥山和浩, 田近正洋, 田中 努: 当院における大腸拡大NBI分類(JNET分類)の有用性に関する検討. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2015,(名古屋).[シンポジウム]
- 118 鈴木博貴, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 藤田曜, 徳久順也, 丹羽康正, 山雄健次: EUS-CDSにて人工瘻孔が完成された十二指腸狭窄合併膵癌の1例. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2015,(名古屋).[一般演題]
- 119 藤田 曜, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 宇良 敬, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 徳久順也, 丹羽康正, 山雄健次: 輸入脚症候群に対して内視鏡的ダブル消化管ステント留置術を行った1例. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2015,(名古屋).[一般演題]
- 120 近藤 尚, 原 和生, 徳久順也, 藤田 曜, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 渋谷 仁, 平山貴視, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 吉田 司, 今岡 大, 石原 誠, 田中 努, 脇岡 範, 田近正洋, 水野伸匡, 丹羽康正, 山雄健次: 術前診断が困難であったPalagangliomaの一例. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2015,(名古屋).[一般演題]
- 121 脇岡 範: 膵NET診断のknack&pitfall. NET ACADEMY IN AICHL,2015,(名古屋).[基調講演]
- 122 鳥山和浩, 脇岡 範, 山雄健次: 同時性多発肝転移を認めた膵神経内分泌腫瘍の1例. NET ACADEMY IN AICHL, 2015,(名古屋).[一般演題]
- 123 原 和生: EUS-BDの適応と現況. 第4回超音波内視鏡下穿刺術の手法標準化に関する研究会,2016,(東京).[司会]
- 124 脇岡 範: 高リスク群に対するスクリーニング(前向き臨床試験のデザイン). 平成27年度第1回家族性膵癌に関する小班会議,2016,(東京).[講演]
- 125 原 和生: EST診療ガイドライン. F-J研究会,2016,(福岡).[司会]
- 126 脇岡 範: NETの診断と治療の最前線. 両毛胆膵研究会,2016,(群馬).[講演]
- 127 吉田 司, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 夏目誠治, 橋本光義, 谷田部恭, 清水泰博, 山雄健次: 膵管内進展をともなった膵神経内分泌腫瘍の1例. 第64回日本消化器画像診断研究会,2016,(名古屋).[一般口演]
- 128 脇岡 範: pNETの診断と治療. 栃木県pNET学術講演会,2016,(栃木).[講演]
- 129 鳥山和浩, 脇岡 範, 大瀬戸久美子, 山雄健次, 丹羽康正: 膵神経内分泌腫瘍を契機に発端者として診断に至った多発性内分泌腫瘍症(MEN)1の2例. 第3回遺伝性腫瘍研究会,2016,(名古屋).[一般演題]
- 130 脇岡 範: 膵・消化管神経内分泌腫瘍の薬物治療. 群馬NET座談会,2016,(群馬).[講演]

#### 内視鏡部

- 001 Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Fujiyoshi T, Imaoka H, Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Yamao K: Is the NBI magnifying endoscopy useful for the depth diagnosis of superficial esophageal squamous cell carcinoma (SCC)? DDW2015,2015,(Washington).[ポスター]
- 002 Ishihara M, Tajika M, Tanaka T, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Hieda N, Okuno N, Yoshida T, Yamao K, Niwa Y: Clinical evaluation of unexpected colonic focal uptake detected by FDG-PET/CT. UEGW 2015,2015,(Barcelona).[ポスター]
- 003 Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Sato T, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Hieda N, Okuno N, Yoshida T, Bhatia V, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y: A randomized controlled trial evaluating a low-volume PEG solution plus ascorbic acid versus Standard PEG Solution in Bowel Preparation for Colonoscopy. UEGW 2015,2015,(Barcelona).[ポスター]
- 004 Yoshida T, Hijioka S, Hosoda W, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Sato T, Hieda N, Okuno N, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K: Treatment strategy for pancreatic neuroendocrine carcinoma. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌).[international session]
- 005 Yoshida T, Hara K, Bhanthumkomol P, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Hieda N, Okuno N, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K: Comparison of fully and partially-covered 6 mm self-expanding metallic stent for hilar malignant biliary stricture. JDDW2015,2015,(東京).[international panel]

- discussion]
- 006 石原 誠, 田近正洋, 丹羽康正: 表在型バレット食道癌の背景粘膜による臨床病理学的検討 SSBEとLSBEを相連. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台).[シンポジウム]
- 007 吉田 司, 脇岡 範, 堤 英治, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 当院における膵神経内分泌腫瘍に対するエベロリムスの使用成績. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台).[一般口演]
- 008 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 吉田 司, 山雄健次, 丹羽康正: 近年当院で経験した消化管原発悪性リンパ腫の臨床病理学的検討. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台).[ポスター]
- 009 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 山雄健次, 丹羽康正: 食道表在癌におけるESD適応外病変治療後の長期経過. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台).[ポスター]
- 010 稗田信弘, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 吉田 司, 丹羽康正, 山雄健次: ゲムシタピン耐性進行膵癌に対する、2次治療以降のFOLFIRINOXの検討. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台).[プレナリーセッション]
- 011 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: CEA上昇を示す切除不能膵癌は高悪性度を示し予後不良である～切除不能膵癌における腫瘍マーカーの測定意義～. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台).[口演]
- 012 田近正洋: 胃 スクリーニング. 第89回日本消化器内視鏡学会総会,2015,(名古屋).[座長]
- 013 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 山雄健次, 丹羽康正: 切除可能胃癌におけるHER2診断の臨床病理学的検討. 第89回日本消化器内視鏡学会総会,2015,(名古屋).[口演]
- 014 稗田信弘, 原 和生, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 奥野のぞみ, 吉田 司, 今岡 大, 脇岡 範, 水野伸匡, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 山雄健次: 悪性胃十二指腸狭窄に対するCovered Stentの有用性. 第89回日本内視鏡学会総会,2015,(名古屋).[口演]
- 015 吉田 司, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 丹羽康正, 山雄健次: ステント抜去時の偶発症回避を目的とした大口径片フラップ膵管ステントの有用性. 第89回日本消化器内視鏡学会総会,2015,(名古屋).[一般口演]
- 016 田近正洋, 田中 努, 丹羽康正: 当院における直腸肛門部腫瘍に対する治療戦略の変遷. 第89回日本消化器内視鏡学会総会,2015,(名古屋).[ビデオシンポジウム]
- 017 石原 誠, 田近正洋, 丹羽康正: バレット食道癌の深達度の診断および側方範囲診断の現状について. 第89回日本消化器内視鏡学会総会,2015,(名古屋).[パネルディスカッション]
- 018 石原 誠, 田中 努, 脇岡 範, 山雄健次, 丹羽康正: PET-CT検査における大腸癌診断能の検討. 第54回日本消化器がん検診学会総会,2015,(大阪).[一般口演]
- 019 吉田 司, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: PNETの集学的治療 エベロリムスの二次以降治療の有用性に関する検討. 第46回日本膵臓学会大会,2015,(名古屋).[ミニパネルディスカッション]
- 020 稗田信弘, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 吉田 司, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 丹羽康正, 山雄健次: 進行膵癌に対する2次治療以降のFOLFIRINOXの検討. 第46回日本膵臓学会大会,2015,(名古屋).[ミニパネルディスカッション]
- 021 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: GemおよびS-1に不応となった転移性膵癌に対しmFOLFIRINOX療法が奏功を示した2例. 第46回日本膵臓学会大会,2015,(名古屋).[ポスター]
- 022 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 切除不能進行膵腺扁平上皮癌に対する予後の検討<膵管癌との比較を中心に>. 第46回日本膵臓学会大会,2015,(名古屋).[口演]
- 023 稗田信弘, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 吉田 司, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 丹羽康正, 山雄健次: 手術不能膵癌に対する2次治療以降のFOLFIRINOXの検討. 第122回日本消化器病学会東海支部例会,2015,(三重).[シンポジウム]
- 024 鈴木博貴, 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 藤田曜, 徳久順也, 山雄健次, 丹羽康正: S-1/CDDP術前化学療法により組織学的CRが得られた進行胃癌・大腸癌の重複癌の1例. 第122回日本消化器病学会東海支部例会,2015,(三重).[一般演題]
- 025 藤田 曜, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 徳久順也, 山雄健次, 丹羽康正: API2-MALT1陽性胃MALTリンパ腫の長期経過観察中にDLBCLが合併し



- た1例. 第122回日本消化器病学会東海支部例会,2015,(三重)[一般演題]
- 026 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 藤吉俊尚, 丹羽康正: 食道表在癌におけるFDG-PETの有用性. 第69回日本食道学会学術集会,2015,(横浜)[ポスター発表]
- 027 田近正洋: 新しい腸管洗浄剤(モビブレップ)の安全性の検討～高齢者の安全性を問う～. 第83回大腸癌研究会アフタヌーンセミナーA,2015,(久留米)[講演]
- 028 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 5-FU系薬剤不応転移性膵癌症例にFOLFIRINOX療法は有効か?. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌)[ポスター]
- 029 田近正洋, 丹羽康正, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 木下朝博, 山雄健次: 当院で経験した腸管原発リンパ腫の臨床病理学的検討. 第12回日本臨床腫瘍学会総会,2015,(札幌)[ポスター]
- 030 稗田信弘, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 吉田 司, 近藤 尚, 渋谷 仁, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 平山貴視, 藤田曜, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 検診を契機に発見された微小膵癌の1例. 第4回膵癌早期診断研究会,2015,(品川)[口演]
- 031 吉田 司, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: Small cell neuroendocrine carcinoma(SCNEC)の1切除例. 第16回臨床消化器病研究会,2015,(東京)[一般口演]
- 032 鳥山和浩, 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 吉田 司, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 徳久順也, 近藤 尚, 鈴木博貴, 藤田 曜, 安部哲也, 室 圭, 古平 毅, 谷田部恭, 山雄健次, 丹羽康正: 当院における食道神経内分泌癌に関する検討. 第3回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2015,(仙台)[ポスター]
- 033 吉田 司, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 徳久順也, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 当院における膵神経内分泌腫瘍の予後の検討. 第3回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2015,(仙台)[ポスター]
- 034 渋谷 仁, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 平山貴視, 近藤 尚, 徳久順也, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 当院におけるストレプトゾシンの初期使用経験. 第3回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2015,(仙台)[一般演題]
- 035 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 山雄健次, 丹羽康正: 特徴的な内視鏡所見を示した0-Isp+IIa型早期大腸癌の1例. 第12回拡大内視鏡研究会,2015,(横浜)[口演]
- 036 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 吉田 司, 谷田部恭, 山雄健次, 丹羽康正: 胃MALTリンパ腫におけるWatch and wait strategyの位置付け. 第57回日本消化器学会大会,2015,(東京)[ポスター]
- 037 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 山雄健次, 丹羽康正: H.pylori除菌後に発症した異時性胃癌症例と背景胃粘膜との検討. JDDW2015,2015,(東京)[ポスター]
- 038 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 吉田 司, 山雄健次, 丹羽康正: 食道表在癌に対するEMRとESDの治療成績および長期予後の比較検討. 第23回日本消化器関連学会週間,2015,(東京)[一般口演]
- 039 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 吉田 司, 山雄健次, 丹羽康正: 直腸NETに対する臨床病理学的検討. 第23回日本消化器関連学会週間,2015,(東京)[一般口演]
- 040 今岡 大, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 膵癌遠隔転移症例におけるfibrinogenの予後への影響～Propensity score matchingを用いた検討～. JDDW 2015,2015,(東京)[ポスター]
- 041 鈴木博貴, 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次, 丹羽康正: EMR後潰瘍瘢痕に発生し、出血を繰り返したPyogenic granulomaの1例. 第227回内科学会東海地方会,2015,(岐阜)[一般演題]
- 042 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 野村基雄, 室 圭, 山雄健次, 丹羽康正: 食道表在癌に対する内視鏡治療後非治癒切除症例に対する追加治療成績の検討. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都)[ポスター]
- 043 今岡 大, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 丹羽康正, 山雄健次: 膵癌術後補助化学療法後のCA19-9値は予後予測に有用である～Elevated post-adjuvant serum CA19-9 level is associated with worse prognosis in patients with pancreatic cancer. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都)[ワークショップ]
- 044 石原 誠, 田中 努, 脇岡 範, 山雄健次, 丹羽康正: 胃癌検診で指摘困難であった残胃進行癌の1例. 第46回消化器がん検診学会東海北陸地方会,2015,(福井)[一般口演]
- 045 鳥山和浩, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 大瀬戸久美子, 田中 努, 石原 誠, 吉田 司, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 千田嘉毅, 夏目誠治, 田近正洋, 清水泰博, 山雄健次, 丹羽康正: 膵神経内分泌腫瘍を契機に発端者として診断に至った多発性内分泌腫瘍症1型の2例. 第123回日本消化器病学会東海支部例会,2015,(名古屋)[一般演題]

- 046 渋谷 仁, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 近藤 尚, 鈴木博貴, 徳久順也, 鳥山和浩, 平山貴視, 藤田 曜, 丹羽康正, 山雄健次: 当院における進行膵神経内分泌腫瘍に対する薬物療法の現状. 第123回日本消化器病学会東海支部例会, 2015, (名古屋)[シンポジウム]
- 047 藤田 曜, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 丹羽康正, 山雄健次: 化学療法が著効し、根治的外科手術を施行し得たStageIVb膵癌の2例. 第123回日本消化器病学会東海支部例会, 2015, (名古屋)[一般演題]
- 048 田近正洋: シンポジウム①. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2015, (名古屋)[座長]
- 049 吉田 司, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田曜, 徳久順也, 丹羽康正, 山雄健次: 肝門部悪性胆管狭窄に対する6mm fully covered self-expandable metallic stentのside by side留置の成績. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2015, (名古屋)[一般口演]
- 050 奥野のぞみ, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 吉田 司, 稗田信弘, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 徳久順也, 丹羽康正, 山雄健次: 術後膵管空腸吻合部狭窄に対し超音波内視鏡ガイド下膵管ドレナージ(EUS-PD)が有効であった1例. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2015, (名古屋)[一般]
- 051 平山貴視, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 谷仁, 近藤 尚, 徳久順也, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 田近正洋, 山雄健次, 丹羽康正: 食道癌術後吻合部難治性狭窄に対してステロイド併用RIC(Radial Incision and Cutting)を施行した1例. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2015, (名古屋)[一般演題]
- 052 渋谷 仁, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原和生, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 近藤 尚, 鈴木博貴, 徳久順也, 鳥山和浩, 平山貴視, 藤田 曜, 谷田部恭, 木下朝博, 山雄健次, 丹羽康正: 自然退縮を認めた濾胞性リンパ腫の1例. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2015, (名古屋)[一般演題]
- 053 鳥山和浩, 田近正洋, 田中 努: 当院における大腸拡大NBI分類(JNET分類)の有用性に関する検討. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2015, (名古屋)[シンポジウム]
- 054 鈴木博貴, 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 藤田曜, 徳久順也, 丹羽康正, 山雄健次: EUS-CDSにて人工瘻孔が完成された十二指腸狭窄合併膵癌の1例. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2015, (名古屋)[一般演題]
- 055 藤田 曜, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 宇良 敬, 吉田 司, 奥野

のぞみ, 稗田信弘, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 徳久順也, 丹羽康正, 山雄健次: 輸入脚症候群に対して内視鏡的ダブル消化管ステント留置術を行った1例. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会, 2015, (名古屋)[一般演題]

- 056 藤吉俊尚, 田近正洋, 丹羽康正: 日本食道学会拡大内視鏡分類の深達度診断能と問題点について. 第101回日本消化器病学会総会, 2015, (仙台)[パネルディスカッション2]

#### 呼吸器内科部

- 001 *Hida T, Itoh T, Shin W, Sakumura Y, Sato K*: Unique volatolomic signatures of anaplastic lymphoma kinase gene rearrangement in lung cancer. American Thoracic Society 2015, 2015, (Denver), [Late Breaking Mini Symposium]
- 002 *Nishio M, Hida T, Nakagawa K, Sakai H, Nogami N, Atagi S, Takahashi T, Nokihara H, Saka H, Takenoyama M, Fujita S, Tanaka H, Takeda K, Satouchi M, Isobe H, Maemondo M, Goto K, Hirashima T, Minato K, Tamura T*: Phase II studies of nivolumab(anti-PD-1, BMS-936558, ONO-4538) in patients with advanced squamous(sq) or nonsquamous(non-sq) non-small cell lung cancer(NSCLC). ASCO 2015, 2015, (Chicago), [Poster]
- 003 *Nokihara H, Katakami N, Hida T, Imamura F, Sakai H, Atagi S, Nishio M, Hewing C, Achiwa H*: Phase I / II study of tecemotide cancer immunotherapy for Japanese patients with unresectable stage III non-small cell lung cancer(NSCLC). ASCO 2015, 2015, (Chicago), [Poster]
- 004 *Ohe Y, Nishio M, Kimura K, Seto T, Nakagawa K, Maemondo M, Inoue A, Hida T, Yoshioka H, Harada M, Nogami N, Murakami M, Takeuchi K, Shimada T, Kuriki H, Tanaka T, Tamura T*: A Phase I / II study with a CNS-penetrant, selective ALK inhibitor alectinib in ALK-rearranged non-small cell lung cancer(ALK+NSCLC) patients(pts): Updates on progression free survival(PFS) and safety results from AF-001JP. ASCO 2015, 2015, (Chicago), [Poster]
- 005 *Hosomi Y, Yoh K, Kasahara K, Yamada K, Takahashi T, Tanaka K, Hida T, Yoshioka H, Kato T, Takeda K, Nishio M, Sakai H, Maemondo M, Takenoyama M, Nokihara H, Tatsumi M, Nakamura T, Enatsu S, Tamura T, Nakagawa K*: Docetaxel+ramucirumab(DR) versus docetaxel+placebo(D) as second-line treatment for advanced non-small cell lung cancer(NSCLC): A randomized, phase II, double-blind, multicenter trial in Japan. ASCO 2015, 2015, (Chicago), [Poster]
- 006 *Mok T, Spigel D, Felip E, deMarinis F, Ahn M, Groen H, Wakelee CA, Hida T, Crino L, Nishio M, Scagliotti*

- GV, Branle F, Emeremni C, Quadrigli M, Zhang J, Shaw AT* : ASCEND-2: A single-arm, open-label, multicenter phase II study of ceritinib in adult patients(pts)with ALK-rearranged(ALK+)non-small cell lung cancer(NSCLC)previously treated with chemotherapy and crizotinib(CRZ). ASCO 2015,2015, (Chicago),[Poster]
- 007 *Sakai H, Nishio M, Hida T, Nakagawa K, Nogami N, Atagi S, Takahashi T, Nokihara H, Saka H, Takenoyama M, Fujita S, Tanaka H, Takeda K, Satouchi M, Isobe H, Maemondo M, Goto K, Hirashima T, Minato K, Tamura T* : Phase II studies of Nivolumab in patients with Advanced Squamous(SQ)or Non-Squamous(NSQ)Non-Small Cell Lung Cancer(NSCLC). ESMO 2015,2015,(Vienna),[Poster]
- 008 *Yoshida T, Oya Y, Tanaka K, Shimizu J, Horio Y, Hida T, Yatabe Y* : Impact of alectinib on survival after crizotinib failure in ALK-positive NSCLC patients. ESMO 2015,2015,(Vienna),[Poster]
- 009 *Yoshida T, Oya Y, Tanaka K, Shimizu J, Horio Y, Hida T, Yatabe Y* : Impact of total lesion glycolysis at pretreatment FDG PET/CT on response duration of EGFR-TKIs in advanced NSCLC harboring EGFR mutation. ESMO 2015,2015,(Vienna),[Poster]
- 010 *Kobayashi Y, Togashi Y, Yatabe Y, Mizuuchi H, Park J, Kondo C, Simoji M, Sato K, Suda K, Tomizawa K, Takemoto T, Hida T, Nisino K, Mitsudomi T* : EGFR Exon 18 mutations in lung cancer: molecular predictors of sensitivity to afatinib or neratinib but not to other EGFR-TKIs. 16th WCLC 2015,2015,(Denver),[Oral]
- 011 *Atagi S, Nishio M, Goto K, Hosomi Y, Seto T, Hida T, Nakagawa K, Yoshioka H, Nogami N, Maemondo M, Nagase S, Okamoto I, Yamamoto N, Yamanaka T, Igawa Y, Tajima K, Fukuoka M, Yamamoto N, Nishio K* : Biomarkers for efficacy in JO25567 study evaluating erlotinib plus bevacizumab versus erlotinib in advanced NSCLC with EGFR mutation. 16th WCLC 2015,2015, (Denver),[Oral]
- 012 *Tanaka K, Oya Y, Yoshida T, Shimizu J, Horio Y, Hida T, Yatabe Y* : Oncogenic profiling lung adenocarcinoma emerged in the youth.16th WCLC 2015,2015,(Denver),[Oral]
- 013 *Nakagawa K, Nishio M, Hida T, Sakai H, Nogami N, Atagi S, Takahashi T, Nokihara H, Saka H, Takenoyama M, Fujita S, Tanaka H, Takeda K, Satouchi M, Isobe H, Maemondo M, Goto K, Hirashima T, Minato K, Tamura T* : Phase II studies of nivolumab in patients with advanced squamous(SQ)or non-squamous(NSQ)non-small-cell lung cancer(NSCLC). 16th WCLC 2015,2015,(Denver),[Mini Oral Sessions]
- 014 *Crino L, Ahn MJ, Marinis FD, Groen H, Wakelee HA, Scagliotti GV, Branle F, Emeremini C, Sutradhar S, Quadrigli M, Zhang J, Spigel D* : Symptoms and QOL with ceritinib in ALK+NSCLC patients with/ without brain metastases. 16th WCLC 2015,2015,(Denver),[Mini Oral Sessions]
- 015 *Shimizu J, Oya Y, Tanaka K, Yoshida T, Horio Y, Yatabe Y, Hida T* : Does pemetrexed/platinum fit all patients with non-squamous non-small cell lung cancer? A retrospective study of clinical factors and outcomes. 16th WCLC 2015,2015,(Denver),[Poster]
- 016 *Hotta K, Hida T, Nakagawa K, Seto T, Satouchi M, Nishio M, Murakami H, Ohe Y, Takeda K, Yoshimoto T, Tanaka T, Tamura T* : Updated data from JP28927 study of alectinib in ALK+NSCLC patients with or without history of ALK inhibitor treatment. 16th WCLC 2015,2015,(Denver),[Poster]
- 017 *Park K, Tan D, Ahn M.-J, Yu C.-J, Tasi C.-M, Hida T, Nisio M, Branle F, Emeremni C, Mok T* : Efficacy and safety of ceritinib in patients(pts)with ALK-rearranged(ALK+) non-small cell lung cancer(NSCLC)and baseline brain metastases(BM)-results from ASCEND- 2 and ASCEND- 3. ESMO Asia 2015,2015,(Singapore),[Oral]
- 018 *Yoshida T, Oya Y, Tanaka K, Shimizu J, Horio Y, Hida T, Yatabe Y* : Differential Crizotinib response duration among ALK Fusion Variants in ALK-positive NSCLC. ESMO Asia 2015,2015,(Singapore),[Poster]
- 019 *Tanaka K, Oya Y, Yoshida T, Shimizu J, Horio Y, Hida T, Yatabe Y* : Driver oncogene status in early-emerging lung denocarcinoma. ESMO Asia 2015,2015, (Singapore),[Poster]
- 020 樋田豊明 : Volatolomic signatures of anaplastic lymphoma kinase gene rearrangement in lung cancer. ALK肺癌の呼吸分析. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[一般口演]
- 021 戸崎加奈江, 山口知里, 小原真紀子, 吉田達哉, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明 : The role of nurse in management of diarrhea induced by afatinib. アファチニブによる下痢対策における看護師の役割. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[一般口演]
- 022 大矢由子, 吉田達哉, 田中広祐, 清水淳市, 樋田豊明, 坂尾幸則, 谷田部恭 : Association between clinical outcome of 1st EGFR-TKIs and T790M in patients who had acquired resistance to EGFR-TKIs. 初回EGFR-TKIの治療効果とT790M変異の関連性についての検討. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[一般口演]
- 023 上月稔幸, 西尾誠人, 木浦勝行, 瀬戸貴司, 中川和彦, 前門戸任, 井上 彰, 樋田豊明, 田中智宏, 田村友秀 : Updates on PFS and safety results of a Phase I / II study(AF-001JP)of alectinib in ALK-rearranged advanced NSCLC. ALK融合遺伝子陽性非小細胞肺癌を対象としたアレクチニブの第I/II相臨床試験(AF-001JP)におけるPFS並びに安全性情報の更新. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[インターナショナルセッション]
- 024 吉田達哉, 大矢由子, 清水淳市, 田中広祐, 堀尾芳嗣, 谷



- 田部恭, 樋田豊明 : Impact of crizotinib on brain metastasis in ALK-positive NSCLC patients. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌)[インターナショナルセッション]
- 025 下村一景, 吉田達哉, 梶田正樹, 大矢由子, 田中広祐, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 水谷旭良, 樋田豊明 : Risk factors of crizotinib-induced nephrotoxicity in ALK positive NSCLC. ALK陽性肺癌におけるCrizotinibによる腎機能障害のリスク因子の検討. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌)[インターナショナルセッション]
- 026 田中広祐, 大矢由子, 吉田達哉, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 谷田部恭 : 若年発症肺腺癌の遺伝子学的特徴. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌)[ポスターセッション]
- 027 近藤千晶, 吉田達哉, 清水淳市, 坂尾幸則, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 谷田部恭 : PD-L1 (programmed death-ligand 1) 陽性肺がんの臨床組織学的検討. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌)[一般口演]
- 028 野上尚之, 西尾誠人, 樋田豊明, 中川和彦, 酒井 洋, 安宅信二, 高橋利明, 軒原 浩, 田村友秀 : Phase II studies of nivolumab in patients with advanced squamous or non-squamous non-small cell lung cancer. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌)[一般口演]
- 029 山田知里, 小原真紀子, 戸崎加奈江, 佐々木照美, 吉川 恵, 青山寿昭, 吉田達哉, 堀尾芳嗣, 樋田豊明 : Support for self-management of skin disorder in patients receiving EGFR-TKIs. EGFR-TKIによる皮膚障害に対する看護師のセルフケア介入. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌)[ポスターセッション]
- 030 *Hida T, Katakami N, Nokihara H, Imamura F, Sakai H, Atagi S, Nisio M, Kashii T, Satouchi M, Helwig C, Achiwa H, Tamura T* : Phase I / II study of tecemotide immunotherapy for Japanese patients with unresectable stage III NSCLC. 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜), [ワークショップ]
- 031 安宅信二, 西尾誠人, 樋田豊明, 中川和彦, 酒井 洋, 野上尚之, 高橋利明, 軒原 浩, 坂 英雄, 竹之山光広, 藤田史郎, 田中洋史, 武田晃司, 里内美弥子, 磯部 宏, 前門戸任, 後藤功一, 平島智徳, 湊 浩一, 田村友秀 : 日本人非小細胞肺癌に対する抗PD-1抗体nivolumabの第II相試験. 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜), [ワークショップ]
- 032 清水淳市, 大矢由子, 田中広祐, 吉田達哉, 堀尾芳嗣, 谷田部恭, 樋田豊明 : ベメトレキセド併用療法を行った進行非扁平上皮非小細胞肺癌患者における生存期間に関する因子の検討. 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜), [一般演題(口演)]
- 033 大柳文義, 小塚拓洋, 瀬戸貴司, 佐々木智成, 山中竹春, 國武直信, 清水淳市, 古平 毅, 武田真幸, 中松清志, 小野 哲, 原田英幸, 吉村成央, 堤 真一, 北島寛元, 片岡正明, 中川和彦, 西村恭昌, 中西洋一 : LA-NSCLCに対するRTと同時実施するS-1/CDDP療法とVNR/CDDP療法を比較した無作為化第II相試験 WJOG5008L研究(A randomized phase II study of S-1 /CDDP vs. VNR/CDDP with concurrent RT for LA-NSCLC: WJOG5008L). 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜), [一般演題(口演)]
- 034 *Hirashima T, Hida T, Satouchi M, Hatano B* : AZD9291 in pre-treated T790M positive advanced NSCLC;pooled data from two Ph II studies. 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜), [一般演題(口演)]
- 035 小林祥久, 冨樫庸介, 谷田部恭, 水内 寛, 朴 将哲, 近藤千晶, 下治正樹, 佐藤克明, 須田健一, 富沢健二, 武本智樹, 樋田豊明, 西尾和人, 光富徹哉 : EGFR exon18変異肺癌の頻度と各世代EGFR-TKIに対する奏功率の違い. 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜), [一般演題(口演)]
- 036 大矢由子, 吉田達哉, 田中広祐, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 坂尾幸則, 谷田部恭, 樋田豊明 : EGFR minor mutation を有する進行・再発NSCLCにけるcytotoxic chemotherapyとEGFR-TKIsの治療成績. 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜), [一般演題(口演)]
- 037 下川恒生, 三角祐生, 岡本浩明, 安宅信二, 田中洋史, 富澤由雄, 細見幸生, 酒井 洋, 後藤功一, 樋田豊明, 中川和彦, 今村文生, 高山浩一, 大江裕一郎 : 高齢者進展型小細胞肺癌における臨床試験と実臨床の乖離—アンケート結果からの解析—. 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜), [一般演題(口演)]
- 038 吉田達也, 田中宅卓, 大矢由子, 田中広祐, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 黒田浩章, 坂尾幸則, 樋田豊明, 谷田部恭 : EGFR-TKI獲得耐性後におけるT790M耐性遺伝子変異とFDG/PET-CT所見の関連性の検討. 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜), [一般演題(口演)]
- 039 *Satouchi M, Hida T, Nakagawa K, Seto T, Matsumoto S, Tokushige K, Natori H, Nishio M* : *Global Ph 2 study of ceritinib in ALK+NSCLC with prior CRZ(ASCEND-2)* : Japanese subset results. 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜), [一般演題(口演)]
- 040 *Hida T, Satouchi M, Seto T, Nakagawa K, Tokushige K, Natori H, Nishio M* : *Global Ph 2 study of ceritinib in ALK inhibitor-naïve ALK+NSCLC(ASCEND-3)* : Japanese subset results. 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜), [一般演題(口演)]
- 041 村上晴泰, 樋田豊明, 中川和彦, 瀬戸貴司, 里内美弥子, 西尾誠人, 堀田勝幸, 大江裕一郎, 武田晃司, 島田 忠, 田中智宏, 田村友秀 : ALK阻害剤既治療例を含むALK陽性肺癌に対するアレクニブの安全性・有効性の最後解析(JP28927試験). 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜), [一般演題(口演)]
- 042 高濱隆幸, 坂井和子, 東 公一, 樋田豊明, 平野勝也, 新美彰男, 田中洋史, 海老規之, 澤 祥幸, 別所昭宏, 立原素子, 下川元嗣, 中川和彦, 中西洋一, 西尾和人 : EGFR遺伝子変異陽性肺癌に対する血漿中cell free DNAを用いたT790M変異検出の臨床的有用性試験WJOG8014LTR. 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜), [一般演題(口演)]
- 043 中村有希子, 山田一彦, 佐伯 祥, 堀池 篤, 梅村茂樹, 宿谷成仁, 浦田圭子, 大熊裕介, 福井朋也, 小暮啓人, 駄

賀晴子, 長谷川好規, 中尾美香, 藤阪保仁, 吉田達哉, 大泉聡史, 水柿秀紀, 藤原 豊, 濱田啓暢, 大江裕一郎, クリゾチニブ臨床薬理多施設試験グループ: Association of crizotinib toxicity with PK/Pgx in NSCLC harboring ALK fusion gene: multicenter study. 第56回日本肺癌学会学術集会.2015,(横浜),[一般演題(口演)]

- 044 高橋明子, 石井源一郎, 衿里真也, 吉田達哉, 鈴木繁紀, 梅村茂樹, 葉 清隆, 仁保誠治, 後藤功一, 大松広伸, 永井完治, 弦間昭彦, 大江裕一郎, 落合淳志: Podoplanin-expressing cancer-associated fibroblasts inhibit small cell lung cancer growth. 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜),[ポスター]
- 045 田中広祐, 大矢由子, 吉田達哉, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明: Exon19欠失変異陽性進行肺腺癌の特徴. 第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(横浜),[ポスター]
- 046 宇良 敬, 清水淳市, 福島敬子, 田近正洋: 食道癌化学療法クリニカルパス使用の有用性と課題. 第16回日本クリニカルパス学会学術集会,2015,(東京),[ポスター]
- 047 中松清志, 武田真幸, 瀬戸貴司, 佐々木智成, 山中竹春, 國武直信, 清水淳市, 古平 毅, 大柳文義, 小塚拓洋, 高橋利明, 原田英幸, 中川和彦, 西村恭昌, 中西洋一: 肺がん集学的治療の展望 WJOG-5008L 局所進行NSCLCに対する化学放射線同時併用療法の無作為化第II相試験. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 048 吉田達哉, 大矢由子, 田中広祐, 清水淳市, 堀尾芳嗣, 樋田豊明, 谷田部恭: 肺がんのゲノム解析とその臨床応用 EGFR遺伝子陽性肺癌におけるEGFR-TKIs治療効果とtotal lesion glycolysisの相関. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]

#### 血液・細胞療法部

- 001 *Ogura M, Tobinai K, Shibata T, Ando K, Kurosawa M, Gomyo H, Uike N, Tsukamoto N, Fukuhara N, Shimoyama T, Taniwaki M, Nosaka K, Matsuno Y, Hotta T, Tsukasaki K, Morishima Y, Yamamoto K, Japam Clinical Oncology Group-Lymphoma Study Group(JCOG-LSG):* Phase II study of rituximab plus high-dose ara-C(HDAC)-containing chemotherapy(CTX) followed by ASCT in untreated mantle cell lymphoma(MCL): Japan Clinical Oncology Group study(JCOG0406). 2015 ASCO Annual Meeting. Abstract Number: 8565. 2015,(McCormick Place, Chicago, IL, USA)
- 002 *Yuda J, Miyamoto T, Odawara J, Ohkawa Y, Miyamura K, Tanimoto M, Yamamoto K, Taniwaki M, Aoki M, Okada H, Akashi K:* QUANTITATIVE EVALUATION OF BOTH POINT MUTATED AND ALTERNATIVELY SPLICED BCR-ABL IN CML-CP PATIENT WITH SUBOPTIMAL MOLECULAR RESPONSE TO IMATINIB: RESULT OF HIGHLY-SENSITIVE, DEEP SEQUENCING STUDY(abstract:

P224)(Poster). 20th Congress of European Hematology Association(EHA), June 11-14,2015,(Vienna Austria), [ポスター]

- 003 村上五月, 加藤春美, 山本一仁, 山本秀行, 樋口悠介, 田地浩史, 谷田部恭, 中村栄男, 木下朝博: 一般的に予後不良な早期再発濾胞性リンパ腫における長期生存例の臨床的特徴. 第55回日本リンパ網内系学会総会,2015,(岡山),[ポスター]
- 004 加藤省一, 浅野直子, 高田友子, 高田尚良, AhmedAli Elsayed, 佐藤 啓, 高橋恵美子, 木下朝博, 中村栄男: T細胞受容体の発現パターンから見た節性EBV陽性細胞傷害性T細胞リンパ腫39例の臨床病理学的特徴. 第55回日本リンパ網内系学会総会,2015,(岡山),[口演]
- 005 木下朝博(司会): DLBCL病態を基にした治療の新たな風. 第13回日本リンパ網内系学会総会,2015,(岡山),[シンポジウム]
- 006 木下朝博(座長): 濾胞性リンパ腫に対する新しい治療戦略. 第13回日本リンパ網内系学会総会,2015,(岡山),[ランチョンセミナー]
- 007 樋口悠介, 加藤春美, 山本秀行, 齋藤統子, 田地浩史, 山本一仁, 谷田部恭, 中村栄男, 木下朝博: Stage-stratified analysis of prognostic significance of GELF criteria in newly diagnosed follicular lymphoma 初期進行期濾胞性リンパ腫における病期別予後因子としてのGELF基準の意義. 第55回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[口演]
- 008 *Kato H, Yamamoto K, Higuchi Y, Yamamoto H, Saito T, Taji H, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T:* Immunophenotypic analysis of adult T-cell lymphoblastic lymphoma treated uniformly with intensive chemotherapy(統一レジメンで治療された成人T細胞リンパ芽球性リンパ腫の表現型解析). 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋),[English Oral Session]
- 009 木下朝博(座長): Introduction course for current cancer research(1). 第74回日本癌学会学術総会2015,(名古屋),[がん研究入門コース]
- 010 山本一仁(座長): Hematological malignancies. 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋),[Oral Session]
- 011 加藤春美(座長): Characteristics of cancer cells(15). 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋),[Poster Session]
- 012 山本一仁(座長): 濾胞性リンパ腫、その他: 第77回日本血液学会学術集会,2015,(金沢),[口演]
- 013 *Morishima S, Yamamoto K, Matsuo K, Kinoshita T, Kashiwase K, Ikeda N, Saji H, Nishida N, Tokunaga K, Okamoto M, Emi N, Nakamura S, Morishima Y:* HLA alleles and haplotypes with EBV-positive diffuse large B-cell lymphoma. 第77回日本血液学会学術集会,2015,(金沢),[口演]
- 014 *Kaji D, Ota Y, Sato Y, Nagafuji K, Ueda Y, Okamoto M, Terasaki Y, Tsuyama N, Matsue K, Kinoshita T, Taniguchi S, Oshima K, Izutsu K:* A retrospective study of body cavity-based lymphoma(BCBL), PEL and HHV 8-negative BCBL. 第77回日本血液学会学術集会,2015,

- (金沢)[口演]
- 015 **Yamamoto H, Kato H, Higuchi Y, Murakami S, Saito T, Taji H, Yatabe Y, Yamamoto K, Kinoshita T** : Long-term outcomes of patients with Burkitt lymphoma/leukemia treated with hyper-CVAD regimen. 第77回日本血液学会学術集会2015.(金沢)[ポスター]
- 016 **Okuno S, Kinoshita T, Taji H, Sawa M, Kitamura K, Nagai H, Iida S, Kosugi H, Miyamura K, Sugiura I** : Long-term outcome of high-dose therapy for MM patients in pre-novel agents era(C-SHOT0401 Trial).第77回日本血液学会学術集会,2015.(金沢)[ポスター]
- 017 丸山 大, 山本一仁, 柴田大朗, 飛内賢正, 安藤 潔, 黒澤光俊, 五明広志, 鶴池直邦, 塚本憲史, 福原規子, 下山達, 谷脇雅史, 野坂生郷, 松野吉宏, 堀田知光, 塚崎邦弘, 森島泰雄, 小椋美知則 : Phase II study of R-High-CHOP/CHASER followed by LEED therapy with ASCT in untreated MCL(JCOG0406). 第77回日本血液学会学術集会, 2015.(石川県)[口演]
- 018 森島聡子, 山本一仁, 松尾恵太郎, 木下朝博, 柏瀬貢一, 池田奈未, 佐治博夫, 西田奈央, 徳永勝士, 岡本昌隆, 恵美宣彦, 中村栄男, 森島泰雄 : HLA alleles and haplotypes associated with EBV-positive diffuse large B-cell lymphoma.第77回日本血液学会学術集会,2015.(石川県)[口演]
- 019 梶 大介, 大田泰徳, 佐藤康晴, 長藤宏司, 上田恭典, 岡本昌隆, 寺崎 靖, 津山直子, 末永孝生, 木下朝博, 谷口修一, 大島孝一, 伊豆津宏二 : A retrospective study of body cavity-based lymphoma (BCBL): PEL and HHV 8-negative BCBL. 第77回日本血液学会学術集会,2015.(石川県)[口演]
- 020 奥野慎吾, 木下朝博, 田地浩史, 澤 正史, 北村邦朗, 永井 和和, 飯田真介, 小杉浩史, 宮村耕一, 杉浦 勇 : Long-term outcome of high-dose therapy for MM patients in pre-novel agents era(C-SHOT0401 Trial): 第77回日本血液学会学術集会,2015.(石川県)[ポスター]
- 021 **Kato H, Yamamoto K, Murakami S, Yusuke H, Yamamoto H, Saito T, Taji H, Yatabe Y, Nakamura S, Kinoshita T** : Impact of sex differences in prognosis of patients with follicular lymphoma receiving R-CHOP therapy(初発濾胞性リンパ腫における性別の予後への影響).第77回日本血液学会学術集会,2015.(石川県)[English Oral Sessions]
- 022 山本秀行, 加藤春美, 樋口悠介, 村上五月, 齋藤統子, 田地浩史, 谷田部恭, 中村栄男, 山本一仁, 木下朝博 : 当院におけるHyper-CVAD療法で治療したBurkittリンパ腫/白血病の長期追跡結果. 第77回日本血液学会学術集会,2015.(石川県)[ポスター]
- 023 木下朝博(座長): Progress in the diagnosis and treatment for intractable lymphomas : 第77回日本血液学会学術集会, 2015.(石川県)[シンポジウム]
- 024 木下朝博(座長): Current and Future direction on FL and MCLtreatment : 第77回日本血液学会学術集会,2015.(石川県)[コーポレートセミナー]
- 025 山本一仁 : Bosutinib使用経験に基づくCMLの新たな治療戦略 : 第77回日本血液学会学術集会,2015.(石川県)[コーポレートセミナー]
- 026 加藤春美(座長): パーキットリンパ腫, その他 : 第77回日本血液学会学術集会,2015.(石川県)[ポスター]
- 027 山本一仁(座長): B細胞リンパ腫 6 MTX-LPD, CAEBV. 第55回日本リンパ網内系学会総会,2015.(岡山)[ポスターセッション]
- 028 山本一仁(座長): 濾胞性リンパ腫とマンツル細胞リンパ腫 : 第38回日本造血細胞移植学会総会,2016.(名古屋)[ランチョンセミナーLS8]
- 薬物療法部
- 001 **Shah MA, Muro K, Shitara K, Tebbutt NC, Bang Y-J, Lordick F, Bo-rodiansky L, Li C** : The BRIGHTER trial: A phase III randomized double-blind study of BBI608 + weekly paclitaxel versus placebo(PBO)+ weekly paclitaxel in patients(pts)with pretreated advanced gastric and gastro-esophageal junction(GEJ) adenocarcinoma. ASCO,2015,(シカゴ)[ポスター]
- 002 **Shankaran V, Muro K, Bang Y-J, Geva R, Catenacci DVT, Gupta S, Eder JP, Berger R, Loboda A, Albright A, Cristescu R, Murphy E, McClanahan T, Ayers M, Nebozhyn M, Lunceford JK, Koshiji M, Heath K, Cheng JD, Chung H-C** : Correlation of gene expression signatures and clinical outcomes in patients with advanced gastric cancer treated with pembrolizumab(MK-3475). ASCO,2015,(シカゴ)[ポスター]
- 003 **Fuchs CS, Muro K, Tomasek J, Cutsem EV, Cho JY, Oh SC, Safran H, Bodoky G, Chau I, Shimada Y, Dumitru F, Al-Batran S-E, Passalacqua R, Ohtsu A, Emig M, Ferry D, Chandrawansa K, Hsu Y, Sashegyi A, Wilke H** : Prognostic factor analysis of overall survival(OS)in gastric cancer from two phase III studies of second-line ramucirumab(RAM)(REGARD and RAINBOW)using pooled individual patient(pt)data. ASCO,2015,(シカゴ)[ポスター]
- 004 **Masuishi T, Taniguchi H, Narita Y, Komori A, Nomura M, Kadowaki S, Andoh M, Ura T, Eto T, Muro K** : Impact of optimal morphologic response on survival in patients with KRAS wild-type unresectable colorectal liver metastases receiving an anti-EGFR or anti-VEGF agent. ESMO-GI,2015,(バルセロナ)[ポスター]
- 005 **Taniguchi H, Hasegawa H, Masuishi T, Narita Y, Komori A, Kadowaki S, Ura T, Muro K** : Characterization of serum HER2 ECD level in patients with metastatic colorectal cancer. ESMO-GI,2015,(バルセロナ)[ポスター]
- 006 **Cutsem 1 EV, Atreya C, André T, Bendell J,**



- Schellens J, Gordon M, McRee A, Yoshino T, Muro K, Dwyer PO, Tabernero J, Middleton G, Ducreux M, van Gee R, Sidhu R, Greger J, Ranguwala F, Liu Y, Wu Y, Mookerjee B, Corcoran R* : Updated Results of the MEK inhibitor trametinib(T), BRAF inhibitor dabrafenib(D), and anti-EGFR antibody panitumumab(P)in patients(pts)with BRAF V600E mutated(BRAFm) metastatic colorectal cancer(mCRC). ESMO-GI,2015,(バルセロナ),[Late Breaking Abstracts]
- 007 *Falcone A, Laurent S, Grávalos C, Benavides M, Muñoz FL, Ychou M, Ciardiello F, Siena S, Yamaguchi K, Muro K, Denda T, Tsuji Y, Tebbutt N, Loehrer PJ, Lenz H-J, Mayer RJ, Ohtsu A, Cutsem EV, RECURSE Study Group* : Phase 3 RECURSE trial of TAS-102 versus placebo with best supportive care in patients with metastatic colorectal cancer: European subgroup. ESMO-GI,2015,(バルセロナ),[Late Breaking Abstracts]
- 008 *Ikeda M, Yamanaka T, Yamazaki K, Yamaguchi K, Muro K, Kusumoto T, Uetake H, Sato T, Kato T, Nishina T, Kanazawa A, Oki E, Chao C, Maddala T, Krishnakumar J, Akagi K, Ochiai A, Ohashi Y, Ohtsu A, Yoshino T* : Validation study of the 12-gene Recurrence Score(RS)in patients(pts)with stage II and III colon cancer(CC)without adjuvant chemotherapy: SUNRISE Study. ESMO-GI,2015,(バルセロナ),[poster discussion]
- 009 *Bang Y-J, Chung HC, Shankaran V, Geva R, Catenacci D, Gupta S, Eder JP, Berger R, Emancipator K, Pathiraja K, McClanahan T, Ayers M, Lunceford J, Cheng J, Koshiji M, Muro K* : Clinical outcomes and their correlation with gene expression in patients with advanced gastric cancer treated with pembrolizumab(MK-3475): KEYNOTE-012. ESMO-GI,2015,(バルセロナ),[Late Breaking Abstracts]
- 010 *Hochster H, Hager S, Pipas JM, Tebbutt N, Laurent S, Gravalos C, Benavides M, Munoz FL, Portales F, Ciardiello F, Siena S, Yamaguchi K, Muro K, Denda T, Tsuji Y, Ohtsu A, Cutsem EV, Mayer RJ, RECURSE Study Group* : KRAS and BRAF gene subgroup analysis in the Phase 3 RE-COURSE trial of TAS-102 versus placebo in patients with metastatic colorectal cancer. ESMO-GI,2015,(バルセロナ),[Oral Session]
- 011 *Ura T* : Phase 2 study of Nivolumab(Anti-PD-1; ONO-4538)in Patients with Esophageal Cancer: Preliminary Report. ESMO,2015,(ウイーン),[poster]
- 012 *Muro K* : Initial safety survey report from early post-marketing phase vigilance(EPPV)on TAS-102 for metastatic colorectal cancer(mCRC). ESMO,2015,(ウイーン), [poster]
- 013 *Falcone A, G-C R, Tabernero J, Sobrero A, Peeters M, Zaniboni A, Hochster H, Lenz H-J, Tran B, Yamaguchi K, Muro K, Denda T, Tsuji Y, Wahba M, Benedetti F, Ohtsu A, Mayer R.J, Cutsem EV* : Low rates of hospitalizations with TAS-102 in the European(EU) subregion of the Phase 3 RECURSE trial in patients(pts)with metastatic colorectal cancer(mCRC). ESMO,2015,(ウイーン),[poster]
- 014 *Shinozaki E, Laurent S, Gravalos C, Benavides M, Muñoz FL, Mizuguchi H, Wahba M, Ychou M, Ciardiello F, Siena S, Yamaguchi K, Muro K, Denda T, Tsuji Y, Loehrer P, Lenz HJ, Tebbutt N, Mayer RJ, Cutsem EV, Ohtsu A* : Timing of adverse events(AEs)in the Phase 3 RECURSE trial of TAS-102 versus placebo in patients(pts)with metastatic colorectal cancer(mCRC). ESMO,2015,(ウイーン),[poster]
- 015 *Fujita Y, Yamazaki Y, Oba MS, Muro K, Negoro Y, Yoshida M, Suyama K, Kurimoto T, Sugimoto N, Seki N, Sato M, Ebi M, Tamagawa H, Ueda S, Tamura T, Boku N, Hyodo I, Yamanaka T, Tsurutani J, Nishio K* : Exploratory analysis of predictive biomarkers of oxaliplatin versus irinotecan in combination with bevacizumab for patients with metastatic colorectal cancer in WJOG4407G study. ESMO,2015,(ウイーン),[poster]
- 016 *Chau I, Fuchs C, Muro K, Tomasek J, Cutsem EV, Cho JY, Oh SC, Safran H, Bodoky G, Shimada Y, Dumitru F, Passalacqua R, Ohtsu A, Hsu Y, Liepa A, Chandrawansa K, Emig M, Ferry D, Wilke H, Al-Batran SE* : Quality of life(QoL)as a prognostic factor for survival in previously treated advanced gastric or gastroesophageal junction(GEJ)cancer: Analysis of pooled data from two phase 3 studies(REGARD and RAINBOW). ESMO,2015,(ウイーン),[poster]
- 017 *Ikeda M, Otsuka T, Ueno H, Mitsunaga S, Sugimoto R, Muro K, Saito I, Sasaki T, Inoue K, Loembe AB, Okusaka T* : Phase I dose-escalation study of nintedanib in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma(HCC)and mild or moderate liver impairment. ESMO,2015,(ウイーン),[poster]
- 018 *Denda T, Shitara K, Fuji S, Kajiwara T, Yuki S, ENakajima T, Takashima A, Kawasaki K, Tamura T, Esaki T, Daisuke N, Ebi H, Toshihiro K, Taniguchi H, Akagi K, Yamanaka T, Ochiai A, Toshihiko D, Ohtsu A, Yoshino T* : The Nationwide Cancer Genome Screening Project for Gastroin-testinal Cancer in Japan(GI-SCREEN): Simultaneous identification of KRAS, NRAS, BRAF, and PIK 3CA mutation in advanced colorectal cancer(aCRC)(GI-SCREEN 2013-01). ESMO,2015,(ウイーン),[poster]
- 019 *Muro K* : ESMO Clinical Practice Guidelines. ESMO ASIA,2015,(シンガポール),[ESMO Clinical Practice Guidelines session(司会)]
- 020 *Muro K* : Gastrointestinal tumours. ESMO ASIA,2015,(シンガポール),[Proffered Paper session(司会)]

- 021 **Muro K** : Targeting angiogenesis in GI cancers. ESMO ASIA,2015,(シンガポール),Proffered Paper session(司会),[Special Symposium]
- 022 **Hamauchi S, Yamazaki K, Masuishi T, Kito Y, Komori A, Tsushima T, Todaka A, Yokota T, Machida N, Fukutomi A, Onozawa Y, Muro K, Yasui H, Mori K, Taniguchi H** : Neutropenia as a predictive factor in patients with metastatic colorectal cancer treated with TAS-102. ESMO ASIA,2015,(シンガポール),[Special Symposium]
- 023 **Komori A** : Serum CA19-9 response is an early predictive marker for the efficacy of regorafenib in refractory metastatic colorectal cancer. ESMO ASIA,2015,(シンガポール),[Poster Display session]
- 024 **Narita Y** : Development of nomograms including HER 2 status for predicting survival in metastatic gastric cancer. ESMO ASIA,2015,(シンガポール),[Poster Display session]
- 025 **Muro K** : A Multinational, Randomized, Phase III trial of XELIRI(+bevacizumab)vs. FOLFIRI(+bevacizumab)as the second line chemotherapy. ASCO-GI, 2016,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 026 **Narita Y** : Survival outcome of metastatic adenocarcinoma of esophagogastric junction in the trastuzumab era. ASCO-GI, 2016,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 027 **Hasegawa H** : Effect of first-line molecular targeted agents on the efficacy of second-line bevacizumab-containing regimen for metastatic colorectal cancer. ASCO-GI, 2016,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 028 **Masuishi T** : A retrospective comparison between regorafenib and TAS-102 for refractory metastatic colorectal cancer. ASCO-GI, 2016,(サンフランシスコ),[Poster Session]
- 029 **室 圭** : 切除不能進行・再発胃癌における抗PD-1抗体MK-3475(Pembrolizumab)のphase I b試験. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台),[ワークショップ]
- 030 **室 圭** : 胃癌、大腸癌薬物療法の進歩と今後の展望. 日本消化器病学会甲信越支部例会,2015,(長野),[教育講演]
- 031 **室 圭** : オキサリプラチン導入後の胃癌化学療法. 日本消化器病学会東海支部例会,2015,(三重),[ランチョンセミナー]
- 032 **室 圭**:化学療法(高度進行癌). 日本食道学会学術集会,2015,(横浜),[ポスター(司会)]
- 033 **植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 川上次郎, 室 圭, 宇良 敬, 門脇重憲, 丹羽康正, 田近正洋, 篠田雅幸** : 食道癌における術前DCF療法無効例の選別. 日本食道学会学術集会, 2015,(横浜),[ポスター]
- 034 **野村基雄, 宇良 敬, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 丹羽康正, 室 圭, 武藤 学** : JCOG9907の術後因子を用いた予後予測モデルの検証. 日本食道学会学術集会,2015,(横浜),[ポスター]
- 035 **室 圭** : 大腸がん. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[インターナショナルセッション(司会)]
- 036 **室 圭** : HER 2 陽性胃癌に対する薬物療法 ~HER 2 陽性乳がんに対する治療戦略から学ぶ. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[メディカルセミナー(司会)]
- 037 **安藤正志** : 各種肉腫の薬物療法. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[教育講演(司会)]
- 038 **安藤正志** : 軟部肉腫治療におけるチーム医療の構築. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[シンポジウム(司会)]
- 039 **宇良 敬** : 食道2 化学放射線療法、高齢者. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[ポスターセッション(司会)]
- 040 **谷口浩也** : 大腸5 症例報告(1). 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[ポスターセッション(司会)]
- 041 **室 圭** : 大腸癌化学療法のエビデンスとプラクティス. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[モーニングセミナー]
- 042 **室 圭** : Clinical outcomes in patients with advanced gastric cancer treated with pembrolizumab(MK-3475)in KEYNOTE-012. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[インターナショナルシンポジウム]
- 043 **室 圭** : Molecular targeting agents combined with radiation therapy for esophago-gastric cancer. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[合同シンポジウム]
- 044 **安藤正志** : Medication therapy for soft tissue sarcoma, speaking as a medical oncologist. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[シンポジウム]
- 045 **谷口浩也** : 大腸癌の個別化医療を考える-抗EGFR抗体薬を中心に-第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[イブニングセミナー]
- 046 **谷口浩也** : Precision medicine for metastatic colorectal cancer; Current status and future perspectives. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[シンポジウム]
- 047 **室 圭** : Open-label phase outcomes of the phase III SELECT trial of lenvatinib in patients with differentiated thyroid cancer. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[一般口演]
- 048 **谷口浩也** : Initial safety report of a phase II study of FOLFOXIRI with bevacizumab in metastatic colorectal cancer - QUATTRO study. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[一般口演]
- 049 **舩石俊樹** : Impact of morphologic response on survival in patients with unresectable CLM receiving an anti-EGFR or anti-VEGF agent. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[一般口演]
- 050 **成田有季哉** : Development of nomograms for predicting survival in advanced gastric cancer. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[一般口演]
- 051 **長谷川裕子** : Characterization of serum HER 2 extracellular domain(ECD)level in patients with metastatic colorectal cancer. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[ポスターセッション]
- 052 **木下史緒理, 小松弘和, 森 義徳, 飯田真介, 安藤正志** :

- A questionnaire survey on the clinical practice of rare neoplasms in the Tokai region of Japan. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[ポスターセッション]
- 053 植竹宏之, 室 圭, 藤田直弘, 古田高章, 原 直子, 香取 純, 吉野孝之: Safety survey report from Early Post-marketing Phase Vigilance(EPPV)on TAS-102 for Metastatic Colorectal Cancer(mCRC). 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[インターナショナルシンポジウム]
- 054 設楽紘平, 室 圭, Shah Manish, Tebbutt Niall, Bang YJ, 吉川麗月, Borodyansky Laura:, Chaing J. Li, Lordick Florian, 大津 敦The BRIGHTER trial: A PhaseIII study of BBI608 + wPTX in patients with pre-treated advanced gastric and GEJ adenocarcinoma. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[一般口演]
- 055 橋本直弥, 前田美恵子, 平島佳代, 松崎雅英, 立松三千子, 室 圭, 水谷旭良: 新規経口抗がん剤“TAS102”を安全に外来導入するために～愛知県がんセンター中央病院における運用～. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌), [一般口演]
- 056 吉野孝之, 設楽紘平, 谷口浩也, Brega Nicoletta, 大倉征幸, 小野知穂, 鈴木美絵, Vermette Jennifer, 室 圭: PF-05212384 + irinotecan Phase II study in metastatic colorectal cancer(mCRC): B2151005 Japanese lead-in-cohort(J-LIC). 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌), [インターナショナルセッション]
- 057 野村基雄, 加藤 健, 水澤純基, 片岡幸三, 安藤暢敏, 室圭, 大津 敦, 井垣弘康, 大幸宏幸, 北川雄光: Comparison between NAC-S and CRT in overall survival for patients with esophageal squamous cell carcinoma(JCOG1406-A). 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[一般口演]
- 058 安井直子, 吉田朗彦, 金田英秀, 安藤正志, 河本 博: Desmoplastic small round cell tumor(DSRCT)15例の臨床検討. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[一般口演]
- 059 小原真紀子, 吉田達哉, 宇良 敬: Nursing care for skin disorder of scalp in patients receiving EGFR inhibitors. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[一般口演]
- 060 大場彬博, 加藤 健, 伊藤芳紀, 堅田親利, 石山博條, 山本幸子, 宇良 敬, 古平 毅, 工藤滋弘, 中村哲之: Phase II study of chemoradiotherapy with docetaxel for elderly patients with stage II/III esophageal carcinoma. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[一般口演]
- 061 野村基雄, 岩佐 悟, 對馬隆浩, 加藤 健, 安井博史, 室圭, 朴 成和: Exploratory analysis of prognostic subset in esophageal cancer patients previously treated with FU, Pt, taxane therapy. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2015,(札幌),[ポスターセッション]
- 062 岩佐 悟, 野村基雄, 對馬隆浩, 加藤 健, 安井博史, 室圭, 朴 成和: Salvage chemotherapy versus BSC for esophageal cancer refractory or intolerable to fluorouracil, platinum, and taxane. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集
- 会,2015,(札幌), [ポスターセッション]
- 063 對馬隆浩, 野村基雄, 岩佐 悟, 加藤 健, 安井博史, 室圭, 朴 成和: Re-introduction of taxane for patients with esophageal squamous cell carcinoma refractory to 5-FU, CDDP, and a taxane. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2015,(札幌),[ポスターセッション]
- 064 服部正也, 澤木正孝, 近藤直人, 吉村章代, 石黒淳子, 瀧由美子, 安藤正志, 谷田部恭, 岩田広治: Risk factors and prognosis in breast cancer patients who have relapsed after achieving pCR with neoadjuvant chemotherapy. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[ポスターセッション]
- 065 安藤正志: 原発不明癌. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2015,(札幌),[教育セミナー]
- 066 室 圭: 大腸がんにおける標的分子と治療開発. 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋),[腫瘍別シンポジウム(司会)]
- 067 室 圭: Future Directions in Gastrointestinal Cancer Treatment with Translational Research. 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋),[ランチョンセミナー(司会)]
- 068 谷口浩也: 大腸がんにおけるPrecision Medicineの現況と展望-Beyond RASを中心に-. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋),[腫瘍別シンポジウム]
- 069 谷口浩也, 室 圭: BRAF変異陽性大腸がんに対する特別な治療戦略は必要か?. JDDW,2015,(東京),[統合プログラム]
- 070 室 圭: 大腸癌サルベージラインにおけるチーム医療の取り組み. JDDW,2015,(東京),[イブニングセミナー(司会)]
- 071 室 圭: What is the best personalized therapy for mCRC? Treatment strategy for patients?. JDDW,2015,(東京),[スポンサーシンポジウム(司会)]
- 072 室 圭: What is the best personalized therapy for mCRC? Treatment strategy for patients?. JDDW,2015,(東京),[スポンサーシンポジウム]
- 073 室 圭: 最新知見に基づいた大腸癌化学療法の実践 ～GI Oncologistの矜持～. 第53回日本癌治療学会学術集会, 2015,(京都),[ランチョンセミナー]
- 074 宇良 敬, 室 圭: 腫瘍関連静脈血栓症発症スコアKhoranaスコアの本邦の臨床実地成績における妥当性検討. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 075 宇良 敬: EQ-5Dを用いた苦痛のスクリーニング法の有用性. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 076 谷口浩也: 大腸癌サルベージラインにおけるチーム医療の取り組み. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[イブニングセミナー]
- 077 谷口浩也: ゲノムスクリーニングネットワークの将来像 -愛知大腸がん遺伝子プロファイル研究(2). 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 078 小森 梓: レゴラフェニブの早期効果予測は可能か? 静岡がん・愛知がん共同観察研究[2]. 第53回日本癌治療学会学



- 術集会,2015,(京都),[ポスター]
- 079 長谷川裕子：抗EGFR抗体薬の前治療は大腸癌の二次治療 Bevacizumab併用療法の治療効果に影響するか? 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 080 舩石俊樹：切除不能大腸癌症例におけるセツキシマブを含む1次治療の観察研究:CORAL study. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 081 舩石俊樹：レゴラフェニブとTAS-102はどちらを先行すべきか? 静岡がん・愛知がん共同観察研究[3]. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 082 三谷誠一郎：当院における胃癌術後補助化学療法後の早期再発例に対する治療の現状. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 083 田原 信, 室 圭, 長谷川泰久, 山崎知子, 榎田智弘, 若杉哲郎, 門脇重憲, 花井信広, 寺田星乃, 田中義信, 今井健太郎, 嶋本隆司：日本人進行性頭頸部扁平上皮癌患者に対するMK-3475(抗PD-1抗体)の第Ib相試験. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 084 對馬隆浩, 安井博史, 原 浩樹, 山口研成, 廣中秀一, 加藤 健, 小島隆嗣, 宇良 敬, 室 圭, 佐藤太郎, 土岐祐一郎, 大津 敦, 浜本康夫, 北川雄光：標準治療に不応又は不耐の食道がんに対するニボルマブ(ONO-4538)の第II相試験. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 085 金澤旭宣, 山中竹春, 山崎健太郎, 山口研成, 室 圭, 池田正孝, 楠本哲也, 植竹宏之, 佐藤武郎, 加藤健志, 仁科智裕, 沖 英次, 赤木 究, 大橋靖雄, 吉野孝之：StageII/III結腸癌の再発リスク予測としてのOncotype Dx Colon Cancer Assayの有用性. 第53回日本癌治療学会学術集会, 2015,(京都),[ワークショップ]
- 086 中山裕史, 中山吾郎, 上原圭介, 大河内治, 近藤千紘, 松岡 宏, 宇都宮筋夫, 坂本英至, 奥村徳夫, 梅田晋一, 澤田 武, 小森康司, 谷口浩也, 室 圭, 谷田部恭：愛知大腸がん遺伝子プロファイル研究(1)原発部位と遺伝子変異の関連. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 087 賀川義規, 加藤健志, 江見泰徳, 室 圭, 辻 晃仁, 沖英次, 吉野孝之, 山崎健太郎, 谷口浩也, 坂東英明, 山口達郎, 當山鉄男, 山中竹春, 向坂英樹, 金澤旭宣：切除不能な進行再発大腸がんに対する初回治療としてのFOLFOXIRI + bevacizumab療法. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 088 浜内 諭, 山崎健太郎, 舩石俊樹, 木藤陽介, 小森 梓, 對馬隆浩, 戸高明子, 横田知哉, 町田 望, 福富 晃, 小野澤祐輔, 室 圭, 安井博史, 盛 啓太, 谷口浩也：TAS-102に伴う好中球減少は効果予測因子となり得るか? 静岡・愛知がん共同観察研究[1]. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 089 吉野孝之, 室 圭, 藤田直弘, 古田高章, 原 直子, 香取 純, 植竹宏之：ロンサーフR配合錠T15・T20 市販直後調査の結果報告. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 090 渡邊聡明, 西田俊朗, 植竹宏之, 山口研成, 佐藤太郎, 吉野孝之, 山崎直也, 滝川 一, 濱田葉子, 帖佐雅幸, 山本由佳, 伊藤雄一郎, 室 圭, 杉原健一：レゴラフェニブ(スチバーガ錠)使用大腸癌患者に対する製造販売後調査 中間報告. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 091 石黒めぐみ, 板橋道朗, 室 圭, 佐藤太郎, 濱島明美, 柳澤昭浩, 川上祥子, 杉原健一：患者・市民のがん情報アクセスの現状～ブルーリボンキャラバン来場者アンケート集計. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 092 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 野村基雄, 室 圭, 山雄健次, 丹羽康正：食道表在癌に対する内視鏡治療後非治癒切除症例に対する追加治療成績の検討. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ポスター]
- 093 服部正也, 澤木正孝, 吉村章代, 石黒淳子, 久田知可, 瀧由美子, 水野愛弓, 安藤正志, 岩田広治：HER2陽性進行再発乳癌治療における各治療ラインでのペルツズマブ治療の有効性と安全性. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ポスター]
- 094 室 圭：消化管がん(食道癌,胃癌,大腸癌)における免疫チェックポイント阻害薬の可能性. 第28回日本バイオセラピー学会学術集会総会,2015,(埼玉),[シンポジウム]
- 095 宇良 敬：食道癌化学療法クリニカルパス使用の有用性と課題. 第16回日本クリニカルパス学会回学術集会,2015,(千葉),[ポスター]
- 096 安藤正志：がんの診療と倫理. 日本癌治療学会,2015,(千葉),[日本がん治療認定医機構教育セミナー]
- 097 谷口浩也：大腸癌治療選択のヒント～さらなるOS延長を目指して～. 第70回日本大腸肛門病学会,2015,(名古屋),[ランチョンセミナー]
- 098 室 圭：QOLを軸とした胃がん化学療法. 第58回日本消化器内視鏡学会東海支部例会,2015,(名古屋),[司会]
- 099 室 圭：胃癌治療ガイドラインにおける化学療法 ～第5版に向けて～. 胃癌学会,2016,(大分),[プレナリーセッション]
- 100 木藤陽介, 成田有季哉, 尾瀬 功, 門脇重憲, 町田 望, 田近正洋, 川上武志, 安井博史, 室 圭：切除不能進行胃癌の予後に関するNomogramの検討. 胃癌学会, 2016,(大分),[ポスター]
- 101 成田有季哉, 長谷川裕子, 門脇重憲, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 伊藤誠二, 谷田部恭, 室 圭：切除不能進行再発食道胃接合部腺癌の予後. 胃癌学会, 2016,(大分),[ポスター]

#### 臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 *Yatube Y*: Impact of tumour heterogeneity on biomarker testing. European Lung Cancer Conference,2015,(Geneva, Switzerland),[シンポジウム]

- 002 *Yatabe Y* : Update on revisions to CAP/IASLC/AMP lung cancer biomarker guidelines. Pulmonary Pathology Society Biennial Meeting,2015.(San Francisco, USA)[講演]
- 003 *Yatabe Y* :Molecular classification and biomarkers of lung cancer. Annual Meeting of Taiwan Society of Pathology,2015,(Taipei, Taiwan)[シンポジウム]
- 004 *Yatabe Y* : Pro vs Con Whole exome sequencing vs. selected testing(e.g., ALK and EGFR). World Lung Cancer Conference,2015,(Denver, USA)[シンポジウム]
- 005 *Yatabe Y* : Chairing the IASLC Pathology Committee Meeting,2015,(Denver, USA)[講演]
- 006 *Yatabe Y* : IHC project proposal to IASLC path panel WCLC2015. IASLC Pathology Committee Meeting,2015, (Denver, USA)[講演]
- 007 *Yatabe Y* : 病理分野におけるコンパニオン診断薬標準化の問題と展望. BioTech,2015,(東京ビックサイト 東京都有明), [シンポジウム]
- 008 谷田部恭 : 肺癌における病理診断と遺伝子検査.JMTO臨床試験ワークショップ,2015,(名古屋,愛知県)[講演]
- 009 谷田部恭 : 2015 WHO分類改訂のまとめ,第24回信州大学臨床検査部セミナー,2015,(松本,長野県)[講演]
- 010 谷田部恭 : 次世代の新しい細胞診断学とは?. 第29回関臨床細胞学会,2015,(つくば,茨城県)[シンポジウム]
- 011 谷田部恭 : 肺癌の2015 WHO新病理分類. 第72回日本病理学会近畿支部学術集会,2016,(大阪市)[講演]
- 012 谷田部恭 : コンパニオン診断の問題点と展望[日本病理学会共催企画],第74回日本癌学会学術会,2015,(名古屋市)[シンポジウム]
- 013 谷田部恭 : 2015肺癌WHO分類における変更点,第74回日本癌学会学術総会,2015.10,(名古屋市)[講演]
- 014 谷田部恭 : 病理におけるコンパニオン診断—Overview.第61回日本病理学会秋季特別総会,2015,(東京都文京区)[シンポジウム]
- 015 谷田部恭 : 肺の新WHO分類(第4版)の要点.第54回日本臨床細胞学会秋期大会,2015,(名古屋市)[シンポジウム]
- 016 谷田部恭 : 肺癌診療に必要な分子診断の基礎知識.第56回日本肺癌学会学術集会,2015,(神奈川県横浜市)[シンポジウム]
- 017 谷田部恭 : 肺癌の分子生物学.第57回日本肺癌学会学術集会,2015,(神奈川県横浜市)[講演]
- 018 村上善子 : 肝生検により異型が明らかでない甲状腺濾胞組織が採取され、甲状腺癌が疑われた1例. 第3回甲状腺病理学会総会,2015,(浜松)[口演]
- 019 柴田典子, 谷田部恭 : 細胞診分野における遺伝子検査. 第54回日本臨床細胞学会秋期大会,2015,(名古屋)[口演]
- 020 柴田典子 : 病理組織検体、細胞診検体からの遺伝子検査. 平成27年度 新潟県臨床検査技師会病理細胞部門研修会, 2015,(新潟)[口演]
- 021 藤田奈央 : 超音波内視鏡を用いた細胞診～消化器領域を中心に～.平成27年度愛知県細胞診従事者講習会,2016,(名古屋)[口演]
- 022 柴田典子 : 遺伝子検査に適した病理標本作製のポイント. 平成27年度 中部圏支部病理細胞検査研修会,2016,(名古屋),

[口演]

- 023 尾関順子 : 質の高いEUS-FNAを目指した細胞検査士による迅速細胞診. 第46回日本膵臓学会,2015,(名古屋)[ポスター]
- 024 尾関順子 : 細胞診検体を用いた免疫染色・遺伝子検査への準備. 第54回日本臨床細胞学会秋期大会,2015,(名古屋)[口演]

#### 頭頸部外科部

- 001 *Suzuki H, Nishio M, Hanai N, Hirakawa H, Tamaki T, Hasegawa Y* : Relation between 18F-FDG-uptake and in vitro chemosensitivity of cisplatin in head and neck cancer. 第39回日本頭頸部癌学会・第4回アジア頭頸部癌学会,2015,(神戸)[シンポジウム]
- 002 脇坂尚宏, 長谷川泰久, 吉本世一, 三浦弘規, 塩谷彰浩, 横山純吉, 菅澤 正, 遠藤一平, 吉崎智一 : 口腔癌のセンチネルリンパ節におけるリンパ管新生とリンパ節転移に関する検討. 第116回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2015,(東京)[口演]
- 003 欄真一郎, 伊地知圭, 中西速夫, 加藤幸成, 長谷川泰久, 小川徹也, 村上信五 : 頭頸部扁平上皮癌におけるpodoplaninの機能解析と標的治療の検討. 第116回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会,2015,(東京)[口演]
- 004 花井信広, 寺田星乃, 平川 仁, 鈴木秀典, 西川大輔, 中多祐介, 澤部 倫, 都築秀典, 向山宣昭, 的場拓磨, 長谷川泰久 :  $\omega$  3 脂肪酸を用いた頭頸部癌周術期の栄養管理は有用か?. 第39回日本頭頸部癌学会・第4回アジア頭頸部癌学会,2015,(神戸)[口演]
- 005 西川大輔, 花井信広, 平川 仁, 鈴木秀典, 中多祐介, 澤部 倫, 都築秀典, 向山宣昭, 寺田星乃, 的場拓磨, 長谷川泰久 : 頭頸部癌科学放射線療法と栄養状態の関連性の検討. 第39回日本頭頸部癌学会・第4回アジア頭頸部癌学会, 2015,(神戸)[口演]
- 006 的場拓磨, 花井信広, 鈴木秀典, 平川 仁, 西川大輔, 中多祐介, 澤部 倫, 都築秀典, 向山宣昭, 寺田星乃, 長谷川泰久 : ボイスプロテアーゼ交換間隔の検討. 第39回日本頭頸部癌学会・第4回アジア頭頸部癌学会,2015,(神戸)[口演]
- 007 平川 仁, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 中多祐介, 澤部 倫, 都築秀典, 向山宣昭, 寺田星乃, 的場拓磨 : 口腔癌における術前化学療法の効果と意義. 第39回日本頭頸部癌学会・第4回アジア頭頸部癌学会,2015,(神戸)[ポスター]
- 008 脇坂尚宏, 長谷川泰久, 吉本世一, 三浦弘規, 塩谷彰浩, 横山純吉, 菅澤 正, 喜多万紀子, 遠藤一平, 吉崎智一 : 口腔癌のセンチネルリンパ節におけるリンパ管新生とリンパ節転移に関する検討. 第39回日本頭頸部癌学会・第4回アジア頭頸部癌学会,2015,(神戸)[口演]
- 009 別府慎太郎, 伊地知圭, 川北大介, 高野 学, 村上信五, 伊藤洋平, 長谷川泰久, 谷田部恭, 鬼塚哲郎, 草深公秀, 稲垣 宏 : 腺様嚢胞癌55例における予後因子の検討. 第39回日本頭頸部癌学会・第4回アジア頭頸部癌学会,2015,(神

- 戸)[口演]
- 010 高津 淳, 花井信広, 平川 仁, 鈴木秀典, 西川大輔, 中多祐介, 向山宣昭, 都築秀典, 澤部 倫, 的場拓磨, 寺田星乃, 長谷川泰久: 舌癌周術期における構音障害に対するリハビリテーション効果. 第39回日本頭頸部癌学会・第4回アジア頭頸部癌学会,2015,(神戸)[口演]
- 011 長縄弥生, 萩原純孝: 高濃度栄養剤経口摂取患者に認められる口腔衛生の傾向. 第40回日本口腔外科学会中部支部学術集会,2015,(岡崎)[口演]
- 012 花井信広: 頭蓋底手術 - Openの立場から. 第72回耳鼻咽喉科臨床学会学術講演会,2015,(浜松)[シンポジウム]
- 013 鈴木秀典: 鼻副鼻腔扁平上皮癌における根治治療法の比較. 第27回日本頭蓋底外科学会,2015,(名古屋)[口演]
- 014 鈴木秀典: 当院における頸部の症状に対する診断の進め方と最近の現況. 第3回中部地区がん医療連携学術講演会, 2015,(名古屋)[口演]
- 015 高野 学, 花井信広: 頭頸部非扁平上皮癌の臨床的検討. 第28回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会, 2015,(大阪)[口演]
- 016 高津 淳, 田中康博, 田中誠也, 長谷川泰久, 山本正彦: 舌癌周術期における構音障害に対するリハビリテーション効果. 第60回日本音声言語医学会総会・学術講演会,2015,(名古屋)[口演]
- 017 長縄弥生, 西川雅也, 坂井謙介, 立花弘之, 小西哲仁, 百合草健圭志, 横田知哉, 全田貞幹: 化学放射線療法を受ける頭頸部癌患者を対象とした口腔ケア・プログラム運用に関する他施設共同第2相試験. 第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会,2015,(京都)[ポスター]
- 018 都築秀典, 鈴木秀典, 花井信広, 西川大輔, 藤本保志, 長谷川泰久: 中下咽頭癌における同時食道胃癌例のFDG-PET/CT有用性. 第53回日本癌治療学会学術集会. 2015,(京都)[ポスター]
- 019 本間明宏, 林 隆一, 川端一喜, 藤井 隆, 岩江信法, 長谷川泰久, 丹生健一, 加藤孝邦, 志賀清人, 松浦一登, 門田伸也, 藤井正人: 腎機能は中咽頭癌の予後因子である. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都)[ポスター]
- 020 田原 信, 室 圭, 長谷川泰久, 山崎知子, 榎田智弘, 若杉哲郎, 門脇重憲, 花井信広, 寺田星乃, 田中義信, 今井健太郎, 嶋本隆司, Cheng Jonathan: 頭頸・口腔 頭頸部がんに対する新規治療開発 日本人進行性頭頸部扁平上皮癌患者に対するMK-3475(抗PD-1抗体)の第Ib相試験. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都)[ワークショップ]
- 021 長縄弥生: 多様に変化に変化した歯科衛生士業務からみる医療安全. 日本障害者歯科学会学術大会 医療安全研修会,2015,(名古屋)[シンポジウム]
- 022 鈴木秀典: 下咽頭癌と肺癌の同時重複癌症例. 第67回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会,2015,(福島)[パネルディスカッション]
- 023 寺田星乃, 鈴木秀典, 花井信広, 西川大輔, 的場拓磨, 高野 学, 長谷川泰久: 唾液腺癌cN0症例における頸部郭清の有用性について. 第67回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会,2015,(福島)[口演]
- 024 長谷川泰久, 吉本世一, 松塚 崇, 甲能直幸, 本間明宏, 塩谷彰浩, 横山純吉, 小須田茂, 近松一朗, 吉崎智一, 上村裕和, 三浦弘規, 菅澤 正, 鈴木幹男, 丸尾貴志, 平野 滋, 尾瀬 功, 谷田部恭, 川北大介, 鈴木基之, 塚原清彰, 村上善子: 頭頸部癌センチネルリンパ節生検術臨床試験. 第17回S N N S研究会学術集会,2015,(横浜)[口演]
- 025 西川大輔, 花井信広, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 小出悠介, 寺田星乃, 的場拓磨, 高野 学, 長谷川泰久: 頭頸部扁平上皮癌患者におけるL3骨格筋面積指数の臨床的意義. 第163回東海地方部会連合講演会,2015,(岐阜)[口演]
- 026 花井信広: 頭頸部領域のプレゼンのために. 第26回日本頭頸部外科学会, 2016,(名古屋)[教育パネルディスカッション]
- 027 高野 学, 鈴木秀典, 花井信広, 福田裕次郎, 小出悠介, 西川大輔, 的場拓磨, 寺田星乃, 長谷川泰久: 眼窩悪性腫瘍の臨床的検討. 第26回日本頭頸部外科学会, 2016,(名古屋)[口演]
- 028 福田裕次郎, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 小出悠介, 的場拓磨, 寺田星乃, 高野 学, 長谷川泰久: 頭頸部癌治療におけるCaroid Blowout Syndromeの検討. 第26回日本頭頸部外科学会, 2016,(名古屋)[口演]
- 029 的場拓磨, 花井信広, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 西川大輔, 小出悠介, 寺田星乃, 高野 学, 長谷川泰久: 導入化学療法を行った下咽頭癌の治療成績. 第26回日本頭頸部外科学会, 2016,(名古屋)[口演]
- 030 寺田星乃, 鈴木秀典, 花井信広, 西川大輔, 福田裕次郎, 小出悠介, 的場拓磨, 高野 学, 長谷川泰久: 唾液腺癌cN0症例における予防的頸部郭清についての検討. 第26回日本頭頸部外科学会, 2016,(名古屋)[口演]
- 031 鈴木秀典, 花井信広, 平川 仁, 西川大輔, 長谷川泰久: 大唾液腺癌におけるLymph node density. 第26回日本頭頸部外科学会, 2016,(名古屋)[口演]
- 032 西川大輔, 花井信広, 鈴木秀典, 福田裕次郎, 小出悠介, 寺田星乃, 的場拓磨, 高野 学: 当科における甲状腺分化癌喉頭気管浸潤例の検討. 第26回日本頭頸部外科学会, 2016,名古屋,[口演]
- 033 小出悠介, 福田裕次郎, 西川大輔, 鈴木秀典, 花井信広, 高野 学, 寺田星乃, 的場拓磨, 長谷川泰久: 甲状腺乳頭癌術後のルビエールリンパ節再発. 第26回日本頭頸部外科学会, 2016,(名古屋)[口演]
- 034 平川 仁, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 鈴木幹男, 長谷川泰久: 口腔癌に対する術前化学療法の組織学的効果と予後との相関. 第26回日本頭頸部外科学会, 2016,(名古屋)[口演]
- 035 別府慎太郎, 伊地知圭, 川北大介, 伊藤洋平, 花井信広, 長谷川泰久, 村上信五, 稲垣 宏: 早期に死に至った高悪性度転化腺様嚢胞癌の3例. 第26回日本頭頸部外科学会, 2016,(名古屋)[口演]
- 036 花井信広: 導入化学療法を行った下咽頭癌の治療成績. 第21回頭頸部癌化学療法研究会, 2016,(東京)[口演]
- 037 別府慎太郎, 伊地知圭, 川北大介, 小栗恵介, 三好晋平, 村上信五, 花井信広, 長谷川泰久, 谷田部恭, 鬼塚哲郎,



草深公秀, 伊藤洋平, 稲垣 宏: 腺様嚢胞癌における癌精巢単抗原の発現: 子後因子, 治療標的としての可能性. 第33回東海頭頸部腫瘍研究会, 2016.(名古屋),[口演]

- 038 鈴木秀典, 花井信広, 西川大輔, 福田裕次郎, 小出悠介, 的場拓磨, 寺田星乃, 高野 学, 長谷川泰久: 下咽頭扁平上皮癌におけるLymph node density. 第33回東海頭頸部腫瘍研究会, 2016.(名古屋),[口演]
- 039 寺田星乃, 花井信広, 鈴木秀典, 西川大輔, 福田裕次郎, 小出悠介, 的場拓磨, 高野 学, 長谷川泰久: 頸部リンパ節転移による化学放射線治療後の超音波検査による評価. 第33回東海頭頸部腫瘍研究会, 2016.(名古屋),[口演]

#### 形成外科部

- 001 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 中村亮太, 桑田知幸, 澤本尚哉, 亀井 譲: 胃管再建既往歴を有する咽喉食摘、遊離空腸再建例の検討. 第58回日本形成外科学会総会・学術集会, 2015.(京都),[一般演題]
- 002 奥村誠子, 中村亮太, 桑田知幸, 澤本尚哉, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 当院における1次1期インプラントによる乳房再建の検討. 第58回日本形成外科学会総会・学術集会, 2015.(京都),[一般演題]
- 003 奥村誠子, 中村亮太, 澤本尚哉, 桑田知幸, 兵藤伊久夫, 武石明精, 亀井 譲: 乳房再建におけるMS2 TRAM flapにてICGを用いた穿通枝選択の方法. 第23回日本乳癌学会学術集会, 2015.(東京),[ポスター発表]
- 004 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 角谷 聡, 長谷川泰久, 亀井 譲, 中村亮太: 当院における遊離皮弁による頭蓋底再建の検討. 第27回日本頭蓋底外科学会, 2015.(名古屋),[シンポジウム]
- 005 中村亮太, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 遊離前外側大腿皮弁による側頭骨重全摘の再建に関する検討. 第27回日本頭蓋底外科学会, 2015.(名古屋),[一般演題]
- 006 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 角谷 聡, 亀井 譲: 肋骨付き遊離広背筋皮弁による下顎骨および舌再建の1例. 第50回中部形成外科学会学術集会, 2015.(小牧),[一般演題]
- 007 奥村誠子, 角谷 聡, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 当院でのインプラントによる乳房再建における1次1期と1次2期の比較. 第3回日本乳房オンコプラステックサージャリー学会総会, 2015.(札幌),[一般演題]
- 008 角谷 聡, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 乳房再建における胸骨傍リンパ節の検討. 第66回東海形成外科学会, 2015.(大垣),[一般演題]
- 009 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 角谷 聡, 亀井 譲: 胸背動静脈系連合皮弁による頭頸部再建. 第99回九州・沖縄形成外科学会学術集会, 2015.(大分),[一般演題]
- 010 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 角谷 聡, 亀井 譲: 頭頸部遊離皮弁再建における術中・術後事象の検討. 第42回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2015.(さいたま),[シンポジウム]
- 011 角谷 聡, 奥村誠子, 兵藤伊久夫, 亀井 譲: 頭頸部複合組織欠損に対する胸背動静脈系連合皮弁の有用性. 第42回

日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2015.(さいたま), [一般演題]

- 012 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 角谷 聡, 亀井 譲: 遠隔リンパ節転移に対する再建術の検討. 第67回東海形成外科学会, 2016.(長久手),[一般演題]
- 013 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 角谷 聡, 亀井 譲: 当院における乳房1次再建の現状. 九州・沖縄形成外科学会 100回記念・学術集会, 2016.(大宰府),[一般演題]

#### 呼吸器外科部

- 001 Seto K, Kuroda H, Yatabe Y, Sakao Y, Yoshida T, Hida T: Effects of smoking habit in the patients with KRAS mutation in pathological stage I non-small cell lung cancer. ESMO ASIA, 2015.(Singapore),[ポスター]
- 002 Seto K, Kuroda H, Yoshida T, Hida T, Yatabe Y, Sakao Y: Comparison of clinicopathological findings of ALK positive and EGFR positive adenocarcinoma. ESMO Asia, 2015.(Singapore),[ポスター]
- 003 坂倉範昭, 森 俊輔, 千葉真人, 小林祥久, 水野鉄也, 黒田浩章, 谷田部恭, 坂尾幸則: 隣接臓器浸潤肺癌における術前導入療法別の治療成績および初回手術療法との比較. 第32回日本呼吸器外科学会総会, 2015.(香川),[口演]
- 004 坂倉範昭, 瀬戸克年, 出嶋 仁, 飯塚修平, 直海 晃, 水野鉄也, 黒田浩章, 稲葉吉隆, 谷田部恭, 坂尾幸則: 肺癌の縮小手術の対象病変をどう絞り込んでいくか? -HRCT肺野条件径と縦隔条件径による対象病変の探索-. 第68回日本胸部外科学会定期学術集会, 2015.(神戸),[ディベート口演]
- 005 坂倉範昭, 瀬戸克年, 出嶋 仁, 飯塚修平, 直海 晃, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂尾幸則: 隣接臓器浸潤T3肺癌における術前導入化学放射線+手術療法と初回手術療法の比較. 第56回日本肺癌学会総会, 2015.(横浜),[ワークショップ口演]
- 006 黒田浩章, 出嶋 仁, 飯塚修平, 瀬戸克年, 直海 晃, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 胸腔鏡下区域切除における術後肺痿・連続50症例の検討—シーリングデバイスと自動縫合器—. 第68回日本胸部外科学会定期学術集会, 2015.(神戸),[ポスター]
- 007 黒田浩章, 出嶋 仁, 瀬戸克年, 飯塚修平, 直海 晃, 水野鉄也, 坂倉範昭, 谷田部恭, 坂尾幸則: KRAS変異陽性肺癌の喫煙と臨床病理学所見との関連についての検討. 第56回日本肺癌学会学術集会, 2015.(横浜),[ポスター]
- 008 黒田浩章, 出嶋 仁, 瀬戸克年, 飯塚修平, 直海 晃, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 完全胸腔鏡下解剖学的区域切除時の注意点とその対策. 第28回日本内視鏡外科学会総会, 2015.(大阪),[一般口演]
- 009 水野鉄也, 瀬戸克年, 直海 晃, 飯塚修平, 谷田部恭, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 非小細胞肺癌切除後再発におけるEGFR遺伝子変異と再発形式の関係. 第32回日本呼吸器外科学会総会, 2015.(高松),[一般口演]
- 010 水野鉄也, 瀬戸克年, 飯塚修平, 直海 晃, 出嶋 仁, 谷

田部恭, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 非小細胞肺癌切除後肺転移再発例におけるEGFR遺伝子変異の有無による予後の相異. 第56回肺癌学会総会,2015,(横浜)[一般演題(ポスター)]

- 011 水野鉄也, 瀬戸克年, 直海 晃, 飯塚修平, 谷田部恭, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 非小細胞肺癌切除後再発に対する再発切除の意義.第68回日本胸部外科学会定期学術集会,2015,(神戸)[Debate]
- 012 瀬戸克年, 黒田浩章, 飯塚修平, 出嶋 仁, 直海 晃, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 当院における区域切除75例の術後再発の検討. 日本呼吸器外科学会総会,2015,(高松),[口演]
- 013 瀬戸克年, 水野鉄也, 飯塚修平, 出嶋 仁, 直海 晃, 佐藤洋造, 黒田浩章, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 治療に難渋した特発性乳び胸の一例. 関西胸部外科学会,2015,(岡山),[口演]
- 014 瀬戸克年, 飯塚修平, 出嶋 仁, 直海 晃, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂倉範昭, 谷田部恭, 坂尾幸則: 術前CTにおける、背景肺が腫瘍径計測に与える影響. 日本肺癌学会総会,2015,(横浜)[ポスター]
- 015 瀬戸克年, 黒田浩章, 飯塚修平, 出嶋 仁, 直海 晃, 水野鉄也, 坂倉範昭, 谷田部恭, 坂尾幸則: 気管支鏡検査施行後に腫瘍退縮を認めた肺扁平上皮癌の1例.呼吸器内視鏡学会中部地方会,2015,(名古屋),[口演]
- 016 瀬戸克年, 黒田浩章, 飯塚修平, 出嶋 仁, 直海 晃, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則: 胸腔鏡と胸骨正中切開併用による左上葉肺葉切除が有用であった2例. 日本内視鏡外科学会総会,2015,(大阪),[口演]
- 017 瀬戸克年, 小林祥久, 飯塚修平, 出嶋 仁, 直海 晃, 水野鉄也, 黒田浩章, 光富徹哉, 谷田部恭, 坂尾幸則: Crizotinib投与中に腺癌から肉腫様癌へ形質転換したALK肺癌の1切除例. 進行肺癌治療研究会, 2016,(名古屋),[口演]
- 018 出嶋 仁, 坂倉範昭, 瀬戸克年, 飯塚修平, 直海 晃, 水野鉄也, 黒田浩章, 坂尾幸則: 気管支・肺カルチノイド治療切除後の長期予後についての解析. 第56回日本肺癌学会総会,2015,(横浜)[ポスター]
- 019 出嶋 仁, 飯沼久恵, 金岡里枝, 河合瑛香, 田村純子, 中山敬史, 高橋祐介, 原 浩文, 松谷哲行, 川村雅文: 肺癌症例における血漿エクソソームmicroRNA-21, microRNA-4257の癌診断マーカーとしての有用性. 第56回日本肺癌学会総会,2015,(横浜)[一般口演]
- 020 出嶋 仁, 飯沼久恵, 金岡里枝, 河合瑛香, 田村純子, 中山敬史, 高橋祐介, 原 浩文, 松谷哲行, 川村雅文: 肺癌症例における血漿エクソソームmicroRNA-21, microRNA-4257の癌診断マーカーとしての有用性. 第28回日本バイオセラピー学会総会,2015,(川越)[一般口演]

#### 乳腺科部

- 001 *Naito Y, Ohashi Y, Yokota I, Watanabe T, Iwata H, Ohsumi S, Ohno S, Hozumi Y, Yamamoto S, Takahashi M, Aihara T, Mukai H*: Impact of BMI on

survival and toxicity in early breast cancer: An exploratory analysis of prospective randomized phase III study N-SAS BC02 and 03. ASCO2015,2015,(Chicago), [Poster Session]

- 002 *Turner N, Ro J, Andre F, Loi S, Verma S, Iwata H, Harbeck N, Loibl S, Bartlett C.H., Zhang K, Giorgetti C, Randolph S, Koehler M, Cristofanilli M*: PALOMA 3: A double-blind, phase III trial of fulvestrant with or without palbociclib in pre- and post-menopausal women with hormone receptor-positive, HER 2-negative metastatic breast cancer that progressed on prior endocrine therapy. ASCO2015,2015,(Chicago),[Oral Abstract Session]
- 003 *Chan A, Delaloge S, Holmes F.A., Moy B, Iwata H, Harvey V.J., Robert N.J., Silovski T, Gokmen E, Minckwitz G.V., Ejlertsen B, Chia S.K.L., Mansi J, Barrios C.H., Gnant M, Wong A, Bryce R, Yao B, Marti M*: Neratinib after adjuvant chemotherapy and trastuzumab in HER 2-positive early breast cancer: Primary analysis at 2 years of a phase 3, randomized, placebo-controlled trial(ExteNET). ASCO2015,2015, (Chicago),[Oral Abstract Session]
- 004 *Baselga J, Iwata H, Clemons M, Ito Y, Awada A, Chia S, JagielloGruszfeld A, Pistilli B, Tseng L-M, Hurvitz S, Masuda N, Cortes J, DeLaurentiis M, Arteaga C, Jiang Z, Jonat W, Hachemi S, LeMouhaer S, Di Tomaso E, Urban P, Massacesi C, Campone M*: PIK 3CA status in circulating tumor DNA(ctDNA) predicts efficacy of buparlisib(BUP)plus fulvestrant(FULV) in postmenopausal women with endocrine-resistant HR+/HER 2 -advanced breast cancer(BC):First results from the randomized, Phase III BELLE-2 trial. San Antonio Breast Cancer Symposium,2015,(San Antonio),[poster]
- 005 *Ohno S, Ishiguro H, Yamamoto Y, Takao S, Sato N, Fujisawa T, Kadoya T, Kuroi K, Bando H, Teramura Y, Iwata H, Tanaka S, Toi M*: Pharmacogenomics-pharmacokinetics study of selective estrogen-receptor modulators with intra-patient dose-escalation for Japanese breast cancer patients. San Antonio Breast Cancer Symposium,2015,(San Antonio),[poster]
- 006 *Gondo N, Rezano A, Kuzushima K, Iwata H, Kuwahara K*: DSS 1 depletion is a promising strategy increasing chemosensitivity possibly independent of BRCA 2 expression. San Antonio Breast Cancer Symposium, 2015,(San Antonio),[poster]
- 007 *Fujisawa T, Iwata H, Sakai T, Nakamura R, Hasegawa Y, Ohtani S, Kashiwaba M, Taira N, Toyama T, Masuda N, Yamamoto Y, Kihara K, Shimozuma K, Ohashi Y, Mukai H*: Endocrine-related symptoms during deoadjuvant endocrine therapy for breast cancer : Agreement between patient and physician reporting in a prospective clinical trial. San Antonio Breast Cancer Symposium,2015,(San Antonio),[poster]

- 008 *Hattori M, Sawaki M, Kondo N, Yoshimura A, Ishiguro J, Kotani H, Adachi Y, Hisada T, Taki Y, Iwata H* : Patterns of recurrence and survival in HER 2 + patients relapsing after receiving adjuvant trastuzumab. 14th St.Gallen International Breast Cancer Conference,2015,(Vienna),[poster]
- 009 岩田広治, 山下年成, 山本 豊, 佐治重衡, 増田慎三 : セカンドオピニオンから学ぶ進行・再発乳がん治療.第23回日本乳癌学会学術集会,2015,(東京),[セミナー]
- 010 大橋靖雄, 岩田広治, 向井博文 : RCTだけが臨床研究ではない!! . 第23回日本乳癌学会学術集会,2015,(東京),[セミナー]
- 011 岩田広治, Gunter von Minckwitz : 日本と欧米の乳癌臨床試験のギャップを埋める. 第23回日本乳癌学会学術集会, 2015,(東京),[ディスカッション]
- 012 澤木正孝 : 高齢者乳がん治療のポイント. がん医療研修機構,2015,(東京),[口演]
- 013 服部正也, 近藤直人, 澤木正孝, 吉村章代, 石黒淳子, 久田知可, 瀧由美子, 水野愛弓, 岩田広治 : 同側乳房内再発に対するセンチネルリンパ節生検 : 同側腋窩領域以外でのセンチネルリンパ説同定の予測因子と局所制御. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[口演]
- 014 服部正也, 澤木正孝, 近藤直人, 吉村章代, 石黒淳子, 小谷はるる, 安達弥生, 久田知可, 瀧由美子, 安藤正志, 岩田広治 : トラストズマブ治療後に再発が認められたHER 2 陽性乳癌の予後と再発後の予後因子. 第23回日本乳癌学会学術集会,2015,(東京),[ポスター]
- 015 服部正也, 澤木正孝, 吉村章代, 石黒淳子, 久田知可, 瀧由美子, 水野愛弓, 安藤正志, 谷田部恭, 岩田広治 : 術前化学療法でpCRを得た後に遠隔再発した乳癌の予後と再発リスク因子の検討. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[ポスター]
- 016 服部正也, 澤木正孝, 吉村章代, 石黒淳子, 久田知可, 瀧由美子, 水野愛弓, 安藤正志, 岩田広治 : HER 2 陽性進行再発乳癌治療における各治療ラインでのペルツズマブ治療の有効性と安全性.第53回日本癌治療学会,2015,(京都),[ポスター]
- 017 服部正也, 片岡愛弓, 瀧由美子, 石黒淳子, 吉村章代, 澤木正孝, 谷田部恭, 岩田広治 : 非触知石灰化病変に対するフックワイヤーを用いた乳房部分切除術.第25回日本乳癌画像研究会,2016,(名古屋),[口演]
- 018 石黒淳子 : HBOCスクリーニング及びカウンセリングが術式選択に与える影響. 第115回日本外科学会定期学術集会, 2015,(名古屋),[口演]
- 019 石黒淳子 : 乳癌初期化学療法における発熱性好中球減少発現の実態と持続型G-CSF予防投与の適応についての検討. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[口演]
- 020 石黒淳子 : 自家組織による再建乳房への照射後の整容性についての検討. 第 3 回日本乳房オンコプラステックサージャー学会総会,2015,(札幌),[口演]
- 021 吉村章代 : 欧米の臨床試験の結果からセンチネルリンパ節 macro転移陽性時に腋窩リンパ節郭清を省力すべきか. 第23回日本乳癌学会学術集会,2015,(東京),[ポスター討論]
- 022 瀧由美子, 岩田広治, 安達弥生, 小谷はるる, 久田知可, 石黒淳子, 吉村章代, 近藤直人, 服部正也, 澤木正孝 : 乳頭分泌症例に対する乳管造影の有用性について. 東海乳癌疾患懇話会,2015,(名古屋),[口演]
- 023 瀧由美子, 近藤直人, 安達弥生, 小谷はるる, 久田知可, 権藤なおみ, 石黒淳子, 吉村章代, 服部正也, 澤木正孝, 岩田広治 : IHC 4 スコアを用いたER陽性乳癌に対する術前化学療法における腫瘍縮小効果の検討. 第23回日本乳癌学会学術集会,2015,(東京),[ポスター]
- 024 瀧由美子, 服部正也, 水野愛弓, 石黒淳子, 吉村章代, 澤木正孝, 岩田広治 : 乳腺膿瘍との鑑別を要した直腸癌乳房転移の一例.第12回日本乳癌学会中部地方会,2015,(福井),[口演]
- 025 水野愛弓 : 乳癌術後ホルモン剤内服中に骨髓穿刺で確定診断を得た多発性骨髄腫の一例. 第12回日本乳癌学会中部地方会,2015,(福井),[口演]

#### 消化器外科部

- 001 *Komori K, Fujita S, Mizusawa J, Kanemitsu Y, Saito N, Kinugasa Y, Ohue M, Ota M, Nagoya, Japan; Utsunomiya, Japan; Tokyo, Japan; Osaka, Japan; Yokohama, Japan; Sunto-gun, Japan; Chiba, Japan* : Risk Factors of Lateral Lymph Node Metastasis in the Patients without Clinical Lateral Pelvic Lymph Node Metastasis. The American Society of Colon and Rectal Surgeons 2015,2015,(Boston, MA),[示説]
- 002 *Hayashi Y, Misawa K, Hawkes D, Mori K* : Progressive internal landmark registration for image guided vessel clamping in laparoscopic gastrectomy. Computer Assisted Radiology and Surgery(CARS)2015,2015,(Barcelona),[口演]
- 003 *Morita C, Hayashi Y, Oda M, Hawkes D, Misawa K, Mori K* : Intra-operative registration method using organ surface information for surgical navigation in laparoscopic gastrectomy. Computer Assisted Radiology and Surgery(CARS)2015,2015,(Barcelona),[口演]
- 004 *Sasaki Y, Akasu T, Saito N, Kojima H, Matsuda K, Nakamori S, Komori K, Amagai K, Yamaguchi T, Nagashima K, Okita N, Yamada Y* : Impact of KRAS/ NRAS mutation status on the outcomes of patients with stage III colorectal cancer: Correlative study in NSAS-CC/RC. The 18th ECCO - 40th ESMO European Cancer Congress 2015,2015,(Vienna, Austria),[示説]
- 005 *Kanavati F, Tong T, Misawa K, Fujiwara M, Mori K, Rueckert D, Glocker B* : Supervoxel Classification Forests for Estimating Pairwise Image Correspondences Machine Learning in Medical Imaging. 18th International Conference 2015,2015,(Munich),[口演]
- 006 *Nakamura Y, Nimura Y, Oda M, Kitasaka T, Furukawa K, Goto H, Fujiwara M, Misawa K, Mori K*



- : Ensemble lymph node detection from CT volumes combining local intensity structure analysis approach and appearance learning approach," Proceedings of SPIE, Vol., pp., SPIE Medical Imaging, 2016. Computer-Aided Diagnosis 2016,2016,(San Diego),[口演]
- 007 *Nimura Y, Hayashi Y, Kitasaka T, Misawa K, Mori K*: Automated torso organ segmentation from 3D CT images using conditional random field," Proceedings of SPIE, Vol., pp., SPIE Medical Imaging, 2016. Computer-Aided Diagnosis 2016, 2016,(San Diego),[口演]
- 008 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 川合亮佑, 植村則久, 夏目誠治, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 清水泰博: 下部進行直腸癌に対する開腹自律神経温存側方郭清術. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[パネルディスカッション]
- 009 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 川上次郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 清水泰博, 木下平, 篠田雅幸: 高度局所進行食道癌に対する導入DCF療法後手術による治療戦略. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[パネルディスカッション]
- 010 木村賢哉, 小森康司, 木下敬史, 川合亮佑, 植村則久, 夏目誠治, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 清水泰博: 骨盤内臓全摘術後の骨盤死腔炎症重症化を防ぐために- 骨盤底を腹膜で再建することは有用か?. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[口演]
- 011 千田嘉毅, 清水泰博, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 植村則久, 川合亮佑, 木下平: 大腸癌両葉多発肝転移に対する集学的治療の現状~肝切除前化学療法の影響~. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[口演]
- 012 上坂克彦, 小西大, 松本逸平, 金岡祐次, 清水泰博, 中森正二, 坂本裕彦, 森永聡一郎, 貝沼修, 今井浩二: 切除後膀胱癌に対する補助化学療法のエビデンス: JASPAC 01を中心に. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[パネルディスカッション]
- 013 伊藤誠二: 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[座長]
- 014 重吉到, 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 夏目誠治, 川合亮佑, 浅野智成, 川上次郎, 筒山将之, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 清水泰博, 木下平: 当院における幽門保存胃切除例と幽門側胃切除例との比較. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[口演]
- 015 伊藤友一, 中西速夫, 寺澤佳代子, 遊佐亜希子, 川合亮佑, 夏目誠治, 植村則久, 木下敬史, 木村賢哉, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 伊藤誠二, 清水泰博: 新規血液中がん細胞(CTC)分離デバイスと担がんCTCマウスモデルを用いた消化器がんに対する分子標的治療のモニタリング. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[プレナリーセッション]
- 016 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川合亮佑, 川上次郎, 浅野智成, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 筒山将之, 重吉到, 清水泰博: 当科における骨盤内臓全摘術時の回腸導管作成時の工夫. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[口演]
- 017 安部哲也: 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[座長]
- 018 伊藤誠二, 佐野武, 高張大亮, 円谷彰, 片山宏, 水澤純基, 笹子三津留: 高度リンパ節転移陽性胃癌に対する術前化学療法の開発 JOCG胃がんグループにおける取り組み. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[パネルディスカッション]
- 019 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 川合亮佑, 植村則久, 夏目誠治, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下平: 通常の腹腔鏡下胃切除術と同様の手技で行う胃癌Reduced Port Surgery. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[口演]
- 020 浅野智成, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史: 当院における膵頭十二指腸切除術後中長期合併症の検討. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[口演]
- 021 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 木下平: 亜全胃温存膵頭十二指腸切除術後における胃内容排出遅延発生の危険因子の検討. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[口演]
- 022 植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博, 篠田雅幸: 食道癌の術前治療に対する反応性予測. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[口演]
- 023 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 木下平: 膀胱癌における膀胱切除断端の術中迅速病理診断の臨床的意義. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[口演]
- 024 望月能成, 石樽清, 伊藤誠二, 松井隆則, 石山聡治, 中山裕史, 蜂須賀丈博, 小寺泰弘: 胃癌術後のS-1/CCDDP療法は有用かつ実行可能か? -CCOG0703およびCCOG1106の解析から-. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋),[パネルディスカッション]
- 025 今野元博, 石神浩徳, 藪崎裕, 小林大介, 伊藤誠二, 上之園芳一, 上田修吾, 木村豊, 山口博紀, 今本治彦, 梨本篤, 古河洋, 安田卓司, 竹吉泉, 福島亮治, 小寺泰弘, 北山丈二: 根治切除可能な漿膜浸潤を伴う胃癌に対する周術期化学療法(TS-1、パクリタキセル経静脈・腹腔内投与併用療法) 第II相試験. 第115回日本外科学会定期学術集会, 2015,(名古屋),[パネルディスカッション]
- 026 川合亮佑, 安部哲也, 植村則久, 清水泰博, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 篠田雅幸: cStageII/III(nonT4)食道癌に対する術前DCF療法の治療成績. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋)

- 屋)[口演]
- 027 吉川貴己, 田邊和照, 西川和宏, 藤谷和正, 伊藤友一, 松井隆則, 林 勉, 青山 徹, 長 晴彦, 森田智視, 円谷 彰, 坂本純一: 胃癌に対する術前補助化学療法: Phase IIIで検証すべきレジメンとコース数は?. 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋)[パネルディスカッション]
- 028 小森康司: 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋)[座長]
- 029 清水泰博: 第115回日本外科学会定期学術集会,2015,(名古屋)[座長]
- 030 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史: 病理組織学的所見からみた直腸癌術後骨盤内再発の術前補助化学療法(NAC)の有効性について. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台)[シンポジウム]
- 031 清水泰博, 山上裕機, 真口宏介: “worrisome features”の治療方針-IPMN癌予測ノモグラムの診断能-. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台)[パネルディスカッション]
- 032 今岡 大, 水野伸匡, 肘岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 興儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: CEA上昇症例は高悪性度を示し予後不良である～ 切除不能膵癌における腫瘍マーカーの測定意義～. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台)[口演]
- 033 吉田 司, 肘岡 範, 堤 英治, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 興儀竜治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 当院における膵神経内分泌腫瘍に対するエベロリムスの使用成績. 第101回日本消化器病学会総会,2015,(仙台)[口演]
- 034 小森康司: 腸閉塞の徴候と対処法. 2015年度 日本オストミー協会 愛知県支部 医療講演会,2015,(名古屋), [ワークショップ]
- 035 重吉 到, 植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 川上次郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博: 食道癌サルベージ手術後胃管癌に対し幽門側胃管切除を施行した1例. 第289回東海外科学会,2015,(名古屋)[口演]
- 036 筒山将之, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川合亮佑, 浅野智成, 川上次郎, 重吉 到, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 清水泰博: 直腸癌低位前方切除術後に皮膚再発・再々発を来し、切除した1例. 第289回東海外科学会, 2015,(名古屋)[口演]
- 037 岩田至紀, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 川上次郎, 浅野智成, 倉橋真太郎, 重吉到, 筒山将之, 清水泰博, 木下 平: 退形成性膵管癌の1切除例. 第289回東海外科学会 ,2015,(名古屋)[口演]
- 038 安部哲也: 第289回東海外科学会,2015,(名古屋)[座長]
- 039 伊藤友一: 第289回東海外科学会,2015,(名古屋)[座長]
- 040 佐藤淳史, 道満恵介, 目加田慶人, 三澤一成, 森 健策: Leap Motionによる外科手術ナビゲーションシステム操作の一提案. 平成27年度日本生体医工学会東海支部大会, 2015,(名古屋)[口演]
- 041 三澤一成, 林雄一郎, 小田昌宏, 伊藤誠二, 伊藤友一, 森健策: 手術用3D表示ディスプレイを用いた腹腔鏡下手術ナビゲーションシステムの開発と臨床応用. 第54回日本生体医工学会大会,2015,(名古屋)[示説]
- 042 林 雅大, 道満恵介, 目加田慶人, 三澤一成, 森 健策: 音声操作手術ナビゲーションシステムのユーザインタフェースに関する一検討. 第54回日本生体医工学会大会, 2015,(名古屋)[示説]
- 043 林雄一郎, 三澤一成, 小田昌宏, 森 健策: 解剖学的名称表示機能を持つ腹腔鏡下手術ナビゲーションシステムに関する検討. 第54回日本生体医工学会大会,2015,(名古屋)[示説]
- 044 小森康司: 直腸がんの術式の変遷-QOL(生活の質)向上を考慮した術式とは-. 第1回平成27年度愛知県がんセンター公開講座 ,2015,(名古屋)[口演]
- 045 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 小森康司, 川合亮佑, 川上次郎, 浅野智成, 木下 平: 主膵管型IPMNの治療方針～至適切除範囲と膵全摘の要否～. 第27回肝胆膵外科学会・学術集会,2015,(東京)[パネルディスカッション]
- 046 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 小森康司, 川上次郎, 浅野智成, 木下 平: 膵頭十二指腸切除術における確実な膵空腸吻合法～soft pancreas症例に対する嵌立法～. 第27回肝胆膵外科学会・学術集会,2015,(東京)[ビデオシンポジウム]
- 047 浅野智成, 夏目誠治, 千田嘉毅, 小森康司, 川上次郎, 清水泰博: 膵頭十二指腸切除術後胆管炎の検討. 第27回肝胆膵外科学会・学術集会,2015,(東京)[示説]
- 048 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 小森康司, 川合亮佑, 川上次郎, 浅野智成, 木下 平: 膵頭十二指腸切除後、膵管チューブにおける膵液感染の臨床的意義. 第27回肝胆膵外科学会・学術集会,2015,(東京)[ワークショップ]
- 049 川合亮佑, 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 篠田雅幸: 食道癌における胸部大動脈背側領域リンパ節転移症例の検討. 第58回関西胸部外科学会学術集会,2015,(岡山)[口演]
- 050 小森康司: 第64回東海ストーマ・排泄リハビリテーション研究会,2015,(岐阜市)[座長]
- 051 岩田至紀, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史: 当科における一時的回腸双孔式人工肛門造設の工夫. 第64回東海ストーマ・排泄リハビリテーション研究会,2015,(岐阜)[口演]
- 052 吉田 司, 肘岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 興儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: エベロリムスの二次以降治療の有用性に関する検討. 第46回膵臓学会大会,2015,(名古屋)[パネルディスカッション]
- 053 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 水野伸匡, 原 和生, 肘岡 範, 今岡 大, 山雄健次: 膵頭十二指腸切除術における膵空腸吻合法の工夫～ soft pancreas 症例に対する陥入法. 第46回膵臓学会大会,2015,(名古屋)[ビデオシンポジウム]

- 054 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 水野伸匡, 原 和生, 肘岡 範, 今岡 大, 山雄健次: 主膵管型IPMNの膵切除範囲と術後経過〜残膵再発の観点から〜. 第46回膵臓学会大会, 2015,(名古屋).[パネルディスカッション]
- 055 與儀竜治, 肘岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 堤英治, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 長期follow-upに基づいたIPMN再発因子の検討. 第46回膵臓学会大会, 2015,(名古屋).[口演]
- 056 肘岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 吉田 司, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 細田和貴, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 丹羽康正, 山雄健次: TS1a膵癌の臨床病理学的検討. 第48回膵臓学会大会, 2015,(名古屋).[口演]
- 057 佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 肘岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 吉田 司, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 非切除膵癌における内視鏡的Double stenting の検討. 第46回膵臓学会大会, 2015,(名古屋).[口演]
- 058 堤 英治, 肘岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 膵神経内分泌腫瘍の転移に関連する臨床病理学的検討. 第46回膵臓学会大会, 2015,(名古屋).[口演]
- 059 與儀竜治, 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 肘岡 範, 堤英治, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 主膵管狭窄と尾側膵管の嚢状拡張を伴った膵神経内分泌腫瘍の1例. 第46回膵臓学会大会, 2015,(名古屋).[示説]
- 060 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 肘岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: GemおよびS-1に不応となった転移性膵癌に対しmFOLFIRINOX 療法が奏効を示した2例. 第46回膵臓学会大会, 2015,(名古屋).[示説]
- 061 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 肘岡 範, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 切除不能進行膵腺扁平上皮癌に対する予後の検討(膵管癌との比較を中心に). 第46回膵臓学会大会, 2015,(名古屋).[口演]
- 062 筒山将之, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川合亮佑, 浅野智成, 川上次郎, 重吉 到, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 清水泰博: 腫瘍径5mmのT1膵癌の1切除例. 第回日本消化器病学会東海支部第122回例会, 2015,(津).[口演]
- 063 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 岩田至紀: 大腸癌の希少転移再発病変-皮膚転移(同時性, 異時性)に対する当科の治療方針. 第83回大腸癌研究会, 2015,(久留米).[示説]
- 064 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 川上次郎, 篠田雅幸: 食道癌術後乳糜胸に対するリビオドールリンパ管造影を軸とした治療戦略. 第69回日本食道学会学術集会, 2015,(横浜), [ワークショップ]
- 065 植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 川上次郎, 室 圭, 宇良 敬, 門脇重憲, 丹羽康正, 田近正洋, 篠田雅幸: 食道癌における術前DCF療法無効例の選別. 第69回日本食道学会学術集会, 2015,(横浜).[示説]
- 066 川合亮佑, 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 丹羽康正, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 篠田雅幸: 当院における胃管癌の検討. 第69回日本食道学会学術集会, 2015,(横浜).[示説]
- 067 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 重吉 到, 小森康司, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 清水泰博, 篠田雅幸: 食道胃接合部に発生した平滑筋腫に対し経裂孔核出術・Toupet噴門形成を施行した1例. 第69回日本食道学会学術集会, 2015,(横浜).[示説]
- 068 清水泰博: 第70回日本消化器外科学会総会, 2015,(浜松).[座長]
- 069 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史: 膵癌手術における術中腹腔洗浄細胞診の臨床的意義. 第70回日本消化器外科学会総会, 2015,(浜松).[口演]
- 070 植村則久, 安部哲也, 川合亮佑, 川上次郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 清水泰博, 篠田雅幸: 胸腔鏡下食道切除術におけるエネルギーデバイスの使い分け. 第70回日本消化器外科学会総会, 2015,(浜松).[ビデオ]
- 071 木村賢哉, 小森康司, 木下敬史, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 清水泰博: cT2以上の下部直腸癌に対する側方郭清を伴う根治手術成績の検討. 第70回日本消化器外科学会総会, 2015,(浜松).[口演]
- 072 伊藤友一, 筒山将之, 伊藤誠二, 三澤一成, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 当院におけるconversion surgeryの治療成績. 第70回日本消化器外科学会総会, 2015,(浜松).[示説]
- 073 重吉 到, 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博: 右側から行う横行結腸癌に対する腹腔鏡下結腸切除術のリンパ節郭清手技. 第70回日本消化器外科学会総会, 2015,(浜松).[ビデオ]
- 074 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 植村則久, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 術後合併症の発生からみた高齢者胃癌外科治療の現況と問題点. 第70回日本消化器外科学会総会, 2015,(浜松).[口演]
- 075 川合亮佑, 安部哲也, 植村則久, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 小森康司, 伊藤誠二, 篠田雅幸, 清水泰博: 胸部食道癌切除後胸骨後胃管再建における吻合部トラブルを減らすための工夫. 第70回日本消化器外科学会総会, 2015,(浜松).[口演]
- 076 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 清水泰博: 右側結腸癌に対する適切なリンパ節郭清. 第70回日本消化器外科学会総会, 2015,(浜松).[口演]
- 077 浅野智成, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 清水泰博: 膵頭



- 十二指腸切除術後胆管空腸吻合部狭窄は術後定期検査から予測可能か. 第70回日本消化器外科学会総会,2015,(浜松),[口演]
- 078 倉橋真太郎, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 佐野 力, 清水泰博: 80歳以上の高齢者に対する膵頭十二指腸切除術の安全性の検討. 第70回日本消化器外科学会総会,2015,(浜松),[口演]
- 079 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 岩田至紀, 清水泰博, 篠田雅幸: 食道癌手術における術前化学療法前後の骨格筋減少と術後合併症の検討. 第70回日本消化器外科学会総会,2015,(浜松),[口演]
- 080 夏目誠治, 清水泰博, 浅野智成, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉: 胆管空腸吻合部狭窄を伴わない膵頭十二指腸切除術後胆管炎の検討. 第70回日本消化器外科学会総会,2015,(浜松),[口演]
- 081 小森康司: 第70回日本消化器外科学会総会,2015,(浜松),[座長]
- 082 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 清水泰博: 隣接臓器合併切除を施行した直腸癌(T4b)症例の時代的予後改善の検討. 第70回日本消化器外科学会総会,2015,(浜松),[口演]
- 083 筒山将之, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 清水泰博: 当院における側方リンパ節転移陽性直腸癌症例の検討. 第70回日本消化器外科学会総会,2015,(浜松),[口演]
- 084 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 清水泰博: 大腸癌肝転移に対する化学療法および休薬によるICGの変化. 第70回日本消化器外科学会総会,2015,(浜松),[口演]
- 085 岩田至紀, 木下敬史, 木村賢哉, 小森康司, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 重吉 到, 筒山将之, 赤澤智之, 林 大介, 清水泰博: 上行結腸癌腫転移の1切除例. 第44回愛知臨床外科学会,2015,(名古屋),[口演]
- 086 重吉 到, 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博: 内視鏡的切除術後に頸部リンパ節転移を来した4mm大のpT1a食道癌の1例. 第44回愛知臨床外科学会,2015,(名古屋),[口演]
- 087 安部哲也: 両側肺換気・気胸を用いた腹臥位胸腔鏡下食道切除術-拡大視による縦隔微細解剖を意識した手術-. 第44回愛知臨床外科学会,2015,(名古屋),[ランチョンセミナー]
- 088 北坂孝幸, 池井友啓, 林 祐斗, 八重嶋秀, 澤野弘明, 水野慎士, 末永康仁, 三澤一成, 森 健策: 開腹手術映像からの遮蔽物除去手法の基礎的検討. 電子情報通信学会技術研究会,2015,(苫小牧),[口演]
- 089 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博, 木下 平: 胃癌Reduced Port Surgeryにおける臍切開の工夫-zigzag切開と横切開-. 4th Reduced Port Surgery Forum 2015 in Akita 第9回単孔式内視鏡手術研究会 第13回Needlescopic Surgery Meeting,2015,(秋田),[シンポジウム]
- 090 唐澤健一, 小田昌宏, 林雄一郎, 二村幸孝, 北坂孝幸, 三澤一成, 藤原道隆, 森 健策: 3次元腹部造影CT像からの膵臓セグメンテーションにおける線状構造情報を用いた患者固有アトラス選択の有効性に関する検討. 第34回日本医用画像工学会大会,2015,(金沢),[口演]
- 091 中村嘉彦, 二村幸孝, 小田昌宏, 北坂孝幸, 古川和宏, 後藤 秀実, 藤原道隆, 三澤一成, 森 健策: 複数検出手法の統合による3次元腹部X線CT像からの腹部リンパ節検出手法の精度向上. 第34回日本医用画像工学会大会,2015,(金沢),[口演]
- 092 林雄一郎, 森田千尋, 三澤一成, 森 健策: 腹腔鏡下手術ナビゲーションシステムにおける臓器と血管の情報に基づく位置合わせ手法の検討. 第34回日本医用画像工学会大会,2015,(金沢),[口演]
- 093 加賀城充, 中村嘉彦, 林雄一郎, 小田昌宏, 北坂孝幸, 三澤一成, 森 健策: 臓器情報に基づくルールベースの後処理による腹部動脈に対する解剖学的名称の自動対応付け精度向上. 第34回日本医用画像工学会大会,2015,(金沢),[口演]
- 094 孟 晨, 小田紘久, 二村幸孝, 小田昌宏, 北坂孝幸, 中村嘉彦, 三澤一成, 森 健策: 球状モデルを用いた腹部CT像からのリンパ節自動検出手法の検討. 第34回日本医用画像工学会大会,2015,(金沢),[口演]
- 095 水谷友一, 佐藤梨果, 道満恵介, 目加田慶人, 三澤一成, 森 健策: SURF特徴量の照合による腹腔鏡手術映像へのタグ付け. 第34回日本医用画像工学会大会,2015,(金沢),[口演]
- 096 北坂孝幸, 池井友啓, 林 祐斗, 八重嶋秀, 澤野弘明, 水野慎士, 末永康仁, 三澤一成: 開腹手術映像における遮蔽物除去手法の高精度化. 第34回日本医用画像工学会大会,2015,(金沢),[口演]
- 097 寶珠山裕, 二村幸孝, 小田昌宏, 三澤一成, 藤原道隆, 森 健策: 深層学習を用いたCT像からのリンパ節検出における過検出削減に関する検討. 第34回日本医用画像工学会大会,2015,(金沢),[口演]
- 098 小森康司: 大腸がんについての講義(癌学会共催企画). 第74回平成27年度 高校生向け基礎実験体験講座,2015,(名古屋), [特別講演]
- 099 小森康司: 消化管ストーマ造設法と合併症、直腸癌手術の実際. 第27回東海ストーマリハビリテーション講習会,2015,(浜松),[口演]
- 100 筒山将之, 千田嘉毅, 夏目誠治, 清水泰博, 水野伸匡, 原和生, 肘岡 範, 今岡 大, 山雄健次: 鑑別に苦慮した胃癌術後の膵頭部嚢胞性腫瘍の1例. 第51回肝胆膵治療研究会,2015,(名古屋),[口演]
- 101 清水泰博: 第51回肝胆膵治療研究会,2015,(名古屋),[座長]
- 102 岩田至紀, 夏目誠治, 千田嘉毅, 筒山将之, 清水泰博: 通常型膵癌切除後に発生した残膵癌の4切除例. 第42回日本膵切研究会,2015,(大阪),[示説]
- 103 筒山将之, 夏目誠治, 千田嘉毅, 岩田至紀, 清水泰博: 当院における腹腔洗浄細胞診陽性膵癌の検討. 第42回日本膵切研究会,2015,(大阪),[示説]
- 104 清水泰博: 第42回日本膵切研究会,2015,(大阪),[座長]

- 105 奥野のぞみ, 原 和生, 水野伸匡, 肘岡 範, 今岡 大, 吉田 司, 稗田信弘, 清水泰博, 谷田部恭, 山雄健次: 重複癌(広範な胆管進展を伴った肝門部胆管癌と胆嚢癌)の1例. 第63回日本消化器画像診断研究会,2015.(鎌倉),[口演]
- 106 鳥山和浩, 肘岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 吉田 司, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 徳久順也, 近藤 尚, 鈴木博貴, 藤田 曜, 安部哲也, 室 圭, 古平 毅, 谷田部恭, 山雄健次, 丹羽康正: 当院における食道神経内分泌癌に関する検討. 第3回神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2015.(仙台),[示説]
- 107 吉田 司, 肘岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 当院における膵神経内分泌腫瘍の予後の検討. 第3回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会,2015.(仙台),[示説]
- 108 佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 肘岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 吉田 司, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 内視鏡的Double stentingにおける胆道stent dysfunctionの検討. 第51回日本胆道学会学術集会,2015.(宇都宮),[口演]
- 109 清水泰博: 第51回日本胆道学会学術集会,2015.(宇都宮),[座長]
- 110 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 千田嘉毅, 夏目誠治, 清水泰博, 山雄健次: 十二指腸乳頭部NETの5切除例. 第51回日本胆道学会学術集会,2015.(宇都宮),[示説]
- 111 夏目誠治, 千田嘉毅, 小森康司, 原 和生, 肘岡 範, 山雄健次, 清水泰博: 膵頭十二指腸切除術における連続縫合による胆管空腸吻合の成績. 第51回日本胆道学会学術集会, 2015.(宇都宮),[口演]
- 112 脇岡 範, 原 和生, 清水泰博: 臨床病理学的特徴から見えてくる1 cm以下(TS1a)膵癌の診断方法. 第57回日本消化器病学会大会JDDW2015TOKYO第23回日本消化器関連学会週間,2015.(東京),[パネルディスカッション]
- 113 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川合亮佑, 清水泰博: 当院における-腹腔吊り上げ式側方リンパ節郭清-の問題点. 第13回日本消化器外科学会大会JDDW2015TOKYO第23回日本消化器関連学会週間,2015.(東京),[示説]
- 114 今岡 大, 水野伸匡, 稗田信弘, 肘岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 吉田 司, 奥野のぞみ, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 膵癌遠隔転移症例におけるfibrinogenの予後への影響~ Propensity score matchingを用いた検討~. 第57回日本消化器病学会大会JDDW2015 TOKYO 第23回日本消化器関連学会週間,2015.(東京),[示説]
- 115 佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 肘岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 吉田 司, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 長期成績からみた超音波内視鏡下胆管十二指腸吻合術(EUS-CDS)の有用性~first line biliary drainageになり得るか?. 第57回日本消化器病学会大会JDDW2015TOKYO第23回日本消化器関連学会週間,2015.(東京),[示説]
- 116 伊藤 雅昭, 赤須孝之, 佐々木有佑, 小島 宏, 松田圭二, 中森正二, 小森康司, 齋藤典男: Stage III大腸癌における術後UFT療法の効果とKRAS/NRAS遺伝子変異の関係: NSAS-CC/RC試験からの研究. 第13回日本消化器外科学会大会JDDW2015TOKYO第23回日本消化器関連学会週間, 2015.(東京),[示説]
- 117 林 大介, 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博, 木下 平: 食道癌術後頸部食道傍リンパ節再発切除においてNerve Integrity Monitorシステムが反回神経同定に有用であった1例. 第290回東海外科学会,2015.(浜松),[口演]
- 118 岩田至紀, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 重吉 到, 筒山将之, 赤澤智之, 林 大介, 清水泰博: 膿瘍形成性直腸癌に対し術前化学療法後に根治切除した1例. 第290回東海外科学会,2015.(浜松),[口演]
- 119 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 岩田至紀, 筒山将之, 重吉 到, 赤澤智之, 林 大介, 大内 晶, 清水泰博: 当院における開腹による脾彎曲部授動の手術手技. 第34回東海大腸外科治療研究会, 2015.(名古屋),[口演]
- 120 中山裕史, 中山吾郎, 上原圭介, 大河内治, 近藤千紘, 松岡 浩, 宇都宮節夫, 坂本英至, 奥村徳夫, 梅田晋一, 澤田 武, 小森康司, 谷口浩也, 室 圭, 谷田部恭: 愛知大腸がん遺伝子プロファイル研究(1)原発部位と遺伝子変異の関連. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015.(京都),[ワークショップ]
- 121 谷口浩也, 中山裕史, 高野奈緒, 上原圭介, 鹿野敏雄, 石樽 清, 横山裕之, 田近正洋, 小森康司, 室 圭, 柴田典子, 谷田部恭: ゲノムスクリーニングネットワークの将来像-愛知大腸がん遺伝子プロファイル研究(2). 第53回日本癌治療学会学術集会,2015.(京都),[ワークショップ]
- 122 今岡 大, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 水野伸匡, 肘岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 丹羽康正, 山雄健次: 膵癌術後補助化学療法後のCA19-9値は予後予測に有用である. 第53回日本癌治療学会学術集会, 2015.(京都),[ワークショップ]
- 123 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 八重樫裕, 長谷川洋子, 清水泰博, 木下 平: 食道切除後障害の評価と食事指導へのPGSASの応用. 第45回胃外科・術後障害研究会,2015.(名古屋),[口演]
- 124 重吉 到, 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 清水泰博, 木下 平: 当院における幽門保存胃切除例と幽門側胃切除例との比較. 第45回胃外科・術後障害研究会,2015.(名古屋),[口演]
- 125 伊藤誠二: 第45回胃外科・術後障害研究会,2015.(名古屋),[座長]
- 126 三澤一成: 第45回胃外科・術後障害研究会,2015.(名古屋),[座長]

- 長]
- 127 伊藤友一：第45回胃外科・術後障害研究会,2015,(名古屋),[座長]
- 128 小森康司, 濱口哲弥, 島田安博, 金光幸秀, 杉田 昭, 西村 淳, 宗像康博, 池田 聡, 山口茂樹, 村田幸平, 寺石文則, 加藤健志, 富田尚裕, 赤木由人, 高橋孝夫, 工藤進英, 猪股雅史, 松田 宙, 岡島正純, 前田耕太郎(JCOG大腸がんグループ): III期治癒切除大腸癌に対する術後補助化学療法としてのcapecitabine療法とS-1療法のランダム化第Ⅲ相比較試験(JCOG0910)Randomized phaseⅢstudy of adjuvant chemotherapy with S-1 versus capecitabine in patients with stageⅢ colon cancer: Results of Japan Clinical Oncology Group Study(JCOG0910). 第70回日本大腸肛門病学会,2015,(名古屋),[シンポジウム]
- 129 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉: 腹腔鏡下結腸切除術における中結腸動脈領域のリンパ節郭清手技. 第70回日本大腸肛門病学会,2015,(名古屋),[口演]
- 130 小森康司: 第70回日本大腸肛門病学会,2015,(名古屋),[座長]
- 131 岩田至紀, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史: 一時的回腸双孔式人工肛門の合併症 Complications of Diverting Ileostomy. 第70回日本大腸肛門病学会,2015,(名古屋),[シンポジウム]
- 132 木村賢哉, 木下敬史, 小森康司: cT3下部直腸癌に対する開腹による側方郭清を伴う根治手術成績の検討. 第70回日本大腸肛門病学会,2015,(名古屋),[口演]
- 133 井上靖浩, 上野秀樹, 小林宏寿, 小西 毅, 石田文生, 山口達郎, 檜井孝夫, 金光幸秀, 富田 尚, 小森康司, 固武健二郎, 永坂岳司, 長谷川博俊, 小山 基, 渡邊聡明, 杉原健一, 楠 正人, 石田秀行: 本邦における家族性大腸腺腫症を背景とした大腸癌治療の現状. 第70回日本大腸肛門病学会学術集会,2015,(名古屋),[口演]
- 134 山寺勝人, 上野秀樹, 小林宏寿, 小西 毅, 石田文生, 山口達郎, 檜井孝夫, 井上靖浩, 金光幸秀, 富田尚裕, 小森康司, 固武健二郎, 永坂岳司, 長谷川博俊, 小山 基, 渡邊聡明, 杉原健一, 石田秀行, 大腸癌研究会家族性大腸癌委員会: 本邦における家族性大腸腺腫症に対する腹腔鏡下大腸切除の現状. 第70回日本大腸肛門病学会学術集会,2015,(名古屋),[口演]
- 135 山口達郎, 上野秀樹, 小林宏寿, 小西 毅, 石田文夫, 檜井孝夫, 井上靖浩, 金光幸秀, 小山 基, 渡邊聡明, 杉原健一, 富田尚裕, 小森康司, 固武健二郎, 永坂岳司, 長谷川博俊, 石田秀行, 大腸癌研究会家族性大腸癌委員会: 家族性大腸腺腫症における上部消化管病変. 第70回日本大腸肛門病学会学術集会,2015,(名古屋),[口演]
- 136 鳥山和浩, 肘岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 大瀬戸久美子, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 千田嘉毅, 夏目誠治, 田近正洋, 清水泰博, 山雄健次, 丹羽康正: 隣神経内分泌腫瘍を契機に発端者として診断に至った多発性内分泌腫瘍症1型の2例. 日本消化器病学会東海支部第123回例会,2015,(名古屋),[口演]
- 137 藤田 曜, 肘岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 丹羽康正, 山雄健次: 化学療法が著効し、根治的手術を施行し得たStageⅣ隣癌の2例. 日本消化器病学会東海支部第123回例会,2015,(名古屋),[口演]
- 138 森田千尋, 林雄一郎, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策: 腹腔鏡下手術ナビゲーションにおける非剛体レジストレーションを利用した術中の位置合わせに関する検討. 第24回日本コンピューター外科学会大会,2015,(東京),[口演]
- 139 林雄一郎, 三澤一成, 森 健策: 3次元画像を用いた開腹手術の手術ナビゲーションシステムにおける手術支援画像の提示法の検討. 第24回日本コンピューター外科学会大会,2015,(東京),[口演]
- 140 林 雅大, 道満恵介, 目加田慶人, 三澤一成, 森 健策: 音声操作手術ナビゲーションシステムのための血管観察視点位置の自動決定法に関する検討. 第24回日本コンピューター外科学会大会,2015,(東京),[口演]
- 141 長柄 快, 柴田睦実, 清水南月, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策: 腹腔鏡手術ナビゲーションシステムのための軟性鏡カメラ方向測定装置の開発. 第24回日本コンピューター外科学会大会,2015,(東京),[口演]
- 142 三澤一成: 第24回日本コンピューター外科学会大会,2015,(東京),[座長]
- 143 加賀城充, 小田昌宏, 林雄一郎, 北坂孝幸, 三澤一成, 森 健策: 条件付き確率場を用いた腹部動脈の血管名自動対応付け. 第24回日本コンピューター外科学会大会,2015,(東京),[口演]
- 144 孟 晨, 二村幸孝, 小田昌宏, 北坂孝幸, 中村嘉彦, 三澤一成, 森 健策: 3次元腹部CT像からのリンパ節抽出における特微量計算のための球状モデルの利用. 第24回日本コンピューター外科学会大会,2015,(東京),[口演]
- 145 寶珠山裕, 二村幸孝, 小田昌宏, 三澤一成, 藤原道隆, 森 健策: 深層学習を用いた3次元腹部CT像からのリンパ節抽出における過検出削減に関する検討-学習データの人工生成が過検出削減に与える影響-.第24回日本コンピューター外科学会大会,2015,(東京),[口演]
- 146 木村賢哉, 小森康司, 木下敬史, 川上次郎, 植村則久, 夏目誠治, 伊藤友一, 三澤一成, 千田嘉毅, 安部哲也, 伊藤誠二, 清水泰博: 下部進行直腸癌に対する側方郭清を伴う根治手術成績の検討. 第77回日本臨床外科学会総会,2015,(福岡),[口演]
- 147 岩田至紀, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 一時的回腸人工肛門造設の工夫と成績. 第77回日本臨床外科学会総会,2015,(福岡),[口演]
- 148 筒山将之, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 安部哲也, 小森康司, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎: 当院における腹腔洗浄細胞診陽性隣癌の検討. 第77回日本臨床外科学会総会,2015,(福岡),[口演]
- 149 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 重吉 到, 筒山将之, 林 大介: 80歳以上高齢者に対する隣頭十二指腸切除術の安全性と意義. 第77回日本臨床外科学会総会,2015,(福岡),[シンポジウム]



- 150 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 木下平: 臍頭十二指腸切除術における臍空腸吻合法の工夫～soft pancreasに対する陥入法の有用性～. 第77回日本臨床外科学会総会,2015,(福岡)[シンポジウム]
- 151 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 岩田至紀, 筒山将之, 重吉 到, 清水泰博: 直腸癌術後骨盤内再発の術前補助化学療法(NAC)の有用性について-病理組織外科的所見から検討-. 第77回日本臨床外科学会総会,2015,(福岡)[パネルディスカッション]
- 152 清水泰博: 第77回日本臨床外科学会総会,2015,(福岡)[座長]
- 153 林 大介, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 重吉 到, 筒山将之, 清水泰博: 当院における開腹尾側脾切除術後脾液瘻危険因子の検討. 第77回日本臨床外科学会総会,2015,(福岡)[口演]
- 154 重吉 到, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 岩田至紀, 筒山将之, 清水泰博: 当院における高齢者脾癌手術症例の検討. 第77回日本臨床外科学会総会,2015,(福岡)[口演]
- 155 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 林 大介, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博: 胸部食道癌における術後体重減少の推移とリスク因子の検討. 第77回日本臨床外科学会総会,2015,(福岡)[口演]
- 156 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 当院における腹腔鏡下大腸切除～安全な切離・吻合のための工夫～. 第77回日本臨床外科学会総会,2015,(福岡)[口演]
- 157 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 木下平: 主膵管型IPMNの治療成績-脾切除範囲と脾全摘の要否について-. 第77回日本臨床外科学会総会,2015,(福岡)[パネルディスカッション]
- 158 安部哲也: 第29回日本内視鏡外科学会総会,2015,(大阪)[座長]
- 159 岩田至紀, 小森康司, 木村賢哉, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 筒山将之, 清水泰博: 腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術を施行した乳房外Paget病の1例とPagetoid spreadを伴う直腸癌の1例. 第28回日本内視鏡外科学会総会,2015,(大阪),[口演]
- 160 川合亮佑, 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博: 横隔膜上憩室内早期食道癌を胸腔鏡下に切除した1例. 第28回日本内視鏡外科学会総会, 2015,(大阪),[口演]
- 161 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 林 大介, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木下敬史, 夏目誠治, 清水泰博: 腹臥位胸腔鏡下食道癌手術の上縦隔郭清におけるポート配置の工夫. 第28回日本内視鏡外科学会総会,2015,(大阪),[口演]
- 162 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 川上次郎, 植村則久, 夏目誠治, 木下敬史, 木村賢哉, 千田嘉毅, 安部哲也, 小森康司, 清水泰博: 腹腔鏡下胃切除術に適した簡便な肝挙上法(PROLENE hanging(PH)法). 第28回日本内視鏡外科学会総会,2015,(大阪),[口演]
- 163 伊藤誠二: 第28回日本内視鏡外科学会総会,2015,(大阪)[座長]
- 164 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 小森康司, 伊藤誠二, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 清水泰博: 拡大視による縦隔微細解剖に基づいた左上縦隔郭清-出血の少ない, 安全で根治性の高い郭清のために-. 第28回日本内視鏡外科学会総会,2015,(大阪),[口演]
- 165 木下敬史, 木村賢哉, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 横行結腸癌に対するリンパ節郭清の定型化. 第28回日本内視鏡外科学会総会,2015,(大阪),[口演]
- 166 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史: 括約筋間直腸切除術(ISR)の予後の検討-特にsurgical marginを中心に病理組織学的所見から-. 第84回大腸癌研究会, 2016,(熊本),[示説]
- 167 唐澤健一, 小田昌宏, 北坂孝幸, 花岡昇平, 林雄一郎, 二村幸孝, 三澤一成, 藤原道隆, 森 健策: 解剖学的ランドマークに基づく自動臓器局所化とその脾臓セグメンテーションへの応用. 電子情報通信学会技術研究報告会, 2016,(那覇),[ワークショップ]
- 168 加賀城充, 二村幸孝, 林雄一郎, 小田昌宏, 北坂孝幸, 三澤一成, 森 健策: 条件付き確率率を利用した腹部動脈および肝門脈系の血管名自動対応付け. 電子情報通信学会技術研究報告会, 2016,(那覇),[ワークショップ]
- 169 森田千尋, 林雄一郎, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策: 腹腔鏡下手術ナビゲーションシステムにおける臓器表面形状を用いた術中の非剛体レジストレーションに関する検討. 電子情報通信学会技術研究報告会, 2016,(那覇),[ワークショップ]
- 170 千田嘉毅: 第45回愛知臨床外科学会,2016,(名古屋),[座長]
- 171 筒山将之, 安部哲也, 植村則久, 川上次郎, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 岩田至紀, 重吉 到, 赤澤智之, 林 大介, 清水泰博: 食道癌ESD後下縦隔リンパ節再発に対して非開胸気縦隔下食道切除術を施行した1例. 第45回愛知臨床外科学会, 2016,(名古屋),[口演]
- 172 林 大介, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博, 木下平: 胃悪性リンパ腫に合併し深達度・リンパ節転移度診断に苦慮した早期胃癌の1例. 第45回愛知臨床外科学会, 2016,(名古屋),[口演]
- 173 重吉 到, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 清水泰博: 腹膜播種を伴う脾体部癌に対

- しGemcitabine投与し切除した一例. 第45回愛知臨床外科学会, 2016,(名古屋),[口演]
- 174 岩田至紀, 三澤一成, 伊藤友一, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 千田嘉毅, 木村賢哉, 木下敬史, 植村則久, 川上次郎, 木下平: 腹腔鏡下胃切除術における肝圧排法 (PROLENE hanging(PH)法). 第45回愛知臨床外科学会, 2016,(名古屋),[口演]
- 175 大内 晶, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 右横隔膜に孤立性腹膜播種再発をきたした盲腸癌の1例. 第45回愛知臨床外科学会, 2016,(名古屋),[口演]
- 176 赤澤智之, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 清水泰博: 乳癌術後に発生した後腹膜神経鞘腫の1切除例. 第45回愛知臨床外科学会, 2016,(名古屋),[口演]
- 177 安形真由美, 伊藤理恵, 榎原由美子, 小島 瞳, 佐々木照美, 小森康司, 木下敬史: 対麻痺を生じた患者のQOL向上を目的としたストーマ造設について. 第33回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会,2016,(甲府),[示説]
- 178 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 岩田至紀, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川上次郎, 筒山将之, 重吉 到, 赤澤智之, 林 大介, 清水泰博: 大腸癌術後における皮膚再発の検討. 第12回日本消化管学会総会学術集会, 2016,(東京),[口演]
- 179 吉田 司, 肘岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 夏目誠治, 橋本光義, 谷田部恭, 清水泰博, 山雄健次: 膵管内進展を伴った膵神経内分泌腫瘍の1例. 第64回日本消化器画像診断研究会,2016,(名古屋),[口演]
- 180 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 岩田至紀, 筒山将之, 重吉 到, 赤澤智之, 林 大介, 清水泰博: 側方郭清を伴う腹会陰式直腸切断術後、人工肛門造設経路(後腹膜)に起因する腸閉塞の検討. 第52回日本腹部救急医学会総会, 2016,(東京),[口演]
- 181 張 曉楠, 加賀城充, 小田昌宏, 三澤一成, 森 健策: 腹部動脈の血管名自動対応付けにおける分岐パターンを考慮した機械学習の利用の検討. 2016年電子情報通信学会技術研究報告会,2016,(福岡),[口演]
- 182 伊藤友一, 伊藤誠二, 三澤一成, 田近正洋, 清水泰博, 木下平: 胃癌内視鏡治療非治療切除後の外科切除症例に関する検討. 第88回日本胃癌学会総会, 2016,(別府),[示説]
- 183 岩田至紀, 伊藤誠二, 三澤一成, 伊藤友一, 清水泰博, 木下平: 残胃の癌の検討. 第88回日本胃癌学会総会,2016,(別府),[示説]
- 184 成田有季哉, 長谷川裕子, 門脇重憲, 谷口浩也, 宇良 敬, 安藤正志, 田近正洋, 伊藤誠二, 谷田部恭, 室 圭: 切除不能進行再発食道胃接合部腺癌の予後. 第88回日本胃癌学会総会, 2016,(別府),[示説]
- 185 伊藤誠二: 胃癌化学療法の今後は? -Future Perspective of Gastric Cancer Chemotherapy-. 第88回日本胃癌学会総

会, 2016,(別府),[ランチョンセミナー]

- 186 望月能成, 小林大介, 石樽 清, 中山裕史, 森岡裕貴, 伊藤誠二, 小島 宏, 小寺泰弘: 胃癌に対する胃切除後早期からの経口栄養補助療法の意義について. 第88回日本胃癌学会総会, 2016,(別府),[パネルディスカッション]
- 187 筒山将之, 伊藤誠二, 伊藤友一, 木下平: 当院におけるconversion surgeryの治療成績. 第88回日本胃癌学会総会, 2016,(別府),[示説]
- 188 伊藤誠二, 伊藤友一, 三澤一成, 清水泰博, 木下平: P0CY1症例の手術適応. 第88回日本胃癌学会総会,2016,(別府),[示説]
- 189 三澤一成, 伊藤誠二, 伊藤友一, 松井隆則, 廣田政志, 小島 宏, 清水泰博, 木下平: CS再建による腹腔鏡下胃全摘・噴門側胃切除の導入期の安全性に関する前向き第II相試験の成績. 第88回日本胃癌学会総会, 2016,(別府),[示説]
- 190 千田嘉毅: 第52回肝胆膵治療研究会, 2016,(名古屋),[座長]
- 191 重吉 到, 夏目誠治, 千田嘉毅, 清水泰博: Conversion surgeryを行った膵癌症例の検討. 第52回肝胆膵治療研究会, 2016,(名古屋),[口演]

#### 整形外科部

- 001 *Tsukushi S, Yoshida M, Hasegawa H, Ueda T, Nishida Y, Ishiguro N*: Planned preservation surgery for soft tissue sarcomas adjacent to critical structures. 2015ISOLS&MSTS,2015,(フロリダ),[ポスター]
- 002 *Tsukushi S, Yoshida M, Hasegawa H, Ueda T, Nishida Y, Ishiguro N*: Posterior flap location and larger tumor size( $\geq 10$ ) were significant risk factors for morbidity after microvascular free flap surgery in musculoskeletal sarcomas. 2015ISOLS&MSTS,2015,(フロリダ),[ポスター]
- 003 兵藤伊久夫, 奥村誠子, 内堀貴文, 山田健志, 杉浦英志, 亀井 譲: 背部軟部悪性腫瘍切除後の欠損に対し広背筋V-Y進展皮弁による再建を行った1例. 第58回日本形成外科学会総会・学術集会,2015,(京都),[口演]
- 004 吉田雅博, 杉浦英志, 長谷川弘晃: Pazopanibが著効した血管肉腫の1例. 第124回中部日本整形外科災害外科学会, 2015,(金沢),[口演]
- 005 筑紫 聡, 西田佳弘, 高橋 満, 杉浦英志, 石黒直樹: clavica pro humero法による再建術後の合併症とその対策. 第124回中部日本整形外科災害外科学会,2015,(金沢),[口演]
- 006 杉浦英志, 吉田雅博, 長谷川弘晃, 西田佳弘, 濱田俊介, 山田健志, 和佐潤志: 転移性骨腫瘍の手術適応—当院での治療成績を中心に—. 第88回日本整形外科学会学術総会, 2015,(神戸),[口演]
- 007 杉浦英志, 吉田雅博, 長谷川弘晃, 安藤正志, 西田佳弘, 筑紫 聡, 山田健志, 山田芳久: 進行性, 再発性軟部肉腫に対するパゾパニブの治療効果と投与量についての検討. 第88回日本整形外科学会学術総会,2015,(神戸),[口演]

- 008 大田剛広, 杉浦英志, 山田健志, 山田芳久, 筑紫 聡, 浦川 浩, 小澤英史, 生田国大, 濱田俊介, 石黒直樹, 西田佳弘: PVNS90例における治療成績の検討. 第88回日本整形外科学会学術総会,2015,(神戸),[口演]
- 009 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博, 稲葉吉隆, 清水泰博: 肝細胞癌の骨転移病変に対する臨床的特徴. 第88回日本整形外科学会学術総会,2015,(神戸),[口演]
- 010 長谷川弘晃: 大腿部皮下に発生した粘液線維肉腫の1例. 第6回自由ヶ丘整形医会,2015,(名古屋),[口演]
- 011 吉田雅博: 手指発生血管腫の1例. 第6回自由ヶ丘整形医会,2015,(名古屋),[口演]
- 012 山田健志, 中西速夫, 杉浦英志, 谷田部恭: 骨盤悪性骨腫瘍の1例. 第48回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2015,(高松),[症例検討会]
- 013 杉浦英志, 吉田雅博, 長谷川弘晃, 西田佳弘, 山田健志, 山田芳久, 中島浩敦, 米川正洋, 中西啓介, 高橋 満: 加温処理骨を用いた患肢温存術の術後10年以上の長期治療成績. 第48回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会,2015,(高松),[口演]
- 014 吉田雅博, 杉浦英志, 長谷川弘晃: 軟部肉腫の術前照射による縮小手術についての検討. 第48回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会,2015,(高松),[シンポジウム]
- 015 中村知樹, 松峯昭彦, 山田 聡, 筑紫 聡, 河南勝久, 大野貴敏, 片桐浩久, 杉浦英志, 山田健志, 山田芳久, 西田佳弘, 須藤啓広: 四肢発生軟骨肉腫の肺転移症例の予後調査: 東海骨軟部コンソーシアム共同研究. 第48回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会,2015,(高松),[口演]
- 016 大田剛広, 杉浦英志, 山田健志, 山田芳久, 筑紫 聡, 浦川 浩, 小澤英史, 生田国大, 濱田俊介, 石黒直樹, 西田佳弘: 上腕部, 前腕部軟部肉腫における治療成績の検討. 第48回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会,2015,(高松),[口演]
- 017 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博: 骨・軟部肉腫におけるECRIと病理組織学的術前治療効果判定との関連性についての検討. 第48回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2015,(高松),[口演]
- 018 生田国大, 杉浦英志, 筑紫 聡, 浦川 浩, 小澤英史, 濱田俊介, 石黒直樹, 西田佳弘: 悪性末梢神経鞘腫瘍における治療成績と予後因子. 第48回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会,2015,(高松),[口演]
- 019 杉浦英志, 西田佳弘, 浦川 浩, 筑紫 聡, 吉田雅博, 山田健志, 山田芳久: 軟部肉腫における分子標的治療薬開発. 第30回日本整形外科学会基礎学術集会,2015,(富山),[シンポジウム]
- 中央病院における2014年入院手術統計. 第57回三重泌尿器科医会,2015,(津),[口演]
- 003 寺田直樹, 寺尾知可史, 吉村耕治, 松尾恵太郎, 曾我倫久人, 小林 恭, 松井喜之, 井上貴博, 神波大己, 松田文彦, 小川 修: SLC45A3とKLK3の遺伝子多型は正常者の血清PSA値と相関し前立腺癌診断マーカーとなり得る. 第103回日本泌尿器科学会総会,2015,(金沢),[示説]
- 004 曾我倫久人, 谷田部恭, 小倉友二, 林 宣男: 院外病理医によるGleason score(GS)6の診断は, 院内病理医によるGSとの一致率が高く, risk分類の一致を予測する有意な因子である. 第103回日本泌尿器科学会総会,2015,(金沢),[示説]
- 005 小倉友二, 曾我倫久人, 林 宣男: 前立腺癌に対するI-125密封小線源永久挿入療法後のurinary symptom flareの検討.第103回日本泌尿器科学会総会,2015,(金沢),[示説]
- 006 景山拓海, 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: 当院における去勢抵抗性前立腺癌に対するエンザルタミドの使用経験. 第58回三重泌尿器科医会,2015,(津),[口演]
- 007 小倉友二, 景山拓海, 曾我倫久人, 林 宣男: 当院における前立腺小線源治療の経験.第58回三重泌尿器科医会,2015,(津),[口演]
- 008 曾我倫久人, 富田夏夫, 小倉友二, 古平 毅, 林 宣男: 前立腺癌に対する治療5年後における, 排尿蓄尿症状, 性機能の治療法別比較検討. 第65回日本泌尿器科学会中部総会,2015,(岐阜),[口演]
- 009 景山拓海, 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: エンザルタミド療法に対する効果予測因子としての, 投与前血清テストステロン値の役割. 第65回日本泌尿器科学会中部総会, 2015,(岐阜),[口演]
- 010 小倉友二, 曾我倫久人, 景山拓海, 林 宣男: 膀胱癌に対して膀胱全摘除術が施行され, 術中, 術後病理にて尿管癌を認めた症例の検討.第53回日本癌治療学会,2015,(京都),[示説]
- 011 曾我倫久人, 景山拓海, 小倉友二, 林 宣男: 前立腺がんの手術療法とホルモン療法:前立腺癌におけるLH-RH agonist抗アンドロゲン治療中再発に対する, antagonistの効果. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[ワークショップ]
- 012 曾我倫久人, 景山拓海, 小倉友二, 林 宣男: 埋没型腫瘍に対する腎部分切除時の, 腫瘍位置認識補助としてのICG近赤外蛍光の有効性. 第29回日本泌尿器内視鏡学会,2015,(東京),[ビデオ口演]
- 013 景山拓海, 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: 前立腺癌に伴う播種性血管内凝固に対してエンザルタミドが奏功した1例.第270回日本泌尿器科学会東海地方会,2015,(名古屋), [口演]
- 014 曾我倫久人, 景山拓海, 小倉友二, 林 宣男: ミニマム創内視鏡補助下腎部分切除時の, 埋没型腫瘍に対する腫瘍位置認識補助としてのICG近赤外蛍光法の有効性. 第8回日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会,2015,(東京),[パネルディスカッション]

#### 泌尿器科部

- 001 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: Indocyanine green(ICG)を使用した, 近赤外蛍光法補助下腎部分切除術の検討. 第57回三重泌尿器科医会,2015,(津),[口演]
- 002 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男: 愛知県がんセンター中



婦人科部

- 001 水野美香, 坂田 純, 梶山広明, 小林晴美, 加藤克幸, 島田聡子, 佐藤 啓, 下山芳江: Atypical granular cells(AGC)の臨床病理学的検討.第56回日本臨床細胞学会総会春季大会,2015,(松江)[口演].
- 002 石川光也, 笠松高弘, 中西 透, 水野美香, 馬場 長, 松本佳也, 中井英勝, 野河孝充, 有吉和也, 井上貴史, 横山正俊, 齋藤文誉, 川畑宣代, 久高 亘, 津田 均, 福永真治, 坂本穆彦, 加来恒壽, 恩田貴志, 八重樫伸生: 子宮頸部神経内分泌腫瘍に対する多施設共同観察研究 進行期症例の解析.第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会,2015,(盛岡)[ミニワークショップ]
- 003 芳川修久, 柴田清住, 内海 史, 関谷龍一郎, 三井寛子, 鈴木史郎, 水野美香, 梶山広明, 吉川史隆: 再発・進行卵巣明細胞腺癌の予後を予測することは可能か?. 第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会,2015,(盛岡)[ポスター]
- 004 前田 修, 高田友子, 堀尾麻衣子, 杉山久美子, 松村陽子, 近藤育代, 柴田清住, 梶山広明, 水野美香, 吉川史隆, 玉腰浩司, 下山芳江, 中村栄男: Spectrin  $\alpha$  II の腫瘍組織内での発現は卵巣癌の予後因子となる. 第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会,2015,(盛岡)[ポスター]
- 005 近藤紳司, 清水裕介, 笹本香織, 中西 透: 当院における子宮頸部腺癌の術後補助療法に関する臨床的検討.第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会,2015,(盛岡)[ポスター]
- 006 河合要介, 清水裕介, 笹本香織, 近藤紳司, 中西 透, 吉川史隆: 子宮体部悪性腫瘍における大網転移症例の臨床病理学的検討. 第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会,2015,(盛岡)[ポスター]
- 007 笹本香織, 清水裕介, 近藤紳司, 中西 透: 子宮頸部IA期に対する子宮頸部円錐切除術の治療成績. 日本産科婦人科学会第67回学術講演会,2015,(横浜)[ポスター]
- 008 勅使河原利哉, 水野美香, 関谷龍一郎, 三井寛子, 鈴木史郎, 梶山広明, 柴田清住, 吉川史隆: ヒト卵巣癌細胞株を用いた担癌マウスにおける腹膜播種の 5-aminolevulinic acidによるphotodynamic diagnosisおよびphotodynamic therapyの検討.日本産科婦人科学会第67回学術講演会,2015,(横浜)[ポスター]
- 009 坂田 純, 梶山広明, 芳川修久, 内海 史, 関谷龍一郎, 三井寛子, 鈴木史郎, 水野美香, 柴田清住, 吉川史隆: 薬剤耐性卵巣癌におけるEMT転写因子ZEB 1 および誘導因子TGF- $\beta$  の関与. 日本産科婦人科学会第67回学術講演会, 2015,(横浜)[ポスター]
- 010 藤掛佳代, 柴田清住, 内海 史, 関谷龍一郎, 三井寛子, 鈴木史郎, 水野美香, 梶山広明, 吉川史隆: 卵巣癌腹膜播種における腹膜中皮細胞と卵巣癌細胞間の相互作用. 日本産科婦人科学会第67回学術講演会,2015,(横浜)[ポスター]
- 011 関谷龍一郎, 三井寛子, 鈴木史郎, 水野美香, 梶山広明, 柴田清住, 吉川史隆: PLAGL 2 は卵巣癌細胞においてRaclの活性化により細胞遊走能を制御する. 日本産科婦人科学会第67回学術講演会,2015,(横浜)[ポスター]
- 012 三井寛子, 柴田清住, 内海 史, 新見 薫, 関谷龍一郎, 鈴木史郎, 山本英子, 水野美香, 梶山広明, 吉川史隆: Growing Teratoma Syndromeを呈した卵巣未熟奇形腫の2例. 日本産科婦人科学会第67回学術講演会,2015,(横浜)[ポスター]
- 013 梅津朋和, 石田千晴, 梶山広明, 柴田清住, 水野美香, 長船綾子, 山本真一, 吉川史隆: 術前放射線化学療法施行後に腹腔鏡下骨盤内臓全摘術を施行した膵腺癌Ⅳ期の1例. 日本産科婦人科学会第67回学術講演会,2015,(横浜)[ポスター]
- 014 石川光也, 笠松高弘, 加藤達矢, 岡田智志, 高野政志, 荷見よう子, 鈴木佳世, 谷口義実, 高橋一彰, 有本貴英, 金田容秀, 岩田 卓, 小野重満, 児玉省二, 宮本 強, 中西透, 水野美香, 馬場 長, 松本佳也, 中井英勝, 野河孝充, 有吉和也, 井上貴史, 横山正俊, 齋藤文誉, 川畑宣代, 久高 亘, 恩田貴志, 八重樫伸生: 子宮頸部神経内分泌腫瘍に対する集学的治療を探索する多施設共同観察研究. 日本産科婦人科学会第67回学術講演会,2015,(横浜)[ポスター]
- 015 内海 史, 吉川史隆, 水野美香, 梶山広明, 水野公雄, 山室 理, 木下吉登, 松澤克治, 榊原克巳, 河井通泰, 小口秀紀, 中西 透: 卵巣境界悪性腫瘍・初回手術術式が予後に与える影響の検討～子宮摘出・大網切除は必要か?～. 日本産科婦人科学会第67回学術講演会,2015,(横浜)[ポスター]
- 016 鈴木史郎, 吉川史隆, 水野美香, 梶山広明, 水野公雄, 山室 理, 木下吉登, 松澤克治, 榊原克巳, 河井通泰, 小口秀紀, 中西 透: Staging laparotomyが施行された再発高リスク因子を有する卵巣癌Ⅰ期症例に対する術後化学療法のコース数に関する検討. 日本産科婦人科学会第67回学術講演会,2015,(横浜)[ポスター]
- 017 高橋秀憲, 岩瀬 明, 森 正彦: 当院における単孔式全腹腔鏡下子宮摘出術(単孔TLH)の検討 最短短時間69分で安全に単孔TLHを行うために. 第28回日本内視鏡外科学会, 2015,(大阪)[口演]
- 018 高橋秀憲, 岩瀬 明, 森 正彦: 当クリニックでの単孔式腹腔鏡下筋腫核出術についての検討 筋腫回収における工夫について 体内解体法. 第28回日本内視鏡外科学会,2015,(大阪)[口演]
- 019 岩瀬 明, 森 正彦, 藤原道隆: クリニカルシミュレーションセンターを利用した婦人科腹腔鏡手術教育. 第28回日本内視鏡外科学会,2015,(大阪)[口演]
- 020 島田宗昭, 三上幹男, 青木陽一, 喜多恒和, 坂本 優, 金尾祐之, 藤原久也, 松元 隆, 山口 聡, 中西 透, 齋藤俊章, 上浦祥司, 青木大輔, 吉川裕之, 片瀨秀隆: 子宮子宮頸がんの手術療法と術後治療法 子宮頸癌IB-II期手術症例における組織型別予後 多施設共同後方視的検討の成績から. 第53回日本癌治療学会,2015,(京都)[ワークショップ]
- 021 藤掛佳代, 水野美香, 内海 史, 関谷龍一郎, 三井寛子, 鈴木史郎, 梶山広明, 柴 清住, 吉川史隆: 妊娠合併子宮頸癌における広汎子宮全摘術の検討. 第136回東海産科婦人科学会,2016,(名古屋)[口演]

- 001 *Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Kato M, Kawada H, Murata S, Hasegawa T* : Penetrating severe esophageal obstruction via a retrograde transgastric route followed by successfully stenting. JSIR, ISIR & APCIO-JSEMSG 2015 (joint session) ,(Miyazaki), [Oral presentation]
- 002 *Hasegawa T, Sato Y, Murata S, Kawada H, Kato M, Yamaura H, Inaba Y* : Clinical outcomes of radiofrequency ablation for malignant lung tumor ; single center experience. JSIR, ISIR&APCIO 2015,(Miyazaki), [Poster]
- 003 *Hasegawa T, Sato Y, Abe T, Yamaura H, Kato M, Onoda Y, Murata S, Kimbara Y, Morinaga H, Yamaguchi H, Uemura N, Inaba Y* : Lymphangiography for refractory postoperative chyle leakage ; 9th Meeting of the Society of Gastrointestinal Intervention,2015,(Seoul),[Poster]
- 004 *Matsushima S, Sato Y, Yamaura H, Onoda Y, Kato M, Murata S, Kinoshita Y, Era S, Inaba Y* : Correlation of international normalized ratios after postoperative day 5 and MRI-based heterogeneous liver function indices in Child-pugh class A ; 2016 European Congress of Radiology, 2016,(Vienna),[Oral presentation]
- 005 *Matsushima S, Sato Y, Yamaura H, Onoda Y, Kato M, Murata S, Kinoshita Y, Era S, Inaba Y* : Correlation of indocyanine green clearance and MRI-based heterogeneous liver function indices in Child-pugh class A patients ; 2016 European Congress of Radiology, 2016,(Vienna),[Oral presentation]
- 006 *Inaba Y* : Interventional palliation, expertise of interventional radiology. JSIR, ISIR & APCIO 2015, (Miyazaki)[symposium.]
- 007 佐藤洋造 : 膿瘍ドレナージ. 第74回日本医学放射線学会,2015,(横浜),[教育講演]
- 008 佐藤洋造 : 肝胆膵領域術後のSSI(手術部位感染)の予防. 第1回日本穿刺ドレナージ研究会,2015,(大阪),[司会]
- 009 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 川田紘資, 村田慎一, 長谷川貴章 : 膵胆道がん術後の輸入脚症候群および膵液瘻に対する拳上空腸盲端部を介した経皮的ドレナージ術の検討. 第1回日本穿刺ドレナージ研究会,2015, (大阪),[口演]
- 010 佐藤洋造 : BCLC stage Cの進行肝細胞癌を対象としたソラフェニブと肝動脈化学塞栓療法の併用療法の第Ⅱ相試験(STAB study)の進捗状況報告. 第20回肝動脈塞栓療法研究会,2015,(宮崎),[口演]
- 011 村田慎一, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 川田紘資, 長谷川貴章 : 転移性肝腫瘍に対する球状塞栓物質の使用経験. 第20回肝動脈塞栓療法研究会,2015,(宮崎),[口演]
- 012 守永広征, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田結, 村田慎一, 長谷川貴章, 金原佑樹, 山口久志 : 肝細胞癌母指転移に対して球状塞栓物質を用いてTAEを施行した1例. 第58回中部IVR研究会,2015,(浜松),[口演]
- 013 村田慎一, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 佐藤洋造, 加藤弥菜, 小野田結, 長谷川貴章, 金原佑樹, 守永広征, 山口久志 : 転移性肝腫瘍に対する球状塞栓物質の使用経験. 第58回中部IVR研究会,2015,(浜松),[口演]
- 014 金原佑樹, 佐藤洋造, 長谷川貴章, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田結, 村田慎一, 守永広征, 山口久志 : 内頸動脈出血に対してAMPLATZER vascular plugを用いて塞栓術を施行した進行上咽頭癌の1例. 第58回中部IVR研究会,2015, (浜松),[口演]
- 015 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田結, 村田慎一, 長谷川貴章, 金原佑樹, 守永広征, 山口久志 : リンパ節穿刺注入法によるリンパ管造影を施行した術後乳び胸の2例. 第58回中部IVR研究会,2015,(浜松),[口演]
- 016 稲葉吉隆 : 肝臓 肝細胞がん. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[司会]
- 017 村田慎一 : 転移性肝腫瘍に対する球状塞栓物質の使用経験. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[ポスター]
- 018 佐藤洋造 : 難治性術後乳び胸に対するリンパ管造影の検討. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[ポスター]
- 019 *Hasegawa T, Sato Y, Murata S, Kawada H, Kato M, Yamaura H, Inaba Y* : Clinical outcomes of radiofrequency ablation for malignant lung tumor ; single center experience. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2015, (札幌),[口演]
- 020 稲葉吉隆 : ディーシービーズを安全に使用するコツ〜いかに合併症を回避するか〜. 第3回ディーシービーズ検討会, 2015,(東京),[座長]
- 021 稲葉吉隆 : がん診療におけるIVR. 第32回飛鳥放射線医学セミナー,2015,(奈良),[講演]
- 022 稲葉吉隆 : ディーシービーズの適正な使用方法について. ディーシービーズ適正使用講習会,2015,(岐阜),[講演]
- 023 松島 秀, 佐藤洋造, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田結, 村田慎一, 紀ノ定保臣, 惠良聖一, 米澤佑司, 小倉弘之, 稲葉吉隆 : Child-pugh class AにおけるICGとMRI-based liver function indicesの相関. 第43回日本磁気共鳴医学会大会, Test2015,(東京),[口演]
- 024 稲葉吉隆 : IVR肝細胞癌治療最前線①. 第51回日本医学放射線学会秋季臨床大会,2015,(岩手),[座長]
- 025 村田慎一 : 肺癌症例を対象にしたre-biopsyについて. 和歌山肺癌講演会,2015,(和歌山),[講演]
- 026 浅井 翼, 岩間功訓, 服部寿史, 米澤佑司, 流 真治, 松島 秀, 稲葉吉隆 : CT透視における寝台位置や患者体位の画質への影響. 第54回全国自治体病院学会,2015,(函館),[ポスター]
- 027 稲葉吉隆, 佐藤洋造 : IVRで何とかならないか?. 第5回緩和IVR研究会,2015,(静岡),[口演]
- 028 稲葉吉隆 : 当院におけるサムスカの使用経験について. サムスカ講演会〜水利尿を考える〜,2015,(愛知),[座長]
- 029 山口久志 : 当院におけるサムスカの使用経験について. サムスカ講演会〜水利尿を考える〜,2015,(愛知),[口演]
- 030 稲葉吉隆 : サムスカ投与に適する患者像・タイミング・使用方法-サムスカ導入入院を含めて-. サムスカ講演会〜

水利尿を考える～,2015,(愛知),[座長]

- 031 金原佑樹, 稲葉吉隆, 佐藤洋造, 山浦秀和, 小野田結, 加藤弥菜, 村田慎一, 長谷川貴章, 守永広征, 山口久志, 荒井保明: 継承したい各種ポート留置手技のコツ・工夫: 腹腔動脈狭窄・閉塞例に対する、CHA coil変法での肝動注リザーバー留置術. 第40回リザーバー研究会,2015,(東京),[口演]
- 032 守永広征, 佐藤洋造, 山口久志, 金原佑樹, 長谷川貴章, 村田慎一, 加藤弥菜, 小野田結, 山浦秀和, 稲葉吉隆: 当院における進行肝細胞癌に対するlow dose FP療法の検討. 第40回リザーバー研究会,2015,(東京),[口演]
- 033 稲葉吉隆: リザーバーこれまでの歩みと継承-大腸癌肝転移に対する肝動注化学療法回帰. 第40回リザーバー研究会,2015,(東京),[講演]
- 034 村田慎一: 愛知県がんセンターにおけるIVR～草食系救急医の視点から～. 第35回京滋ERセミナー,2015,(京都),[講演]
- 035 佐藤洋造, 村田慎一, 山浦秀和, 小野田結, 加藤弥菜, 長谷川貴章, 守永広征, 金原佑樹, 山口久志, 稲葉吉隆: Oncology領域におけるAVP(バスキュラープラグ)の使用経験. 第79回東海総合画像医学研究会プログラム,2016,(名古屋),[口演]
- 036 稲葉吉隆: 肝細胞癌でのDEB-TACE、B-TACE、c-TACEの使い分けを考える. 第4回ディーシーピース検討会～DEB-TACEの可能性を探る～,2016,(東京),[司会]
- 037 稲葉吉隆: 技術. 第59回中部IVR研究会,2016,(大阪),[座長]
- 038 稲葉吉隆, 荒井保明, 曾根美雪, 新楨 剛, 大須賀慶悟: ステアリングマイクロカテーテル開発試験. 第59回中部IVR研究会,2016,(大阪),[口演]
- 039 村田慎一, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田結, 長谷川貴章, 金原佑樹, 守永広征, 山口久志: 腕頭動脈領域の出血に対して塞栓術を行った5例. 第59回中部IVR研究会,2016,(大阪),[口演]
- 040 村田慎一, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田結, 長谷川貴章, 守永広征, 山口久志: 当院における救急・IVRの取り組み～がんセンターにおいてoncologic emergencyに対してIVRができること～. 第59回中部IVR研究会,2016,(大阪),[口演]
- 041 長谷川貴章, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 加藤弥菜, 小野田結, 村田慎一, 守永広征, 金原佑樹, 山口久志, 近藤千晶, 谷田部恭: 肺RFA直後の経皮的針生検による組織診断能評価. 第59回中部IVR研究会,2016,(大阪),[口演]
- 042 守永広征, 佐藤洋造, 金原佑樹, 山口久志, 長谷川貴章, 村田慎一, 加藤弥菜, 小野田結, 山浦秀和, 稲葉吉隆: 当院における進行肝細胞癌に対するlow dose FP肝動注療法法の検討. 第59回中部IVR研究会,2016,(大阪),[口演]
- 043 金原佑樹, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 山浦秀和, 小野田結, 加藤弥菜, 村田慎一, 長谷川貴章, 守永広征, 山口久志, 室圭: 進行再発大腸癌の肝転移における全身化学療法不応例に対する肝動注化学療法法の意義. 第59回中部IVR研究会,2016,(大阪),[口演]
- 044 佐藤健司, 西尾福英之, 田中利洋, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 正田哲也, 立元将太, 末吉 智, 阪口 浩, 吉川公彦:

Amplatzer Vascular Plugを用いた肝動注リザーバー留置術におけるGDA先端固定法: マイクロコイルとの比較. 第59回中部IVR研究会,2016,(大阪),[口演]

- 045 稲葉吉隆: 画像診断と治療効果判定基準. 第27回日本臨床腫瘍学会教育セミナー,2016,(横浜),[講演]

#### 放射線治療部

- 001 *Kodaira T*: Definitive IMRT for head and neck cancer patients Current Japanese status and perspectives. 15th International congress of radiation research,2015,(京都),[口演]
- 002 *Takehana K, Yoshida M, Kimura K, Shimizu A, Makita C, Tomita N, Tachibana H, Kodaira T*: Retrospective Analysis of Clinical Efficacy of IMRT among Patients Treated with Definitive Chemoradiotherapy for Hypopharyngeal Cancer. 15th International congress of radiation research,2015,(京都),[ポスター]
- 003 *Makita C, Tachibana H, Tomita N, Shimizu A, Takehana K, Kimura K, Yoshida M, Koide Y, Ito M, Shimizu H, Kodaira T*: Volumetric and dosimetric changes of parotid glands in two-step IMRT for nasopharyngeal carcinoma. 15th International congress of radiation research,2015,(京都),[ポスター]
- 004 *Kimura K, Yoshida M, Takehana K, Shimizu A, Makita C, Tomita N, Tachibana H, Kodaira T*: Intensity-modulated radiotherapy in the treatment of oropharyngeal cancer Retrospective analysis of Aichi cancer center experience. 15th International congress of radiation research,2015,(京都),[ポスター]
- 005 *Ito Y, Nakajima T. E, Ishiyama H, Tanaka M, Hashimoto T, Kodaira T, Nakazawa M, Kato K*: Phase II trial of Concurrent Chemoradiotherapy at the Dose of 50.4 Gy with Elective Nodal Irradiation for clinical stage II/III Esophageal Cancer. 15th International congress of radiation research,2015,(京都),[口演]
- 006 *Seto T, Sasaki T, Yamanaka T, Shimizu J, Kodaira T, Nishio M, Kozuka T, Takahashi T, Harada H, Yoshimura N, Tsutsumi S, Kitajima H, Kataoka M, Nakagawa K, Nishimura Y, Nakanishi Y*: A randomized phase II study of TS-1 plus cisplatin versus vinorelbine plus cisplatin with concurrent thoracic radiotherapy for locally advanced non-small cell lung cancer(LA-NSCLC): WJOG5008L. 2015 ASCO annual meeting,2015,(Chicago),[ポスター]
- 007 *Kodaira T*: Symposium 5 personalized chemoradiotherapy How do we adequately treat with IMRT for locally advanced head and neck cancer?. 4th Congress of Asian Society of Head and Neck Oncology,2015,(神戸),[口演]
- 008 *Fuwa N, Yoshizaki T, Kodaira T, Daimon T*: The long-term outcomes of alternating chemoradiotherapy for



- nasopharyngeal carcinoma. 4th Congress of Asian Society of Head and Neck Oncology ,2015,(神戸),[口演]
- 009 *Shimizu J, Kodaira T, Seto T, Sasaki T, Yamanaka T, Kunitake N, Ohyanagi F, Kozuka T, Takeda M, Nakamatsu K, Takahashi T, Harada H, Yoshimura N, Tsutsumi S, Kitajima H, Kataoka M, Nakagawa K, Nishimura Y, Nakanishi Y* : A randomized phase II study of S-1 and cisplatin vs vinorelbine and cisplatin with concurrent radiotherapy for locally advanced NSCLC: WJOG5008L. 16th world conference on lung cancer,2015,(Denver),[ポスター]
- 010 *Tachibana H, Kougo T, Kodaira T, Tomita N, Makita C, Shimizu A, Takehana K, Kimura K, Yoshida M, Koide Y, Miyamoto D, Shigetomi T* : Prevention of Oral Radiation Mucositis Using a Specialized Amino Acid Mixture. 57th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology 2015 ,2015,(San Antonio),[ポスター]
- 011 *Kodaira T* : Trilateral symposium Free-paper 2: Radiation therapy for head and neck cancers(IGRT, IMRT, etc.)Prospective clinical trials on IMRT for head and neck cancers in Japan. 第28回日本放射線腫瘍学会, 2015,(前橋),[口演]
- 012 *Fuwa N, Yoshizaki T, Kodaira T, Daimon T* : The long-term outcomes of alternating chemoradiotherapy for nasopharyngeal carcinoma. 第39回日本頭頸部癌学会,2015,(神戸),[口演]
- 013 *Yokota T, Konishi T, Tachibana H, Yurikusa T, Hamauchi S, Sakai K, Nishikawa M, Suzuki M, Naganawa Y, Hagihara T, Tsumaki H, Kubo T, Sato M, Taguri M, Morita S, Eguchi T, Kubota K, Zenda S* : Multicenter phase II study of oral care program for head and neck cancer patients treated with chemoradiotherapy. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2015,(札幌),[口演]
- 014 *Tomita N, Kodaira T, Tachibana H, Makita C, Kimura K, Yoshida M, Koide Y, Ito M, Soga N, Ogura Y, Hayashi N* : Outcome and prognostic factor following biochemical relapse for prostate cancer patients undergoing definitive external beam radiation therapy in Aichi Cancer Center Hospital. 第28回日本放射線腫瘍学会,2015,(前橋),[口演]
- 015 *Makita C, Kodaira T, Tachibana H, Tomita N, Kimura K, Yoshida M, Koide Y, Ito M* : Comparison of clinical outcome of different radiation strategy in postoperative radiotherapy for patients with head and neck squamous cell carcinoma: a propensity-matched analysis. 第28回日本放射線腫瘍学会,2015,(前橋),[口演]
- 016 *Harada H, Sasaki T, Yamanaka T, Kunitake N, Kodaira T, Kozuka T, Nakamatsu K, Nakagawa K, Nishimura Y, Nakanishi Y* : A randomized phase II study of S-1 and cisplatin vs vinorelbine and cisplatin with concurrent thoracic radiotherapy for locally advanced NSCLC: West Japan Oncology Group 5008L. 第28回日本放射線腫瘍学会,2015,(前橋),[口演]
- 017 *大柳文義, 小塚拓洋, 瀬戸貴司, 佐々木智成, 山中竹春, 國武直信, 清水淳市, 古平 毅, 武田真幸, 中松清志, 小野 哲, 原田英幸, 吉村成央, 堤 真一, 北島寛元, 片岡正明, 中川和彦, 西村恭昌, 中西洋一* : A randomized phase II study of S-1/CDDP vs. VNR/CDDP with concurrent RT for LA-NSCLC:WJOG5008L. 第55回日本肺癌学会,2015,(京都),[口演]
- 018 *清水亜里紗, 小出雄太郎, 吉田舞子, 木村香菜, 竹花恵一, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅* : IMRTによるBoost照射を行った子宮頸癌根治治療症例の検討. 第28回日本高精度放射線外部照射研究会,2015,(京都),[口演]
- 019 *古平 毅, 立花弘之, 牧田智誉子, 西川大輔, 鈴木秀典, 平川仁史, 花井信広, 長谷川泰久* : 上咽頭癌に対するヘリカルトモセラピーによるIMRTの化学放射線療法の治療成績. 第39回日本頭頸部癌学会,2015,(神戸),[口演]
- 020 *牧田智誉子, 古平 毅, 立花弘之, 西川大輔, 鈴木秀典, 平川仁史, 花井信広, 長谷川泰久, 不破信和* : Stage I/II 舌扁平上皮癌に対する小線源治療の検討. 第39回日本頭頸部癌学会,2015,(神戸),[口演]
- 021 *太田陽介, 古平 毅, 藤井博文, 下川元継, 中島寅彦, 門田伸也, 横田知哉, 本間明宏, 上田真也, 秋元哲夫* : 日本人の頭頸部癌患者におけるCetuximabを含む治療の観察研究(JROSG12-2)急性期有害事象の中間評価. 第39回日本頭頸部癌学会,2015,(神戸),[口演]
- 022 *立花弘之, 横田知哉, 小西哲仁, 百合草健圭志, 濱内 論, 坂井謙介, 西川雅也, 全田貞幹* : 化学放射線療法を受ける頭頸部癌患者に対する多職種チームによる口腔ケアプログラム運用に関する第2相試験. 第39回日本頭頸部癌学会, 2015,(神戸),[口演]
- 023 *安藤千賀子, 鈴木美帆, 佐久間恵, 長縄弥生, 小西哲仁, 横田知哉, 立花弘之, 全田貞幹, 百合草健圭志* : 化学放射線療法を受ける頭頸部癌患者に対する多職種チームによる口腔ケアプログラム運用に関する第2相試験. 第12回日本口腔ケア学会総会・学術大会,2015,(下関),[口演]
- 024 *木村香菜, 富田夏夫, 伊藤 誠, 小出雄太郎, 吉田舞子, 清水亜里紗, 牧田智誉子, 立花弘之, 古平 毅, 佐藤洋造* : 末梢性I期肺癌に対する定位照射後にGrade3の咯血を来した1例. 日本医学放射線学会第158回中部地方会,2015,(浜松), [口演]
- 025 *立花弘之, 富田夏夫, 牧田智誉子, 木村香菜, 吉田舞子, 小出雄太郎, 伊藤 誠, 古平 毅* : 頭頸部癌治療における放射線口腔粘膜炎症重篤化予防に対する特性アミノ酸配合物の有効性第二報. 日本医学放射線学会第158回中部地方会,2015,(浜松),[口演]
- 026 *古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 牧田智誉子, 清水亜里紗, 竹花恵一, 木村香菜, 吉田舞子, 小出雄太郎, 長谷川泰久* : 上咽頭癌のIMRTを用いた化学放射線療法の治療成績－化学療法の治療内容による影響－. 第13回日本臨床腫瘍学会, 2015,(札幌),[ポスター]

- 027 古平 毅：日本臨床腫瘍学会ガイドライン委員会企画 頭頸部癌薬物療法ガイドランス：紹介とケースカンファレンスによる解説Ⅱ. 部位別CQ 上咽頭. 第13回日本臨床腫瘍学会,2015,(札幌),[口演]
- 028 中島貴子, 加藤千晴, 田端恭兵, 古平 毅, 立花弘之：頭頸部がん化学放射線療法における経管栄養の検討～胃瘻と経鼻胃管による経管栄養を比較して～. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[ポスター]
- 029 古平 毅：分子標的薬剤時代の放射線療法. 第3回北河内頭頸部癌治療セミナー,2015,(大阪),[口演]
- 030 古平 毅：頭頸部癌再照射. 第17回放射線腫瘍学夏季セミナー,2015,(金沢),[口演]
- 031 古平 毅：個別化医療における放射線治療の役割. 三島域圏がん研究会 化学療法と放射線,2015,(大阪),[口演]
- 032 立花弘之：進化したがんの放射線治療. 愛知県がんセンター公開講座 第4回,2015,(名古屋),[講演]
- 033 長縄弥生, 西川雅也, 坂井謙介, 立花弘之, 小西哲仁, 百合草健志, 横田知哉, 全田貞幹：化学放射線療法を受ける頭頸部癌患者に対する多職種チームによる口腔ケアプログラム運用に関する第2相試験. 第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会,2015,(京都),[口演]
- 034 鈴木美帆, 安藤千賀子, 佐久間恵, 長縄弥生, 川野直子, 小西哲仁, 横田知哉, 立花弘之, 全田貞幹, 百合草健志：頭頸部化学放射線療法の口腔ケア 多施設共同第2相臨床試験. 日本歯科衛生士学会 第10回学術大会,2015,(札幌),[口演]
- 035 古平 毅：新しい時代の化学放射線療法. 福岡頭頸部がん治療セミナー,2015,(福岡),[口演]
- 036 古平 毅：教育シンポジウム4 若手医師のためのがん放射線治療学講座－最新情報Update強度変調放射線治療(IMRT)の進歩 最新情報. 第53回癌治療学会,2015,(京都),[口演]
- 037 古平 毅：1100例の臨床経験からみたTomotherapyの臨床的有用性と展望. 第28回日本放射線腫瘍学会,2015,(前橋),[口演]
- 038 木村香菜, 吉田舞子, 小出雄太郎, 伊藤 誠, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅：中咽頭癌に対するIMRTによる治療成績の後方視的検討. 第28回日本放射線腫瘍学会,2015,(前橋),[口演]
- 039 太田陽介, 全田貞幹, 立花弘之, 小川洋史, 石井しのぶ, 橋口周子, 秋元哲夫：放射線性皮膚炎グレーディング アトラス作成のための前向き観察研究. 日本放射線腫瘍学会第28回学術大会,2015,(前橋),[口演]
- 040 古平 毅：セツキシマブ併用放射線療法法の副作用対策. 倉敷頭頸部癌放射線治療セミナー,2015,(倉敷),[口演]
- 041 古平 毅：セツキシマブ併用放射線療法法の適応と実践. 第2回頭頸がんチーム医療セミナー,2015,(大阪),[口演]
- 042 立花弘之：放射線治療における副作用対策. 東海がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 平成27年度放射線治療セミナー「ここまで来た最先端放射線治療」,2015,(名古屋),[講演]
- 043 立花弘之：がんの放射線治療の理論と実際. 名城大学薬学部大学院 臨床腫瘍学特論 放射線腫瘍学,2015,(名古屋),[講義]
- 044 富田夏夫, 牧田智誉子, 立花弘之, 伊藤 誠, 小出雄太郎, 吉田舞子, 木村香菜, 古平 毅, 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男：当院における前立腺癌に対する IG-IMRT の中期成績. 日本医学放射線学会第158回中部地方会,2016,(名古屋),[口演]
- 045 伊藤 誠, 小出雄太郎, 吉田舞子, 木村香菜, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅, 田近正洋, 丹羽康正, 安部哲也, 長谷川泰久, 室 圭：当院における頸部食道癌放射線治療成績(IMRT vs 3DCRT の比較と再発形式の検討). 日本医学放射線学会第158回中部地方会,2016,(名古屋),[口演]
- 046 小出雄太郎, 木村香菜, 吉田舞子, 伊藤 誠, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅, 安倍哲也, 室 圭, 田近正洋, 丹羽康正：StageI(T1N0M0)食道癌に対する放射線治療の成績. 日本医学放射線学会第158回中部地方会,2016,(名古屋),[口演]
- 047 吉田舞子, 木村香菜, 小出雄太郎, 伊藤 誠, 牧田智誉子, 富田夏夫, 立花弘之, 古平 毅：T1-2N0M0 声門癌に対する放射線治療の成績:標準分割法と加速照射法の比較. 日本医学放射線学会第158回中部地方会,2016,(名古屋),[口演]
- 048 古平 毅, 立花弘之, 牧田智誉子, 富田夏夫, 木村香菜, 吉田舞子, 小出雄太郎, 伊藤 誠：上咽頭癌局所再発症例の再照射の検討. 日本医学放射線学会第158回中部地方会,2016,(名古屋),[口演]
- 049 牧田智誉子, 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 木村香菜, 吉田舞子, 小出雄太郎, 伊藤 誠：頭頸部扁平上皮癌の術後照射における照射法と治療成績の比較. 日本医学放射線学会第158回中部地方会,2016,(名古屋),[口演]
- 050 古平 毅：分子標的療法併用放射線療法における副作用対策. 第2回長崎頭頸部がんセミナー,2016,(長崎),[口演]

#### 緩和ケア部

- 001 小森康永：精神腫瘍医の読んだシシリー・ソングース. 第20回日本緩和医療学会,2015,(横浜),[招聘講演]
- 002 小森康永, 奥野 光, 矢原隆行：ナラティブ・セラピー入門. 日本家族研究・家族療法学会ワークショップ,2015,(東京),[ワークショップ]
- 003 下山理史：オンコロジストは気持ちを打ち明けてもらえる存在になりうるか？. 第20回日本緩和医療学会学術大会,2015,(横浜),[シンポジウム]
- 004 下山理史：患者・家族と今後の見通しについて語り合う. 第53回日本がん治療学会学術集会,2015,(京都), [シンポジウム]
- 005 下山理史：がん治療における緩和ケア外来の役割と意義. 第77回日本臨床外科学会総会,2015,(福岡),[一般演題]

## 看護部

### [学会発表]

- 001 小原真紀子, 吉田達哉, 宇良 敬: EGFR阻害薬による重症化した頭皮皮膚障害に対するセルフケア介入. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(北海道),[口演]
- 002 青山寿昭: 地域研究会での合同イベント開催による効果と課題. 摂食嚥下リハビリテーション学会,2015,(京都),[示説]
- 003 青山寿昭, 八重樫裕, 北川功二: 頭頸部がん術後嚥下障害の患者会の効果. 日本嚥下障害臨床研究会,2015,(広島),[口演]
- 004 青山寿昭: 地域で活躍する複数の研究会との合同イベントの効果. 日本摂食嚥下障害看護研究会,2015,(東京),[口演]
- 005 向井未年子, 井上さよ子, 岩井美世子, 吉川 恵, 柴田亜弥子, 宮武美智代, 伊藤和子, 新貝夫弥子: がん専門病院におけるがん看護外来の実践と課題. 第2回日本CNS看護学会,2015,(東京),[ポスター]
- 006 佐々木照美, 小島 瞳, 井上さよ子, 新田都子, 榊原由美子, 奥村誠子, 兵藤伊久夫: がん患者に対する褥瘡発生予防対策. 第17回日本褥瘡学会学術集会,2015,(宮城),[口演]
- 007 南谷志野, 翠 邦治: インシデントレベル0 報告数増加を目指した取り組み—インシデント報告阻害要因の検討—. 第19回日本看護管理学会,2015,(福島),[口演]
- 008 新貝夫弥子, 高木礼子: 乳房切除後および乳房温存術と一次再建術を受けた乳がん患者の満足度とその影響因子. 第12回日本乳癌学会中部地方会,2015,(福井),[口演]
- 009 新貝夫弥子: Aがん専門病院における遺伝カウンセリングを受ける乳がん患者の特徴と傾向. 日本遺伝看護学会,2015,(熊本),[口演]
- 010 高木礼子, 新貝夫弥子, 岩田広治, 奥村誠子: 乳がん患者の術式選択における影響要因と術後の満足度. 第23回日本乳癌学会学術総会,2015,(東京),[示説]
- 011 中島貴子, 久保 知, 加藤千晴, 田端恭兵, 竹花恵一, 牧田智誉子, 立花弘之, 古平 毅: 頭頸部がん化学放射線療法における経管栄養の検討 —胃瘻と経鼻胃管による経管栄養を比較して—. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(北海道),[口演]
- 012 山田知里, 小原真紀子, 戸崎加奈子, 佐々木照美, 吉川 恵, 青山寿昭, 吉田達哉, 堀尾芳嗣, 樋田豊明: EGFR-TKIによる皮膚障害に対する看護師のセルフケア介入. 第13回日本臨床腫瘍学術集会,2015,(北海道),[ポスター]
- 013 久保 知: 化学放射線療法を受ける頭頸部癌患者を対象とした口腔ケアプログラム運用に関する他施設共同第2相試験. 第4回日本放射線看護学会学術集会,2015,(鹿児島),[口演]
- 014 山口真由美, 宮武美智代, 向井未年子, 深堀慎一郎, 藤田 恵, 戸崎加奈江, 舘 昌美: がん専門病院におけるコンサルテーションの現状と課題. 第46回日本看護学会看護管理学術集会,2015,(福岡),[示説]
- 015 岩井美世子, 向井未年子, 井上さよ子, 吉川 恵, 宮武美智代, 新貝夫弥子: がん専門病院におけるがん看護外来の現状. 第30回日本がん看護学会学術集会,2016,(千葉県),[示

### 説]

- 016 吉川 恵: 終末期がん患者の退院支援に関するアクションリサーチ. 第2回日本CNS看護学会,2015,(東京),[ポスター]
- 017 吉川 恵, 林真由美, 川瀬 静, 小澤洋子: 肺癌患者の退院支援時の意思決定支援への課題. 第26回日本在宅医療学会学術集会,2015,(東京),[口演]
- 018 高畑知帆子, 堀田枝里, 近藤三由希, 小原真紀子: パクリタキセルの血管外漏出の現状調査・および投与後の血管脆弱性への影響への検討. 第30回日本がん看護学会学術集会,2016,(千葉),[示説]
- 019 和田美佳, 宮地愛子: 個人防護具の病室内表示を試みて—その効果と患者の意見—. 日本環境感染学会,2016,(京都),[ポスター]
- 020 安形真由美, 伊藤理恵, 榊原由美子, 小島 瞳, 佐々木照美, 小森康司, 木下敬史: 対麻痺を生じた患者のQOL向上を目的としたストーマ造設について. 第33回日本ストーマ, 排泄リハビリテーション学会総会,2016,(山梨),[示説]

### [講演講師]

- 001 高木仁美: インデックス調査分析説明会「分析結果をアクションプランに活かす」. 愛知県看護協会,2015,(愛知),[講師]
- 002 榊原由美子: 褥瘡ケアの基礎と実際. 愛知県看護協会,2015,(愛知),[講師]
- 003 小原真紀子: 乳がん薬物療法における副作用マネジメント. Meet the Expert atまかび乳がん治療,2015,(沖縄),[講演]
- 004 小原真紀子: オキサリプラチン投与に伴う副作用マネジメント. これからの結腸癌術後補助化学療法を考える,2015,(東京),[講演]
- 005 小原真紀子: 乳がん薬物療法における副作用マネジメント. 乳がん診療Seminar,2015,(鹿児島),[講演]
- 006 小原真紀子: 外来化学療法センターでの曝露調査結果と改善策. 第13回名古屋オンコロジーレジデントカンファレンス,2015,(愛知),[講演]
- 007 小原真紀子: 愛知県がんセンター中央病院における副作用マネジメントの実際. 肺がん治療におけるEGFR-TKI治療の副作用マネジメント,2015,(東京),[講演]
- 008 小原真紀子: 肺がん治療におけるEGFR-TKI治療の副作用マネジメント. GIOTRIF適正セミナー,2015,(石川),[講演]
- 009 小原真紀子: EGFR阻害薬を適切にこなすために I. EGFR阻害薬適正使用セミナー I n Aichi I,2015,(愛知),[講演]
- 010 小原真紀子: EGFR阻害薬を適切にこなすために II. EGFR阻害薬適正使用セミナー I n Aichi II,2015,(愛知),[講演]
- 011 小原真紀子: ジオトリフ®におけるチーム医療の重要性. 医看薬薬連携GIOTRIF EXPERT SEMINAR,2015,(愛知), [講演]
- 012 小原真紀子: ジオトリフ®におけるチーム副作用マネジメントの実際. 医看薬薬連携ジオトリフ副作用マネジメントセミナー,2015,(愛知),[講演]
- 013 青山寿昭: 覚醒状態の悪い患者への対応. ナースのためのリハビリ講座,2015,(神戸・東京),[講師]
- 014 青山寿昭: 気管切開をされている患者への対応. ナースのためのリハビリ講座,2015,(神戸・東京),[講師]



- 015 青山寿昭：緩和ケアの実際と在宅支援「食べること」を支える。緩和ケアの実際と在宅支援, 2015,(愛知),[講師]
- 016 青山寿昭：手術に伴う構造変化による機能回復の限界と看護。日本摂食嚥下リハビリテーション学会,2015,(京都),[シンポジスト]
- 017 向井未年子：緩和ケア実践のために～医療現場の看護師から薬剤師への要望と期待～. 第17回三重薬剤師緩和ケアを考える会,2016,(三重),[講師]
- 018 土屋大樹：放射線治療に携わる放射線治療技師が知るべき感染対策. 平成27年度愛知県放射線治療研究会,2015,(愛知),[講師]
- 019 久保 知：頭頸部癌セツキシマブ併用放射線療法の副作用とケア. 頭頸部癌チーム医療セミナー,2015,(大阪),[講師]
- 020 久保 知：頭頸部領域と緩和における放射線療法看護. 日本放射線治療専門放射線技師認定機構(東海ブロック), 2015,(愛知),[講師]
- 021 柴田亜弥子：親を亡くす子どもへの援助 子どもに何を伝えよう支えるか 看護師から見た子どもへの支援とは. グリーフワークの一助を目指して, 日本死の臨床研究会年次大会,2015,(岐阜),[パネリスト]
- 022 山田健司：手術看護認定看護師セミナー 手術室における急変時の予測と対応. 日本手術看護学会東海地区,2015,(愛知),[講師]
- 023 須貝潤子：リンパ浮腫外来の活動. 第9回がんのリンパ浮腫研究会,2015,(愛知),[講師]
- 024 須貝潤子：薬剤性浮腫への治療の取り組み・重度のリンパ浮腫に対するケアの取り組み・術後の早期リンパ浮腫への入院中のアプローチ. 第9回がんのリンパ浮腫研究会, 2015,(愛知),[ミニシンポジスト・講師]
- 025 瀬古志桜：薬物療法を受ける術前・術後の乳がん患者の看護. 東海プレストケアセミナー, 2015,(愛知),[講師]
- 026 永田智子：診断期から緩和期における外来看護の実践. 東海外来化療フォーラム,2016,(愛知),[講演]
- 027 宮谷美智子：みんなで考えよう！手足症候群をフォローするコツ ～皮膚ケアの実際を体験しよう～. 第4回がん薬物療法における皮膚障害マネジメントのワークショップ,2015,(愛知),[講師]
- 13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[ポスター]
- 004 松崎雅英, 平島佳代, 梶田正樹, 岩田修一, 井上さよ子, 新田都子, 向井未年子, 下山理史, 小森康永：「緩和ケアセンター」での薬剤師の役割. 第9回日本緩和医療薬学会年会,2015,(横浜),[口演]
- 005 前田章光, 宇良 敬, 堀尾芳嗣, 尾瀬 功, 梶田正樹, 長谷川郁恵, 平島佳代, 高橋新次, 長谷川彩子, 栗原幸司, 伊藤裕子, 下村一景, 伊藤基博, 岩田修一：シスプラチンによる悪心・嘔吐に対するオランザピン+パロノセトロン+デキサメタゾン併用制吐療法の第2相臨床試験. 日本医療薬学会,2015,(横浜),[口演]
- 006 前田章光, 安藤 仁, 宇良 敬, 小森 梓, 室 圭, 長谷川彩子, 橋本直弥, 前田美恵子, 松崎雅英, 小島 康, 青木正博, 小原真紀子, 岩田修一, 藤村昭夫：レゴラフェニブによる肝障害に対するSLCO1B1遺伝子多型の影響. 日本臨床腫瘍薬学会, 2016,(鹿児島),[口演]
- 007 立松三千子：がんチーム医療～薬剤師がつなぐサポートの輪～. 第II期QOLがん認定薬剤師 エキスパートコース成果発表会,2015,(東京),[特別講演]
- 008 立松三千子：医看薬薬連携で実現した外来患者サポート. 痛みを考える薬剤師の会,2015,(東京),[口演]
- 009 立松三千子：抗がん剤の服薬説明のポイント. がん患者との医療コミュニケーションセミナー,2015,(名古屋),[講演]
- 010 立松三千子：薬薬連携で実現する緩和ケア～あなたのひとことが患者さんを笑顔にする！～. 第16回三重薬剤師疼痛緩和を考える会,2015,(津),[講演]
- 011 立松三千子：副作用マネジメント～薬剤師の立場から～. 肺がん医療向上委員会肺がんチーム医療推進フォーラムin名古屋,2015,(名古屋),[講演]
- 012 立松三千子：医看薬薬連携で取り組むがん患者サポート～あなたのひとことが患者さんを笑顔にする～. 第2回緩和医療薬薬連携セミナー in Hanshin, 2015,(西ノ宮),[講演]
- 013 立松三千子：チームでサポートC I N V～患者さんの“つらい”を見過ごさないために～. C I N Vフォーラム in 知多半島,2015,(半田),[講演]
- 014 立松三千子：薬剤師だからできる！がん患者サポート～あなたのひとことが患者さんを笑顔にする～. 鈴鹿医療科学大学薬学部卒業研修セミナー,2015,(鈴鹿),[講演]
- 015 立松三千子：医看薬薬連携による緩和ケア～あなたのひとことが患者さんを笑顔にする！～. 北海道薬薬連携シンポジウム2015, 2015,(札幌),[講演]

## 薬剤部

- 001 Shimomura K, Yoshida T, Kajita M, Oya Y, Tnanaka K, Shimizu J, Horio Y, Iwata S, Hida T: Risk factors of Crizotinib-induced nephrotoxicity in ALK positive NSCLC. The Japanese Society of Medical Oncology 2015 Annual Meeting ,2015,(Sapporo),[口演]
- 002 橋本直弥, 前田美恵子, 立松三千子, 水谷旭良：経口抗がん剤TAS-102を安全に外来導入するために. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会,2015,(札幌),[口演]
- 003 高橋新次, 前田章光, 松崎雅英, 梶田正樹, 水谷旭良：シクロホスファミド調製時における閉鎖式混合調製器具「TEVADAPTOR®」の曝露防止に対する有用性の検討. 第
- 016 橋本直弥：大腸がんサルベージラインにおけるチーム医療の取り組み. 第53回日本癌治療学会学術集会,2015,(京都),[講演]
- 017 橋本直弥：実践 ラムシルマブの臨床導入. 愛知県病院薬剤師会学術集会,2015,(名古屋),[講演]
- 018 橋本直弥：抗EGFR抗体製剤投与における薬剤師の役割. Team management Symposium for Colorectal cancer 2015,2015,(東京),[講演]

### 3. 学会等における研究発表テーマ調べ (研究所)

#### 疫学・予防部

- 001 **Ito H**: The risk prediction for esophageal cancer by drinking, smoking, and the polymorphisms of ALDH 2 and ADH 1 B. AACR ANNUAL MEETING 2015, 2015, (Philadelphia),[ポスター(示説)]
- 002 **Ito H, Oze I, Hosono S, Watanabe M, Tanaka H, Matsuo K**: Cumulative risks of stomach cancer by PSCA polymorphism, Helicobacter Pylori infection and smoking history in Japan. The 34th Sapporo International Cancer Symposium, 2015,(Sapporo),[ポスター(示説)]
- 003 **Oze I, Nakagawa H, Shimada S, Akiyama Y, Yatabe Y, Hiito H, Tanaka H, Matsuo K, Yuasa Y**: Comparison of circulating miRNA levels between gastric cancer patients and non-cancer controls. The 34th Sapporo International Cancer Symposium, 2015,(Sapporo),[ポスター(示説)]
- 004 **Tanaka H**: Epidemiology of gastrointestinal tract cancer in Japan. Cancer Meeting in Tokushima 2015, 2015, (Tokushima),[口演]
- 005 **Inoue S, Hosono S, Ito H, Oze I, Matsuo K, Kato S, Tanaka H, Ito Y**: Trends in a survival of cancer of the corpus uteri in Japan 1993-2006(J-CANSIS). 8th NAGOYA グローバルリトリート, 2015,(Aichi),[ポスター(示説)]
- 006 **田中英夫**: 子供からのがん予防教育の必要性. 名古屋市学校保健研究会, 2015,(名古屋),[講演]
- 007 **渡邊美貴, 細野覚代, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 田中英夫**: 多因子疾患としての乳がん個別予防実用化への試み～正しい保健行動につなげるために研究者は何を伝えるべきか～. がん予防学術大会2015さいたま, 2015,(さいたま),[シンポジウム]
- 008 **中川弘子, 伊藤秀美, 細野覚代, 尾瀬 功, 田中英夫, 三上春夫, 服部昌和, 西野善一, 中田佳世, 杉山裕美**: 日本人における大腸がんの部位別罹患率の経年変化の検討: 1975年～2004年. 地域がん登録全国協議会第24回学術集会, 2015,(前橋),[ポスター(示説)]
- 009 **山口通代, 伊藤秀美, 田中英夫**: 愛知県がん登録における市別のI/M比と早期がん割合について. 地域がん登録全国協議会第24回学術集会, 2015,(前橋),[ポスター(示説)]
- 010 **井上修作, 細野覚代, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 加藤聖子, 田中英夫, 伊藤ゆり**: 地域がん登録データを用いた子宮体がん患者の生存時間分析(J-CANSIS). 平成27年度がん若手研究者ワークショップ, 2015,(長野),[口演]
- 011 **田中英夫**: がん疫学・予防支援活動班 支援説明. 平成27年度文部科学省新学術領域研究「がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動」支援説明会/公開シンポジウム, 2015,(東京),[シンポジウム]
- 012 **中川弘子, 伊藤秀美, 細野覚代, 尾瀬 功, 三上春夫, 服部昌和, 西野善一, 中田佳世, 田中英夫**: 日本人における大腸がんの部位別罹患率の経年変化の検討: 1975年～2004年. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋),[ポスター(示説)]
- 013 **田中英夫**: 個別化がん予防の実用化に向けた諸課題と克服. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋),[教育講演]
- 014 **細野覚代, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 西野善一, 服部昌和, 井岡亜希子, 中山富雄, 田中英夫, 伊藤ゆり**: 日本における卵巣がん生存率トレンド(J-CANSIS): 標準治療の影響について. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋),[口演]
- 015 **尾瀬 功, 伊藤秀美, 細野覚代, 西野善一, 服部昌和, 井岡亜希子, 中山富雄, 田中英夫, 伊藤ゆり**: 日本人非小細胞肺がん患者の相対生存率で見る分子標的療法の効果: J-CANSIS study. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋), [ポスター(示説)]
- 016 **井上修作, 細野覚代, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 西野善一, 服部昌和, 井岡亜希子, 中山富雄, 加藤聖子, 田中英夫, 伊藤ゆり**: 日本の子宮体がんに関する生存率の動向: J-CANSIS. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋),[ポスター(示説)]
- 017 **田中英夫**: 日本のがん疫学とがん登録の現状. アンダーライティング協会教育講演会, 2015,(東京),[講演]
- 018 **山口通代, 伊藤秀美, 中川弘子, 近藤良伸, 田中英夫**: 愛知県における市別の早期がん割合と、罹患/死亡比の関係について. 第74回日本公衆衛生学会総会, 2015,(長崎),[ポスター(示説)]
- 019 **尾瀬 功, 伊藤秀美, 細野覚代, 西野善一, 服部昌和, 井岡亜希子, 中山富雄, 田中英夫, 伊藤ゆり**: 地域がん登録データによる1993-2006年の小細胞肺がん生存率の変遷-J-CANSIS study. 第56回日本肺癌学会学術集会, 2015,(横浜),[口演]
- 020 **田中英夫**: 肝がん罹患率の都道府県較差とその要因. 日本医師会共催シンポジウム, 2015,(東京),[講演]
- 021 **田中英夫**: 肝がん罹患・死亡の都道府県較差とその要因. JACRシンポジウム, 2015,(東京),[シンポジウム]
- 022 **細野覚代, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 西野善一, 服部昌和, 井岡亜希子, 中山富雄, 田中英夫, 伊藤ゆり**: 日本における子宮頸がん生存率のトレンド(J-CANSIS). 第26回日本疫学会学術総会, 2015,(米子),[口演]
- 023 **尾瀬 功, 長崎洋美, 島田 周, 秋山好光, 谷田部恭, 細野覚代, 伊藤秀美, 田中英夫, 松尾恵太郎, 湯浅保仁**: ひまん型胃がんの早期発見マーカーとしてのmiRNAの検討. 第26回日本疫学会学術総会, 2015,(米子),[ポスター(示説)]
- 024 **中川弘子, 伊藤秀美, 細野覚代, 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 田中英夫**: Coffee and the risk of colorectal: a pooled analysis from two case-control studies in Japan. 第26回日本疫学会学術総会, 2015,(米子),[ポスター(示説)]
- 025 **井上修作, 細野覚代, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 西野善一, 服部昌和, 井岡亜希子, 中山富雄, 松尾恵太郎, 加藤聖子, 田中英夫, 伊藤ゆり**: 地域がん登録データを用いた婦人科

がん高齢患者の生存時間分析(J-CACSIS). 第26回日本疫学会学術総会, 2015,(米子)[ポスター(示説)]

- 026 渡邊美貴, 伊藤秀美, 細野覚代, 尾瀬 功, 田島和雄, 加藤久登, 松尾恵太郎, 田中英夫: 出生年別に見た日本人の血清*Helicobacter pylori*抗体ならびに血清ペプシノゲンによる*Helicobacter pylori*感染者、胃がんハイリスク者の割合の特徴. がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動公開シンポジウム, 2015,(東京)[ポスター(示説)]
- 027 田中英夫: 日本のがん登録の現状と罹患データの活用. 愛知県保健所長会がん登録講演, 2015,(名古屋)[招請講演]

#### 分子腫瘍学部

- 001 関戸好孝: Hippo pathway inactivation in malignant mesothelioma cells. Keystone Symposia, 2015,(Taos, New Mexico)[ポスター]
- 002 関戸好孝: Hippo pathway dysregulation in mesothelioma cells. 第16回世界肺癌学会, 2015,(Denver)[ポスター]
- 003 竹下純平, 山本尚吾, 辰野健二, 大搦泰一郎, 栗林康造, 近藤展行, 長谷川誠紀, 辻村 亨, 長田啓隆, 中野孝司, 関戸好孝, 油谷浩幸: 悪性胸膜中皮腫の遺伝子プロファイル. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋)[口演]
- 004 関戸好孝: 悪性胸膜中皮腫の分子生物学的解析と臨床への応用. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋)[口演]
- 005 羽切周平, 長田啓隆, 関戸好孝: 悪性胸膜中皮腫細胞株におけるBAP1 遺伝子不活化変異についての検討. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋)[口演]
- 006 Osada H, Yanagisawa K, Tatematsu Y, Sekido Y, Ono K, Takahashi T: Anti-CLCP1 antibody as cancer-targeting vehicle. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋)[口演]
- 007 Murakami-Tonami Y, Sekido Y, Kadomatsu K: SGO1 regulates DNA damage response in MYCN-amplified neuroblastoma cells. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋)[口演]
- 008 関戸好孝: 悪性中皮腫細胞におけるBAP1 遺伝子の機能解析. 第22回石綿・中皮腫研究会, 2015,(川崎)[口演]
- 009 関戸好孝: 悪性中皮腫におけるトランスレシヨナルリサーチ. 第56回日本肺癌学会, 2015,(横浜)[シンポジウム]
- 010 関戸好孝: 悪性中皮腫におけるHippoシグナル伝達系異常. 第38回日本分子生物学会年会第88回日本生化学会大会合同大会,2015,(神戸)[ワークショップ]
- 011 村上(渡並)優子, 関戸好孝, 門松健治: SGO1はMYCNがん遺伝子増幅細胞においてDNA損傷応答を制御する. 第38回日本分子生物学会年会第88回日本生化学会大会,2015,(神戸)[ポスター]

#### 遺伝子医療研究部

- 001 Kasugai Y, Tsuzuki S, Yoshida N, Suguro M,

Takahara T, Karube K, Ohshima K, Seto M: HBZ, BCL-xL, Akt, and loss of Ink4a/Arf synergistically transform primary murine T cells and elicit ATL-like disease in mice: 13th International Conference of Malignant Lymphoma. 2015,(Lugano)[口演]

- 002 Sakura T, Hayakawa F, Sugiura I, Imai K, Usui N, Fujisawa S, Murayama T, Yujiri T, Kiyoi H, Ohnishi K, Miyazaki Y, Ohtake S, Kobayashi Y, Matsuo K, Naoe T: Effectiveness of High-Dose MTX Therapy for Adult Ph-Negative ALL By Randomized Trial. JALSG ALL202-O. 57th ASH Annual Meeting and Exposition, 2015,(Orlando)[ポスター]
- 003 Urayama YK, Takagi M, Kawaguchi T, Matsuo K, Tanaka Y, Arakawa Y, Hasegawa D, Yuza Y, Kaneko T, Noguchi Y, Taneyama Y, Ota S, Inukai T, Yanagimachi M, Keino D, Koike K, Toyama D, Nakazawa Y, Kurosawa H, Nakamura K, Moriwaki K, Goto H, Sekinaka Y, Morita D, Kato M, Koh K, Ishida Y, Ohara A, Mizutani S, Matsuda F, Manabe A: Genetic Susceptibility Loci for Childhood Acute Lymphoblastic Leukemia Among Japanese. 2015, (Orlando)[ポスター]
- 004 Hijioka S, Hosoda W, Matsuo K, Ueno M, Furukawa M, Yoshitomi H, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Nakamori S, Ishii H, Kodama Y, Morizane C, Yanagimoto H, Yane K, Notohara K, Furuse J, Yatabe Y, Mizuno N: Clinicopathological features and response to platinum-based chemotherapy in pancreatic neuroendocrine carcinoma: A retrospective multicenter study of 70 patients. 2016 Gastrointestinal Cancers Symposium, 2016,(San Francisco)[ポスター]
- 005 Taishi T, Matsuo K, Nakamura S, Seto M, Tsuzuk S: Synergistic activity of Card11 mutant and Bcl6 genes in the development of diffuse large B cell lymphoma in a mouse model. 13th K-J Lymphoreticular Workshop, 2016,(Seoul)[口演]
- 006 Morishima S, Kashiwase K, Keitaro Matsuo, Azuma F, Yabe T, Sato-Otsubo A, Ogawa S, Shiina T, Satake M, Saji H, Kato S, Koderu Y, Sasazuki T, Morishima Y: High risk HLA allele for severe acute graft-versus-host disease and mortality in unrelated donor hematopoietic stem cell transplantation. 2016 BMT Tendem Meetings, 2016,(Honolulu)[ポスター]
- 007 松尾恵太郎: がん疫学入門. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋)[口演]
- 008 春日井由美子, 都築 忍, 吉田雅明, 勝呂 幸, 高原大志, 加留部謙之輔, 大島孝一, 瀬戸加大: HBZ, BCL-xL, Akt, and loss of Ink4a/Arf synergistically transform primary murine T cells and elicit ATL-like disease in mice(急性型成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATL)の新規マウスモデル). 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋)[口演]
- 009 高原大志, 都築 忍: Analysis of functional roles of



- Diffuse Large B cell Lymphoma(DLBCL)-associated genes employing a mouse lymphoma model(マウスモデルを用いたDiffuse large B cell lymphoma(DLBCL)関連遺伝子の機能解析). 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋),[ポスター]
- 010 松尾恵太郎, 伊藤秀美: アルコール摂取と胃がんリスク遺伝子環境要因相互作用. 平成27年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会,2015,(神戸),[口演]
- 011 鶴飼知嵩, 伊藤秀美, 松尾恵太郎: アセトアルデヒド脱水素酵素2(ALDH2)の遺伝子多型の女性乳癌に対する影響. 第26回日本疫学会学術総会,2016,(米子),[口演]
- 012 正岡寛之, 松尾恵太郎, 伊藤秀美, 若井建志, 永田知里, 中山富雄, 定金敦子, 田中恵太郎, 玉腰暁子, 菅原由美, 溝上哲也, 澤田典絵, 井上真奈美, 津金昌一郎, 笹月 静: 日本人における喫煙と膀胱癌がんリスクに関するsystematic review. 第26回日本疫学会学術総会,2016,(米子),[ポスター]
- 013 澤部 倫, 伊藤秀美, 細野覚代, 尾瀬 功, 田中英夫, 松尾恵太郎: 頭頸部癌患者コホートにおける飲酒と予後の関連の検討. 第26回日本疫学会学術総会,2016,(米子),[ポスター]
- 014 中川弘子, 伊藤秀美, 細野覚代, 尾瀬 功, 松尾恵太郎, 田中英夫: Coffee and the risk of colorectal cancer: a pooled analysis from two case-control studies in Japan. 第26回日本疫学会学術総会,2016,(米子),[ポスター]
- 015 尾瀬 功, 長崎洋美, 島田 周, 秋山好光, 谷田部恭, 細野覚代, 伊藤秀美, 田中英夫, 松尾恵太郎, 湯浅保仁: びまん型胃がんの早期発見マーカーとしてのmiRNAの検討. 第26回日本疫学会学術総会,2016,(米子),[ポスター]
- 016 井上修作, 細野覚代, 伊藤秀美, 尾瀬 功, 西野善一, 服部昌和, 井岡亜希子, 中山富雄, 松尾恵太郎, 加藤聖子, 田中英夫, 伊藤ゆり: 地域がん登録データを用いた婦人科がん高齢患者の生存時間分析(JCANSIS). 2016,(米子),[ポスター]
- 腫瘍免疫学部
- 001 *Miyama T, Kawase T, Kitaura K, Chishaki R, Shibata M, Oshima K, Hamana H, Kishi H, Kuzushima K, Saji H, Suzuki R, Ichinohe T*: Comprehensive T-Cell Receptor Repertoire Analysis Using Deep Sequencing and Single Cell Cloning Reveals Extreme Oligoclonality of Ex Vivo Expanded Cytomegalovirus-Reactive Cytotoxic T-Cells. The 57th ASH Annual Meeting and Exposition, 2015,(フロリダ 米国),[ポスター]
- 002 *Gondo N, Rezano A, Kuzushima K, Iwata H, Kuwahara K*: DSS1 depletion is a promising strategy increasing chemosensitivity possibly independent of BRCA2 expression. The 38th San Antonio Breast Cancer Symposium, 2015,(サンアントニオ 米国),[ポスター]
- 003 *Tsujimura K, Ohta R, Imai M, Yamazaki S*: Analysis of C5a receptor expression on the various subsets of dendritic cells. LC2015 14th International Workshop on Langerhans Cells, 2015,(京都),[ポスター]
- 004 *Miyama T, Kawase T, Kitaura K, Chishaki R, Shibata M, Oshima K, Hamana H, Kishi H, Kuzushima K, Saji H, Suzuki R, Ichinohe T*: Comprehensive analysis of CMV-specific T-cell repertoire by deep sequencing and single cell cloning. 第77回日本血液学会学術集会, 2015,(金沢),[口演]
- 005 *Takayama S, Odanaka M, Ohta R, Imai M, Yamazaki S*: Differential roles of complement anaphylatoxin C5a and C5adesArg. 第44回日本免疫学会学術集会, 2015,(札幌),[ポスター]
- 006 Nicholas Paul Casey, 藤原 弘, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 安川正貴: Targeting Aurora Kinase A utilising an improved TCR gene-transfer vector. 第19回日本がん免疫学会総会, 2015,(東京),[口演]
- 007 田中ヒロキ, 藤原 弘, 谷本カズシ, 越智史博, 岡本幸子, 峰野純一, 葛島清隆, 珠玖 洋, 安川正貴: Lentivirally gene-modified T cells expressing chimeric CD16-CD3 receptors and mogamulizumab for the treatment of adult T cell leukemia. 第19回日本がん免疫学会総会, 2015,(東京),[ポスター]
- 008 辻村幸平, 太田里永子, 今井優樹, 山崎小百合: C5a第2レセプターC5L2の発現解析. 第52回日本補体学会学術集会, 2015,(名古屋),[口演]
- 009 河村剛至, 太田里永子, 今井優樹, 大澤真以, 塩見友祐, 羽二生久夫, 岡田秀親, 岡田則子, 松田佳和: 好中球エラストラーゼにより活性化する新規カルボキシペプチダーゼRの解析. 第52回日本補体学会学術集会, 2015,(名古屋),[口演]
- 010 稲熊容子, 細川晃平, 赤塚美樹, 岡本晃直, 片桐孝和, 葛島清隆, 中尾眞二, 恵美宣彦: 再生不良性貧血患者の造血前駆細胞をHLA-B\*40:02拘束性に抑制する細胞傷害性T細胞の単離と機能解析. 第7回血液疾患免疫療法研究会学術集会, 2015,(東京),[口演]
- 011 張 エイ, 植村靖史, 劉天懿, 岡本幸子, 池田裕明, 巽美奈子, 竹之山光宏, 赤塚美樹, 岡田誠治, 峰野純一, 珠玖洋, 葛島清隆: インバリアントNKT細胞と樹状細胞の相互作用によるTCR遺伝子導入T細胞の抗腫瘍効果増強. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋),[口演]
- 012 岡村文子, 赤塚美樹, 葛島清隆: 癌細胞で提示されるTAP非依存性エピトープの解析. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋),[ポスター]
- 013 岩間達章, 鈴木元晴, 劉天懿, 張 エイ, 吉川聡明, 下村真菜美, 中面哲也, 葛島清隆, 植村靖史: 活性化iNKTによるIL-12ファミリーサイトカイン/オステオポンチンのバランス制御. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋),[ポスター]
- 014 葛島清隆: 抗原特異的T細胞の解析方法. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋),[口演]
- 015 桑原一彦, 伊藤秀美, 岩瀬弘敬, 葛島清隆, 岩田広治, 田中英夫, 松尾恵太郎: 散発性乳癌の発症におけるganp遺伝

子の分子疫学的研究. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋)[口演]

- 016 葛島清隆: ワクチンを含む, がん免疫療法の最近の動向について. 第19回日本ワクチン学会学術集会, 2015,(犬山市), [口演]
- 017 河村剛至, 太田里永子, 山本博之, 今井優樹, 松浦凌太, 松山 悟, 佐古兼一, 羽二生久夫, 岡田秀親, 松田佳和: 好中球エラスターゼにより活性化する新規カルボキシペプチダーゼRの解析. 日本薬学会第136年会, 2015,(横浜), [ポスター]

#### 感染腫瘍学部

- 001 小根山千歳: 脂質ラフトによるSrcの空間的制御とがん進展. 日本がん分子標的治療学会第19回学術総会,2015,(松山),[口演]
- 002 神田 輝, 宮田眞美子: EBウイルス株間におけるLMP 1蛋白質の機能的差異の解析. 第29回ヘルペスウイルス研究会,2015,(長崎),[口演]
- 003 小根山千歳: microRNAによるSrcがんシグナル制御とその破綻. 第67回日本細胞生物学会大会,2015,(東京),[特別講演]
- 004 神田 輝: 発見の興奮から半世紀—EBウイルス研究で今起きていること—. 第14回みちのくウイルス塾,2015,(仙台), [招聘講演]
- 005 神田 輝, 宮田眞美子: がん組織由来LMP 1はBARTマイクロRNA群と協調してウイルス産生効率を増強する. 第12回EBウイルス研究会—国際集會—,2015,(出雲),[口演]
- 006 二宮悠一, 小根山千歳: c-Srcがん化初期におけるmicroRNAの発現減少とがん抑制作用. 第7回日本RNAi研究会/第2回日本細胞外小胞学会,2015,(広島),[ポスター]
- 007 榎原 敦, 小根山千歳: c-Srcによるエクソソームの制御とがん形質. 第7回日本RNAi研究会/第2回日本細胞外小胞学会,2015,(広島),[ポスター]
- 008 小根山千歳: MicroRNAs as the fine-tuners of Src oncogenic signaling. 第7回日本RNAi研究会/第2回日本細胞外小胞学会,2015,(広島),[特別講演]
- 009 神田 輝: がん細胞由来・B細胞由来EBウイルス株LMP 1蛋白質の機能的差異について. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋),[口演]
- 010 二宮悠一, 小根山千歳: c-Srcがん形質発現初期におけるmicroRNAの発現減少とがん抑制における重要性. 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋),[ポスター]
- 011 榎原 敦, 小根山千歳: c-Srcによりがん化した細胞から分泌されるエクソソームの制御とその機能. 第74回日本癌学会学術総会, 2015,(名古屋),[ポスター]
- 012 小根山千歳, 二宮悠一: microRNAを介したc-Src発現亢進とがん形質. 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋),[口演]
- 013 神田 輝: EBウイルスの基礎知識と研究の現況—ありふれたウイルスがどうして病気を起こすのか?—. 名古屋医

療センター 第191回HIVカンファレンス,2015,(名古屋),[招聘講演]

- 014 神田 輝: がん細胞由来EBV LMP 1 とウイルスマイクロRNAの協調効果. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 2015,(福岡),[口演]
- 015 二宮悠一, 小根山千歳: c-Srcがん化初期に発現減少するmicroRNAのがん抑制作用. BMB2015, 2015,(神戸),[ポスター]
- 016 榎原 敦, 小根山千歳: c-Srcがん化におけるエクソソームの制御. BMB2015,2015,(神戸),[ポスター]
- 017 小根山千歳, 二宮悠一: FerキナーゼによるSrcがんシグナルの増幅と伝搬. BMB2015, 2015,(神戸),[口演]
- 018 小根山千歳: Srcがんシグナル制御の新機軸. 岐阜大学連合創薬医療情報研究科特別セミナー, 2015,(岐阜),[特別講演]
- 019 小根山千歳: Srcシグナルの制御破綻を標的としたがん治療シーズの探索. 平成27年度中部地区医療・バイオ系シーズ発表会,2016,(名古屋),[口演]
- 020 小根山千歳: がんシグナル抑制を担うmicroRNA-シグナルネットワークとその破綻—. 岡山大学医歯薬総合研究科特別セミナー,2016,(岡山),[特別講演]

#### 分子病態学部

- 001 *Aoki M, Sakuma K*: An in vivo sh RNA screen identifies HNRNPLL as a novel colorectal cancer metastasis. Tenth AACR-JCA Joint Conference on Breakthroughs in Cancer Research: From Biology to Therapeutics,2016, (Maui, Hawaii),[ポスター]
- 002 青木正博, 武藤 誠, 藤下晃章: MEK阻害薬trametinibによるApc $\Delta$ 716マウスの腸管ポリープ形成抑制効果と間質COX-2の関与. 第19回日本がん分子標的治療学会学術集会,2015,(松山),[ポスター]
- 003 青木正博: マウスモデルを用いた大腸がん浸潤・転移の予防・治療標的の探索. 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋),[シンポジウム]
- 004 藤下晃章, 梶野リエ, 小島 康, 武藤 誠, 青木正博: MEK/ERK経路の阻害はCOX 2およびCCL 2の発現レベルを減少させ腸管ポリープ形成を抑制する. 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋),[口演]
- 005 小島 康, 藤下晃章, 武藤 誠, 青木正博: II型脱ヨード酵素の大腸がん進展における役割の検討. 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋),[ポスター]
- 006 佐久間圭一朗, 青木正博: 大腸がん転移抑制因子候補HNRPLLは上皮間葉転換によって負の制御を受ける. 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋),[口演]
- 007 梶野リエ, 藤下晃章, 小島 康, 武藤 誠, 青木正博: 腸管腫瘍形成におけるJNK-mTORC 1経路活性化機序の解析. 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋),[ポスター]
- 008 小島 康, オリム・フローレンス, 藤下晃章, 武藤 誠, 青木正博: 腸管腫瘍形成における甲状腺ホルモンの役割. 第38回日本分子生物学会年会,2015,(神戸),[ポスター]

009 藤下晃章 : Role of tumor microenvironment in intestinal adenocarcinoma resistance to mTOR. 第8回NAGOYA グローバルリトリート,2016,(大府),[招請講演]

期特異的リン酸化部位の同定と機能解析. 第68回日本細胞生物学会大会,2016,(京都),[ポスター]

#### 腫瘍医化学部

001 *Inaba H, Goto H, Kasahara K, Kumamoto K, Yonemura S, Inoko A, Yamano S, Wanibuchi H, He D, Goshima N, Kiyono T, Hirotsune S, Inagaki M* : Ndel1 suppresses unscheduled cilia formation in proliferating cells by regulating the trichoplein-Aurora-A pathway. The 55th Annual Meeting of the American Society for Cell Biology, 2015,(San Diego),[ポスター]

002 稲葉弘哲, 後藤英仁, 笠原広介, 猪子誠人, 熊本香奈子, 米村重信, 何 東偉, 五島直樹, 山野荘太郎, 鱈渕英機, 広常真治, 清野 透, 稲垣昌樹 : Ndel1による一次線毛形成抑制は腎臓の形態形成に重要である. 第67回日本細胞生物学会大会,2015,(東京),[ポスター]

003 牧原弘幸, 田中宏樹, 後藤英仁, 猪子誠人, 榎本 篤, 後藤満雄, 栗田賢一, 井澤一郎, 稲垣昌樹 : ビメンチンリン酸化不全変異マウスにおける染色体不安定性と老化. 第67回日本細胞生物学会大会,2015,(東京),[ワークショップ・ポスター]

004 太田 緑, 秦 裕子, 後藤英仁, 稲垣昌樹, 尾山大明, 木村 暁, 北川大樹 : 中心体の複製を1コピーに保障する分子機構. 第67回日本細胞生物学会大会,2015,(東京),[若手優秀発表・ポスター]

005 田中宏樹, 後藤英仁, 猪子誠人, 牧原弘幸, 榎本 篤, 井澤一郎, 稲垣昌樹 : Defect of Vimentin phospho-deficient mice display aneuploidy and skin premature aging. 第74回日本癌学会学術総会,2015,(名古屋),[ワークショップ]

006 笠原広介, 青木啓将, 田中宏樹, 清野 透, 高坂美恵子, 福田枝里子, 五島直樹, 稲垣昌樹 : 脱ユビキチン化酵素 Usp8による1次シリアの制御. 第38回日本分子生物学会・第88回日本生化学会合同大会(BMB2015),2015,(神戸),[一般口頭発表・ポスター]

007 猪子誠人, 林 裕子, 清野 透, 稲垣昌樹 : Albatross/Fbf1蛋白質は中心体機能に広く寄与する. 第38回分子生物学会年会・第88回日本生化学会合同大会, 2015,(神戸), [一般口頭発表・ポスター]

008 秋山敏宏, 瀬川尋貴, 猪子誠人, 加治優一, 大鹿哲郎, 加納英明 : マルチモーダル多光子分光顕微鏡を用いたラット網膜・視細胞の分子イメージング. 第9回分子科学討論会, 2015,(東京),[ポスター]

009 稲葉弘哲, 後藤英仁, 笠原広介, 猪子誠人, 熊本香奈子, 米村重信, 何 東偉, 五島直樹, 山野荘太郎, 鱈渕英機, 広常真治, 清野 透, 稲垣昌樹 : Ndel1は増殖細胞において一次線毛形成を抑制する. 第68回日本細胞生物学会大会, 2016,(京都),[ワークショップ]

010 牧原弘幸, 稲葉弘哲, 田中宏樹, 榎本 篤, 友野靖子, 後藤満雄, 栗田賢一, 後藤英仁, 稲垣昌樹 : デスミンの分裂



## 4. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ（名誉総長・名誉院長・総長）

### 名誉総長

- 001 *Nimura Y* : Cholangiocarcinoma : Introduction. Cholangiocarcinoma, New York, Nova Science Publishers, 2015, pp 1-15.
- 002 *Nimura Y* : Chapter 70 : Bile Duct Resection. Atlas of Upper Gastrointestinal and Hepato - Pancreato - Biliary Surgery, Second Edition, Berlin Heidelberg, Springer-Verlag, 2016, pp 623-636.
- 003 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療：胆道癌への外科の挑戦－肝門部胆管癌治療における移植手術の介入：欧米の動き－. 消化器外科, 38: 955-974, 2015.
- 004 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療：胆道癌への外科の挑戦－レビュー論文からみた最近の肝門部胆管癌の外科治療の現状－. 消化器外科, 38: 1091-1105, 2015.
- 005 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療：胆道癌への外科の挑戦－世界の先端施設での肝門部胆管癌手術の現状－. 消化器外科, 38: 1215-1233, 2015.
- 006 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療：胆道癌への外科の挑戦－リンパ節郭清とリンパ節転移のステージ分類－. 消化器外科, 38: 1337-1348, 2015.
- 007 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療：胆道癌への外科の挑戦－胆道癌のmicrometastasisとリンパ節郭清範囲－. 消化器外科, 38: 1467-1485, 2015.
- 008 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療：胆道癌への外科の挑戦－術前胆管ドレナージ；東西論争の軌跡(1)－. 消化器外科, 38: 1599-1618, 2015.
- 009 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療：胆道癌への外科の挑戦－術前胆管ドレナージ；東西論争の軌跡(2)－ PTBD vs EBD. 消化器外科, 38: 1741-1760, 2015.
- 010 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療：胆道癌への外科の挑戦－再発胆道癌の再切除－. 消化器外科, 38: 1875-1887, 2015.
- 011 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療：胆道癌への外科の挑戦－胆道癌に対する新たなチャレンジャー－. 消化器外科, 39: 91-105, 2016.
- 012 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療：胆道癌への外科の挑戦－胆道癌に対する日本発の究極の拡大手術；HPDの歴史と変遷－. 消化器外科, 39: 219-232, 2016.
- 013 二村雄次：総説 世界に誇る胆道癌の外科治療：胆道癌への外科の挑戦－胆道癌に対する日本発の究極の拡大手術；HPDの現状－. 消化器外科, 39: 350-363, 2016.

### 名誉院長

- 001 *Shinoda M, Ando N, Kato K, Ishikura S, Kato H, Tsubosa Y, Minashi K, Okabe H, Kimura Y, Kawano T, Kosugi S, Toh Y, Nakamura K, Fukuda H* : Randomized study of low-dose versus standard-dose chemoradiotherapy for unresectable esophageal squamous cell carcinoma (JCOG0303). Cancer Science , 106(4):407-12, 2015.

### 総長

- 001 高橋進一郎, 斎藤典男, 小西 大, 木下 平：大腸がん同時性肝転移の治療戦略. 千葉医学雑誌, 91:133, 2015.
- 002 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 木下 平, 二村雄次：胆管ステント留置・左肝管十二指腸吻合術43年後に発症した胆管癌の1例. 日本臨床外科学会雑誌, 76:2524-2531, 2015.
- 003 岩田至紀, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 伊藤誠二, 小森康司, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 木村賢哉, 木下敬史, 夏目誠治, 川上次郎, 浅野智成, 倉橋真太郎, 重吉 到, 筒山将之, 清水泰博, 篠田雅幸, 木下 平：異所性胃粘膜に発生した頸部食道腺癌の1切除例. 日本臨床外科学会雑誌, 76:2601, 2015.
- 004 倉橋真太郎, 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 川合亮佑, 植村則久, 木下敬史, 伊藤友一, 木村賢哉, 三澤一成, 安部哲也, 小森康司, 伊藤誠二, 木下 平：T1腺癌の1切除例. 日本臨床外科学会雑誌, 76:2604, 2015.

## 5. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (病院)

### 病院長

- 001 丹羽康正：【消化器内視鏡の診断と治療の最前線】消化器内視鏡診断の進歩(解説/特集). 現代医学,63巻2号:1-7, 2015.
- 002 北川晋二, 水口昌伸, 宮川国久, 入口陽介, 大泉晴史, 大黒隆司, 小川眞広, 小林正夫, 丹羽康正, 藤谷幹浩, 松浦隆志, 日本消化器がん検診学会全国集計委員会：平成25年度消化器がん検診全国集計(解説). 日本消化器がん検診学会雑誌, 54巻1号:77-99,2016.

### 消化器内科部

- 001 *Ueno M, Okusaka T, Omuro Y, Isayama H, Fukutomi A, Ikeda M, Mizuno N, Fukuzawa K, Furukawa M, Iguchi H, Sugimori K, Furuse J, Shimada K, Ioka T, Nakamori S, Baba H, Komatsu Y, Takeuchi M, Hyodo I, Boku N* : A randomized phase II study of S-1 plus oral leucovorin versus S-1 monotherapy in patients with gemcitabine-refractory advanced pancreatic cancerdagger. *Ann Oncol*, 27(3):502-508,2016.
- 002 *Miyazaki M, Yoshitomi H, Miyakawa S, Uesaka K, Unno M, Endo I, Ota T, Ohtsuka M, Kinoshita H, Shimada K, Shimizu H, Tabata M, Chijiwa K, Nagino M, Hirano S, Wakai T, Wada K, Isayama H, Okusaka T, Tsuyuguchi T, Fujita N, Furuse J, Yamao K, Murakami K, Yamazaki H, Kijima H, Nakanuma Y, Yoshida M, Takayashiki T, Takada T* : Clinical practice guidelines for the management of biliary tract cancers 2015: the 2nd English edition. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 22(4):249-73,2015.
- 003 *Shimizu Y, Yamaue H, Maguchi H, Yamao K, Hirono S, Osanai M, Hijioka S, Kanemitsu Y, Sano T, Senda Y, Bhatia V, Yanagisawa A* : Validation of a nomogram for predicting the probability of carcinoma in patients with intraductal papillary mucinous neoplasm in 180 pancreatic resection patients at 3 high-volume centers. *Pancreas*, 44(3):459-64,2015.
- 004 *Takigawa M, Kuwahara T, Takahashi A, Okubo K, Takahashi Y, Nakashima E, Yamao K, Watari Y, Nakajima J, Takagi K, Fujino T, Kimura S, Hikita H, Hirao K, Isobe M* : Simultaneous isolation of superior and inferior pulmonary veins on both the left and right sides could yield better outcomes in patients with paroxysmal atrial fibrillation. *Europace*, 17(5):732-40,2015.
- 005 *Hijioka S, Hosoda W, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Bhatia V, Mekky MA, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Tsutumi H, Fujiyoshi T, Sato T, Hieda N,*

- Yoshida T, Okuno N, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K* : Does the WHO 2010 classification of pancreatic neoplasms accurately characterize pancreatic neuroendocrine carcinomas?. *J Gastroenterol*, 50(5):564-72,2015.
- 006 *Hosoda W, Sasaki E, Murakami Y, Yamao K, Shimizu Y, Yatabe Y* : GNAS mutation is a frequent event in pancreatic intraductal papillary mucinous neoplasms and associated adenocarcinomas. *Virchows Arch*, 466(6):665-74,2015.
- 007 *Okubo K, Kuwahara T, Takagi K, Takigawa M, Nakajima J, Watari Y, Nakashima E, Yamao K, Fujino T, Tsutsui H, Takahashi A* : Relation between dabigatran concentration, as assessed using the direct thrombin inhibitor assay, and activated clotting time/activated partial thromboplastin time in patients with atrial fibrillation. *Am J Cardiol*, 115(12):1696-9,2015.
- 008 *Okuno N, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Yamao K* : Stent migration into the peritoneal cavity following endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy. *Endoscopy*, 47(S1):E311,2015.
- 009 *Yamaue H, Tsunoda T, Tani M, Miyazawa M, Yamao K, Mizuno N, Okusaka T, Ueno H, Boku N, Fukutomi A, Ishii H, Ohkawa S, Furukawa M, Maguchi H, Ikeda M, Togashi Y, Nishio K, Ohashi Y* : Randomized phase II/III clinical trial of elpamotide for patients with advanced pancreatic cancer: PEGASUS-PC Study. *Cancer Sci*, 106(7):883-90,2015.
- 010 *Takigawa M, Takahashi A, Kuwahara T, Okubo K, Takahashi Y, Nakashima E, Watari Y, Yamao K, Nakajima J, Takagi K, Kimura S, Hikita H, Hirao K, Isobe M* : Impact of Non-Pulmonary Vein Foci on the Outcome of the Second Session of Catheter Ablation for Paroxysmal Atrial Fibrillation. *J Cardiovasc Electrophysiol*, 26(7):739-46,2015.
- 011 *Ichimura N, Shinjo K, An B, Shimizu Y, Yamao K, Ohka F, Katsushima K, Hatanaka A, Tojo M, Yamamoto E, Suzuki H, Ueda M, Kondo Y* : Aberrant TET1 Methylation Closely Associated with CpG Island Methylator Phenotype in Colorectal Cancer. *Cancer Prev Res (Phila)*, 8(8):702-11,2015.
- 012 *Yogi T, Hijioka S, Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Shimizu Y, Hosoda W, Yatabe Y, Niwa Y, Yoshimura K, Bhatia V, Fujita J, Yamao K* : Risk factors for postoperative recurrence of intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas based on a long-term follow-up study: proposals for follow-up strategies. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 22(10):757-65,2015.

- 013 *Ando M, Shimizu Y, Sano T, Senda Y, Nimura Y, Yamao K, Nagino M, Yanagisawa A* : Poor prognosis of common-type invasive ductal carcinomas that originate in the branching pancreatic duct. *Surg Today*, 45(10):1291-8,2015.
- 014 *Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Bhatia V, Yamao K* : Morphological differentiation and follow up of pancreatic cystic neoplasms using endoscopic ultrasound. *Endosc Ultrasound*, 4 (4):312-8,2015.
- 015 *Springer S, Wang Y, Dal Molin M, Masica DL, Jiao Y, Kinde I, Blackford A, Raman SP, Wolfgang CL, Tomita T, Niknafs N, Douville C, Ptak J, Dobbyn L, Allen PJ, Klimstra DS, Schattner MA, Schmidt CM, Yip-Schneider M, Cummings OW, Brand RE, Zeh HJ, Singhi AD, Scarpa A, Salvia R, Malleo G, Zamboni G, Falconi M, Jang JY, Kim SW, Kwon W, Hong SM, Song KB, Kim SC, Swan N, Murphy J, Geoghegan J, Brugge W, Fernandez-Del Castillo C, Mino-Kenudson M, Schulick R, Edil BH, Adsay V, Paulino J, van Hooft J, Yachida S, Nara S, Hiraoka N, Yamao K, Hijioka S, van der Merwe S, Goggins M, Canto MI, Ahuja N, Hirose K, Makary M, Weiss MJ, Cameron J, Pittman M, Eshleman JR, Diaz LA Jr, Papadopoulos N, Kinzler KW, Karchin R, Hruban RH, Vogelstein B, Lennon AM* : A combination of molecular markers and clinical features improve the classification of pancreatic cysts. *Gastroenterology*, 149(6):1501-10,2015.
- 016 *Natsume S, Shimizu Y, Sano T, Senda Y, Ito S, Komori K, Abe T, Yanagisawa A, Yamao K* : Long-term survival case of a recurrent colon cancer owing to successful resection of a tumor at hepaticojejunostomy: report of a case. *Surg Case Rep*, 1 (1):26,2015.
- 017 *Yamao K, Kitano M, Kudo M, Maenishi O* : Synchronous pancreatic and gastric metastasis from an ovarian adenocarcinoma diagnosed by endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration. *Endoscopy*, 47(S 1),2015.
- 018 *Bhutani MS, Koduru P, Joshi V, Saxena P, Suzuki R, Irisawa A, Yamao K* : The role of endoscopic ultrasound in pancreatic cancer screening. *Endosc Ultrasound*, 5 (1): 8-16,2016.
- 019 *Kamata K, Kitano M, Omoto S, Kadosaka K, Miyata T, Yamao K, Imai H, Sakamoto H, Harwani Y, Chikugo T, Chiba Y, Matsumoto I, Takeyama Y, Kudo M* : Contrast-enhanced harmonic endoscopic ultrasonography for differential diagnosis of pancreatic cysts. *Endoscopy*, 48(1):35-41,2016.
- 020 *Okubo K, Kuwahara T, Takagi K, Takigawa M, Nakajima J, Watari Y, Nakashima E, Yamao K, Fujino T, Tsutsui H, Takahashi A* : Rapid Mapping of Right Atrial Tachycardia Using a New Multielectrode Basket Catheter. *J Cardiovasc Electrophysiol*, 27(1):73-9,2016.
- 021 *Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Bhatia V, Mekky MA, Yoshimura K, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K* : Diagnostic performance and factors influencing the accuracy of EUS-FNA of pancreatic neuroendocrine neoplasms. *J Gastroenterol*,2016.
- 022 *Hara K, Yamao K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Okuno N, Hieda N, Yoshida T, Niwa Y* : Endoscopic ultrasonography-guided biliary drainage: Who, when, which, and how?. *World J Gastroenterol*, 22(3):1297-303,2016.
- 023 *Ogura T, Chiba Y, Masuda D, Kitano M, Sano T, Saori O, Yamamoto K, Imaoka H, Imoto A, Takeuchi T, Fukunishi S, Higuchi K* : Comparison of the clinical impact of endoscopic ultrasound-guided choledochoduodenostomy and hepaticogastrostomy for bile duct obstruction with duodenal obstruction. *Endoscopy*, 48(2):156-163,2016.
- 024 *Imaoka H, Kou T, Tanaka M, Egawa S, Mizuno N, Hijioka S, Hara K, Yazumi S, Shimizu Y, Yamao K* : Clinical outcome of elderly patients with unresectable pancreatic cancer treated with gemcitabine plus S-1, S-1 alone, or gemcitabine alone: Subgroup analysis of a randomised phase III trial, GEST study. *European Journal of Cancer*, 54:96-103,2016.
- 025 *Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Sato T, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K* : Evaluation of Modified Glasgow Prognostic Score for Pancreatic Cancer: A Retrospective Cohort Study. *Pancreas*, 45(2):211-217,2016.
- 026 *Tsutsumi H, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yoshimura K, Shimizu Y, Niwa Y, Sasaki Y, Yamao K* : Clinical impact of preoperative endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for pancreatic ductal adenocarcinoma. *Endosc Ultrasound*, 5 (2):94-100,2016.
- 027 *Takigawa M, Kuwahara T, Takahashi A, Okubo K, Nakashima E, Watari Y, Yamao K, Nakajima J, Tanaka Y, Takagi K, Kimura S, Hikita H, Hirao K, Isobe M* : The mechanism of mitral regurgitation assessed by preprocedural echocardiography is associated with the outcome of catheter ablation in patients with paroxysmal atrial fibrillation. *J Interv Card Electrophysiol*, 46(3):299-306,2016.
- 028 *Imai H, Kitano M, Omoto S, Kadosaka K, Kamata K, Miyata T, Yamao K, Sakamoto H, Harwani Y, Kudo M* : EUS-guided gallbladder drainage for rescue treatment of malignant distal biliary obstruction after unsuccessful ERCP. *Gastrointest Endosc*, 84(1):147-51,2016.
- 029 *Notohara K, Nishimori I, Mizuno N, Okazaki K, Ito T, Kawa S, Egawa S, Kihara Y, Kanno A, Masamune A,*



- Shimosegawa T* : Clinicopathological Features of Type 2 Autoimmune Pancreatitis in Japan: Results of a Multicenter Survey. *Pancreas*, 44(7):1072-7,2015.
- 030 *Mitsuyama T, Uchida K, Sumimoto K, Fukui Y, Ikeura T, Fukui T, Nishio A, Shikata N, Uemura Y, Satoi S, Mizuno N, Notohara K, Shimosegawa T, Zamboni G, Frulloni L, Okazaki K* : Comparison of neutrophil infiltration between type 1 and type 2 autoimmune pancreatitis. *Pancreatolgy*, 15(3):271-80,2015.
- 031 *Grenader T, Nash S, Plotkin Y, Furuse J, Mizuno N, Okusaka T, Wasan H, Valle J, Bridgewater J* : Derived neutrophil lymphocyte ratio may predict benefit from cisplatin in the advanced biliary cancer: the ABC-02 and BT-22 studies. *Ann Oncol*, 26(9):1910-6,2015.
- 032 奥野のぞみ, 脇岡 範, 山雄健次 : 【わかりやすい消化器癌治療のコンセンサス】膵癌の診断と治療 膵癌の最新の診断 超音波内視鏡・FNA. *消化器外科*, 38(5):802-806,2015.
- 033 糸井隆夫, 山雄健次, 真口宏介, 入澤篤志 : 【胆膵EUS-FNAのエビデンス2015-この5年間の進歩-】胆と膵, 36(4):387-399,2015.
- 034 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 與儀竜治, 堤英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 千田嘉毅, 夏目誠治, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次 : 【胆膵EUS-FNAのエビデンス2015-この5年間の進歩-】胆道疾患に対するEUS-FNA 2015. 胆と膵, 36(4):319-326,2015.
- 035 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 與儀竜治, 堤英治, 佐藤高光, 藤吉俊尚, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 細田和貴, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次 : 【膵・消化管神経内分泌腫瘍(GEP-NET)のアップデート】GEP-NETの画像診断のコツと生検の意義. *臨床外科*, 70(4):397-406,2015.
- 036 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 山雄健次, 丹羽康正 : API 2-MALT 1陽性を呈する胃MALTリンパ腫の内視鏡所見. *臨床消化器内科*, 30(5):605-610,2015.
- 037 稗田信弘, 佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤英治, 藤吉俊尚, 吉田 司, 奥野のぞみ, 丹羽康正, 山雄健次 : 悪性胃十二指腸狭窄に対するCovered Stentの有効性. *Gastroenterological Endoscopy*, 57(S 1):775,2015.
- 038 藤吉俊尚, 原 和生, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 今岡 大, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 佐藤高光, 堤 英治, 與儀竜治, 山雄健次, 丹羽康正 : 食道粘膜下腫瘍(食道SMT)に対するEUS-FNAの有効性. *Gastroenterological Endoscopy*, 57(S 1):779,2015.
- 039 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 山雄健次, 丹羽康正 : 切除可能胃癌におけるHER 2診断の臨床病理学的検討. *Gastroenterological Endoscopy*, 57(S 1):810,2015.
- 040 奥野のぞみ, 脇岡 範, 山雄健次 : 膵癌の診断と治療 膵癌の最新の診断 超音波内視鏡・FNA. *臨床外科*, 38(5):802-806,2015.
- 041 山雄健次, 谷田部恭 : 膵疾患に対するEUS-FNA 診断能向上のために我々は何をなすべきか. *日本臨床細胞学会雑誌*, 54(S 1):93,2015.
- 042 奥野のぞみ, 原 和生, 山雄健次 : 膵胆道疾患における超音波内視鏡診断の新展開 膵疾患に対するEUS-FNAの正診率向上に向けて. *Gastroenterological Endoscopy*, 57(S 1):701,2015.
- 043 脇岡 範, 山雄健次 : 病理 CQ 2-1,2-2. 膵・消化管神経内分泌腫瘍(NET)診療ガイドライン. 48-51,2015.
- 044 田近正洋, 中村常哉, 田中 努, 石原 誠, 谷田部恭, 山雄健次, 丹羽康正 : 【消化管原発悪性リンパ腫】胃MALTリンパ腫のH.pylori除菌無効例およびH.pylori陰性例に対する治療方針 Watch and Waitの立場から. *消化器内視鏡*, 27(5):781-789,2015.
- 045 田近正洋, 中村常哉, 田中 努, 石原 誠, 木下朝博, 谷田部恭, 山雄健次, 丹羽康正 : 【腸管悪性リンパ腫】臨床 Diffuse large B-cell lymphoma(DLBCL) 腸管原発DLBCLの診断と治療. *Intestine*, 19(3):245-252,2015.
- 046 山雄健次 : EUS-FNA 現況と将来. *ENDOSCOPIC FORUM for digestive disease*, 31(1):113,2015.
- 047 千田嘉毅, 清水泰博, 夏目誠治, 水野伸匡, 原 和夫, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次 : IPMNの術後followに関わる諸問題 主膵管型IPMNの膵切除範囲と術後経過 残膵再発の観点から. *膵臓*, 30(3):315,2015.
- 048 石原 誠, 田中 努, 脇岡 範, 山雄健次, 丹羽康正 : PET-CT検査における大腸癌診断能の検討. *日本消化器がん検診学会雑誌*, 53(3):83,2015.
- 049 夏目誠治, 清水泰博, 千田嘉毅, 水野伸匡, 原 和夫, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次 : Soft Pancreas膵管非拡張症例の膵消化管再建 長期成績を含めて 膵頭十二指腸切除術における膵空腸吻合法の工夫 soft pancreas症例に対する陥入法. *膵臓*, 30(3):280,2015.
- 050 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次 : 自己免疫性膵炎治療の現状と課題 AIP-not otherwise specified(AIP-NOS)にステロイド維持療法は必要か?. *膵臓*, 30(3):325,2015.
- 051 與儀竜治, 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 堤英治, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次 : 主膵管狭窄と尾側膵管の嚢状拡張を伴った膵神経内分泌腫瘍の1例. *膵臓*, 30(3):518,2015.
- 052 原 和生, 山雄健次 : 消化器内視鏡の教育・トレーニング EUS-FNAのトレーニング 質の高い検査を目指して. *消化器内視鏡*, 27(5):882-884,2015.
- 053 稗田信弘, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 山雄健次 : 切除不能膵癌の治療選択 進行膵癌に対する2次治療以降のFOLFIRINOXの検討. *膵臓*, 30(3):334,2015.
- 054 與儀竜治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 堤

- 英治, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 長期follow-upに基づいたIPMN再発因子の検討. 膵臓, 30(3):397,2015.
- 055 奥野のぞみ, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 佐藤高光, 吉田 司, 稗田信弘, 山雄健次: 内視鏡的手技 膵疾患に対するInterventional Endoscopy 膵癌による胃十二指腸狭窄および胆管狭窄に対するステント留置術の検討. 膵臓, 30(3):276,2015.
- 056 佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 吉田 司, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 非切除膵癌における内視鏡的Double stentingの検討. 膵臓, 30(3):425,2015.
- 057 山雄健次: 膵がん克服道半ば EUSを手に分け入る“暗黒の大陸”. 膵臓, 30(3):210,2015.
- 058 堤 英治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 膵神経内分泌腫瘍の転移に関連する臨床病理学的検討. 膵臓, 30(3):427,2015.
- 059 脇岡 範: II 疫学・診断 3. 画像診断. やさしい 膵・消化管神経内分泌腫瘍(NET)薬物治療へのアプローチ, 24-29,2015.
- 060 原 和生: EUS-FNAのトレーニング～質の高い検査を目指して～. 消化器内視鏡, 27(5):882-884,2015.
- 061 吉田 司, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 【膵内分泌腫瘍の診断・治療の新展開】膵内分泌腫瘍におけるEUS-FNAの役割と遺伝子変異診断. 胆と膵, 36(6):529-535,2015.
- 062 吉田 司, 石原 誠, 藤吉俊尚, 田近正洋, 田中 努, 山雄健次, 丹羽康正: 内視鏡の読み方 胃型腺腫の1例. 臨床消化器内科, 30(8):1117-1125,2015.
- 063 佐藤高光, 原 和生, 今岡 大, 脇岡 範, 水野伸匡, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 藤田祐司, 細野邦広, 窪田賢輔, 山雄健次, 中島 淳: 内視鏡を活用したあらたな診療展開 胆・膵 超音波内視鏡を用いた内視鏡的胃十二指腸・胆管ドレナージの検討. Progress of Digestive Endoscopy, 87:101,2015.
- 064 稗田信弘, 原 和生, 今岡 大, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 吉田 司, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 山雄健次: 【新 膵癌治療-アブラキサン・FOLFIRINOXをどう使うか】化学療法・放射線療法とは異なる膵癌治療 膵癌による消化管閉塞に対するステント治療 バイパス手術は不要になったか?. 肝・胆・膵, 71(1):139-149,2015.
- 065 稗田信弘, 原 和生, 今岡 大, 脇岡 範, 水野伸匡, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 奥野のぞみ, 吉田 司, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 山雄健次: 【膵における超音波検査を今見直す】膵癌に対するEUS-FNA 成績(診断能・適応)と精度確保のための条件. 胆と膵, 36(7):713-718,2015.
- 066 原 和生, 山雄健次, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: 【EUS下胆道ドレナージ～EUS-BDの安全な導入へ向けて～】EUS下胆管十二指腸吻合(EUS-CDS:EUS-guided choledochoduodenostomy)の適応と手技の実際. 胆と膵, 36(8):727-732,2015.
- 067 原 和生, 山雄健次, 脇岡 範, 今岡 大, 水野伸匡: 【処置具を使いこなす】胆・膵内視鏡 胆道ドレナージ EUS下胆道ドレナージに用いる処置具を使いこなすコツ. 消化器内視鏡, 27(8):1443-1445,2015.
- 068 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 千田嘉毅, 夏目誠治, 清水泰博, 山雄健次: 十二指腸乳頭部NETの5切除例. 胆道, 29(3):640,2015.
- 069 奥野のぞみ, 原 和生, 山雄健次: 胆道内視鏡診断・治療の進歩(バルーン内視鏡を含めて) 胆管挿管困難例に対するEUSガイド下ランデブー法の検討. 胆道, 29(3):422,2015.
- 070 稗田信弘, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 谷田部恭, 細田和貴, 丹羽康正, 山雄健次: 当院における長期followに基づいたIPMN再発因子の検討. 肝胆膵治療研究会誌, 13(1):123,2015.
- 071 岩田至紀, 千田嘉毅, 夏目誠治, 清水泰博, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 山雄健次, 細田和貴: 特異的な所見を呈した膵内分泌腫瘍の1症例. 肝胆膵治療研究会誌, 13(1):108,2015.
- 072 佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 吉田 司, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 内視鏡的Double stentingにおける胆道stent dysfunctionの検討. 胆道, 29(3):529,2015.
- 073 夏目誠治, 千田嘉毅, 小森康司, 原 和生, 肘岡 範, 山雄健次, 清水泰博: 膵頭十二指腸切除術における連続縫合による胆管空腸吻合の成績. 胆道, 29(3):584,2015.
- 074 原 和生: EUS下胆管十二指腸吻合の適応と手技の実際. 胆と膵, 36(8):727-732,2015.
- 075 平山貴視, 水野伸匡, 山雄健次: 【膵癌診療の最前線】膵癌の画像診断 超音波、ERCP. 消化器外科, 38(10):1407-1415,2015.
- 076 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 與儀竜治, 山雄健次, 丹羽康正: H.pylori除菌後に発症した異時性胃癌症例と背景胃粘膜との検討. Gastroenterological Endoscopy, 57(S2):2076,2015.
- 077 奥野のぞみ, 原 和生, 山雄健次: Interventional EUSエビデンスと新たな展開 胆管挿管困難例に対するEUSガイド下ランデブー法の検討. Gastroenterological Endoscopy, 57(S2):2032,2015.
- 078 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 吉田 司, 谷田部恭, 山雄健次, 丹羽康正: 胃MALTリンパ腫におけるWatch and wait strategyの位置付け. 日本消化器病学会雑誌, 112:A840,2015.

- 079 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 野村基雄, 室 圭, 山雄健次, 丹羽康正: 食道表在癌に対する内視鏡治療後非治療切除症例に対する追加治療成績の検討. 日本癌治療学会誌, 50(3):647,2015.
- 080 佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 吉田 司, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 長期成績からみた超音波内視鏡下胆管十二指腸吻合術(EUS-CDS)の有用性 first line biliary drainage になり得るか?. Gastroenterological Endoscopy, 57(S2):2193, 2015.
- 081 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 與儀竜治, 藤吉俊尚, 奥野のぞみ, 吉田 司, 稗田信弘, 山雄健次, 舩坂好平, 宮原良二, 廣岡芳樹, 後藤秀実, 丹羽康正: 直腸NETに対する臨床病理学的検討. Gastroenterological Endoscopy, 57(S2):2134,2015.
- 082 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 吉田 司, 山雄健次, 丹羽康正: 表在型食道癌に対するEMRとESDの治療成績および長期予後の比較検討. Gastroenterological Endoscopy, 57(S2): 2116,2015.
- 083 今岡 大, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 丹羽康正, 山雄健次: 膵臓 膵がんのバイオマーカー探索 膵癌術後補助化学療法後のCA19-9値は予後予測に有用である. 日本癌治療学会誌, 50(3):1104,2015.
- 084 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 山雄健次, 丹羽康正: 【家族性大腸腺腫症の診療-up to date-】大腸全摘術後の回腸嚢に発生する腫瘍について. 日本大腸肛門病学会雑誌, 68(10):900-907,2015.
- 085 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 丹羽康正, 山雄健次: 【大きく変化する神経内分泌腫瘍(NET)の概念と治療】診断 膵神経内分泌腫瘍の画像所見. 最新医学, 70(10):1945-1954,2015.
- 086 原 和生, 山雄健次, 清水泰博: 誌上ディベート 膵頭十二指腸切除術(PD)において術前ドレナージに何を選擇するか ERBDを選擇する立場から. 膵・胆道癌Frontier, 5(2):74-77,2015.
- 087 山雄健次, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大: 超音波内視鏡を用いた最新の診断と治療 膵胆道疾患を中心に. 日本臨床外科学会雑誌, 76:365,2015.
- 088 脇岡 範, 山雄健次: 臨床家が望む細胞診 消化器内視鏡医が望むEUS-FNAによる迅速細胞診. 日本臨床細胞学会雑誌, 54(S2):475,2015.
- 089 山雄健次: 膵癌の診断と治療up-to-date. 日本臨床細胞学会雑誌, 54(S2):455,2015.
- 090 原 和生: 膵癌患者の栄養障害・下痢. Modern Physician, 35(10):1261,2015.
- 091 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 丹羽康正, 山雄健次: 膵神経内分泌腫瘍の画像所見. 最新醫學, 70(10):53-62,2015.
- 092 奥野のぞみ, 脇岡 範, 尾関順子, 谷田部恭, 山雄健次: 【穿刺吸引細胞診の見方と診断そして最新の知見-細胞像と組織像を対比して-】超音波内視鏡ガイド下穿刺吸引細胞診(EUS-FNAC). 病理と臨床, 33(11):1212-1221,2015.
- 093 渋谷 仁, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 近藤 尚, 鈴木博貴, 徳久順也, 鳥山和浩, 平山貴視, 藤田 曜, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次: 【十二指腸乳頭部病変に対する新たな治療戦略-新規約・新ガイドラインに基づいて】内視鏡的治療アプローチ 十二指腸乳頭部腫瘍に対する内視鏡的乳頭切除術の手技と留意点. 臨床外科, 71(1):30-34,2016.
- 094 吉田 司, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田中 努, 石原 誠, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 徳久順也, 田近正洋, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 【新たに定義された“肝門部領域胆管癌”の診断と治療】治療方針決定のための診断法 生検、細胞診による診断. 胆と膵, 37(1):55-63,2016.
- 095 水野伸匡, 山雄健次: 【胆道癌・膵癌に対する化学療法の前線】膵癌 膵癌に対する化学療法レジメンの特徴と治療の実際 ゲムシタピン単剤/S-1単剤/GS療法/GE療法. 消化器の臨床, 19(1):27-31,2016.
- 096 山雄健次: 膵がん克服道半ば EUSを手に分け入る“暗黒の大陸”. 膵臓, 31(1):1-8,2016.
- 097 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 安部哲也, 室 圭, 古平 毅, 山雄健次, 丹羽康正: MM以深食道表在癌に対する内視鏡切除+化学放射線療法の可能性. 日本消化器病学会雑誌, 113:A248,2016.
- 098 石原 誠, 田中 努, 脇岡 範, 山雄健次, 丹羽康正: 胃癌検診で指摘困難であった残胃進行癌の1例. 日本消化器がん検診学会雑誌, 54(2):287,2016.
- 099 平山貴視, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 渋谷 仁, 近藤 尚, 徳久順也, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 丹羽康正, 山雄健次: 経過観察中の膵神経内分泌腫瘍(PNET)の7例. 日本消化器病学会雑誌, 113:A396, 2016.
- 100 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 藤田 曜, 徳久順也, 田近正洋, 山雄健次, 丹羽康正: 早期胃癌ESD症例に対するH.pylori除菌療法後に発症した異時性胃癌の検討. 日本消化器病学会雑誌, 113:A240,2016.
- 101 藤田 曜, 原 和生, 山雄健次: 胆膵疾患に対する低侵襲アプローチ EUSガイド下ランデブー法による胆道アプ



ローチ. 日本消化器病学会雑誌, 113:A66,2016.

- 102 脇岡 範 : がん患者サポート 実際に行っているのを見てみよう! 「愛知県がんセンター中央病院の取り組み」 - 医師の立場から. 調剤と情報, 22(4):101-102,2016.
- 103 水野伸匡, 山雄健次 : 【V 膵がん治療のpractice】 ⑬化学放射線療法の位置づけは? - どのような症例にどのタイミングで使うか? . ガイドラインには載っていない肝胆膵がん Practical Treatment, :193-197,2015.
- 104 水野伸匡, 山雄健次 : 【IV 胆道がん治療のpractice】 ⑥ GEM+CDDP療法はどこまで続けるか? . ガイドラインには載っていない肝胆膵がん Practical Treatment, :131-133,2015.
- 105 水野伸匡, 山雄健次 : ゲムシタピン + ナブパクリタキセル併用療法のエビデンス. 膵癌化学療法キードラッグエビデンスブック, :66-71,2015.
- 106 水野伸匡, 山雄健次 : 切除不能・再発膵がんに対して2次化学療法は有効か? . EBMがん化学療法・分子標的治療法2016-2017, :192-4,2015.
- 107 水野伸匡 : 膵がんの診断や検査方法について教えてください. 患者さんのための膵がん診療ガイドラインの解説, :18-21,2015.
- 108 奥野のぞみ, 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 丹羽康正 : 内視鏡の読み方 表在型食道原発悪性黒色腫の1例. 臨床消化器内科, 30(6):717-721,2015.

#### 内視鏡部

- 001 *Hijioka S, Hosoda W, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Bhatia V, Mekky MA, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Sato T, Hieda N, Yoshida T, Okuno N, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K* : Does the WHO 2010 classification of pancreatic neoplasms accurately characterize pancreatic neuroendocrine carcinomas?. *J Gastroenterol*, 50(5):564-72,2015.
- 002 *Yogi T, Hijioka S, Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Shimizu Y, Hosoda W, Yatabe Y, Niwa Y, Yoshimura K, Bhatia V, Fujita J, Yamao K* : Risk factors for postoperative recurrence of intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas based on a long-term follow-up study: proposals for follow-up strategies. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 22(10):757-65,2015.
- 003 *Hijioka S, Hara K, Mizuno N, Imaoka H, Bhatia V, Mekky MA, Yoshimura K, Yoshida T, Okuno N, Hieda N, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yatabe Y, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K* : Diagnostic performance and factors influencing the accuracy of EUS-FNA of pancreatic neuroendocrine neoplasms. *J Gastroenterol*, 2016.
- 004 *Hara K, Yamao K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H,*

*Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Okuno N, Hieda N, Yoshida T, Niwa Y* : Endoscopic ultrasonography-guided biliary drainage: Who, when, which, and how?. *World J Gastroenterol*, 22(3):1297-303,2016.

- 005 *Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Sato T, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K* : Evaluation of Modified Glasgow Prognostic Score for Pancreatic Cancer: A Retrospective Cohort Study. *Pancreas*, 45(2):211-217,2016.
- 006 *Tsutsumi H, Hara K, Mizuno N, Hijioka S, Imaoka H, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yoshimura K, Shimizu Y, Niwa Y, Sasaki Y, Yamao K* : Clinical impact of preoperative endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for pancreatic ductal adenocarcinoma. *Endosc Ultrasound*, 5(2):94-100,2016.
- 007 *Nomura M, Oze I, Kodaira T, Abe T, Komori A, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Tachibana H, Uemura N, Tajika M, Niwa Y, Muto M, Muro K* : Comparison between surgery and definitive chemoradiotherapy for patients with resectable esophageal squamous cell carcinoma: a propensity score analysis. *Int J Clin Oncol*, 2016.
- 008 *Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Sato T, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Hieda N, Okuno N, Yoshida T, Bhatia V, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y* : A Randomized Controlled Trial Evaluating a Low-Volume PEG Solution Plus Ascorbic Acid versus Standard PEG Solution in Bowel Preparation for Colonoscopy. *Gastroenterol Res Pract*, 2015.
- 009 *Kadowaki S, Komori A, Takahari D, Ura T, Ito S, Tajika M, Niwa Y, Oze I, Muro K* : Clinical Characteristics Associated with Long-term Survival in Metastatic Gastric Cancer after Systemic Chemotherapy. *Asian Pac J Cancer Prev*, 16(13):5433-8,2015.
- 010 *Nomura M, Oze I, Abe T, Komori A, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Kawai R, Uemura N, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Muro K, Muto M* : Impact of docetaxel in addition to cisplatin and fluorouracil as neoadjuvant treatment for resectable stage III or T3 esophageal cancer: a propensity score-matched analysis. *Cancer Chemother Pharmacol*, 76(2):357-63,2015.
- 011 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 與儀竜治, 堤英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 千田嘉毅, 夏目誠治, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次 : 【胆膵EUS-FNAのエビデンス2015-この5年間の進歩-】胆道疾患に対するEUS-FNA 2015. 胆と膵, 36(4):319-326, 2015.
- 012 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 與儀竜治, 堤

- 英治, 佐藤高光, 藤吉俊尚, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 細田和貴, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次: 【膵・消化管神経内分泌腫瘍(GEP-NET)のアップデート】GEP-NETの画像診断のコツと生検の意義. 臨床外科, 70(4):397-406,2015.
- 013 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 山雄健次, 丹羽康正: API 2-MALT 1陽性を呈する胃MALTリンパ腫の内視鏡所見. 臨床消化器内科, 30(5):605-610,2015.
- 014 稗田信弘, 佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 吉田 司, 奥野のぞみ, 丹羽康正, 山雄健次: 悪性胃十二指腸狭窄に対するCovered Stentの有効性. Gastroenterological Endoscopy, 57:775,2015.
- 015 藤吉俊尚, 原 和生, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 今岡 大, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 佐藤高光, 堤 英治, 與儀竜治, 山雄健次, 丹羽康正: 食道粘膜下腫瘍(食道SMT)に対するEUS-FNAの有効性. Gastroenterological Endoscopy, 57:779,2015.
- 016 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 山雄健次, 丹羽康正: 内視鏡の読み方 API 2-MALT 1陽性を呈する胃MALTリンパ腫の内視鏡所見. 臨床消化器内科, 30(5):605-610,2015.
- 017 田近正洋, 中村常哉, 田中 努, 石原 誠, 谷田部恭, 山雄健次, 丹羽康正: 胃MALTリンパ腫のH. pylori除菌無効例およびH. pylori陰性例に対する治療方針Watch and Waitの立場から. 消化器内視鏡, 27(5):781-789,2015.
- 018 田近正洋, 中村常哉, 田中 努, 石原 誠, 木下朝博, 谷田部恭, 山雄健次, 丹羽康正: 【腸管悪性リンパ腫】臨床Diffuse large B-cell lymphoma(DLBCL) 腸管原発DLBCLの診断と治療. Intestine, 19(3):245-252,2015.
- 019 與儀竜治, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 堤 英治, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 長期follow-upに基づいたIPMN再発因子の検討. 膵臓, 30(3):397,2015.
- 020 吉田 司, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 【膵内分泌腫瘍の診断・治療の新展開】膵内分泌腫瘍におけるEUS-FNAの役割と遺伝子変異診断. 胆と膵, 36(6):529-535,2015.
- 021 吉田 司, 石原 誠, 藤吉俊尚, 田近正洋, 田中 努, 山雄健次, 丹羽康正: 内視鏡の読み方 胃型腺腫の1例. 臨床消化器内科, 30(8):1117-1125,2015.
- 022 佐藤高光, 原 和生, 今岡 大, 脇岡 範, 水野伸匡, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 藤田祐司, 細野邦広, 窪田賢輔, 山雄健次, 中島 淳: 内視鏡を活用したあらたな診療展開 胆・膵超音波内視鏡を用いた内視鏡的胃十二指腸・胆管ドレナージの検討. Progress of Digestive Endoscopy, 87:101,2015.
- 023 稗田信弘, 原 和生, 今岡 大, 脇岡 範, 水野伸匡, 奥野のぞみ, 吉田 司, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 山雄健次: 【新 膵癌治療-アブラキサン・FOLFIRINOXをどう使うか】化学療法・放射線療法とは異なる膵癌治療 膵癌による消化管閉塞に対するステント治療 バイパス手術は不要になったか?. 肝・胆・膵, 71(1):139-149,2015.
- 024 稗田信弘, 原 和生, 今岡 大, 脇岡 範, 水野伸匡, 佐藤高光, 堤 英治, 藤吉俊尚, 與儀竜治, 奥野のぞみ, 吉田 司, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正, 山雄健次: 【膵における超音波検査を今見直す】膵癌に対するEUS-FNA 成績(診断能・適応)と精度確保のための条件. 胆と膵, 36(7):713-718,2015.
- 025 原 和生, 山雄健次, 脇岡 範, 水野伸匡, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 石原 誠, 田中 努, 田近正洋, 丹羽康正: 【EUS下胆道ドレナージ~EUS-BDの安全な導入へ向けて~】EUS下胆管十二指腸吻合術(EUS-CDS:EUS-guided choledochoduodenostomy)の適応と手技の実際. 胆と膵, 36(8):727-732,2015.
- 026 稗田信弘, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 谷田部恭, 細田和貴, 丹羽康正, 山雄健次: 当院における長期follow-upに基づいたIPMN再発因子の検討. 肝胆膵治療研究雑誌, 13(1):123,2015.
- 027 佐藤高光, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 吉田 司, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次: 長期成績からみた超音波内視鏡下胆管十二指腸吻合術(EUS-CDS)の有効性 first line biliary drainageになり得るか?. Gastroenterological Endoscopy, 57:2193, 2015.
- 028 今岡 大, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 水野伸匡, 脇岡 範, 原 和生, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 丹羽康正, 山雄健次: 膵臓 膵がんのバイオマーカー探索 膵癌術後補助化学療法後のCA19-9値は予後予測に有用である. 日本癌治療学会誌, 50(3):1104, 2015.
- 029 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 山雄健次, 丹羽康正: 【家族性大腸腺腫症の診療-up to date-】大腸全摘術後の回腸嚢に発生する腫瘍について. 日本大腸肛門病学会雑誌, 68(10):900-907, 2015.
- 030 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 丹羽康正, 山雄健次: 【大きく変化する神経内分泌腫瘍(NET)の概念と治療】診断 膵神経内分泌腫瘍の画像所見. 最新医学, 70(10):1945-1954,2015.
- 031 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 丹羽康正, 山雄健次: 膵神経内分泌腫瘍の画像所見. 最新医学, 70(10):53-62,2015.
- 032 渋谷 仁, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 奥

- 野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 近藤 尚, 鈴木博貴, 徳久順也, 鳥山和浩, 平山貴視, 藤田 曜, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次:【十二指腸乳頭部病変に対する新たな治療戦略-新規約・新ガイドラインに基づいて】内視鏡的治療アプローチ 十二指腸乳頭部腫瘍に対する内視鏡的乳頭切除術の手法と留意点. 臨床外科, 71(1):30-34,2016.
- 033 吉田 司, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田中 努, 石原 誠, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 徳久順也, 田近正洋, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次:【新たに定義された“肝門部領域胆管癌”の診断と治療】治療方針決定のための診断法 生検、細胞診による診断. 胆と膵, 37(1):55-63,2016.
- 034 石原 誠, 田近正洋, 田中 努, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 安部哲也, 室 圭, 古平 毅, 山雄健次, 丹羽康正:MM以深食道表在癌に対する内視鏡切除+化学放射線療法の可能性. 日本消化器病学会雑誌, 113:A248,2016.
- 035 平山貴視, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 渋谷 仁, 近藤 尚, 徳久順也, 鳥山和浩, 鈴木博貴, 藤田 曜, 丹羽康正, 山雄健次:経過観察中の腓神経内分泌腫瘍(PNET)の7例. 日本消化器病学会雑誌, 113:A396, 2016.
- 036 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鳥山和浩, 藤田 曜, 徳久順也, 田近正洋, 山雄健次, 丹羽康正:早期胃癌ESD症例に対するH.pylori除菌療法後に発症した異時性胃癌の検討. 日本消化器病学会雑誌, 113:A240,2016.
- 037 奥野のぞみ, 田中 努, 田近正洋, 石原 誠, 丹羽康正:内視鏡の読み方 表在型食道原発悪性黒色腫の1例. 臨床消化器内科, 30(6):717-721,2015.
- 038 與儀竜治, 今岡 大, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 堤英治, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次:主膵管狭窄と尾側膵管の囊状拡張を伴った膵神経内分泌腫瘍の1例. 膵臓, 30(3):518,2015.

呼吸器内科部

[原著]

- 001 *Tanaka K, Hida T, Oya Y, Oguri T, Yoshida T, Shimizu J, Horio Y, Hata A, Kaji R, Fujita T, Sekido Y, Kodaira T, Kokubo M, Katakami N, Yatabe Y*: EGFR Mutation Impact on Definitive Concurrent Chemoradiation Therapy for Inoperable Stage III Adenocarcinoma. *J Thorac Oncol*, 10(12):1720-1725,2015.
- 002 *Ebi H, Oze I, Nakagawa T, Itoh H, Hosono S, Matsuda F, Takahashi M, Takeuchi S, Sakao Y, Hida*

- T, Faber AC, Tanaka H, Yatabe Y, Mitsudomi T, Yano S, Matsuo K*: Lack of association between the BIM germline polymorphism and the risk of lung cancer with and without EGFR mutations. *J Thorac Oncol*, 10(1):59-66,2015.
- 003 *Kato T, Yoshioka H, Okamoto I, Yokoyama A, Hida T, Seto T, Kiura K, Massey D, Seki Y, Yamamoto N*: Afatinib versus cisplatin plus pemetrexed in Japanese patients with advanced non-small cell lung cancer harboring activating EGFR mutations: Subgroup analysis of LUX-Lung 3. *Cancer Sci*, 106(9):1202-11,2015.
- 004 *Kobayashi Y, Togashi Y, Yatabe Y, Mizuuchi H, Jangchul P, Kondo C, Shimoji M, Sato K, Suda K, Tomizawa K, Takemoto T, Hida T, Nishio K, Mitsudomi T*: EGFR Exon 18 Mutations in Lung Cancer: Molecular Predictors of Augmented Sensitivity to Afatinib or Neratinib as Compared with First- or Third-Generation TKIs. *Clin Cancer Res*, 21(23):5305-5313,2015.
- 005 *Kris MG, Camidge DR, Giaccone G, Hida T, Li BT, O'Connell J, Taylor I, Zhang H, Arcila ME, Goldberg Z, Janne PA*: Targeting HER2 aberrations as actionable drivers in lung cancers: phase II trial of the pan-HER tyrosine kinase inhibitor dacomitinib in patients with HER2-mutant or amplified tumors. *Ann Oncol*, 26(7):1421-1427,2015.
- 006 *Yoshida T, Yoh K, Niho S, Umemura S, Matsumoto S, Ohmatsu H, Ohe Y, Goto K*: RECIST progression patterns during EGFR tyrosine kinase inhibitor treatment of advanced non-small cell lung cancer patients harboring an EGFR mutation. *Lung Cancer*, 90(3):477-83,2015.
- 007 *Takahashi A, Ishii G, Neri S, Yoshida T, Hashimoto H, Suzuki S, Umemura S, Matsumoto S, Yoh K, Niho S, Goto K, Ohmatsu H, Nagai K, Gemma A, Ohe Y, Ochiai A*: Podoplanin-expressing cancer-associated fibroblasts inhibit small cell lung cancer growth. *Oncotarget*, 10:953-9541,2015.
- 008 *Nishio M, Goto K, Chikamori K, Hida T, Katakami N, Maemondo M, Ohishi N, Tamura T*: Analysis of Epidermal Growth Factor Receptor Mutations in Serum Among Japanese Patients Treated With First-Line Erlotinib for Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer. *Clin Lung Cancer*, 17(1):24-29,2016.
- 009 *Takeuchi K, Togashi Y, Kamihara Y, Fukuyama T, Yoshioka H, Inoue A, Katsuki H, Kiura K, Nakagawa K, Seto T, Maemondo M, Hida T, Harada M, Ohe Y, Nogami N, Yamamoto N, Nishio M, Tamura T*: Prospective and clinical validation of ALK immunohistochemistry: results from the phase I/II study of alectinib for ALK-positive lung cancer (AF-001JP study). *Ann Oncol*, 27(1):185-192,2016.
- 010 *Wang Z, Seow WJ, Shiraiishi K, Hsiung CA, Matsuo K, Liu J, Chen K, Yamji T, Yang Y, Chang IS, Wu C,*



- Hong YC, Burdett L, Wyatt K, Chung CC, Li SA, Yeager M, Hutchinson A, Hu W, Caporaso N, Landi MT, Chatterjee N, Song M, Fraumeni JF Jr, Kohno T, Yokota J, Kunitoh H, Ashikawa K, Momozawa Y, Daigo Y, Mitsudomi T, Yatabe Y, Hida T, Hu Z, Dai J, Ma H, Jin G, Song B, Wang Z, Cheng S, Yin Z, Li X, Ren Y, Guan P, Chang J, Tan W, Chen CJ, Chang GC, Tsai YH, Su WC, Chen KY, Huang MS, Chen YM, Zheng H, Li H, Cui P, Guo H, Xu P, Liu L, Iwasaki M, Shimazu T, Tsugane S, Zhu J, Jiang G, Fei K, Park JY, Kim YH, Sung JS, Park KH, Kim YT, Jung YJ, Kang CH, Park IK, Kim HN, Jeon HS, Choi JE, Choi YY, Kim JH, Oh IJ, Kim YC, Sung SW, Kim JS, Yoon HI, Kweon SS, Shin MH, Seow A, Chen Y, Lim WY, Liu J, Wong MP, Lee VH, Bassig BA, Tucker M, Berndt SI, Chow WH, Ji BT, Wang J, Xu J, Sihoe AD, Ho JC, Chan JK, Wang JC, Lu D, Zhao X, Zhao Z, Wu J, Chen H, Jin L, Wei F, Wu G, An SJ, Zhang XC, Su J, Wu YL, Gao YT, Xiang YB, He X, Li J, Zheng W, Shu XO, Cai Q, Klein R, Pao W, Lawrence C, Hosgood HD 3rd, Hsiao CF, Chien LH, Chen YH, Chen CH, Wang WC, Chen CY, Wang CL, Yu CJ, Chen HL, Su YC, Tsai FY, Chen YS, Li YJ, Yang TY, Lin CC, Yang PC, Wu T, Lin D, Zhou B, Yu J, Shen H, Kubo M, Chanock SJ, Rothman N, Lan Q* : Meta-analysis of genome-wide association studies identifies multiple lung cancer susceptibility loci in never-smoking Asian women. *Hum Mol Genet*, 1:25(3):620-9, 2016.
- 011 *Yoshida T, Hida T, Yatabe Y* : Rapid and dramatic response to alectinib in an ALK rearranged non-small-cell lung cancer patient who is critically ill. *Anticancer Drugs*, Epub ahead of print,2016.
- 012 *Maeda A, Ura T, Asano C, Hasegawa I, Nomura M, Komori A, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Horio Y, Yoshida T, Oze I, Kajita M, Mizutani A* : A phase II trial of prophylactic olanzapine combined with palonosetron and dexamethasone for preventing nausea and vomiting induced by cisplatin. *Asia Pac J Clin Oncol*, 10:1111,2016.
- [総説, その他]
- 001 堀尾芳嗣 : 【変わり始めたがん免疫療法】 肺がんに対する免疫療法. *BIO Clinica*, 31(1):24-28, 2016.
- 002 吉田達哉, 樋田豊明 : がんの治療薬を知る 薬剤選択のための知識 アレクチニブ. *臨床腫瘍プラクティス*, 11(2) : 149-156, 2015.
- [症例報告]
- 001 田中広祐, 樋田豊明, 坂尾幸則, 谷田部恭 : 術後6年で胸膜・腹膜播種を来した胸腺非定型カルチノイドの1例. *肺癌*, 55 : 247-250, 2015.
- 001 *Sugiura I, Terabe S, Kinoshita T, Yamamoto K, Sawa M, Ozawa Y, Atsuta Y, Suzuki R, Shimizu K* : Phase I dose-escalation study of cyclophosphamide combined with bortezomib and dexamethasone in Japanese patients with relapsed and/or refractory multiple myeloma. *Int J Hematol*, 02(4):434-40,2015.
- 002 *Satou A, Asano N, Nakazawa A, Osumi T, Tsurusawa M, Ishiguro A, Elsayed AA, Nakamura N, Ohshima K, Kinoshita T, Nakamura S* : Epstein-Barr virus (EBV)-positive sporadic burkitt lymphoma: an age-related lymphoproliferative disorder?. *The American journal of surgical pathology*,39(2):227-35,2015.
- 003 *Morishima S, Nakamura S, Yamamoto K, Miyauchi H, Kagami Y, Kinoshita T, Onoda H, Yatabe Y, Ito M, Miyamura K, Nagai H, Moritani S, Sugiura I, Tsushita K, Mihara H, Ohbayashi K, Iba S, Emi N, Okamoto M, Iwata S, Kimura H, Kuzushima K, Morishima Y* : Increased T-cell responses to Epstein-Barr virus with high viral load in patients with Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma. *Leukemia & lymphoma*, 56(4):1072-8,2015.
- 004 *Kusumoto S, Tanaka Y, Suzuki R, Watanabe T, Nakata M, Takasaki H, Fukushima N, Fukushima T, Moriuchi Y, Itoh K, Nosaka K, Choi I, Sawa M, Okamoto R, Tsujimura H, Uchida T, Suzuki S, Okamoto M, Takahashi T, Sugiura I, Onishi Y, Kohri M, Yoshida S, Sakai R, Kojima M, Takahashi H, Tomita A, Maruyama D, Atsuta Y, Tanaka E, Suzuki T, Kinoshita T, Ogura M, Mizokami M, Ueda R* : Monitoring of Hepatitis B Virus (HBV) DNA and Risk of HBV Reactivation in B-Cell Lymphoma: A Prospective Observational Study. *Clinical infectious diseases : an official publication of the Infectious Diseases Society of America*, 61(5):719-29,2015.
- 005 *Kato S, Asano N, Miyata-Takata T, Takata K, Elsayed AA, Satou A, Takahashi E, Kinoshita T* : T-cell receptor (TCR) phenotype of nodal Epstein-Barr virus (EBV)-positive cytotoxic T-cell lymphoma (CTL): a clinicopathologic study of 39 cases. *The American journal of surgical pathology*, 39(4):462-71,2015.
- 006 *Hirano D, Kato H, Kodaira T, Yatabe Y, Ueda N, Murakami S, Higuchi Y, Taji H, Nakamura S, Yamamoto K, Kinoshita T* : Salvage therapy with single agent L-asparaginase followed by local irradiation in an elderly patient with CD56-positive primary isolated extramedullary T-cell lymphoblastic lymphoma of the sinus. *Annals of hematology*, 94(1):173-5,2015.
- 007 *Eladl AE, Satou A, Elsayed AA, Suzuki Y, Shimizu-Kohno K, Kato S, Tomita A, Kinoshita T, Nakamura S, Asano N* : Nodular lymphocyte predominant Hodgkin

lymphoma: Clinicopathological study of 25 cases from Japan with a reappraisal of tissue associated macrophages. *Pathology international*, 65(12):652-60,2015.

- 008 **Chihara D, Asano N, Ohmachi K, Nishikori M, Okamoto M, Sawa M, Sakai R, Okoshi Y, Tsukamoto N, Yakushijin Y, Nakamura S, Kinoshita T, Ogura M, Suzuki R** : Ki-67 is a strong predictor of central nervous system relapse in patients with mantle cell lymphoma (MCL). *Annals of oncology : official journal of the European Society for Medical Oncology / ESMO*, 26(5):966-73,2015.
- 009 **Chihara D, Asano N, Ohmachi K, Kinoshita T, Okamoto M, Maeda Y, Mizuno I, Matsue K, Uchida T, Nagai H, Nishikori M, Nakamura S, Ogura M, Suzuki R** : Prognostic model for mantle cell lymphoma in the rituximab era: a nationwide study in Japan. *British journal of hematology*, 170(5):657-68,2015.
- 010 **Aoki T, Shimada K, Suzuki R, Izutsu K, Tomita A, Maeda Y, Takizawa J, Mitani K, Igarashi T, Sakai K, Miyazaki K, Mihara K, Ohmachi K, Nakamura N, Takasaki H, Kiyoi H, Nakamura S, Kinoshita T, Ogura M** : High-dose chemotherapy followed by autologous stem cell transplantation for relapsed/refractory primary mediastinal large B-cell lymphoma. *Blood cancer journal*, 5:e372,2015.
- 011 **Ishida T, Jo T, Takemoto S, Suzushima H, Uozumi K, Yamamoto K, Uike N, Saburi Y, Nosaka K, Utsunomiya A, Tobinai K, Fujiwara H, Ishitsuka K, Yoshida S, Taira N, Moriuchi Y, Imada K, Miyamoto T, Akinaga S, Tomonaga M, Ueda R** : Dose-intensified chemotherapy alone or in combination with mogamulizumab in newly diagnosed aggressive adult T-cell leukaemia-lymphoma: a randomized phase II study. *Br J Haematol*, 169(5):672-682,2015.
- 012 **木下朝博** : 予後予測因子と予後予測モデル. 悪性リンパ腫治療マニュアル改訂第4版, 南江堂 : 61-64,2015.09.
- 013 **木下朝博** : びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 限局期. 悪性リンパ腫治療マニュアル改訂第4版, 南江堂 : 165-167,2015.
- 014 **山本一仁** : 悪性リンパ腫に対する自家造血幹細胞移植併用大量化学療法の原理と実際. 悪性リンパ腫治療マニュアル改訂第4版, 南江堂:119-124,2015.
- 015 **樋口悠介, 木下朝博** : 慢性リンパ性白血病/小リンパ球性リンパ腫に対する分子的治療は. EBMがん化学療法・分子標的治療法, 中外医学社:603-607,2015.
- 016 **木下朝博** : 低悪性度リンパ腫. 診療の手引きと臨床データ集 血液疾患診療ハンドブック改訂3版, 医薬ジャーナル社:305-324,2015.
- 017 **加藤春美, 木下朝博** : 悪性リンパ腫. 臨床血液, 第57巻第3号別冊,2016.
- 018 **加藤春美** : 抗がん剤の副作用と支持療法 非ホジキンリンパ腫 R-CHOP療法. 日本臨床,73巻増刊号2 :636-641,2015.
- 019 **加藤春美, 木下朝博** : 血液領域の分子標的治療薬 ニヴェ

ルマブ ホジキンリンパ腫. 最新医学社,別冊 診断と治療のABC102 : 131-138,2015.

- 020 **加藤春美** : 悪性リンパ腫治療マニュアル(改定第4版)リンパ芽球性リンパ腫. 南江堂 : 189-192,2015.
- 021 **加藤春美** : インフォームドコンセントのための図説シリーズ 抗悪性腫瘍薬-分子標的治療薬-改訂版イブリツモマブチウキセタン. 医薬ジャーナル社 : 100-106,2015.
- 022 **加藤春美** : 外来で診るリンパ腫・骨髄腫 「マルトリリンパ腫」. 医学書院,Vol.52 No.12 : 2101-2104,2015.
- 023 **山本秀行, 山本一仁** : 【リンパ系腫瘍に対するさらなる新薬開発と国内外の診療】 マントル細胞リンパ腫に対するプロテアソーム阻害薬bortezomibの有効性. 血液内科,71(1): 33-39,2015.
- 024 **樋口悠介, 山本一仁** : 【家族性腫瘍・感染による腫瘍に対する取り組み】 HTLV-1感染と成人T細胞性白血病. 腫瘍内科,16(3):271-275,2015.
- 025 **山本一仁, 城 達郎** : 慢性骨髄性白血病のチロシンキナーゼ阻害薬による治療(Q&A). 日本医事新法4777号:56-57, 2015.
- 026 **山本一仁** : 【造血器腫瘍の分子標的治療の進歩】 ホジキンリンパ腫. 血液フロンティア 25(12):1769-1775,2015.
- 027 **大間知謙, 山本一仁** : 心機能低下時の悪性リンパ腫治療(Q&A). 日本医事新報4783号:55-56,2015.
- 028 **山本一仁** : 慢性リンパ性白血病(CLL)CLLの標準治療は? 松村到 編著 白血病診療Q & A, 中外医学社:pp248-251, 2015.
- 029 **山本一仁** : 【リンパ腫学-最新の研究動向-】 リンパ腫の治療未分化大細胞型リンパ腫. 日本臨床 73巻増刊8 リンパ腫学:515-552,2015.

#### 薬物療法部

- 001 **Watanabe T, Itabashi M, Shimada Y, Tanaka S, Ito Y, Ajioka Y, Hamaguchi T, Hyodo I, Igarashi M, Ishida H, Ishihara S, Ishiguro M, Kanemitsu Y, Kokudo N, Muro K, Ochiai A, Oguchi M, Ohkura Y, Saito Y, Sakai Y, Ueno H, Yoshino T, Boku N, Fujimori T, Koinuma N, Morita T, Nishimura G, Sakata Y, Takahashi K, Tsuruta O, Yamaguchi T, Yoshida M, Yamaguchi N, Kotake K, Sugihara K** : Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum. Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) Guidelines 2014 for treatment of colorectal cancer. *Int J Clin Oncol* ,20(2):207-39,2015.
- 002 **Yoshida M, Muro K, Tsuji A, Hamamoto Y, Yoshino T, Yoshida K, Shirao K, Miyata Y, Takahashi D, Takahashi T, Ohtsu A** : Combination chemotherapy with bevacizumab and S-1 for elderly patients with metastatic colorectal cancer (BASIC trial).*Eur J Cancer*, 51(8):935-41,2015.
- 003 **Yoshino T, Komatsu Y, Yamada Y, Yamazaki K, Tsuji A, Ura T, Grothey A, Van Cutsem E, Wagner**

- A, *Cihon F, Hamada Y, Ohtsu A* : Randomized phase III trial of regorafenib in metastatic colorectal cancer: analysis of the CORRECT Japanese and non-Japanese subpopulations. *Invest New Drugs*, 33(3):740-50,2015.
- 004 *Kadowaki S, Komori A, Takahari D, Ura T, Ito S, Tajika M, Niwa Y, Oze I, Muro K* : Clinical Characteristics Associated with Long-term Survival in Metastatic Gastric Cancer after Systemic Chemotherapy. *Asian Pac J Cancer Prev*, 16(13):5433-8,2015.
- 005 *Narita Y, Taniguchi H, Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Komori A, Nomura M, Kadowaki S, Takahari D, Ura T, Andoh M, Muro K* : Differences in attitude toward adjuvant chemotherapy between colorectal cancer survivors and the medical staff of Japanese hospitals. *Int J Clin Oncol*, 20(4):755-60,2015.
- 006 *Nomura M, Oze I, Abe T, Komori A, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Kawai R, Uemura N, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Muro K, Muto M* : Impact of docetaxel in addition to cisplatin and fluorouracil as neoadjuvant treatment for resectable stage III or T3 esophageal cancer: a propensity score-matched analysis. *Cancer Chemother Pharmacol*, 76(2):357-363,2015.
- 007 *Kondoh C, Shitara K, Nomura M, Takahari D, Ura T, Tachibana H, Tomita N, Kodaira T, Muro K* : Efficacy of palliative radiotherapy for gastric bleeding in patients with unresectable advanced gastric cancer: a retrospective cohort study. *BMC Palliat Care*, 14:37,2015.
- 008 *Yamaguchi K, Taniguchi H, Komori A, Narita Y, Nitta S, Nomura M, Kadowaki S, Takahari D, Ura T, Andoh M, Muro K, Mori K, Igarashi Y* : A single-arm phase II trial of combined chemotherapy with S-1, oral leucovorin, and bevacizumab in heavily pre-treated patients with metastatic colorectal cancer. *BMC Cancer*, 15(1):601,2015.
- 009 *Horie Y, Yamazaki K, Funakoshi T, Hamauchi S, Taniguchi H, Tsushima T, Todaka A, Machida N, Taku K, Fukutomi A, Onozawa Y, Yasui H, Mizukami T, Izawa N, Hirakawa M, Tsuda T, Nakajima T, Boku N* : Predictability of antitumor efficacy of cetuximab plus irinotecan based on skin rash severity according to observation period in patients with metastatic colorectal cancer following failure of fluorouracil, irinotecan and oxaliplatin. *Mol Clin Oncol*, 3(5):1029-1034,2015.
- 010 *Tahara M, Fuse N, Mizusawa J, Sato A, Nihei K, Kanato K, Kato K, Yamazaki K, Muro K, Takaishi H, Boku N, Ohtsu A* : Phase I/II trial of chemoradiotherapy with concurrent S-1 and cisplatin for clinical stage II/III esophageal carcinoma (JCOG 0604). *Cancer Sci*, 106(10):1414-20,2015.
- 011 *Satoh T, Lee KH, Rha SY, Sasaki Y, Park SH, Komatsu Y, Yasui H, Kim TY, Yamaguchi K, Fuse N, Yamada Y, Ura T, Kim SY, Munakata M, Saitoh S, Nishio K, Morita S, Yamamoto E, Zhang Q, Kim JM, Kim YH, Sakata Y* : Randomized phase II trial of nimotuzumab plus irinotecan versus irinotecan alone as second-line therapy for patients with advanced gastric cancer. *Gastric Cancer*, 18(4):824-32,2015.
- 012 *Kiyota N, Schlumberger M, Muro K, Ando Y, Takahashi S, Kawai Y, Wirth L, Robinson B, Sherman S, Suzuki T, Fujino K, Gupta A, Hayato S, Tahara M* : A subgroup analysis of Japanese patients in a phase 3 study of lenvatinib in radioiodine-refractory differentiated thyroid cancer. *Cancer Sci*, 106(12):1714-21,2015.
- 013 *Fuse N, Kuboki Y, Kuwata T, Nishina T, Kadowaki S, Shinozaki E, Machida N, Yuki S, Ooki A, Kajiura S, Kimura T, Yamanaka T, Shitara K, Nagatsuma AK, Yoshino T, Ochiai A, Ohtsu A* : Prognostic impact of HER2, EGFR, and c-MET status on overall survival of advanced gastric cancer patients. *Gastric Cancer*, 19(1):183-91,2016.
- 014 *Taniguchi H, Komori A, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Yatabe Y, Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Muro K* : A short interval between bevacizumab and anti-epithelial growth factor receptor therapy interferes with efficacy of subsequent anti-EGFR therapy for refractory colorectal cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 46(3):228-33,2016.
- 015 *Muro K, Cheul Oh S, Shimada Y, Lee KW, Yen CJ, Chao Y, Yong CJ, Cheng R, Carlesi R, Chandrawansa K, Orlando M, Ohtsu A* : Subgroup analysis of East Asians in RAINBOW: A phase 3 trial of ramucirumab plus paclitaxel for advanced gastric cancer. *J Gastroenterol Hepatol*, 31(3):581-9,2016.
- 016 *Nomura M, Oze I, Kodaira T, Abe T, Komori A, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Tachibana H, Uemura N, Tajika M, Niwa Y, Muto M, Muro K* : Comparison between surgery and definitive chemoradiotherapy for patients with resectable esophageal squamous cell carcinoma: a propensity score analysis. *Int J Clin Oncol*, 2016. [Epub ahead of print]
- 017 *Maeda A, Ura T, Asano C, Haegawa I, Nomura M, Komori A, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Horio Y, Yoshida T, Oze I, Kajita M, Mizutani A* : A phase II trial of prophylactic olanzapine combined with palonosetron and dexamethasone for preventing nausea and vomiting induced by cisplatin. *Asia Pac J Clin Oncol*, 2016. doi: 10.1111/ajco.12489. [Epub ahead of print]
- 018 谷口浩也 : ASCO GI 2015におけるトピックス. 大腸がん perspective Vol.2 No.3 : 62-65,2015.
- 019 舩石俊樹, 室 圭 : 2. 切除不能進行・再発大腸がんに対する化学療法のアプローチ解説. ガイドラインサポー



トハンドブック 大腸がん2014年版, 医薬ジャーナル社:196-200,2015.

- 020 室 圭: 編集: あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社,2015.
- 021 宇良 敬: 第1章化学療法を行う前に3副作用への対策・安全管理. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 40-49,2015.
- 022 長谷川裕子: 第4章症例でわかる! 胃がん化学療法 A対応に困る病態 3腎機能低下の胃がん. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 177-180,2015.
- 023 門脇重憲: 第4章症例でわかる! 胃がん化学療法 B合併症副作用対策 1 S-1+シスプラチン投与時に, 食欲不振・下痢・好中球減少をきたしている症例. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 198-199,2015.
- 024 近藤真由美: 第4章症例でわかる! 胃がん化学療法 B合併症副作用対策 5パクリタキセルで高度のしびれをきたしている症例. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 208-209,2015.
- 025 近藤真由美: 第4章症例でわかる! 胃がん化学療法 B合併症副作用対策 6パクリタキセル, ドタキセルでアレルギーを起こした症例. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 210-212,2015.
- 026 谷口浩也: 第5章症例でわかる! 大腸がん化学療法 A対応に困る病態 4切除可能な同時性遠隔転移を有する大腸がん. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 229-232,2015.
- 027 谷口浩也: 第5章症例でわかる! 大腸がん化学療法 A対応に困る病態 5原発巣を有する治癒切除不能StageⅣ大腸がん. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 233-235,2015.
- 028 谷口浩也: 第5章症例でわかる! 大腸がん化学療法 A対応に困る病態 7中分化~高分化腺がん以外の大腸がん(大腸粘液がん, 低分化腺がん, 印環細胞がんなど). あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 240-242,2015.
- 029 谷口浩也: 第5章症例でわかる! 大腸がん化学療法 A対応に困る病態 8術後補助化学療法としてFOLFOX施行後再発した大腸がん. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 243-245,2015.
- 030 室 圭: 第5章症例でわかる! 大腸がん化学療法 A対応に困る病態 9微小転移巣を有する大腸がん. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 246-249,2015.
- 031 成田有季哉: 第5章症例でわかる! 大腸がん化学療法 B合併症・副作用対策 1オキサリプラチンでアレルギーを起こした症例. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 250-252,2015.
- 032 成田有季哉: 第5章症例でわかる! 大腸がん化学療法 B合併症・副作用対策 2オキサリプラチンで神経障害をきたした症例. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 253-255,2015.
- 033 小森 梓, 室 圭: 第5章症例でわかる! 大腸がん化学療法 B合併症・副作用対策. 3 FOLFIRIで高度下痢・骨髄抑制をきたした症例. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 256-258,2015.
- 034 宇良 敬: 第5章症例でわかる! 大腸がん化学療法 B合併症・副作用対策 4 FOLFOXRI+ペバシズマブで骨髄毒性をきたした症例. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 259-260,2015.
- 035 小森 梓, 室 圭: 第5章症例でわかる! 大腸がん化学療法 B合併症・副作用対策 5カベシタピンを含む治療で手足症候群をきたした症例. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 261-263,2015.
- 036 舛石俊樹: 第5章症例でわかる! 大腸がん化学療法 B合併症・副作用対策10セツキシマブで低マグネシウム血拴をきたしている症例. あらゆる症例に対応できる! 消化器がん化学療法, 羊土社: 274-276,2015.
- 037 Taniguchi H, Narita Y, Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Komori A, Uegaki S, Nomura M, Nitta S, Yamaguchi K, Kadowaki S, Takahari D, Ura T, Andoh M, Muro K: [A questionnaire survey on QOL and toxicity in colorectal cancer survivors who received adjuvant chemotherapy]. Gan To Kagaku Ryoho 42(4): 457-61,2015.
- 038 舛石俊樹, 谷口浩也: 抗血管新生療法. 大腸がんperspective Vol. 2 No. 2, メディカルレビュー社, 104-110,2015.
- 039 安藤正志: トリプルネガティブ乳がんに対する白金製剤を用いた術前化学療法 特集 早期乳がんおよび進行乳がんに対する新しい標準治療の開発. 腫瘍内科第15巻第15号, 化学評論社:433-437,2015.
- 040 谷口浩也, 室 圭: 【大腸癌診療Update】治療のUpdate 進行再発大腸癌化学療法の最新の話と近未来展望(解説/特集). 医学のあゆみ vol.252 No.10, 医歯薬出版, 1053-1058, 2015.
- 041 安藤正志: Lesson 2 1ドキシソルピシン. 肉腫化学療法マスタークラス, 南山堂: 46-52,2015.
- 042 室 圭: 総論 腫瘍内科医から見た再発に対する外科治療の役割. 腫瘍外科 vol.70 No. 9, 医学書院, 1060-1065,2015.
- 043 谷口浩也: 大腸癌コンパニオン診断の現状を教えてください(読者質問箱). 検査と技術 第43巻 第11号, 医学書院: 1146-1148,2015.
- 044 長谷川裕子, 谷口浩也, 室 圭: 消化器がんに対する術前術後の分子標的薬についての現状と今後の可能性(分子標的治療を含む併用療法). がん分子標的治療 Vol.13 No. 3, メディカルレビュー社:322-327,2015.
- 045 舛石俊樹, 室 圭: 進行大腸がんに対するregorafenibとTAS-102の位置づけ. 腫瘍内科 Vol.16 No. 4, 化学評論社: 342-347,2015.
- 046 谷口浩也: ASCO-GI2015におけるトピックス(大腸癌化学療法のトピックス). 大腸がんperspective Vol. 2 No. 3, メディカルレビュー社, 230-233,2015.
- 047 安藤正志: IV. 疾患別がん化学療法の理論と実践 精巣腫瘍. 臨床泌尿器科 Vol.69 No.12, 医学書院: 1058-1066,2015.
- 048 安藤正志: 16. 骨・軟部腫瘍. What's New in Oncology 改訂3版, 南山堂:611-653,2015.

- 049 三谷誠一郎, 室 圭 : 抗がん剤の基礎知識と症状緩和～外科医が知っておきたい緩和ケア～. 消化器外科 Vol.38 No.13, へする出版, 1851-7,2015.
- 050 安藤正志 : Part. 1 4. 初期治療における病型に応じた治療戦略を知る. Expert choice 乳がんレジメン, 先端医学社: 27-31,2015.
- 051 安藤正志 : (14) がんの診療と倫理. がん治療認定医 教育セミナーテキスト第9版, 日本がん治療認定医機構 教育委員会編:105-113,2015.
- 052 室 圭 : 消化管癌の化学療法. 今日の治療指針 2016, 医学書院, 494-497,2016.
- 053 室 圭 : 腹膜播種陽性胃癌に対する腹腔内化学療法の可能性(座談会). GC Expert, 医科学出版社, 10-14,2016.
- 054 安藤正志 : 軟部肉腫治療の現状と展望 薬物療法の立場から. 癌と化学療法 vol.43 No. 1 ,癌と化学療法社: 27-32,2016.
- 055 室 圭 : 胃癌新薬開発の最前線(座談会). 胃がん perspective Vol. 8 No. 3, メディカルレビュー社, 5-14,2016.
- 056 成田有季哉 : 2.セカンドライン以降の化学療法治療戦略は? - 2)胃がん ③経口接種不良例. 臨床腫瘍ブラクティス Vol.12 No. 1, ヴァンメディカル : 53-61,2016.
- 057 成田有季哉, 室 圭 : 消化器がんに対する免疫療法 ～特集 消化器がん(消化管・肝胆膵がんの新展開～. 腫瘍内科 17(2), 科学評論社 : 225-229,2016.
- 058 成田有季哉, 室 圭 : 目根希チェックポイント阻害薬の最新情報 (特集)外科医が知っておきたい癌化学療法と副作用対策. 消化器外科 vol.39 No. 3, へする出版 : 279-284, 2016.
- 059 室 圭 : がん患者の外来意向の概要と薬局への期待. 調剤と情報 vol.22 No. 4, じほう : 382-385,2016.
- 060 戸澤勝之, 室 圭 : 治療サイクルを知って患者をサポート. 調剤と情報 vol.22 No. 4, じほう : 386-389,2016.
- 061 安藤正志 : 骨軟部腫瘍に対する薬物療法硬化の評価法. 腫瘍内科 17(3), 科学評論社 : 311-315,2016.
- In what state is this art? J Thorac Oncol,10:985-9,2015.
- 004 Kobayashi Y, Togashi Y, Yatabe Y, Mizuuchi H, Jangchul P, Kondo C, Shimoji M, Sato K, Suda K, Tomizawa K, Takemoto T, Hida T, Nishio K, Mitsudomi T : EGFR Exon 18 Mutations in Lung Cancer: Molecular Predictors of Augmented Sensitivity to Afatinib or Neratinib as Compared with First- or Third-Generation TKIs. Clin Cancer Res,21:5305-13,2015.
- 005 Kuroda H, Sakao Y, Mun M, Uehara H, Nakao M, Matsuura Y, Mizuno T, Sakakura N, Motoi N, Ishikawa Y, Yatabe Y, Nakagawa K, Okumura S : Lymph Node Metastases and Prognosis in Left Upper Division Non-Small Cell Lung Cancers: The Impact of Interlobar Lymph Node Metastasis. PLoS One:10:e0134674, 2015.
- 006 Saito T, Kondo C, Shitara K, Ito Y, Saito N, Ikehara Y, Yatabe Y, Yamamichi K, Tanaka H, Nakanishi H : Comparison of intratumoral heterogeneity of HER2 expression between primary tumor and multiple organ metastases in gastric cancer: Clinicopathological study of three autopsy cases and one resected case. Pathol Int.65:309-17,2015.
- 007 Soga N, Yatabe Y, Kageyama T, Ogura Y, Hayashi N. : Review of Bioptic Gleason Scores by Central Pathologist Modifies the Risk Classification in Prostate Cancer. Urol Int.95:452-6,2015.
- 008 Soga N, Yatabe Y, Ogura Y, Hayashi N : Additional Midline Biopsies of the Peripheral Zone Associated with the First Endorectal Standard Sextant Pattern Improves the Accuracy of Prostate Cancer Detection in Japanese Patients. Curr Urol. 8 :74-8,2015.
- 009 Suda K, Murakami I, Sakai K, Mizuuchi H, Shimizu S, Sato K, Tomizawa K, Tomida S, Yatabe Y, Nishio K, Mitsudomi T : Small cell lung cancer transformation and T790M mutation: complimentary roles in acquired resistance to kinase inhibitors in lung cancer. Sci Rep. 5 :14447,2015.
- 010 Tai MC, Kajino T, Nakatochi M, Arima C, Shimada Y, Suzuki M, Miyoshi H, Yatabe Y, Yanagisawa K, Takahashi T : miR-342-3 p regulates MYC transcriptional activity via direct repression of E2F1 in human lung cancer. Carcinogenesis,36:1464-73,2015.
- 011 Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Imaoka H, Sato T, Yogi T, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Hieda N, Okuno N, Yoshida T, Bhatia V, Yatabe Y, Yamao K, Niwa Y : A Randomized Controlled Trial Evaluating a Low-Volume PEG Solution Plus Ascorbic Acid versus Standard PEG Solution in Bowel Preparation for Colonoscopy. Gastroenterol Res Pract:326581,2015.
- 012 Tanaka K, Hida T, Oya Y, Oguri T, Yoshida T, Shimizu J, Horio Y, Hata A, Kaji R, Fujita S, Sekido

臨床検査部・遺伝子病理診断部

- 001 Hata A, Katakami N, Yoshioka H, Kaji R, Masago K, Fujita S, Imai Y, Nishiyama A, Ishida T, Nishimura Y, Yatabe Y : Spatiotemporal T790M Heterogeneity in Individual Patients with EGFR-Mutant Non-Small-Cell Lung Cancer after Acquired Resistance to EGFR-TKI. J Thorac Oncol, 10:1553-9,2015.
- 002 Hosono S, Ito H, Oze I, Watanabe M, Komori K, Yatabe Y, Shimizu Y, Tanaka H, Matsuo K : A risk prediction model for colorectal cancer using genome-wide association study-identified polymorphisms and established risk factors among Japanese: results from two independent case-control studies. Eur J Cancer Prev,2015.
- 003 Kerr KM, Tsao MS, Nicholson AG, Yatabe Y, Wistuba, II, Hirsch FR : Committee IP. Programmed Death-Ligand 1 Immunohistochemistry in Lung Cancer:

- Y, Kodaira T, Kokubo M, Katakami N, Yatabe Y* : EGFR Mutation Impact on Definitive Concurrent Chemoradiation Therapy for Inoperable Stage III Adenocarcinoma. *J Thorac Oncol*,10:1720-5,2015.
- 013 *Travis WD, Brambilla E, Nicholson AG, Yatabe Y, Austin JH, Beasley MB, Chirieac LR, Dacic S, Duhig E, Flieder DB, Geisinger K, Hirsch FR, Ishikawa Y, Kerr KM, Noguchi M, Pelosi G, Powell CA, Tsao MS, Wistuba I* : Panel WHO. The 2015 World Health Organization Classification of Lung Tumors: Impact of Genetic, Clinical and Radiologic Advances Since the 2004 Classification. *J Thorac Oncol*,10:1243-60,2015.
- 014 *Tsutsuyama M, Ito S, Ito Y, Misawa K, Kawakami J, Natsume S, Uemura N, Kinoshita T, Kimura K, Senda Y, Abe T, Komori K, Yatabe Y, Niwa Y, Shimizu Y, Kinoshita T* : A Case of Gastric Cancer with Residual Tumor Only in the Para-Aortic Lymph Nodes after Systemic Chemotherapy followed by Conversion Surgery. *Case Rep Oncol*, 8 :312-22,2015.
- 015 *Yogi T, Hijioka S, Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Shimizu Y, Hosoda W, Yatabe Y, Niwa Y, Yoshimura K, Bhatia V, Fujita J, Yamao K* : Risk factors for postoperative recurrence of intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas based on a long-term follow-up study: proposals for follow-up strategies. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*,22:757-65,2015.
- 016 *Zhang YA, Ma X, Sathe A, Fujimoto J, Wistuba II, Lam S, Yatabe Y, Wang YW, Stastny V, Gao B, Larsen JE, Girard L, Liu X, Song K, Behrens C, Kalhor N, Xie Y, Zhang MQ, Minna JD, Gazdar AF* : Validation of SCT Methylation as a Hallmark Biomarker for Lung Cancers. *J Thorac Oncol*,11:346-60,2016.
- 017 *Boyle TA, Masago K, Ellison KE, Yatabe Y, Hirsch FR* : ROS 1 immunohistochemistry among major genotypes of non-small-cell lung cancer. *Clin Lung Cancer*, 16:106-11,2015.
- 018 *Ebi H, Oze I, Nakagawa T, Ito H, Hosono S, Matsuda F, Takahashi M, Takeuchi S, Sakao Y, Hida T, Faber AC, Tanaka H, Yatabe Y, Mitsudomi T, Yano S, Matsuo K* : Lack of association between the BIM deletion polymorphism and the risk of lung cancer with and without EGFR mutations. *J Thorac Oncol*,10:59-66,2016.
- 019 *Hijioka S, Hosoda W, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Bhatia V, Mekky MA, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Tsutumi H, Fujiyoshi T, Sato T, Hieda N, Yoshida T, Okuno N, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K* : Does the WHO 2010 classification of pancreatic neuroendocrine neoplasms accurately characterize pancreatic neuroendocrine carcinomas? *J Gastroenterol*, 50:564-72,2015.
- 020 *Hirano D, Kato H, Kodaira T, Yatabe Y, Ueda N, Murakami S, Higuchi Y, Taji H, Nakamura S, Yamamoto K, Kinoshita T* : Salvage therapy with single agent L-asparaginase followed by local irradiation in an elderly patient with CD56-positive primary isolated extramedullary T-cell lymphoblastic lymphoma of the sinus. *Ann Hematol*,94:173-5,2015.
- 021 *Hosoda W, Sasaki E, Murakami Y, Yamao K, Shimizu Y, Yatabe Y* : GNAS mutation is a frequent event in pancreatic intraductal papillary mucinous neoplasms and associated adenocarcinomas. *Virchows Arch*,466:665-74,2015.
- 022 *Kobayashi Y, Mitsudomi T, Sakao Y, Yatabe Y* : Genetic features of pulmonary adenocarcinoma presenting with ground-glass nodules: the differences between nodules with and without growth. *Ann Oncol*,26:156-61, 2015.
- 023 *Morishima S, Nakamura S, Yamamoto K, Miyauchi H, Kagami Y, Kinoshita T, Onoda H, Yatabe Y, Ito M, Miyamura K, Nagai H, Moritani S, Sugiura I, Tsushita K, Mihara H, Ohbayashi K, Iba S, Emi N, Okamoto M, Iwata S, Kimura H, Kuzushima K, Morishima Y* : Increased T-cell responses to Epstein-Barr virus with high viral load in patients with Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma. *Leuk Lymphoma*,56:1072-8,2015.
- 024 *Moritani S, Ichihara S, Yatabe Y, Hasegawa M, Iwakoshi A, Hosoda W, Narita M, Nagai Y, Asai M, Ujihira N, Yuba Y, Jijiwa M* : Immunohistochemical expression of myoepithelial markers in adenomyoepithelioma of the breast: a unique paradoxical staining pattern of high-molecular weight cytokeratins. *Virchows Arch*, 466:191-8,2015.
- 025 *Nagasaka T, Murakami Y, Sasaki E, Hosoda W, Nakanishi T, Yatabe Y* : Minute perivascular epithelioid cell (PEC) nests in the abdominal lymph nodes—a putative precursor of PEComa. *Pathol Int*,65:193-6,2015.
- 026 *Oki M, Yatabe Y, Saka H, Kitagawa C, Kogure Y, Ichihara S, Moritani S* : Feasibility and accuracy of molecular testing in specimens obtained with small biopsy forceps: comparison with the results of surgical specimens. *Respiration*,89:235-42,2015.
- 027 *Saito T, Nakanishi H, Mochizuki Y, Ito S, Ito Y, Misawa K, Yatabe Y, Yamamichi K, Kondo E* : Preferential HER 2 expression in liver metastases and EGFR expression in peritoneal metastases in patients with advanced gastric cancer. *Gastric Cancer*,18:711- 9,2015.
- 028 *Sano Y, Hashimoto E, Nakatani N, Abe M, Satoh Y, Sakata K, Fujii T, Fujimoto-Ouchi K, Sugimoto M, Nagahashi S, Aoki M, Motegi H, Sasaki E, Yatabe Y* : Combining onartuzumab with erlotinib inhibits growth of non-small cell lung cancer with activating EGFR mutations and HGF overexpression. *Mol Cancer Ther*,



- 14:533-41,2015.
- 029 *Sekine M, Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Niwa Y, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Ito S, Misawa K, Ito Y, Shimizu Y, Yatabe Y, Ohnishi H, Yamao K* : Clinical course of gastrointestinal stromal tumor diagnosed by endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration. *Dig Endosc*,27:44-52,2015.
- 030 *Taniguchi H, Yamazaki K, Yoshino T, Muro K, Yatabe Y, Watanabe T, Ebi H, Ochiai A, Baba E, Tsuchihara K* : Japanese Society of Medical O. Japanese Society of Medical Oncology Clinical Guidelines: RAS (KRAS/NRAS) mutation testing in colorectal cancer patients. *Cancer Sci*,106:324-7,2015.
- 031 *Yatabe Y* : ALK FISH and IHC: you cannot have one without the other. *J Thorac Oncol*,10:548-50,2015.
- 032 *Yatabe Y, Kerr KM, Utomo A, Rajadurai P, Tran VK, Du X, Chou TY, Enriquez ML, Lee GK, Iqbal J, Shuangshoti S, Chung JH, Hagiwara K, Liang Z, Normanno N, Park K, Toyooka S, Tsai CM, Waring P, Zhang L, McCormack R, Ratcliffe M, Itoh Y, Sugeno M, Mok T* : EGFR mutation testing practices within the Asia Pacific region: results of a multicenter diagnostic survey. *J Thorac Oncol*,10:438-45,2015.
- 033 伊藤友一, 倉橋真太郎, 伊藤誠二, 三澤一成, 丹羽康正, 谷田部恭, 清水泰博 : S-1 / CDDP療法により組織学的CRが得られた腹膜転移を伴う高度進行胃癌の1例. *癌と化学療法*,42:355-8,2015.
- 034 奥野のぞみ, 脇岡 範, 尾関順子, 谷田部恭, 山雄健次 : 【穿刺吸引細胞診の見方と診断そして最新の知見-細胞像と組織像を対比して-】超音波内視鏡ガイド下穿刺吸引細胞診 (EUS-FNAC). *病理と臨床*,33:1212-21,2015.
- 035 吉田 司, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤 英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次 : 【膵内分分泌腫瘍の診断・治療の新展開】膵内分分泌腫瘍におけるEUS-FNAの役割と遺伝子変異診断. *胆と膵*,36:529-35,2015.
- 036 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 與儀竜治, 堤英治, 佐藤高光, 藤 俊尚, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 細田和貴, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次 : 【膵・消化管神経内分分泌腫瘍(GEP-NET)のアップデート】GEP-NETの画像診断のコツと生検の意義. *臨床外科*,70:397-406, 2015.
- 037 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 與儀 竜, 堤英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 千田嘉毅, 夏目誠治, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次 : 【胆膵EUS-FNAのエビデンス2015-この5年間の進歩-】胆道疾患に対するEUS-FNA 2015. *胆と膵*,36:319-26,2015.
- 038 笹本香織, 谷田部恭, 北脇 城, 中西 透 : 子宮内膜組織診陰性の子宮体癌症例についての検討. *日本臨床細胞学会雑誌*,54:358-63,2015.
- 039 小林祥久, 光富徹哉, 坂尾幸則, 谷田部恭 : 左肺全摘後、肺動脈内に再発をきたしたintimal sarcomaの1例. *肺癌*,55:251-6,2015.
- 040 谷田部恭 : 肺癌における遺伝子検査. *日本染色体遺伝子検査学会雑誌*,33:41-6,2015.
- 041 谷田部恭 : 腫瘍バンクの利用における課題. *腫瘍内科*,15: 515-8,2015.
- 042 谷田部恭 : 【ますます臨床利用が進む遺伝子検査-その現状と今後の展開そして課題-】(第2章)分子標的治療のための体細胞遺伝子検査の現状 肺がん. *遺伝子医学MOOK*,74-80,2015.
- 043 田近正洋, 中村常哉, 田中 努, 石原 誠, 谷田部恭, 山雄健次, 丹羽康正 : 【消化管原発悪性リンパ腫】胃MALTリンパ腫のH.pylori除菌無効例およびH.pylori陰性例に対する治療方針 Watch and Waitの立場から. *消化器内視鏡*,27:781-9,2015.
- 044 田近正洋, 中村常哉, 田中 努, 石原 誠, 木下朝博, 谷田部恭, 山雄健次, 丹羽康正 : 【腸管悪性リンパ腫】臨床 Diffuse large B-cell lymphoma(DLBCL) 腸管原発DLBCLの診断と治療. *Intestine*,19:245-52,2015.
- 045 田中広祐, 樋田豊明, 坂尾幸則, 谷田部恭 : 術後6年で胸膜・腹膜播種を来した胸腺非定型カルチノイドの1例. *肺癌*,55:247-50,2015.
- 046 三窪将史, 谷田部恭 : 分子病理からみた多重癌. *日本胸部臨床*, 75:146-157,2016.

#### 頭頸部外科部

- 001 *Sakashita T, Hayashi R, Homma A, Matsuura K, Kato K, Kawabata K, Monden N, Hasegawa Y, Onitsuka T, Fujimoto Y, Iwae S, Okami K, Matsuzuka T, Yoshino K, Fujii M* : Multi-institutional retrospective study for the evaluation of ocular function-preservation rates in maxillary sinus squamous cell carcinomas with orbital invasion. *Head Neck*, 37( 4 ):537-42,2015.
- 002 *Nishikawa D, Hanai N, Ozawa T, Hirakawa H, Suzuki H, Nakashima T, Hasegawa Y* : Role of induction chemotherapy for N3 head and neck squamous cell carcinoma. *Auris Nasus Larynx*, 42( 2 ):150-5,2015.
- 003 *Tahara M, Kiyota N, Mizusawa J, Nakamura K, Hayashi R, Akimoto T, Hasegawa Y, Iwae S, Monden N, Matsuura K, Fujii H, Onozawa Y, Homma A, Kubota A, Fukuda H, Fujii M* : Phase II trial of chemoradiotherapy with S-1 plus cisplatin for unresectable locally advanced head and neck cancer (JCOG0706). *Cancer Sci*, 106( 6 ):726-33,2015.
- 004 *Tsukahara K, Kubota A, Hasegawa Y, Takemura H, Terada T, Taguchi T, Nagahara K, Nakatani H, Yoshino K, Higaki Y, Iwae S, Beppu T, Hanamura Y,*

- Tomita K, Kohno N, Kawabata K, Fukushima M, Teramukai S, Fujii M* : ACTS-HNC group: Randomized phase III trial of adjuvant chemotherapy with S-1 after curative treatment in patients with squamous-cell carcinoma of the head and neck (ACTS-HNC). PLoS One, 10(2):e0116965,2015.
- 005 *Suzuki H, Hanai N, Hirakawa H, Nishikawa D, Hasegawa Y* : Lymph node density is a prognostic factor in patients with major salivary gland carcinoma. Oncology Letters, 10(6):3523-3528,2015.
- 006 *Hasegawa Y* : Transcervical Oropharyngectomy: A clinically focused review. Current Cancer Therapy Reviews, 11(1):38-43,2015.
- 007 *Worden F, Fassnacht M, Shi Y, Hadjieva T, Bonichon F, Gao M, Fugazzola L, Ando Y, Hasegawa Y, Park do J, Shong YK, Smit JW, Chung J, Kappeler C, Meinhardt G, Schlumberger M, Brose MS* : Safety and tolerability of sorafenib in patients with radioiodine-refractory thyroid cancer. Research, 22(6):877-887,2015.
- 008 *Wakisaka N, Hasegawa Y, Yoshimoto S, Miura K, Shiotani A, Yokoyama J, Sugawara M, Moriyama-Kita M, Endo K, Yoshizaki T* : Primary tumor-secreted lymphangiogenic factors induce pre-metastatic lymphovascular niche formation at sentinel lymph nodes in oral squamous cell carcinoma. PLoS One, 10(12): e0144056, 2015.
- 009 *Suzuki H, Beppu S, Hanai N, Hirakawa H, Hasegawa Y* : Lymph node density predicts lung metastases in oral squamous cell carcinoma. Br J Oral Maxillofac Surg, 54(2):213-8,2016.
- 010 *Kimura K, Kodaira T, Tomita N, Tachibana H, Makita C, Yoshida M, Nishikawa D, Hirakawa H, Suzuki H, Hanai N, Hasegawa Y* : Clinical results of definitive intensity-modulated radiation therapy for oropharyngeal cancer: retrospective analysis of treatment efficacy and safety. Jpn J Clin Oncol, 46(1):78-85,2016.
- 011 *Goto M, Hanai N, Ozawa T, Hirakawa H, Suzuki H, Hyodo I, Kodaira T, Ogawa T, Fujimoto Y, Terada A, Kato H, Hasegawa Y* : Prognostic factors and outcomes for salvage surgery in patients with recurrent squamous cell carcinoma of the tongue. Asia Pac J Clin Oncol, 12(1):e141-8,2016.
- 012 長谷川泰久 : 喉頭癌治療の変遷. JOHNS, 31(4):409-414, 2015.
- 013 花井信広 : 頭頸部腫瘍の穿刺細胞診. ENTONI, 179:176-182,2015.
- 014 花井信広 : 頸部の手術 頸部郭清術 lateral neck dissection. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 87(5):284-287,2015.
- 015 花井信広 : 中頭蓋底・側頭下窩へのアプローチ. JOHNS, 31(7):911-914,2015.
- 016 長谷川泰久 : 頭頸部癌治療合併症と口腔管理. 口咽科, 28(2):123-128,2015.
- 017 西川大輔, 長谷川泰久 : 標準治療と先進医療 喉頭がんの診断と治療. ライフライン21 がんの先進医療, 19: 28-31,2015.
- 018 花井信広 : 頭頸部手術基本手技. 頭頸部癌, 41(3):343-345, 2015.
- 019 的場拓磨, 花井信広, 西川大輔, 鈴木秀典, 長谷川泰久 : ボイストレーシング交換間隔の検討. 頭頸部癌, 41(4): 476-480,2015.
- 020 花井信広 : 亜部位別の治療法選択は? . JOHNS, 32(3):326-330,2016.
- 021 長縄弥生 : 歯科衛生士の基礎力を高めよう! 問題志向型で考える、領域を越えた連携のコツ. 障害者歯科, 36(2):72-77,2015.

#### 形成外科部

- 001 *Kohyama K, Yamada K, Sugiura H, Hyodo I, Ozawa T, Hasegawa Y, Kato H, Kamei Y* : Salvage surgery and microsurgical reconstruction for recurrence of skull base osteosarcoma after carbon ion radiotherapy. Nagoya J Med Sci, Nov;77(4) : 667-73,2015.
- 002 兵藤伊久夫 : 頭頸部再建に用いられる皮弁 有茎広背筋皮弁.耳鼻咽喉科・頭頸部外科,87(7):474-480,2015.
- 003 奥村誠子, 兵藤伊久夫 : 乳房再建の現状と課題.現代医学,63(1):31-34,2015.

#### 呼吸器外科部

- 001 *Sakao Y, Ojima T, Yasuda H, Hashimoto S, Hasegawa T, Iseki K, Tsubakihara Y, Kato A* : Serum Creatinine Modifies Associations between Body Mass Index and Mortality and Morbidity in Prevalent Hemodialysis Patients. PLoS One, 11(3),2016.
- 002 *Hasegawa T, Kondo C, Sato Y, Inaba Y, Yamaura H, Kato M, Murata S, Onoda Y, Kuroda H, Sakao Y, Yatabe Y* : Diagnostic Ability of Percutaneous Needle Biopsy Immediately After Radiofrequency Ablation for Malignant Lung Tumors: An Initial Experience. Cardiovasc Intervent Radiol,39(8):1187-92,2016.
- 003 *Naomi A, Kuroda H, Seto K, Iiduka S, Dejima H, Mizuno T, Sakakura N, Sakao Y* : Castleman's Disease of the Chest Wall Successfully Resected by Thoracoscopic Surgery : Report of a Case. Kyobu Geka, 68(13):1114-7,2016.
- 004 *Sato S, Motoi N, Hiramatsu M, Miyauchi E, Ono H, Saito Y, Nagano H, Ninomiya H, Inamura K, Uehara H, Mun M, Sakao Y, Okumura S, Tsuchida M, Ishikawa Y* : Pulmonary adenocarcinoma in situ: analyses of a large series with reference to smoking, driver mutations, and receptor tyrosine kinase pathway

activation. Am J Surg Pathol, 39(7):912-21,2016.

- 005 **Fukui T, Taniguchi T, Kawaguchi K, Fukumoto K, Nakamura S, Sakao Y, Yokoi K** : Comparisons of the clinicopathological features and survival outcomes between lung cancer patients with adenocarcinoma and squamous cell carcinoma. Gen Thorac Cardiovasc Surg, 63(9):507-13,2016.
- 006 **Tomizawa K, Suda K, Takemoto T, Mizuno T, Kuroda H, Sakakura N, Iwasaki T, Sakaguchi M, Kuwano H, Mitsudomi T, Sakao Y** : Prognosis and segment-specific nodal spread of primary lung cancer in the right lower lobe. Thorac Cancer, 6(6):672-7,2015.
- 007 **Mori S, Usami N, Fukumoto K, Mizuno T, Kuroda H, Sakakura N, Yokoi K, Sakao Y** : The Significance of the Prognostic Nutritional Index in Patients with Completely Resected Non-Small Cell Lung Cancer. PLoS One, 10; 10(9),2015.
- 008 **Sato S, Motoi N, Hiramatsu M, Miyauchi E, Ono H, Saito Y, Nagano H, Ninomiya H, Inamura K, Uehara H, Mun M, Sakao Y, Okumura S, Tsuchida M, Ishikawa Y** : Pulmonary adenocarcinoma in situ : analyses of a large series with reference to smoking, driver mutations, and receptor tyrosine kinase pathway activation. Am J Surg Pathol, 39(7):912-21,2015.
- 009 **Sakakura N, Inaba Y, Yatabe Y, Mizuno T, Kuroda H, Yoshimura K, Sakao Y** : Estimation of the pathological invasive size of pulmonary adenocarcinoma using high-resolution computed tomography of the chest: A consideration based on lung and mediastinal window settings. Lung Cancer, 95:51-62,2016.
- 010 **Kuroda H, Sakao Y, Mun M, Uehara H, Nakao M, Matsuura Y, Mizuno T, Sakakura N, Motoi N, Ishikawa Y, Yatabe Y, Nakagawa K, Okumura S** : Lymph Node Metastases and Prognosis in Left Upper Division Non-Small Cell Lung Cancers: The Impact of Interlobar Lymph Node Metastasis. PLoS One, 6;10(8), 2015.
- 011 **Dejima H, Matsutani N, Imazuru T, Morita S, Takahashi Y, Shimokawa T, Kawamura M** : Combined Aortic Resection and Stent Graft Insertion for Local Recurrence of Metastatic Lung Carcinoma Following Stereotactic Radiotherapy: A Case Report. Ann Thorac Cardiovasc Surg, 22(1):52-6,2016.
- 012 **直海 晃, 黒田浩章, 瀬戸克年, 飯塚修平, 出島 仁, 水野鉄也, 坂倉範昭, 坂尾幸則** : 胸腔鏡下に切除した後縦隔胸壁発生Castleman病の1例(原著論文/症例報告). 胸部外科, 68:1114-1117,2015.

#### 乳腺科部

- 001 **Kuroi K, Toi M, Ohno S, Nakamura S, Iwata H,**

**Masuda N, Sato N, Tsuda H, Kurosumi M, Akiyama F** : Prognostic significance of subtype and pathologic response in operable breast cancer; a pooled analysis of prospective neoadjuvant studies of JBCRG. Breast Cancer, Vol.22, Issue 5:486-495,2015.

- 002 **Yamashiro H, Iwata H, Masuda N, Yamamoto N, Nishimura R, Ohtani S, Sato N, Takahashi M, Kamio T, Yamazaki K, Saito T, Kato M, Lee T, Ohno S, Kuroi K, Takano T, Takada M, Yasuno S, Morita S, Toi M** : Outcome of trastuzumab therapy in HER2-positive early breast cancer patients. Int J Clin Oncol, 20:709-722,2015.
- 003 **Turner NC, Ro J, Andre F, Loi S, Verma S, Iwata H, Harbeck N, Loibl S, Bartlett CH, Zhang K, Giorgetti C, Randolph S, Koehler M, Cristofanilli M** : Palbociclib in Hormone-Receptor-Positive Advanced Breast Cancer. N Engl J Med, 373:1672-1673,2015.
- 004 **Yamamoto H, Ando M, Aoji K, Iwata H, Tamura K, Yonemori K, Shimizu C, Hara F, Takabatake D, Hattori M, Asakawa T and Fujiwara Y** : Phase 1 and pharmacokinetic study of trastuzumab emtansine in Japanese patients with HER2-positive metastatic breast cancer. Jpn J Clin Oncol, 45(11):12-18,2015.
- 005 **安立弥生, 服部正也, 石黒淳子, 市川茉莉, 小谷はるる, 久田知可, 吉村章代, 近藤直人, 澤木正孝, 藤田崇史, 安藤正志, 岩田広治** : エリブリン治療後の新規遠隔転移出現と次化学療法の治療効果についての検討. 乳癌の臨床, 30(2) : 127-132,2015.
- 006 **伊藤良則, 増田慎三, 岩田広治, 向井博文, 堀口 淳, 徳田 裕, 黒井克昌, 森明日香, 大野宜嗣, 野口眞三郎** : エストロゲン受容体(ER)陽性閉経後進行・再発乳癌に対するエベロリムス+エキセメスタン併用の有用性を検討する第3相臨床(BOLERO-2)試験. 癌と化学療法 (Jpn J Cancer Chemother), 42(1):67-75,2015.
- 007 **安立弥生, 吉村章代, 石黒淳子, 小谷はるる, 瀧由美子, 久田知可, 近藤直人, 服部正也, 澤木正孝, 吉村健一, 岩田広治** : 乳癌患者におけるアンスラサイクリン系抗癌剤、トラスツズマブによる心機能障害に関するトロポニンIの有用性の検討. 乳癌の臨床, 30(5):453-458,2015.
- 008 **澤木正孝** : 乳がん. 臨床腫瘍学第4版, 362-373,2015.
- 009 **澤木正孝** : 年齢を考慮した癌治療 乳がん. 腫瘍内科, 16(5) : 426-432,2015.
- 010 **澤木正孝** : 連携拠点病院とトピックス、乳がんにおける連携. 医学のあゆみ, 254(9) : 722-728,2015.
- 011 **澤木正孝** : Neoadjuvant therapyの臨床的意義と今後の方向性 乳癌. 臨床外科, 70(7) : 808-815,2015.
- 012 **澤木正孝** : 放射線治療の進歩. 現代医学, 63(1):49-51, 2015.
- 013 **澤木正孝** : 特集 加速乳房部分照射の現状 : 術中照射. 乳癌の臨床, 30(3):217-224,2015.
- 014 **澤木正孝** : News and Topics : Adjuvant Exemestane試験. がん分子標的治療, 13(1):151-154,2015.



【原著論文】

- 001 *Uemura N, Abe T, Kawai R, Ito S, Komori K, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Shimizu Y, Shinoda M* : Curative resection of esophageal cancer with a double aortic arch. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*,63( 2 ):116-119,2015.
- 002 *Shimizu Y, Yamaue H, Maguchi H, Yamao K, Hirono S, Osanai M, Hijioka S, Kanemitsu Y, Sano T, Senda Y, Bhatia V, Yanagisawa A, Maguchi H, Yamao K, Hirono S, Osanai M, Hijioka S, Kanemitsu Y, Sano T, Senda Y, Bhatia V, Yanagisawa A* : Validation of a Nomogram for Predicting the Probability of Carcinoma in Patients With Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm in 180 Pancreatic Resection Patients at 3 High-Volume Centers.*Pancreas*,44( 3 ):459-464,2015.
- 003 *Sato Y, Inaba Y, Murata S, Yamaura H, Kato M, Kawada H, Shimizu Y, Ishiguchi T* : Percutaneous drainage for afferent limb syndrome and pancreatic fistula via the blind end of the jejunal limb after pancreatoduodenectomy or bile duct resection. *J Vasc Interv Radiol*,26( 4 ):566-572,2015.
- 004 *Misawa K, Fujiwara M, Ando M, Mochizuki Y, Ito Y, Onishi E, Ishigure K, Morioka S, Takase T, Watanabe T, Yamamura Y, Morita S, Kodera Y* : Long-term quality of life after laparoscopic distal gastrectomy for early gastric cancer: results of a prospective multi-institutional comparative trial. *Gastric Cancer*,18( 2 ): 417-425,2015.
- 005 *Hijioka S, Hosoda W, Mizuno N, Hara K, Imaoka H, Bhatia V, Mekky MA, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi T, Tsutumi H, Fujiyashi T, Sato T, Hieda N, Yoshida T, Okuno N, Shimizu Y, Yatabe Y, Niwa Y, Yamao K* : Does the WHO 2010 classification of pancreatic neuroendocrine neoplasms accurately characterize pancreatic neuroendocrine carcinomas?. *J Gastroenterol*, 50( 5 ) : 564-572,2015.
- 006 *Sato Y, Matsushima S, Inaba Y, Sano T, Yamaura H, Kato M, Shimizu Y, Senda Y, Ishiguchi T* : Preoperative estimation of future remnant liver function following portal vein embolization using relative enhancement on gadoteric acid disodium-enhanced magnetic resonance imaging. *Korean Journal of Radiology*, 16( 3 ):523-530,2015.
- 007 *Hosoda Y, Sasaki E, Murakami Y, Yamao K, Shimizu Y, Yatabe Y* : GNAS mutation is a frequent event in pancreatic intraductal papillary mucinous neoplasms and associated adenocarcinomas. *Virchows Arch*,466( 6 ):665-674,2015.
- 008 *Uemura N, Kondo T* : Current advances in esophageal cancer proteomics. *BBA Biochimica et Biophysica Acta(BBA)-Proteins and Proteomics*,1854( 6 ):687-695,2015.
- 009 *Misawa K, Terashima M, Uenosono Y, Ota S, Hata H, Noro H, Yamaguchi K, Yajima H, Nitta T, Nakada K* : Evaluation of postgastrectomy symptoms after distal gastrectomy with Billroth-I reconstruction using the Postgastrectomy Syndrome Assessment Scale-45 (PGSAS-45). *Gastric Cancer*,18( 3 ):675-678,2015.
- 010 *Kurahashi S, Sano T, Natsume S, Senda Y, Yamaura H, Inaba Y, Shimizu Y* : Surgical treatment after hepatic arterial infusion chemotherapy for hepatocellular carcinoma extending into the right atrium. *Surg Case Rep*, 1 ( 1 ):47,2015.
- 011 *Ichimura N, Shinjo K, Byonggu An, Shimizu Y, Yamao K, Ohka F, Katsushima K, Hatanaka A, Tojo M, Yamamoto E, Suzuki H, Ueda M, Kondo Y* : Aberrant TET 1 Methylation Closely Associated with CpG Island Methylator Phenotype in Colorectal Cancer. *CANCER PREVENTION RESEARCH*, 8 ( 8 ):702-711,2015.
- 012 *Nomura M, Oze I, Abe T, Komori A, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Kawai R, Uemura N, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Muro K, Muto M* : Impact of docetaxel in addition to cisplatin and fluorouracil as neoadjuvant treatment for resectable stage III or T3 esophageal cancer: a propensity score-matched analysis. *Cancer Chemother Pharmacol*, 9 ( 2 ) : 2806-2808,2015.
- 013 *Narita Y, Taniguchi H, Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Komori A, Nomura M, Kadowaki S, Takahari D, Ura T, Andou M, Muro K* : Differences in attitude toward adjuvant chemotherapy between colorectal cancer survivors and the medical staff of Japanese hospitals. *Int J Clin Oncol*,20( 4 ):755-760,2015.
- 014 *Ando M, Shimizu Y, Sano T, Senda Y, Nimura Y, Yamao K, Nagino M, Yanagisawa A* : Poor prognosis of common-type invasive ductal carcinomas that originate in the branching pancreatic duct. *Surg Today* ,45(10):1291-1298,2015.
- 015 *Yogi T, Hijioka S, Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Shimizu Y, Hosoda W, Yatabe Y, Niwa Y, Yohimura K, Bhatia V, Fujita J, Yamao K* : Risk factors for postoperative recurrence of intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas based on a long-term follow-up study: Proposals for follow-up strategies. *J Hepatobiliary Pancreat Sci*, 22(10):757-765,2015.
- 016 *Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Kawakami J, Iwata Y, Tsutsuyama M, Shigeyoshi I, Akazawa T, Hayashi D, Shimizu Y* : Adequate Margins to Prevent Local Re-recurrence of Rectal Cancer: Viewpoint of Pathological Findings. *ANTICANCER RESEARCH*,35(12):6747-6754,2015.
- 017 *Ito S, Ito Y, Misawa K, Shimizu Y, Kinoshita T* : Neoadjuvant chemotherapy followed by surgery in gastric

- cancer patients with extensive lymph node metastasis. *World J Clin Oncol*,10(6): 291-294,2015.
- 018 *Nimura Y, Di Qu J, Hayashi Y, Oda M, Kitasaka T, Hashizume M, Misawa K, Mori K*: Pneumoperitoneum simulation based on mass-spring-damper models for laparoscopic surgical planning. *J Med Imagin(Bellingham)*, 2(4): 44004, 2015.
- 019 *Toung T, Wolz R, Wang Z, Gao Q, Misawa K, Fujiwara M, Mori K, Hajnal JV, Rueckert D*: Discriminative dictionary learning for abdominal multi-organ segmentation. *Med Image Anal*,23(1):92-104,2015.
- 020 *Imaoka H, Mizuno N, Hara K, Hijioka S, Tajika M, Tanaka T, Ishihara M, Yogi I, Tsutsumi H, Fujiyoshi T, Sato T, Shimizu Y, Niwa Y, Yamao K*: Evaluation of Modified Glasgow Prognostic Score for Pancreatic Cancer: A Retrospective Cohort Study. *Pancreas*,45(2): 211-217,2016.
- 021 *Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Kawai R, Shimizu Y*: Necessary circumferential resection margins to prevent rectal cancer relapse after abdomino-peranal (intersphincteric) resection. *Langenbeck's Archives of Surgery*, 401(2):189-194,2016.
- 022 *Taniguchi H, Komori A, Narita Y, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Yatabe Y, Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Muro K*: A short interval between bevacizumab and anti-epithelial growth factor receptor therapy interferes with efficacy of subsequent anti-EGFR therapy for refractory colorectal cancer. *Jpn J Clin Oncol*, Mar; 46(3):228-233,2016.
- 023 谷口浩也, 成田有季哉, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 小森 梓, 上垣史緒理, 野村基雄, 新田壯平, 山口和久, 門脇重憲, 高張大亮, 宇良 敬, 安藤正志, 室 圭: 大腸癌術後補助化学療法アンケート調査-オキサリプラチンのリスクベネフィットバランスに関する考察-. 癌と化学療法,42(4): 457-461,2015.
- 024 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 伊藤誠二, 安部哲也, 千田嘉毅, 三澤一成, 伊藤友一, 植村則久, 夏目誠治, 川合亮佑, 川上次郎, 浅野智成, 岩田至紀, 倉橋真太郎, 筒山将之, 重吉 到, 清水泰博: Stage IV大腸癌の複数転移臓器切除の是非-当科の大腸癌複数転移臓器に対するストラテジー-. 外科,77(1):44-50,2015.
- 025 倉橋真太郎, 木下敬史, 小森康司, 木村賢哉, 清水泰博: 大腸癌を合併したfamilial adenomatous polyposisに対する腹腔鏡下結腸全摘. 手術,69(5):767-771,2015.
- 026 上野秀樹, 長谷和生, 橋口陽二郎, 島崎英幸, 吉井新二, 工藤進英, 田中正文, 赤木由人, 須藤 剛, 永田信二, 松田圭二, 小森康司, 吉松和彦, 冨田裕彦, 横山省三, 新藤英二, 中村好宏, 杉原健一: pT1癌の新しいリンパ節転移リスク因子-多施設病理レビュー Novel risk factors for lymph node metastasis in early invasive colorectal cancer: a multi-institution pathology review. *INTESTINE*, 19(2):203-205,2015.
- 027 岩田至紀, 夏目誠治, 千田嘉毅, 伊藤誠二, 小森康司, 安部哲也, 清水泰博: 通常型膵癌術後に発症した残膵癌の4切除例. *日本消化器外科学会雑誌*,49(2): 122-130,2016.
- 【症例報告】
- 001 *Komori K, Kimura K, Kinoshita T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Kawakami J, Iwata Y, Tsutsuyama M, Shigeyoshi I, Akazawa T, Hayashi D, Shimizu Y*: A delayed-onset rectourethral fistula after intersphincteric resection for very low rectal cancer: a case report and literature review. *Surgical Case Reports*, 1(1):70,2015.
- 002 *Tsutsuyama M, Ito S, Ito Y, Misawa K, Kawakami J, Natsume S, Uemura N, Kinoshita T, Kimura K, Senda Y, Abe T, Komori K, Yatabe Y, Niwa Y, Shimizu Y, Kinoshita T*: A Case of Gastric Cancer with Residual Tumor Only in the Para-Aortic Lymph Nodes after Systemic Chemotherapy followed by Conversion Surgery. *Case Rep Oncol*, 8(2):312-322,2015.
- 003 *Natsume S, Shimizu Y, Senda Y, Ito S, Komori K, Abe T, Yanagisawa A, Yamao K*: Long-term survival case of a recurrent colon cancer owing to successful resection of a tumor at hepaticojunostomy: report of a case. *Surgical Case Reports*, 1(1):26,2015.
- 004 *Komori K, Takahari D, Kimura K, Kinoshita T, Ito S, Abe T, Senda Y, Misawa K, Ito Y, Uemura N, Natsume S, Kawakami J, Iwata Y, Tsutsuyama M, Shigeyoshi I, Akazawa T, Hayashi D, Ouchi A, Shimizu Y*: Recovery from Choriocarcinoma Syndrome Associated with a Metastatic Extragonadal Germ Cell Tumor Hemorrhage. *Case Reports in Gastroenterology* 2016;10:193-198,2016.
- 005 筒山将之, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 清水泰博: 内視鏡的止血術困難な出血性胃潰瘍を伴った直腸癌穿通によるFournier 壊疽の1例. *日本消化器外科学会誌*,48(10): 862-868,2015.
- 006 佐野 力, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 木下 平, 二村雄次: 胆管ステント留置・左肝管十二指腸吻合術後43年後に発症した胆管癌の1例. *日臨外会誌*,76(10): 2524-2531,2015.
- 007 川上次郎, 安部哲也, 植村則久, 川合亮佑, 浅野智成, 佐藤洋造, 稲葉吉隆, 清水泰博, 篠田雅幸: リビオドールリンパ管造影および選択的胸膜癒着術が有効であった食道癌サルベージ術後難治性乳糜胸の1例. *日本消化器外科学会雑誌*,47(11): 659-667,2015.
- 【解説】
- 001 千田嘉毅, 夏目誠治, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 清水泰博: [肝がん治療戦略のUp to Date]大腸癌肝転移に対する化学療法後肝切除の現状. 癌の臨床,61(3): 219-228,2015.

- 002 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 水野伸匡, 原 和生, 脇岡 範, 今岡 大, 小森康司, 木村賢哉, 木下敬史, 山雄健次, 丹羽康正:【家族性大腸腺腫症の診療-up to date-】大腸全摘術後の回腸嚢に発生する腫瘍について. 日本大腸肛門病学会雑誌,68(10):900-907,2015.
- 003 小森康司: StageⅢ治癒切除大腸がんの術後補助化学療法としてS-1は推奨できず学会レポート | Medical Tribune 48(50):23,2015.
- 004 吉田 司, 脇岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田中 努, 石原 誠, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 平山貴視, 渋谷 仁, 近藤 尚, 鈴木博貴, 鳥山和浩, 藤田 曜, 徳久順也, 田近正洋, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次:【新たに定義された“肝門部領域胆管癌”の診断と治療】治療方針決定のための診断法 生検、細胞診による診断. 胆と膵,37(1):55-63,2016.
- 005 渋谷 仁, 原 和生, 水野伸匡, 脇岡 範, 今岡 大, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 吉田 司, 近藤 尚, 鈴木博貴, 徳久順也, 鳥山和浩, 平山貴視, 藤田 曜, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次:【十二指腸乳頭部病変に対する新たな治療戦略-新規約・新ガイドラインに基づいて】内視鏡的治療アプローチ 十二指腸乳頭部腫瘍に対する内視鏡的乳頭切除術の手技と留意点. 臨床外科, 71(1):30-34,2016.
- 006 伊藤誠二: State o the art 高度リンパ節転移を伴う胃癌の治療戦略. 胃がんperspective, 8(3):176-182,2016.

#### 【分担執筆】

- 001 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 與儀竜治, 堤英治, 佐藤高光, 藤吉俊尚, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 清水泰博, 千田嘉毅, 夏目誠治, 細田和貴, 谷田部恭, 丹羽康正, 山雄健次:【膵・消化管神経内分泌腫瘍(GEP-NET)のアップデート】GEP-NETの画像診断のコツと生検の意義(解説/特集). 臨床外科,70(4):397-406,2015.
- 002 脇岡 範, 原 和生, 水野伸匡, 今岡 大, 與儀竜治, 堤英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 吉田 司, 奥野のぞみ, 稗田信弘, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 千田嘉毅, 夏目誠治, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 丹羽康正, 山雄健次:【胆膵EUS-FNAのエビデンス2015-この5年間の進歩-】胆道疾患に対するEUS-FNA 2015(解説/特集). 胆と膵, 36(4):319-326,2015.
- 003 吉田 司, 肘岡 範, 水野伸匡, 原 和生, 今岡 大, 田近正洋, 田中 努, 石原 誠, 與儀竜治, 堤英治, 藤吉俊尚, 佐藤高光, 稗田信弘, 奥野のぞみ, 細田和貴, 谷田部恭, 清水泰博, 山雄健次:【膵内分泌腫瘍の診断・治療の新展開】膵内分泌腫瘍におけるEUS-FNAの役割と遺伝子変異診断(解説/特集). 胆と膵, 36(8):529-535,2015.
- 004 原 和生, 山雄健次, 清水泰博: 膵頭十二指腸切除(PD)において術前ドレナージに何を選擇するか～ERBDを選擇する立場から～. 膵・胆道癌FRONTIER, 5(2):18-21,2015.
- 005 三澤一成: 外来診療・栄養指導に役立つ胃切除後障害診療ハンドブック.「胃癌術後評価を考える」ワーキンググループ・胃外科術後障害研究会,2015.
- 006 小森康司:「日本オストミー協会愛知県支部(JOA)」創立50周年に寄せて—大腸外科医としての使命— 愛知のオストメイト活動 50周年記念16-17,2016.

#### 【座談会】

- 001 上坂克彦, 村上義昭, 清水泰博, 元井冬彦, 上野秀樹: 膵癌の外科治療 —過去・現在・未来—. 膵・胆道癌FRONTIER, 5(1):4-12,2015.

#### 整形外科部

- 001 Nakamura T, Matsumine A, Kawai A, Araki N, Goto T, Yonemoto T, Sugiura H, Nishida Y, Hiraga H, Honoki K, Yasuda T, Boku S, Sudo A, Ueda T: The clinical outcome of pazopanib treatment in Japanese patients with relapsed soft tissue sarcoma: A Japanese Musculoskeletal Oncology Group (JMOG) study. Cancer, 122:1408-1416,2016.
- 002 Kawai A, Araki N, Hiraga H, Sugiura H, Matsumine A, Ozaki T, Ueda T, Ishii T, Esaki T, Machida M, Fukasawa N: A randomized, double-blind, placebo-controlled, Phase III study of pazopanib in patients with soft tissue sarcoma: results from the Japanese subgroup. Jpn J Clin Oncol,46:248-253,2016.
- 003 Araki N, Takahashi S, Sugiura H, Ueda T, Yonemoto T, Takahashi M, Morioka H, Hiraga H, Hiruma T, Kunisada T, Matsumine A, Kawai A: Retrospective inter- and intra-patient evaluation of trabectedin after best supportive care for patients with advanced translocation-related sarcoma after failure of standard chemotherapy.Eur J Cancer,56:122-130,2016.
- 004 Imanishi J, Yazawa Y, Saito T, Shimizu M, Kawashima H, Ae K, Matsumine A, Torigoe T, Sugiura H, Joyama S: Atypical and malignant granular cell tumors in Japan: a Japanese Musculoskeletal Oncology Group (JMOG) study.Int J Clin Oncol, [Epub ahead of print],2016 .
- 005 Kohyama K, Yamada K, Sugiura H, Hyodo I, Ozawa T, Hasegawa Y, Kato H, Kamei Y: Salvage surgery and microsurgical reconstruction for recurrence of skull base osteosarcoma after carbon ion radiotherapy.Nagoya J Med Sci,77:667-673,2015.
- 006 Kawai A, Araki N, Sugiura H, Ueda T, Yonemoto T, Takahashi M, Morioka H, Hiraga H, Hiruma T, Kunisada T, Matsumine A, Tanase T, Hasegawa T, Takahashi S: Trabectedin monotherapy after standard chemotherapy versus best supportive care in patients with advanced, translocation-related sarcoma: a randomised, open-label, phase 2 study. Lancet Oncol, 16:406-416,2015.



- 007 長谷川弘晃, 杉浦英志, 吉田雅博 : 右大腿部に発生したグロムス腫瘍の1例. 中部日本整形外科学会雑誌, 58:555-556,2015.
- 008 中島浩敦, 吉田雅博, 山田健志 : 腰椎硬膜外腔に発生した骨外性Ewing肉腫/未熟神経外胚葉性腫瘍の1例. 整形・災害外科, 58:1093-1097,2015.

#### 泌尿器科部

- 001 *Soga N, Kageyama T, Ogura Y, Yamada T, Hayashi N* : Clinical effect of switching from a luteinizing hormone releasing hormone agonist to an antagonist in patients with castration-resistant prostate cancer and serum testosterone level  $\geq 20$  ng/dl. *Curr Urol*, 9:31-35,2015.
- 002 *Soga N, Yatabe Y, Kageyama T, Ogura Y, Hayashi N* : Review of bioptic Gleason scores by central pathologist modifies the risk classification in prostate cancer. *Urologia International*,95:452-456,2015.
- 003 *Tomita N, Oze I, Hidetoshi Shimizu H, Tachibana H, Kodaira T, Soga N, Ogura Y, Hayashi N* :International prostate symptom score (IPSS) change and changing factor in intensity-modulated radiotherapy combined with androgen deprivation therapy for prostate cancer. *Nagoya J Med Sci*,77:637-646,2015.
- 004 曾我倫久人 : ICGによる近赤外蛍光補助下腎部分切除術時の、腫瘍組織と正常組織の腫瘍組織と正常組織の定量化蛍光度比較. *Audio-Visual Journal of JUA*,21,No.3,2015.
- 005 曾我倫久人, 小倉友二, 林 宣男 : ICG近赤外線蛍光補助下のミニマム創内視鏡下腎部分切除術における、腫瘍組織と正常組織の蛍光定量化比較. *日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会雑誌*, 7 :71-76,2015.

#### 婦人科部

- 001 *Mizuno M, Hiura M, Kikkawa F, Numa F, Yaegashi N, Narahara H, Aoki D, Kimura E, Kato H, Shimokawa M, Sugiyama T, Kamura T* : A prospective observational study on chemotherapy-induced nausea and vomiting (CINV) in patients with gynecologic cancer by the CINV Study Group of Japan.*Gynecol Oncol*, 140:559-564,2015.
- 002 *Itoh Y, Mizuno M, Ikeda M, Nakahara R, Kubota S, Ito J, Okada T, Kawamura M, Kikkawa F, Naganawa S* : A Randomized, Double-Blind Pilot Trial of Hydrolyzed Rice Bran versus Placebo for Radioprotective Effect on Acute Gastroenteritis Secondary to Chemoradiotherapy in Patients with Cervical Cancer.*Evid Based Complement Alternat Med*,974390,2015.
- 003 *Adachi M, Mizuno M, Mitsui H, Kajiyama H, Suzuki S, Sekiya R, Utsumi F, Shibata K, Taniguchi T,*

*Kawaguchi K, Yokoi K, Kikkawa F* : The prognostic impact of pulmonary metastasectomy in recurrent gynecologic cancers: a retrospective single-institution study.*Nagoya J Med Sci*, 77:363-372,2015.

- 004 *Mizuno M, Kajiyama H, Shibata K, Mizuno K, Kawai M, Nagasaka T, et al* : Prognostic value of histological type in stage IV ovarian carcinoma: a retrospective analysis of 223 patients.*Br J Cancer*,112:1376-1383,2015.
- 005 *Utsumi F, Kajiyama H, Sakata J, Higashi M, Niimi K, Sekiya R, Mitsui H, Suzuki S, Umezumi T, Mizuno M, Yamamoto E, Shibata K, Kikkawa F* : Opioid needs of terminally ill patients with gynecologic malignancies.*Int J Clin Oncol*, 20:405-410,2015.
- 006 *Iwase A, Nakamura T, Kato N, Goto M, Takikawa S, Kondo M, Osuka S, Mori M, Kikkawa F* : Anti-Müllerian hormone levels after laparoscopic cystectomy for endometriomas as a possible predictor for pregnancy in infertility treatments.*Gynecol Endocrinol*, 32:293-297, 2015.
- 007 *Mori M, Ito F, Shi L, Wang Y, Ishida C, Hattori Y, Niwa M, Hirayama T, Nagasawa H, Iwase A, Kikkawa F, Toyokuni S* : Ovarian endometriosis-associated stromal cells reveal persistently high affinity for iron.*Redox Biol*, 6 :578-586,2015.
- 008 *Kato T, Takashima A, Kasamatsu T, Nakamura K, Mizusawa J, Nakanishi T, Takeshima N, Kamiura S, Onda T, Sumi T, Takano M, Nakai H, Saito T, Fujiwara K, Yokoyama M, Itamochi H, Takehara K, Yokota H, Mizunoe T, Takeda S, Sonoda K, Shiozawa T, Kawabata T, Honma S, Fukuda H, Yaegashi N, Yoshikawa H, Konishi I, Kamura T, Gynecologic Oncology Study Group of the Japan Clinical Oncology Group* : Clinical tumor diameter and prognosis of patients with FIGO stage IB1 cervical cancer (JCOG0806-A). *Gynecol Oncol*, 137( 1 ):34-39,2015.
- 009 *Nakanishi T, Aoki D, Watanabe Y, Ando Y, Tomotsugu N, Sato Y, Saito T* : A Phase II clinical trial of pegylated liposomal doxorubicin and carboplatin in Japanese patients with platinum-sensitive recurrent ovarian, fallopian tube or primary peritoneal cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 45( 5 ):422-426,2015.
- 010 *Nagasaka T, Murakami Y, Sasaki E, Hosoda W, Nakanishi T, Yatabe Y* : Minute perivascular epithelioid cell (PEC) nests in the abdominal lymph nodes—a putative precursor of PEComa. *Pathol Int*, 65( 4 ):193-196,2015.
- 011 *Kitagawa R, Katsumata N, Shibata T, Kamura T, Kasamatsu T, Nakanishi T, Nishimura S, Ushijima K, Takano M, Satoh T, Yoshikawa H* : Paclitaxel Plus Carboplatin Versus Paclitaxel Plus Cisplatin in Metastatic or Recurrent Cervical Cancer: The Open-Label Randomized Phase III Trial JCOG0505. *J Clin Oncol*, 1 ;33(19):2129-2135, 2015.

- 012 Yokoyama Y, Ito K, Takamatsu K, Takehara K, Nakanishi T, Harano K, Watari H, Susumu N, Aoki D, Saito T; Disease Committee of Uterine Cancer, Japanese Gynecologic Oncology Group : How do Japanese gynecologists view hormone replacement therapy for survivors of endometrial cancer? Japanese Gynecologic Oncology Group (JGOG) survey. *Int J Clin Oncol*, 20(5): 997-1004,2015.
- 013 Harano K, Hirakawa A, Yunokawa M, Nakamura T, Satoh T, Nishikawa T, Aoki D, Ito K, Ito K, Nakanishi T, Susumu N, Takehara K, Watanabe Y, Watari H, Saito T : Prognostic factors in patients with uterine carcinosarcoma: a multi-institutional retrospective study from the Japanese Gynecologic Oncology Group. *Int J Clin Oncol*,(1):168-176,2015.
- 014 French JD, Johnatty SE, Lu Y, Beesley J, Gao B, Kalimutho M, Henderson MJ, Russell AJ, Kar S, Chen X, Hillman KM, Kaufmann S, Sivakumaran H, O'Reilly M, Wang C, Korbie DJ; Australian Ovarian Cancer Study Group; Australian Ovarian Cancer Study, Lambrechts D, Despiere E, Van Nieuwenhuysen E, Lambrechts S, Vergote I, Karlan B, Lester J, Orsulic S, Walsh C, Fasching PA, Beckmann MW, Ekici AB, Hein A, Matsuo K, Hosono S, Pisterer J, Hillemanns P, Nakanishi T, Yatabe Y, Goodman MT, Lurie G, Matsuno RK, Thompson PJ, Pejovic T, Bean Y, Heitz F, Harter P, du Bois A, Schwaab I, Hogdall E, Kjaer SK, Jensen A, Hogdall C, Lundvall L, Engelholm SA, Brown B, Flanagan JM, Metcalf MD, Siddiqui N, Sellers T, Fridley B, Cunningham J, Schildkraut JM, Iversen E, Weber RP, Brennan D, Berchuck A, Pharoah P, Harnett P, Norris MD, Haber M, Goode EL, Lee JS, Khanna KK, Meyer KB, Chenevix-Trench G, deFazio A, Edwards SL, MacGregor S; Ovarian Cancer Association Consortium : Germline polymorphisms in an enhancer of PSIP1 are associated with progression-free survival in epithelial ovarian cancer. *Oncotarget*, 9;7(6):6353-6368,2016.
- 015 Onda T, Satoh T, Saito T, Kasamatsu T, Nakanishi T, Nakamura K, Wakabayashi M, Takehara K, Saito M, Ushijima K, Kobayashi H, Kawana K, Yokota H, Takano M, Takeshima N, Watanabe Y, Yaegashi N, Konishi I, Kamura T, Yoshikawa H; Japan Clinical Oncology Group. : Comparison of treatment invasiveness between upfront debulking surgery versus interval debulking surgery following neoadjuvant chemotherapy for stage III/IV ovarian, tubal, and peritoneal cancers in a phase III randomised trial: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG0602. *Eur J Cancer*, 64:22-31,2016.
- 016 Permuth JB, Pirie A, Ann Chen Y, Lin HY, Reid BM, Chen Z, Monteiro A, Dennis J, Mendoza-Fandino G; AOCs Study Group; Australian Cancer Study (Ovarian Cancer), Anton-Culver H, Bandera EV, Bisogna M, Brinton L, Brooks-Wilson A, Carney ME, Chenevix-Trench G, Cook LS, Cramer DW, Cunningham JM, Cybulski C, D'Aloisio AA, Anne Doherty J, Earp M, Edwards RP, Fridley BL, Gayther SA, Gentry-Maharaj A, Goodman MT, Gronwald J, Hogdall E, Iversen ES, Jakubowska A, Jensen A, Karlan BY, Kelemen LE, Kjaer SK, Kraft P, Le ND, Levine DA, Lissowska J, Lubinski J, Matsuo K, Menon U, Modugno R, Moysich KB, Nakanishi T, Ness RB, Olson S, Orlow I, Pearce CL, Pejovic T, Poole EM, Ramus SJ, Anne Rossing M, Sandler DP, Shu XO, Song H, Taylor JA, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Tworoger SS, Webb PM, Wentzensen N, Wilkens LR, Winham S, Woo YL, Wu AH, Yang H, Zheng W, Ziogas A, Phelan CM, Schildkraut JM, Berchuck A, Goode EL, Dp Pharoah P, Sellers TA; Ovarian Cancer Association Consortium : Exome genotyping arrays to identify rare and low frequency variants associated with epithelial ovarian cancer risk. *Hum Mol Genet*, pii: ddx196.[Epub ahead of print],2016.
- 017 水野美香, 吉川史隆 : 子宮頸がんの治療. 現代化学増刊 455-アミノレブリン酸の科学と医学応用-がんの診断・治療を中心に-, 59-63,2015.

放射線診断・IVR部

- 001 Inaba Y, Yamaura H, Sato Y, Kato M, Kawada H, Murata S, Hasegawa T, Arai Y : Side-hole catheter placement with fixation and embolization in common hepatic artery for hepatic arterial infusion chemotherapy(modified CHA-coil method)for patients with celiac artery stenosis or occlusion. *Cardiovasc Intervent Radiol*, 38(6):1621-1626,2015.
- 002 Murakami H, Ikeda M, Okusaka T, Inaba Y, Iguchi H, Yagawa K, Yamamoto N : A Phase I study of MEDI-575,a PDGFR  $\alpha$  monoclonal antibody, in Japanese patients with advanced solid tumors. *Cancer Chemother Pharmacol*, 76(3):631-639,2015.
- 003 Kurahashi S, Sano T, Natsume S, Senda Y, Yamaura H, Inaba Y, Shimizu Y : Surgical treatment after hepatic arterial infusion chemotherapy for hepatocellular carcinoma extending into the right atrium. *Surg Case Rep*,1(1):47,2015.
- 004 Sato Y, Matsushima S, Inaba Y, Sano T, Yamaura H, Kato M, Shimizu Y, Senda Y, Ishiguchi T : Preoperative estimation of future remnant liver function following portal vein embolization using relative enhancement on Gd-EOB-DTPA-enhanced magnetic resonance imaging. *Korean J Radiol*, 16(3):523-530,2015.
- 005 加藤弥菜 : ソラフェニブで肝機能障害をきたしている症

例. あらゆる症例に対応できる！消化器がん化学療法. 羊土社,319-320,2015.

- 006 加藤弥菜：ソラフェニブで下痢をきたしている症例. あらゆる症例に対応できる！消化器がん化学療法. 羊土社,321-322,2015.
- 007 加藤弥菜：原発性肝がん. 新臨床腫瘍学 がん薬物療法専門医のために 改訂第4版. 南江堂, 404-410, 2015.
- 008 佐藤洋造：私がIVRを志したわけCan't Stop Loving IVR IVRのおかげで今がある. IVR BOOK 2015 Rad Fan Vol.13 No.12-10月臨時増刊号, メディカルアイ, 65-67, 2015.
- 009 加藤弥菜：分子標的治療薬を含む標準的治療 肝・胆・膵がん, 泌尿器がん(前立腺がん・腎がん・膀胱がん). インフォームドコンセントのための図説シリーズ 抗悪性腫瘍薬 分子標的治療薬 改訂版, 医薬ジャーナル社, 162-167,2015.

#### 放射線治療部

学会誌への発表

- 001 *Kodaira T, Nishimura Y, Kagami Y, Ito Y, Shikama N, Ishikura S, Hiraoka M* : Definitive radiotherapy for head and neck squamous cell carcinoma update and perspectives on the basis of EBM. *Jpn J Clin Oncol*, 45(3)235-43,2015.
- 002 *Fuwa N, Kodaira T, Daimon T, Yoshizaki T* : The long-term outcomes of alternating chemoradiotherapy for locoregionally advanced nasopharyngeal carcinoma a multiinstitutional phase II study. *Cancer Medicine*, 4(8)1186-95,2015.
- 003 *Kimura K, Tomita N, Shimizu A, Sato Y, Makita C, Kodaira T* : A case of severe hemoptysis after stereotactic body radiotherapy for peripherally located stage I non-small cell lung cancer. *Jpn J Radiol*, 33(6)370-4,2015.
- 004 *Kondoh C, Shitara K, Nomura M, Takahari D, Ura T, Tachibana H, Tomita N, Kodaira T, Muro K* : Efficacy of palliative radiotherapy for gastric bleeding in patients with unresectable advanced gastric cancer. a retrospective cohort study *BMC palliative care* 2015 Aug 4 14:37. doi. 10.1186/s12904-015-0034-y,2015.
- 005 *Tomita N, Oze I, Shimizu H, Yoshida M, Kimura K, Takehana K, Shimizu A, Makita C, Tachibana H, Kodaira T, Soga N, Ogura Y, Hayashi N* : Internatinal prostate symptom score (IPSS) change and changing factor in intensity-modulated radiotherapy combined with androgen deprivation therapy for prostate cancer. *Nagoya J Med Sci*, 77(4)637-46, 2015.
- 006 *Yokota T, Tachibana H, Konishi T, Yurikusa T, Hamauchi S, Sakai K, Nishikawa M, Suzuki M, Naganawa Y, Hagihara T, Tsumaki H, Kubo T,*

*Sato M, Taguri M, Morita S, Eguchi T, Kubota K, Zenda S* : Multicenter phase II study of an oral care program for patients with head and neck cancer receiving chemoradiotherapy. *Support Care Cancer*, 24(7)3029-36, 2016.

- 007 *Zenda S, Ota Y, Tachibana H, Ogawa H, Ishii S, Hashiguchi C, Akimoto T, Ohe Y, Uchitomi Y* : A prospective picture collection study for a grading atlas of radiation dermatitis for clinical trials in head-and-neck cancer patients. *J Radiat Res. Pii* : rrv092, 2016.
- 008 *Takada A, Nakamura T, Takayama K, Makita C, Suzuki M, Azami Y* : et al. Preliminary treatment results of proton beam therapy with chemoradiotherapy for stage I-III esophageal cancer. *Cancer medicine*2016, 5(3)506-15, 2016.
- 009 *Takayama K, Nakamura T, Takada A, Makita C, Suzuki M, Azami Y* : et al. Treatment results of alternating chemoradiotherapy followed by proton beam therapy boost combined with intra-arterial infusion chemotherapy for stage III-IVB tongue cancer. *Journal of cancer research and clinical oncology*, 142(3)659-67, 2016.
- 010 古平 毅, 立花弘之, 富田夏夫, 牧田智譽子, 竹花恵一, 清水亜里紗, 木村香葉, 吉田舞子：特集 新しい観点からの喉頭癌診療 喉頭癌治療における要点と注意点 放射線治療の場合. *JOHNS*, 31(4)427-431, 2015.
- 011 古平 毅：機能温存の適応と放射線療法 / 薬物療法 薬物療法を併用した放射線治療. *頭頸部Frontier*, 3(1)23-26, 2015.

その他誌上への発表

- 001 *Kodaira T* : Intensity Modulated Radiotherapy Springer Editor Nishimura Y Komaki R Clinical Evidence and techniques. Part II Clinical application 9 Oropharyngeal cancer171-192, 2015.
- 002 古平 毅：EBM耳鼻咽喉科・頭頸部外科の治療2015-2016. V. 頭頸部腫瘍領域 A.治療総論 5.IMRTのエビデンスは? 532-535, 2015.

緩和ケア部

- 001 *Baba M, Maeda I, Morita T, Hisanaga T, Ishihara T, Iwashita T, Kaneishi K, Kawagoe S, Kuriyama T, Maeda T, Mori I, Nakajima N, Nishi T, Sakurai H, Shimoyama S, Shinjo T, Shirayama H, Yamada T, Ono S, Ozawa T, Yamamoto R, Tsuneto S* : Independent Validation of the Modified Prognosis Palliative Care Study (PiPS) Predictor Models in Three Palliative Care Settings. *J Pain Symptom Manage*, 49(5): 853-60,2015.
- 002 *Amano K, Maeda I, Shimoyama S, Shinjo T, Shirayama H, Yamada T, Ono S, Yamamoto R,*



Yamamoto N, Shishido H, Shimizu M, Kawahara M, Aoki S, Demizu A, Goshima M, Goto K, Gyoda Y, Hashimoto K, Otomo S, Sekimoto M, Shibata T, Sugimoto Y, Morita T: The Accuracy of Physicians' Clinical Predictions of Survival in Patients with Advanced Cancer. J Pain Symptom Manage,50(2): 139-46,2015.

- 003 小森康永: 海外文献紹介 Ungar, M. I still love you. 精神療法,41(2)145-146,2015.
- 004 小森康永: 痛みのバイオサイコソーシャルとトータルペイン. 家族療法研究,32(1):43-48,2015.
- 005 小森康永: どうして治療者を治療と区別できようか?—ドン・ジャクソン、あるいは「今、ここで」とマリタル・キド・プロ・クオ精神療法, 41(4):679-685,2015.
- 006 W.レイ(小森康永, 山田勝訳): 家族相互作用: ドン・D・ジャクソン論文集. 金剛出版, 2015.
- 007 小森康永: ナラティブ・メディスン入門. 遠見書房, 2015.
- 008 小森康永編, 愛知県がんセンター中央病院緩和ケアセンター著: はじめよう!がんの家族教室. 日本評論社, 2015.
- 009 T.マリネンほか編(小森康永, 奥野 光, 矢原隆行訳): 会話・協働・ナラティブ: アンデルセン、アンダーソン、ホワイトの共同ワークショップ. 金剛出版,2015.
- 010 下山理史: メサドンが効果的な痛みはどんな痛みか? . プロフェッショナルがんナーシング, 5:62-64,2015.
- 011 下山理史: 外科医だからこそできる緩和ケア—外科医が持つべき緩和医療の視点. 臨床外科,70:1441-1447,2015.
- 012 下山理史: 臨床倫理. ペインクリニック, 36:619-626,2015.
- 013 下山理史: 一般市民に対する緩和ケアの普及啓発. ペインクリニック, 36:662-668,2015.
- 014 下山理史: ペインリーグ開幕. プロフェッショナルがんナーシング, 6:10-16,2016.

## 看護部

- 001 青山寿昭: 高齢者の摂食嚥下障害に気を付けよう. 整形外科看護, メディカ出版, p80-82,2015.
- 002 青山寿昭: 高齢者の摂食嚥下障害患者との関わり. Geriatric Medicineライブ・サイエンス, p31-34,2016.
- 003 向井未年子: がんの人の生活をどう支え、社会資源をどう利用するか? , はじめよう!がんの家族教室. 日本評論社, p43-58, 2015.
- 004 新田都子: ホスピス・緩和ケアについてなにを知っておくべきか、はじめよう!がんの家族教室. 日本評論社, p74-85, 2015.
- 005 中島貴子: 放射線療法、化学放射線療法を受ける患者のケアのポイント—皮膚炎のリスクアセスメントとケア、多職種チームで実践する—頭頸部がんの化学放射線療法—. 日本看護協会出版社, P.162-167,2015.
- 006 久保 知: 臨床で日常よく遭遇する疑問に専門・認定看護師が回答「照射野に軟膏やガーゼが使用してありますが、治療時はどう対応すればよいのでしょうか?」. Oncology NURSE11.12月号, 日総研出版, P88-90,2015.

- 007 山田健司: 皆でつなぐ男性オペネース数珠つなぎメッセージ. オペネーシング第30巻12号, メディカ出版, P.91,2015.
- 008 柴田亜弥子, 井上さよ子, 深谷恭子: がんを子どもにいかくに伝えるか、はじめよう!がんの家族教室. 日本評論社, P.59-73,2015.
- 009 武田裕子, 今井芳枝, 大内美穂子, 柴田亜弥子: JJCCレクチャー—遺伝がん看護 正しい知識を持ってケアにあたろう— 遺伝性のがんとケア 家族性大腸腺腫症. がん看護, 南江堂, P661-665,2015.
- 010 中島貴子: 皮膚炎のリスクアセスメントとケア、カラーアトラス 目で見て学ぶ頭頸部がん 多職種チームで実践する放射線化学療法の有害反応と支持療法. 日本看護協会出版会, p162-167,2015.
- 011 山口真由美: 「病期別・治療別 肝炎・肝硬変・肝がんの患者へのケア」肝切除術を受ける患者の看護. 消化器最新看護, 日総研出版, p17-24,2015.
- 012 伊藤広高, 山口真由美, 八重樫裕: モノで変わった看護ケア「術後疼痛管理におけるディスプレイP C A」. エキスパートナース, 照林社, p56-57,2015.
- 013 山田周平, 山口真由美, 八重樫裕: モノで変わった看護ケア「ティッシュオキシメーター(組織酸素飽和度測定器)」。エキスパートナース, 照林社, p58-59,2015.
- 014 渡邊 梓, 山口真由美, 八重樫裕: モノで変わった看護ケア「術前経口補水療法のためのO R T製剤」. エキスパートナース, 照林社, p60-61,2015.
- 015 山口真由美: モノで変わった看護ケア「開放型酸素投与システム」. エキスパートナース, 照林社, p62-63, 2015.
- 016 新貝夫弥子: 鎮静(セデーション)を導入するタイミングと患者・家族対応. Oncology Nurse2015, 日総研, p 63-71,2015.
- 017 新貝夫弥子: 倦怠感への対応、がん患者の看取りのケア改訂版. 日本看護協会出版社, p 122-127,2015.
- 018 新貝夫弥子: 書評 新城拓也著、患者から「早く死なせてほしい」と言われたらどうしますか? . 金原出版, がん看護20(7), 南江堂, p 721,2015.
- 019 宮原久枝: スピリチュアルな痛みに寄り添って. あいちホスピス研究会会報「ほすびすNewsletter90号」, p24-27,2015.

## 薬剤部

- 001 Maeda A, Ura T, Asano C, Haegawa I, Nomura M, Komori A, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Horio Y, Yoshida T, Oze I, Kajita M, Mizutani A. : A phase II trial of prophylactic olanzapine combined with palonosetron and dexamethasone for preventing nausea and vomiting induced by cisplatin. Asia Pac J Clin Oncol. [Epub ahead of print]
- 002 前田章光, 高橋新次, 栗原幸司, 梶田正樹, 水谷旭良: シクロホスファミド調製時におけるシリンジブランジャー汚染の検証. 医療薬学, 41(10):701-704,2015.
- 003 立松三千子 他: 第20章 IIIがん終末期の病態と緩和ケア. 疾

患薬理学: 805-818,2016.

- 004 立松三千子 他：さあはじめよう！がん患者サポート 医看薬薬連携でつなぐサポーターケアの輪 調剤と情報3月臨時増刊号,Vol.22 No. 4 :2016.
- 005 橋本直弥, 長谷川彩子：HER 2 陽性進行再発乳がん実践から学ぶ カドサイラ投与のコツ. 中外製薬適正使用パンフレット:5-7,2015.
- 006 橋本直弥：大腸がん化学療法のパフォーマンス管理を目指して. 大腸がんRespective, 2:68-74,2015.

## 6. 学会誌・その他誌上発表テーマ調べ (研究所)

疫学・予防部

- 001 *Chihara D, Ito H, Matsuo K* : Comparison of the incidence and trends of hematologic malignancies between Japan and the United States. *Rinsho Ketsueki*, 56(4): 366-74, 2015.
- 002 *Darabi H, McCue K, Beesley J, Michailidou K, Nord S, Kar S, Humphreys K, Thompson D, Ghousaini M, Bolla MK, Dennis J, Wang Q, Canisius S, Scott CG, Apicella C, Hopper JL, Southey MC, Stone J, Broeks A, Schmidt MK, Scott RJ, Lophatananon A, Muir K, Beckmann MW, Ekici AB, Fasching PA, Heusinger K, Dos-Santos-Silva I, Peto J, Tomlinson I, Sawyer EJ, Burwinkel B, Marme F, Guénel P, Truong T, Bojesen SE, Flyger H, Benitez J, González-Neira A, Anton-Culver H, Neuhausen SL, Arndt V, Brenner H, Engel C, Meindl A, Schmutzler RK; German Consortium of Hereditary Breast and Ovarian Cancer, Arnold N, Brauch H, Hamann U, Chang-Claude J, Khan S, Nevanlinna H, Ito H, Matsuo K, Bogdanova NV, Dörk T, Lindblom A, Margolin S; kConFab/AOCS Investigators, Kosma VM, Mannermaa A, Tseng CC, Wu AH, Floris G, Lambrechts D, Rudolph A, Peterlongo P, Radice P, Couch FJ, Vachon C, Giles GG, McLean C, Milne RL, Dugué PA, Haiman CA, Maskarinec G, Woolcott C, Henderson BE, Goldberg MS, Simard J, Teo SH, Mariapun S, Helland Å, Haakensen V, Zheng W, Beeghly-Fadiel A, Tamimi R, Jukkola-Vuorinen A, Winqvist R, Andrulis IL, Knight JA, Devilee P, Tollenaar RA, Figueroa J, Garcia-Closas M, Czene K, Hooning MJ, Tilanus-Linthorst M, Li J, Gao YT, Shu XO, Cox A, Cross SS, Luben R, Khaw KT, Choi JY, Kang D, Hartman M, Lim WY, Kabisch M, Torres D, Jakubowska A, Lubinski J, McKay J, Sangrajrang S, Toland AE, Yannoukakos D, Shen CY, Yu JC, Ziogas A, Schoemaker MJ, Swerdlow A, Borresen-Dale AL, Kristensen V, French JD, Edwards SL, Dunning AM, Easton DF, Hall P, Chenevix-Trench G* : Polymorphisms in a Putative Enhancer at the 10q21.2 Breast Cancer Risk Locus Regulate NRBF2 Expression. *Am J Hum Genet*, 97(1): 22-34, 2015.
- 003 *Fukumoto K, Ito H, Matsuo K, Tanaka H, Yokoi K, Tajima K, Takezaki T* : Cigarette smoke inhalation and risk of lung cancer: a case-control study in a large Japanese population. *Eur J Cancer Prev*, 24(3): 195-200, 2015.
- 004 *Ichihara E, Hotta K, Nogami N, Kuyama S, Kishino D, Fujii M, Kozuki T, Tabata M, Harada D, Chikamori K, Aoe K, Ueoka H, Hosokawa S, Bessho A, Hisamoto-Sato A, Kubo T, Oze I, Takigawa N, Tanimoto M, Kiura K* : Phase II trial of gefitinib in combination with bevacizumab as first-line therapy for advanced non-small cell lung cancer with activating EGFR gene mutations: the Okayama Lung Cancer Study Group Trial 1001. *Journal of thoracic oncology : official publication of the International Association for the Study of Lung Cancer*, 10(3): 486-91, 2015.
- 005 *Ito H, Matsuo K* : Molecular epidemiology, and possible real-world applications in breast cancer. *Breast Cancer*, 23(1): 33-8, 2015.
- 006 *Kar SP, Tyrer JP, Li Q, Lawrenson K, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Chenevix-Trench G; Australian Cancer Study; Australian Ovarian Cancer Study Group, Baker H, Bandera EV, Bean YT, Beckmann MW, Berchuck A, Bisogna M, Bjørge L, Bogdanova N, Brinton L, Brooks-Wilson A, Butzow R, Campbell I, Carty K, Chang-Claude J, Chen YA, Chen Z, Cook LS, Cramer D, Cunningham JM, Cybulski C, Dansonka-Mieszkowska A, Dennis J, Dicks E, Doherty JA, Dörk T, du Bois A, Dürst M, Eccles D, Easton DF, Edwards RP, Ekici AB, Fasching PA, Fridley BL, Gao YT, Gentry-Maharaj A, Giles GG, Glasspool R, Goode EL, Goodman MT, Grownwald J, Harrington P, Harter P, Hein A, Heitz F, Hildebrandt MA, Hillemanns P, Hogdall E, Hogdall CK, Hosono S, Iversen ES, Jakubowska A, Paul J, Jensen A, Ji BT, Karlan BY, Kjaer SK, Kelemen LE, Kellar M, Kelley J, Kiemeny LA, Krakstad C, Kupryjanczyk J, Lambrechts D, Lambrechts S, Le ND, Lee AW, Lele S, Leminen A, Lester J, Levine DA, Liang D, Lissowska J, Lu K, Lubinski J, Lundvall L, Massuger L, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, McNeish IA, Menon U, Modugno F, Moysich KB, Narod SA, Nedergaard L, Ness RB, Nevanlinna H, Odunsi K, Olson SH, Orlow I, Orsulic S, Weber RP, Pearce CL, Pejovic T, Pelttari LM, Permut-Wey J, Phelan CM, Pike MC, Poole EM, Ramus SJ, Risch HA, Rosen B, Rossing MA, Rothstein JH, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schildkraut JM, Schwaab I, Shu XO, Shvetsov YB, Siddiqui N, Sieh W, Song H, Southey MC, Sucheston-Campbell LE, Tangen IL, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Timorek A, Tsai YY, Tworoger SS, van Altena AM, Van Nieuwenhuysen E, Vergote I, Vierkant RA, Wang-Gohrke S, Walsh C, Wentzensen N, Whitemore AS, Wicklund KG, Wilkens LR, Woo YL, Wu X, Wu A,*



- Yang H, Zheng W, Ziogas A, Sellers TA, Monteiro AN, Freedman ML, Gayther SA, Pharoah PD* : Network-based integration of GWAS and gene expression identifies a HOX-centric network associated with serous ovarian cancer risk. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 24(10): 1574-84, 2015.
- 007 *Kudo K, Hotta K, Ichihara E, Yoshioka H, Kunimasa K, Tsubouchi K, Iwasaku M, Kato Y, Oze I, Takigawa N, Tanimoto M, Kiura K* : Impact of body surface area on survival in EGFR-mutant non-small cell lung cancer patients treated with gefitinib monotherapy: observational study of the Okayama Lung Cancer Study Group 0703. *Cancer Chemother Pharmacol*, 76(2): 251-6, 2015.
- 008 *Nagle CM, Dixon SC, Jensen A, Kjaer SK, Modugno F, deFazio A, Fereday S, Hung J, Johnatty SE; Australian Ovarian Cancer Study Group, Fasching PA, Beckmann MW, Lambrechts D, Vergote I, Van Nieuwenhuysen E, Lambrechts S, Risch HA, Rossing MA, Doherty JA, Wicklund KG, Chang-Claude J, Goodman MT, Ness RB, Moysich K, Heitz F, du Bois A, Harter P, Schwaab I, Matsuo K, Hosono S, Goode EL, Vierkant RA, Larson MC, Fridley BL, Hogdall C, Schildkraut JM, Weber RP, Cramer DW, Terry KL, Bandera EV, Paddock L, Rodriguez-Rodriguez L, Wentzensen N, Yang HP, Brinton LA, Lissowska J, Hogdall E, Lundvall L, Whittemore A, McGuire V, Sieh W, Rothstein J, Sutphen R, Anton-Culver H, Ziogas A, Pearce CL, Wu AH, Webb PM; Ovarian Cancer Association Consortium* : Obesity and survival among women with ovarian cancer: results from the Ovarian Cancer Association Consortium. *Br J Cancer*, 113(5): 817-26, 2015.
- 009 *Nomura M1, Oze I, Abe T, Komori A, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Kawai R, Uemura N, Ishihara M, Tanaka T, Tajika M, Niwa Y, Muro K, Muto M* : Impact of docetaxel in addition to cisplatin and fluorouracil as neoadjuvant treatment for resectable stage III or T3 esophageal cancer: a propensity score-matched analysis. *Cancer Chemother Pharmacol*, 76(2): 357-63, 2015.
- 010 *Fowke JH, McLerran DF, Gupta PC, He J, Shu XO, Ramadas K, Tsugane S, Inoue M, Tamakoshi A, Koh WP, Nishino Y, Tsuji I, Ozasa K, Yuan JM, Tanaka H, Ahn YO, Chen CJ, Sugawara Y, Yoo KY, Ahsan H, Pan WH, Pednekar M, Gu D, Xiang YB, Sauvaget C, Sawada N, Wang R, Kakizaki M, Tomata Y, Ohishi W, Butler LM, Oze I, Kim DH, You SL, Park SK, Parvez F, Chuang SY, Chen Y, Lee JE, Grant E, Rolland B, Thornquist M, Feng Z, Zheng W, Boffetta P, Sinha R, Kang D, Potter JD* : Associations of Body Mass Index, Smoking, and Alcohol Consumption With Prostate Cancer Mortality in the Asia Cohort Consortium. *Am J Epidemiol*, 182(5): 381-9, 2015.
- 011 *Kadowaki S, Komori A, Takahari D, Ura T, Ito S, Tajika M, Niwa Y, Oze I, Muro K* : Clinical Characteristics Associated with Long-term Survival in Metastatic Gastric Cancer after Systemic Chemotherapy. *Asian Pac J Cancer Prev*, 16(13): 5433-8, 2015.
- 012 *Koyama T, Matsui D, Kuriyama N, Ozaki E, Tanaka K, Oze I, Hamajima N, Wakai K, Okada R, Arisawa K, Mikami H, Shimatani K, Hirata A, Takashima N, Suzuki S, Nagata C, Kubo M, Tanaka H* : Genetic variants of SLC17A1 are associated with cholesterol homeostasis and hyperhomocysteinaemia in Japanese men. *Sci Rep*, 5: 15888, 2015.
- 013 *Uemura H, Katsuura-Kamano S, Yamaguchi M, Arisawa K, Hamajima N, Hishida A, Kawai S, Oze I, Shinchi K, Takashima N, Suzuki S, Nakahata N, Mikami H, Ohnaka K, Kuriyama N, Kubo M, Tanaka H; Japan Multi-institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study Group* : A variant of the CLOCK gene and related haplotypes are associated with the prevalence of type 2 diabetes in the Japanese population. *J Diabetes*, 2015.
- 014 *Watanabe M, Ito H, Hosono S, Oze I, Ashida C, Tajika M, Katoh H, Matsuo K, Tanaka H* : Declining trends in prevalence of *Helicobacter pylori* infection by birth-year in a Japanese population. *Cancer Sci*, 106(12): 1738-43, 2015.
- 015 *Yamaguchi M, Uemura H, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Hamajima N, Hishida A, Suma S, Oze I, Nakamura K, Takashima N, Suzuki S, Ibusuki R, Mikami H, Ohnaka K, Kuriyama N, Kubo M, Tanaka H; Japan Multi-institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study Group* : Association between brain-muscle-ARNT-like protein-2 (BMAL2) gene polymorphism and type 2 diabetes mellitus in obese Japanese individuals: A cross-sectional analysis of the Japan Multi-institutional Collaborative Cohort Study. *Diabetes Res Clin Pract*, 110(3): 301-8, 2015.
- 016 *Higashibata T, Nakagawa H, Okada R, Wakai K, Hamajima N* : Trends in smoking rates among urban civil servants in Japan according to occupational categories. *Nagoya J Med Sci*, 77(3): 417-23, 2015.
- 017 *Suma S, Naito M, Wakai K, Sasakabe T, Hattori Y, Okada R, Kawai S, Hishida A, Morita E, Nakagawa H, Tamura T, Hamajima N* : Effects of IL6 C-634G polymorphism on tooth loss and their interaction with smoking habits. *Oral Dis*, 21(6): 807-13, 2015.
- 018 *Tamura T, Morita E, Kawai S, Sasakabe T, Sugimoto Y, Fukuda N, Suma S, Nakagawa H, Okada R, Hishida A, Naito M, Hamajima N, Wakai K* : No association between *Helicobacter pylori* infection and

diabetes mellitus among a general Japanese population: a cross-sectional study. Springerplus, 4: 602, 2015.

- 019 *Amankwah EK, Lin HY, Tyrer JP, Lawrenson K, Dennis J, Chornokur G, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Bruinsma F, Bandera EV, Bean YT, Beckmann MW, Bisogna M, Bjorge L, Bogdanova N, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Bunker CH, Butzow R, Campbell IG, Carty K, Chen Z, Chen YA, Chang-Claude J, Cook LS, Cramer DW, Cunningham JM, Cybulski C, Dansonka-Mieszkowska A, du Bois A, Despierre E, Dicks E, Doherty JA, Dörk T, Dürst M, Easton DF, Eccles DM, Edwards RP, Ekici AB, Fasching PA, Fridley BL, Gao YT, Gentry-Maharaj A, Giles GG, Glasspool R, Goodman MT, Gronwald J, Harrington P, Harter P, Hasmad HN, Hein A, Heitz F, Hildebrandt MA, Hillemanns P, Hogdall CK, Hogdall E, Hosono S, Iversen ES, Jakubowska A, Jensen A, Ji BT, Karlan BY, Jim H, Kellar M, Kiemenev LA, Krakstad C, Kjaer SK, Kupryjanczyk J, Lambrechts D, Lambrechts S, Le ND, Lee AW, Lele S, Leminen A, Lester J, Levine DA, Liang D, Lim BK, Lissowska J, Lu K, Lubinski J, Lundvall L, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, McNeish I, Menon U, Milne RL, Modugno F, Moysich KB, Ness RB, Nevanlinna H, Eilber U, Odunsi K, Olson SH, Orlow I, Orsulic S, Weber RP, Paul J, Pearce CL, Pejovic T, Pelttari LM, Permuth-Wey J, Pike MC, Poole EM, Risch HA, Rosen B, Rossing MA, Rothstein JH, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schernhammer E, Schwaab I, Shu XO, Shvetsov YB, Siddiqui N, Sieh W, Song H, Southey MC, Spiewankiewicz B, Sucheston-Campbell L, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Thomsen L, Tangen IL, Tworoger SS, van Altena AM, Vierkant RA, Vergote I, Walsh CS, Wang-Gohrke S, Wentzensen N, Whittemore AS, Wicklund KG, Wilkens LR, Wu AH, Wu X, Woo YL, Yang H, Zheng W, Ziogas A, Kelemen LE, Berchuck A; Georgia Chenevix-Trench on behalf of the AOCs management group, Schildkraut JM, Ramus SJ, Goode EL, Monteiro AN, Gayther SA, Narod SA, Pharoah PD, Sellers TA, Phelan CM : Epithelial-Mesenchymal Transition (EMT) Gene Variants and Epithelial Ovarian Cancer (EOC) Risk. Genet Epidemiol, 39(8): 689-97, 2015.*
- 020 *Brenner DR, Amos CI, Brhane Y, Timofeeva MN, Caporaso N, Wang Y, Christiani DC, Bickeböller H, Yang P, Albanes D, Stevens VL, Gapstur S, McKay J, Boffetta P, Zaridze D, Szeszenia-Dabrowska N, Lissowska J, Rudnai P, Fabianova E, Mates D, Bencko V, Foretova L, Janout V, Krokhan HE, Skorpén F, Gabrielsen ME, Vatten L, Njølstad I, Chen C, Goodman G, Lathrop M, Vooder T, Välk K, Nelis M, Metspalu A, Broderick P, Eisen T, Wu X, Zhang D, Chen W, Spitz MR, Wei Y, Su L, Xie D, She J, Matsuo K, Matsuda F, Ito H, Risch A, Heinrich J, Rosenberger A, Muley T, Dienemann H, Field JK, Raji O, Chen Y, Gosney J, Liloglou T, Davies MP, Marcus M, McLaughlin J, Orlow I, Han Y, Li Y, Zong X, Johansson M ; EPIC Investigators, Liu G, Tworoger SS, Le Marchand L, Henderson BE, Wilkens LR, Dai J, Shen H, Houlston RS, Landi MT, Brennan P, Hung RJ : Identification of lung cancer histology-specific variants applying Bayesian framework variant prioritization approaches within the TRICL and ILCCO consortia. Carcinogenesis, 36(11): 1314-26, 2015.*
- 021 *Chihara D, Ito H, Izutsu K, Hattori M, Nishino Y, Ioka A, Matsuda T, Ito Y : Advance and stagnation in the treatment of patients with lymphoma and myeloma: Analysis using population-based cancer registry data in Japan from 1993 to 2006. Int J Cancer, 137(5): 1217-23, 2015.*
- 022 *Guo X, Long J, Zeng C, Michailidou K, Ghoussaini M, Bolla MK, Wang Q, Milne RL, Shu XO, Cai Q, Beesley J, Kar SP, Andrulis IL, Anton-Culver H, Arndt V, Beckmann MW, Beeghly-Fadiel A, Benitez J, Blot W, Bogdanova N, Bojesen SE, Brauch H, Brenner H, Brinton L, Broeks A, Brüning T, Burwinkel B, Cai H, Canisius S, Chang-Claude J, Choi JY, Couch FJ, Cox A, Cross SS, Czene K, Darabi H, Devilee P, Droit A, Dörk T, Fasching PA, Fletcher O, Flyger H, Fostira F, Gaborieau V, García-Closas M, Giles GG, Grip M, Guénel P, Haiman CA, Hamann U, Hartman M, Hollestelle A, Hopper JL, Hsiung CN, Ito H, Jakubowska A, Johnson N, Kabisch M, Kang D, Khan S, Knight JA, Kosma VM, Lambrechts D, Le Marchand L, Li J, Lindblom A, Lophatananon A, Lubinski J, Mannermaa A, Manoukian S, Margolin S, Marme F, Matsuo K, McLean CA, Meindl A, Muir K, Neuhausen SL, Nevanlinna H, Nord S, Olson JE, Orr N, Peterlongo P, Putti TC, Rudolph A, Sangrajrang S, Sawyer EJ, Schmidt MK, Schmutzler RK, Shen CY, Shi J, Shrubsole MJ, Southey MC, Swerdlow A, Teo SH, Thienpont B, Toland AE, Tollenaar RA, Tomlinson IP, Truong T, Tseng CC, van den Ouweland A, Wen W, Winqvist R, Wu A, Yip CH, Zamora MP, Zheng Y, Hall P, Pharoah PD, Simard J, Chenevix-Trench G; kConFab Investigators, Dunning AM, Easton DF, Zheng W : Fine-Scale Mapping of the 4q24 Locus Identifies Two Independent Loci Associated with Breast Cancer Risk. Cancer Epidemiol Biomarkers Prev, 24(11): 1680-91, 2015.*
- 023 *Lawrenson K, Iversen ES, Tyrer J, Weber RP, Concannon P, Hazelett DJ, Li Q, Marks JR, Berchuck*

- A, Lee JM, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N; Australian Cancer Study (Ovarian Cancer); Australian Ovarian Cancer Study Group, Bandera EV, Bean Y, Beckmann MW, Bisogna M, Bjorge L, Bogdanova N, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Bruinsma F, Butzow R, Campbell IG, Carty K, Chang-Claude J, Chenevix-Trench G, Chen A, Chen Z, Cook LS, Cramer DW, Cunningham JM, Cybulski C, Plisiecka-Halasa J, Dennis J, Dicks E, Doherty JA, Dörk T, du Bois A, Eccles D, Easton DT, Edwards RP, Eilber U, Ekici AB, Fasching PA, Fridley BL, Gao YT, Gentry-Maharaj A, Giles GG, Glasspool R, Goode EL, Goodman MT, Gronwald J, Harter P, Hasmad HN, Hein A, Heitz F, Hildebrandt MA, Hillemanns P, Hogdall E, Hogdall C, Hosono S, Jakubowska A, Paul J, Jensen A, Karlan BY, Kjaer SK, Kelemen LE, Kellar M, Kelley JL, Kiemeny LA, Krakstad C, Lambrechts D, Lambrechts S, Le ND, Lee AW, Cannioto R, Leminen A, Lester J, Levine DA, Liang D, Lissowska J, Lu K, Lubinski J, Lundvall L, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, Nevanlinna H, McNeish I, Menon U, Modugno F, Moysich KB, Narod SA, Nedergaard L, Ness RB, Noor Azmi MA, Odunsi K, Olson SH, Orlow I, Orsulic S, Pearce CL, Pejovic T, Pelttari LM, Permuth-Wey J, Phelan CM, Pike MC, Poole EM, Ramus SJ, Risch HA, Rosen B, Rossing MA, Rothstein JH, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Budzilowska A, Sellers TA, Shu XO, Shvetsov YB, Siddiqui N, Sieh W, Song H, Southey MC, Sucheston L, Tangen IL, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Timorek A, Tworoger SS, Van Nieuwenhuysen E, Vergote I, Vierkant RA, Wang-Gohrke S, Walsh C, Wentzensen N, Whittemore AS, Wicklund KG, Wilkens LR, Woo YL, Wu X, Wu AH, Yang H, Zheng W, Ziogas A, Coetzee GA, Freedman ML, Monteiro AN, Moes-Sosnowska J, Kupryjanczyk J, Pharoah PD, Gayther SA, Schildkraut JM : Common variants at the CHEK2 gene locus and risk of epithelial ovarian cancer. *Carcinogenesis*, 36(11): 1341-53, 2015.
- 024 Lawrenson K, Li Q, Kar S, Seo JH, Tyrer J, Spindler TJ, Lee J, Chen Y, Karst A, Drapkin R, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N; Australian Ovarian Cancer Study Group, Baker H, Bandera EV, Bean Y, Beckmann MW, Berchuck A, Bisogna M, Bjorge L, Bogdanova N, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Bruinsma F, Butzow R, Campbell IG, Carty K, Chang-Claude J, Chenevix-Trench G, Chen A, Chen Z, Cook LS, Cramer DW, Cunningham JM, Cybulski C, Dansonka-Mieszkowska A, Dennis J, Dicks E, Doherty JA, Dörk T, du Bois A, Dürst M, Eccles D, Easton DT, Edwards RP, Eilber U, Ekici AB, Fasching PA, Fridley BL, Gao YT, Gentry-Maharaj A, Giles GG, Glasspool R, Goode EL, Goodman MT, Gronwald J, Harter P, Hasmad HN, Hein A, Heitz F, Hildebrandt MA, Hillemanns P, Hogdall E, Hogdall C, Hosono S, Iversen ES, Jakubowska A, James P, Jensen A, Ji BT, Karlan BY, Kruger Kjaer S, Kelemen LE, Kellar M, Kelley JL, Kiemeny LA, Krakstad C, Kupryjanczyk J, Lambrechts D, Lambrechts S, Le ND, Lee AW, Lele S, Leminen A, Lester J, Levine DA, Liang D, Lissowska J, Lu K, Lubinski J, Lundvall L, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, Nevanlinna H, McNeish I, Menon U, Modugno F, Moysich KB, Narod SA, Nedergaard L, Ness RB, Azmi MA, Odunsi K, Olson SH, Orlow I, Orsulic S, Weber RP, Pearce CL, Pejovic T, Pelttari LM, Permuth-Wey J, Phelan CM, Pike MC, Poole EM, Ramus SJ, Risch HA, Rosen B, Rossing MA, Rothstein JH, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schwaab I, Sellers TA, Shu XO, Shvetsov YB, Siddiqui N, Sieh W, Song H, Southey MC, Sucheston L, Tangen IL, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Timorek A, Tsai YY, Tworoger SS, van Altena AM, Van Nieuwenhuysen E, Vergote I, Vierkant RA, Wang-Gohrke S, Walsh C, Wentzensen N, Whittemore AS, Wicklund KG, Wilkens LR, Woo YL, Wu X, Wu AH, Yang H, Zheng W, Ziogas A, Monteiro A, Pharoah PD, Gayther SA, Freedman ML : Cis-eQTL analysis and functional validation of candidate susceptibility genes for high-grade serous ovarian cancer. *Nat Commun*, 6 : 8234, 2015.
- 025 Ueno M, Ohkawa S, Morimoto M, Ishii H, Matsuyama M, Kuruma S, Egawa N, Nakao H, Mori M, Matsuo K 7, Hosono S, Nojima M, Wakai K, Nakamura K, Tamakoshi A, Takahashi M, Shimada K, Nishiyama T, Kikuchi S, Lin Y : Genome-wide association study-identified SNPs (rs3790844, rs3790843) in the NR5A2 gene and risk of pancreatic cancer in Japanese. *Sci Rep*, 5 : 17018, 2015.
- 026 Hosono S, Ito H, Oze I, Watanabe M, Komori K, Yatabe Y, Shimizu Y, Tanaka H, Matsuo K : A risk prediction model for colorectal cancer using genome-wide association study-identified polymorphisms and established risk factors among Japanese: results from two independent case-control studies. *Eur J Cancer Prev*, 2015.
- 027 Jim HS, Lin HY, Tyrer JP, Lawrenson K, Dennis J, Chornokur G, Chen Z, Chen AY, Permuth-Wey J, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Bruinsma F, Bandera EV, Bean Y, Beckmann MW, Bisogna M, Bjorge L, Bogdanova N, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Bunker CH, Butzow R, Campbell IG, Carty K,



- Chang-Claude J, Cook LS, Cramer DW, Cunningham JM, Cybulski C, Dansonka-Mieszkowska A, du Bois A, Despierre E, Sieh W, Doherty JA, Dörk T, Dürst M, Easton DF, Eccles DM, Edwards RP, Ekici AB, Fasching PA, Fridley BL, Gao YT, Gentry-Maharaj A, Giles GG, Glasspool R, Goodman MT, Gronwald J, Harter P, Hasmad HN, Hein A, Heitz F, Hildebrandt MA, Hillemanns P, Hogdall CK, Hogdall E, Hosono S, Iversen ES, Jakubowska A, Jensen A, Ji BT, Karlan BY, Kellar M, Kiemeny LA, Krakstad C, Kjaer SK, Kupryjanczyk J, Vierkant RA, Lambrechts D, Lambrechts S, Le ND, Lee AW, Lele S, Leminen A, Lester J, Levine DA, Liang D, Lim BK, Lissowska J, Lu K, Lubinski J, Lundvall L, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, McNeish I, Menon U, Milne RL, Modugno F, Thomsen L, Moysich KB, Ness RB, Nevanlinna H, Eilber U, Odunsi K, Olson SH, Orlov I, Orsulic S, Palmieri Weber R, Paul J, Pearce CL, Pejovic T, Pelttari LM, Pike MC, Poole EM, Schernhammer E, Risch HA, Rosen B, Rossing MA, Rothstein JH, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schwaab I, Shu XO, Shvetsov YB, Siddiqui N, Song H, Southey MC, Spiewankiewicz B, Sucheston-Campbell L, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Tangen IL, Tworoger SS, van Altena AM, Vergote I, Walsh CS, Wang-Gohrke S, Wentzensen N, Whittemore AS, Wicklund KG, Wilkens LR, Wu AH, Wu X, Woo YL, Yang H, Zheng W, Ziogas A, Amankwah E, Berchuck A; Georgia Chenevix-Trench on behalf of the AOCs management group 95,96, Schildkraut JM, Kelemen LE, Ramus SJ, Monteiro AN, Goode EL, Narod SA, Gayther SA, Pharoah PD, Sellers TA, Phelan CM : Common Genetic Variation in Circadian Rhythm Genes and Risk of Epithelial Ovarian Cancer (EOC). *J Genet Genome Res*, 2 (2), 2015.
- 028 Orr N, Dudbridge F, Dryden N, Maguire S, Novo D, Perrakis E, Johnson N, Ghousaini M, Hopper JL, Southey MC, Apicella C, Stone J, Schmidt MK, Broeks A, Van't Veer LJ, Hogervorst FB, Fasching PA, Haeberle L, Ekici AB, Beckmann MW, Gibson L, Aitken Z, Warren H, Sawyer E, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Burwinkel B, Marme F, Schneeweiss A, Sohn C, Guénel P, Truong T, Cordina-Duverger E, Sanchez M, Bojesen SE, Nordestgaard BG, Nielsen SF, Flyger H, Benitez J, Zamora MP, Arias Perez JL, Menéndez P, Anton-Culver H, Neuhausen SL, Brenner H, Dieffenbach AK, Arndt V, Stegmaier C, Hamann U, Brauch H, Justenhoven C, Brüning T, Ko YD, Nevanlinna H, Aittomäki K, Blomqvist C, Khan S, Bogdanova N, Dörk T, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM, Chenevix-Trench G, Beesley J, Lambrechts D, Moisse M, Floris G, Beuselinck B, Chang-Claude J, Rudolph A, Seibold P, Flesch-Janys D, Radice P, Peterlongo P, Peissel B, Pensotti V, Couch FJ, Olson JE, Slettedahl S, Vachon C, Giles GG, Milne RL, McLean C, Haiman CA, Henderson BE, Schumacher F, Le Marchand L, Simard J, Goldberg MS, Labrèche F, Dumont M, Kristensen V, Alnæs GG, Nord S, Borresen-Dale AL, Zheng W, Deming-Halverson S, Shrubsole M, Long J, Winqvist R, Pylkäs K, Jukkola-Vuorinen A, Grip M, Andrulis IL, Knight JA, Glendon G, Tchatchou S, Devilee P, Tollenaar RA, Seynaeve CM, Van Asperen CJ, Garcia-Closas M, Figueroa J, Chanock SJ, Lissowska J, Czene K, Darabi H, Eriksson M, Klevebring D, Hooning MJ, Hollestelle A, van Deurzen CH, Kriege M, Hall P, Li J, Liu J, Humphreys K, Cox A, Cross SS, Reed MW, Pharoah PD, Dunning AM, Shah M, Perkins BJ, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska-Bieniek K, Durda K, Ashworth A, Swerdlow A, Jones M, Schoemaker MJ, Meindl A, Schmutzler RK, Olsowd C, Slager S, Toland AE, Yannoukakos D, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Ishiguro J, Wu AH, Tseng CC, Van Den Berg D, Stram DO, Teo SH, Yip CH, Kang P, Ikram MK, Shu XO, Lu W, Gao YT, Cai H, Kang D, Choi JY, Park SK, Noh DY, Hartman M, Miao H, Lim WY, Lee SC, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Wu PE, Hou MF, Yu JC, Shen CY, Blot W, Cai Q, Signorello LB, Luccarini C, Bayes C, Ahmed S, Maranian M, Healey CS, González-Neira A, Pita G, Alonso MR, Álvarez N, Herrero D, Tessier DC, Vincent D, Bacot F, Hunter DJ, Lindstrom S, Dennis J, Michailidou K, Bolla MK, Easton DF, dos Santos Silva I, Fletcher O, Peto J; GENICA Network; kConFab Investigators; Australian Ovarian Cancer Study Group : Fine-mapping identifies two additional breast cancer susceptibility loci at 9q31.2. *Hum Mol Genet*, 24(10): 2966-84, 2015.
- 029 Glubb DM, Maranian MJ, Michailidou K, Pooley KA, Meyer KB, Kar S, Carlebur S, O'Reilly M, Betts JA, Hillman KM, Kaufmann S, Beesley J, Canisius S, Hopper JL, Southey MC, Tsimiklis H, Apicella C, Schmidt MK, Broeks A, Hogervorst FB, van der Schoot CE, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Fasching PA, Ruebner M, Ekici AB, Beckmann MW, Peto J, dos-Santos-Silva I, Fletcher O, Johnson N, Pharoah PD, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Sawyer EJ, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Burwinkel B, Marme F, Yang R, Surowy H, Guénel P, Truong T, Menegaux F, Sanchez M, Bojesen SE, Nordestgaard BG, Nielsen SF, Flyger H, González-Neira A, Benitez J, Zamora MP, Arias

- Perez JI, Anton-Culver H, Neuhausen SL, Brenner H, Dieffenbach AK, Arndt V, Stegmaier C, Meindl A, Schmutzler RK, Brauch H, Ko YD, Brüning T; GENICA Network, Nevanlinna H, Muranen TA, Aittomäki K, Blomqvist C, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Tanaka H, Dörk T, Bogdanova NV, Helbig S, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM; kConFab Investigators, Wu AH, Tseng CC, Van Den Berg D, Stram DO, Lambrechts D, Zhao H, Weltens C, van Limbergen E, Chang-Claude J, Flesch-Janys D, Rudolph A, Seibold P, Radice P, Peterlongo P, Barile M, Capra F, Couch FJ, Olson JE, Hallberg E, Vachon C, Giles GG, Milne RL, McLean C, Haiman CA, Henderson BE, Schumacher F, Le Marchand L, Simard J, Goldberg MS, Labrèche F, Dumont M, Teo SH, Yip CH, See MH, Cornes B, Cheng CY, Ikram MK, Kristensen V; Norwegian Breast Cancer Study, Zheng W, Halverson SL, Shrubsole M, Long J, Winqvist R, Pylkäs K, Jukkola-Vuorinen A, Kauppila S, Andrulis IL, Knight JA, Glendon G, Tchatchou S, Devilee P, Tollenaar RA, Seynaeve C, Van Asperen CJ, García-Closas M, Figueroa J, Chanock SJ, Lissowska J, Czene K, Klevebring D, Darabi H, Eriksson M, Hooning MJ, Hollestelle A, Martens JW, Collée JM, Hall P, Li J, Humphreys K, Shu XO, Lu W, Gao YT, Cai H, Cox A, Cross SS, Reed MW, Blot W, Signorello LB, Cai Q, Shah M, Ghoussaini M, Kang D, Choi JY, Park SK, Noh DY, Hartman M, Miao H, Lim WY, Tang A, Hamann U, Torres D, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska K, Durda K, Sangrajang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Olsowd C, Slager S, Toland AE, Yannoukakos D, Shen CY, Wu PE, Yu JC, Hou MF, Swerdlow A, Ashworth A, Orr N, Jones M, Pita G, Alonso MR, Álvarez N, Herrero D, Tessier DC, Vincent D, Bacot F, Luccarini C, Baynes C, Ahmed S, Healey CS, Brown MA, Ponder BA, Chenevix-Trench G, Thompson DJ, Edwards SL, Easton DF, Dunning AM, French JD : Fine-scale mapping of the 5q11.2 breast cancer locus reveals at least three independent risk variants regulating MAP3K1. *Am J Hum Genet.* 96(1): 5-20, 2015.*
- 030 *Chornokur G, Lin HY, Tyrer JP, Lawrenson K, Dennis J, Amankwah EK, Qu X, Tsai YY, Jim HS, Chen Z, Chen AY, Permut-Wey J, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Bruinsma F, Bandera EV, Bean YT, Beckmann MW, Bisogna M, Bjorge L, Bogdanova N, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Bunker CH, Butzow R, Campbell IG, Carty K, Chang-Claude J, Cook LS, Cramer DW, Cunningham JM, Cybulski C, Dansonka-Mieszkowska A, du Bois A, Despièrre E, Dicks E, Doherty JA, Dörk T, Dürst M, Easton DF, Eccles DM, Edwards RP, Ekici AB, Fasching PA, Fridley BL, Gao YT, Gentry-Maharaj A, Giles GG, Glasspool R, Goodman MT, Gronwald J, Harrington P, Harter P, Hein A, Heitz F, Hildebrandt MA, Hillemanns P, Hogdall CK, Hogdall E, Hosono S, Jakubowska A, Jensen A, Ji BT, Karlan BY, Kelemen LE, Kellar M, Kiemeny LA, Krakstad C, Kjaer SK, Kupryjanczyk J, Lambrechts D, Lambrechts S, Le ND, Lee AW, Lele S, Leminen A, Lester J, Levine DA, Liang D, Lim BK, Lissowska J, Lu K, Lubinski J, Lundvall L, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, McNeish I, Menon U, Milne RL, Modugno F, Moysich KB, Ness RB, Nevanlinna H, Eilber U, Odunsi K, Olson SH, Orlow I, Orsulic S, Weber RP, Paul J, Pearce CL, Pejovic T, Pelttari LM, Pike MC, Poole EM, Risch HA, Rosen B, Rossing MA, Rothstein JH, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schernhammer E, Schwaab I, Shu XO, Shvetsov YB, Siddiqui N, Sieh W, Song H, Southey MC, Spiewankiewicz B, Sucheston L, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Thomsen L, Tangen IL, Tworoger SS, van Altena AM, Vierkant RA, Vergote I, Walsh CS, Wang-Gohrke S, Wentzensen N, Whittemore AS, Wicklund KG, Wilkens LR, Wu AH, Wu X, Woo YL, Yang H, Zheng W, Ziogas A, Hasmad HN, Berchuck A; Georgia Chenevix-Trench; AOCs management group, Iversen ES, Schildkraut JM, Ramus SJ, Goode EL, Monteiro AN, Gayther SA, Narod SA, Pharoah PD, Sellers TA, Phelan CM : Common Genetic Variation In Cellular Transport Genes and Epithelial Ovarian Cancer (EOC) Risk. *PLoS One.* 10(6): e0128106, 2015.*
- 031 *Hosono S, Ito H, Oze I, Higaki Y, Morita E, Takashima N, Suzuki S, Shimatani K, Mikami H, Ohnaka K, Ozaki E, Katsuura-Kamano S, Kubo M, Nagata C, Naito M, Hamajima N, Tanaka H ; Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study Group : Polymorphisms in CYP19A1, HSD17B1 and HSD17B2 genes and serum sex hormone level among postmenopausal Japanese women. *Maturitas.* 82(4): 394-401, 2015.*
- 032 *Tajiri H, Nishi J, Ushijima K, Shimizu T, Ishige T, Shimizu M, Tanaka H, Brooks S : A role for fosfomycin treatment in children for prevention of haemolytic-uraemic syndrome accompanying Shiga toxin-producing Escherichia coli infection. *Int J Antimicrob Agents.* 46(5): 586-9, 2015.*
- 033 *Tanaka H, Matsuda T : Arrival of a new era in Japan with the establishment of the Cancer Registration Promotion Act. *Eur J Cancer Prev.* 24(6): 542-3, 2015.*
- 034 *Koyanagi YN, Ito H, Oze I, Hosono S, Tanaka H, Abe T, Shimizu Y, Hasegawa Y, Matsuo K : Development*

of a prediction model and estimation of cumulative risk for upper aerodigestive tract cancer on the basis of the aldehyde dehydrogenase 2 genotype and alcohol consumption in a Japanese population. *Eur J Cancer Prev*, 2016.

- 035 *French JD, Johnatty SE, Lu Y, Beesley J, Gao B, Kalimutho M, Henderson MJ, Russell AJ, Kar S, Chen X, Hillman KM, Kaufmann S, Sivakumaran H, O'Reilly M, Wang C, Korbie DJ7; Australian Ovarian Cancer Study Group; Australian Ovarian Cancer Study, Lambrechts D, Despierre E, Van Nieuwenhuysen E, Lambrechts S, Vergote I, Karlan B, Lester J, Orsulic S, Walsh C, Fasching PA, Beckmann MW, Ekici AB, Hein A, Matsuo K, Hosono S, Pisterer J, Hillemanns P, Nakanishi T, Yatabe Y, Goodman MT, Lurie G, Matsuno RK, Thompson PJ, Pejovic T, Bean Y, Heitz F, Harter P, du Bois A 2, Schwaab I, Hogdall E, Kjaer SK, Jensen A, Hogdall C, Lundvall L, Engelholm SA, Brown B, Flanagan JM, Metcalf MD, Siddiqui N, Sellers T, Fridley B, Cunningham J, Schildkraut JM, Iversen E, Weber RP, Brennan D, Berchuck A, Pharoah P, Harnett P, Norris MD, Haber M, Goode EL, Lee JS, Khanna KK, Meyer KB, Chenevix-Trench G, deFazio A, Edwards SL, MacGregor S, On Behalf Of The Ovarian Cancer Association Consortium* : Germline polymorphisms in an enhancer of PSIP1 are associated with progression-free survival in epithelial ovarian cancer. *Oncotarget*, 7(6): 6353-68, 2016.
- 036 *Kawakita D, Oze I, Hosono S, Ito H, Watanabe M, Yatabe Y, Hasegawa Y, Murakami S, Tanaka H, Matsuo K* : Prognostic Value of Drinking Status and Aldehyde Dehydrogenase 2 Polymorphism in Patients With Head and Neck Squamous Cell Carcinoma. *J Epidemiol*, 26(6): 292-9, 2016.
- 037 *Taniguchi C, Sakakibara H, Saka H, Oze I, Tanaka H* : Japanese Nurses' Perceptions Toward Tobacco Use Intervention for Hospitalized Cancer Patients Who Entered End of Life. *Cancer Nurs*, 2016.
- 038 *Masaoka H, Ito H, Soga N, Hosono S, Oze I, Watanabe M, Tanaka H, Yokomizo A, Hayashi N, Eto M, Matsuo K* : Aldehyde dehydrogenase 2 (ALDH2) and alcohol dehydrogenase 1B (ADH1B) polymorphisms exacerbate bladder cancer risk associated with alcohol drinking: Gene-environment interaction. *Carcinogenesis*, 37(6): 583-8, 2016.
- 039 *Masaoka H, Matsuo K, Ito H, Wakai K, Nagata C, Nakayama T, Sadakane A, Tanaka K, Tamakoshi A, Sugawara Y, Mizoue T, Sawada N, Inoue M, Tsugane S, Sasazuki S; Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan* : Cigarette smoking and bladder cancer risk: an evaluation based on a systematic review of epidemiologic evidence in the Japanese population. *Jpn J Clin Oncol*, 46(3): 273-83, 2016.
- 040 *Nomura M, Oze I, Kodaira T, Abe T, Komori A, Narita Y, Masuishi T, Taniguchi H, Kadowaki S, Ura T, Andoh M, Tachibana H, Uemura N, Tajika M, Niwa Y, Muto M, Muro K* : Comparison between surgery and definitive chemoradiotherapy for patients with resectable esophageal squamous cell carcinoma: a propensity score analysis. *Int J Clin Oncol*, 2016.
- 041 *Maeda A, Ura T, Asano C, Haegawa I, Nomura M, Komori A, Narita Y, Taniguchi H, Kadowaki S, Muro K, Horio Y, Yoshida T, Oze I, Kajita M, Mizutani A* : A phase II trial of prophylactic olanzapine combined with palonosetron and dexamethasone for preventing nausea and vomiting induced by cisplatin. *Asia Pac J Clin Oncol*, 2016.
- 042 *Dunning AM, Michailidou K, Kuchenbaecker KB, Thompson D, French JD, Beesley J, Healey CS, Kar S, Pooley KA, Lopez-Knowles E, Dicks E, Barrowdale D, Sinnott-Armstrong NA, Sallari RC, Hillman KM, Kaufmann S, Sivakumaran H, Moradi Marjaneh M, Lee JS, Hills M, Jarosz M, Drury S, Canisius S, Bolla MK, Dennis J, Wang Q, Hopper JL, Southey MC, Broeks A, Schmidt MK, Lophatananon A, Muir K, Beckmann MW, Fasching PA, Dos-Santos-Silva I, Peto J, Sawyer EJ, Tomlinson I, Burwinkel B, Marme F, Guénel P, Truong T, Bojesen SE, Flyger H, González-Neira A, Perez JI, Anton-Culver H, Eunjung L, Arndt V, Brenner H, Meindl A, Schmutzler RK, Brauch H, Hamann U, Aittomäki K, Blomqvist C, Ito H, Matsuo K, Bogdanova N, Dörk T, Lindblom A, Margolin S, Kosma VM, Mannermaa A, Tseng CC, Wu AH, Lambrechts D, Wildiers H, Chang-Claude J, Rudolph A, Peterlongo P, Radice P, Olson JE, Giles GG, Milne RL, Haiman CA, Henderson BE, Goldberg MS, Teo SH, Yip CH, Nord S, Borresen-Dale AL, Kristensen V, Long J, Zheng W, Pylkäs K, Winqvist R, Andrulis IL, Knight JA, Devilee P, Seynaeve C, Figueroa J, Sherman ME, Czene K, Darabi H, Hollestelle A, van den Ouweland AM, Humphreys K, Gao YT, Shu XO, Cox A, Cross SS, Blot W, Cai Q, Ghousaini M, Perkins BJ, Shah M, Choi JY, Kang D, Lee SC, Hartman M, Kabisch M, Torres D, Jakubowska A, Lubinski J, Brennan P, Sangrajrang S, Ambrosone CB, Toland AE, Shen CY, Wu PE, Orr N, Swerdlow A, McGuffog L, Healey S, Lee A, Kapuscinski M, John EM, Terry MB, Daly MB, Goldgar DE, Buys SS, Janavicius R, Tihomirova L, Tung N, Dorfling CM, van Rensburg EJ, Neuhausen SL, Ejlersen B, Hansen TV, Osorio A, Benitez J, Rando R, Weitzel JN, Bonanni B, Peissel B,*



- Manoukian S, Papi L, Ottini L, Konstantopoulou I, Apostolou P, Garber J, Rashid MU, Frost D; EMBRACE, Izatt L, Ellis S, Godwin AK, Arnold N, Niederacher D, Rhiem K, Bogdanova-Markov N, Sagne C, Stoppa-Lyonnet D, Damiola F; GEMO Study Collaborators, Sinilnikova OM, Mazoyer S, Isaacs C, Claes KB, De Leeneer K, de la Hoya M, Caldes T, Nevanlinna H, Khan S, Mensenkamp AR; HEBON, Hoening MJ, Rookus MA, Kwong A, Olah E, Diez O, Brunet J, Pujana MA, Gronwald J, Huzarski T, Barkardottir RB, Laframboise R, Soucy P, Montagna M, Agata S, Teixeira MR; kConFab Investigators, Park SK, Lindor N, Couch FJ, Tischkowitz M, Foretova L, Vijai J, Offit K, Singer CF, Rappaport C, Phelan CM, Greene MH, Mai PL, Rennert G, Imyanitov EN, Hulick PJ, Phillips KA, Piedmonte M, Mulligan AM, Glendon G, Bojesen A, Thomassen M, Caligo MA, Yoon SY, Friedman E, Laitman Y, Borg A, von Wachenfeldt A, Ehrencrona H, Rantala J, Olopade OI, Ganz PA, Nussbaum RL, Gayther SA, Nathanson KL, Domchek SM, Arun BK, Mitchell G, Karlan BY, Lester J, Maskarinec G, Woolcott C, Scott C, Stone J, Apicella C, Tamimi R, Luben R, Khaw KT, Helland Å, Haakensen V, Dowsett M, Pharoah PD, Simard J, Hall P, García-Closas M, Vachon C, Chenevix-Trench G, Antoniou AC, Easton DF, Edwards SL : Breast cancer risk variants at 6q25 display different phenotype associations and regulate ESR1, RMND1 and CCDC170. *Nat Genet*, 48(4): 374-86, 2016.
- 043 Easton DF, Lesueur F, Decker B, Michailidou K, Li J, Allen J, Luccarini C, Pooley KA, Shah M, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Ahmad J, Thompson ER, Damiola F, Pertesi M, Voegelé C, Mebirouk N, Robinot N, Durand G, Forey N, Luben RN, Ahmed S, Aittomäki K, Anton-Culver H, Arndt V; Australian Ovarian Cancer Study Group, Baynes C, Beckman MW, Benitez J, Van Den Berg D, Blot WJ, Bogdanova NV, Bojesen SE, Brenner H, Chang-Claude J, Chia KS, Choi JY, Conroy DM, Cox A, Cross SS, Czene K, Darabi H, Devilee P, Eriksson M, Fasching PA, Figueroa J, Flyger H, Fostira F, García-Closas M, Giles GG, Glendon G, González-Neira A, Guénel P, Haiman CA, Hall P, Hart SN, Hartman M, Hoening MJ, Hsiung CN, Ito H, Jakubowska A, James PA, John EM, Johnson N, Jones M, Kabisch M, Kang D; kConFab Investigators, Kosma VM, Kristensen V, Lambrechts D, Li N; Lifepool Investigators, Lindblom A, Long J, Lophatananon A, Lubinski J, Mannermaa A, Manoukian S, Margolin S, Matsuo K, Meindl A, Mitchell G, Muir K; NBCS Investigators, Nevelsteen I, van den Ouweland A, Peterlongo P, Phuah SY, Pylkäs K, Rowley SM, Sangrajrang S, Schmutzler RK, Shen CY, Shu XO, Southey MC, Surowy H, Swerdlow A, Teo SH, Tollenaar RA, Tomlinson I, Torres D, Truong T, Vachon C, Verhoef S, Wong-Brown M, Zheng W, Zheng Y, Nevanlinna H, Scott RJ, Andrulis IL, Wu AH, Hopper JL, Couch FJ, Winqvist R, Burwinkel B, Sawyer EJ, Schmidt MK, Rudolph A, Dörk T, Brauch H, Hamann U, Neuhausen SL, Milne RL, Fletcher O, Pharoah PD, Campbell IG, Dunning AM, Le Calvez-Kelm F, Goldgar DE, Tavitigian SV, Chenevix-Trench G : No evidence that protein truncating variants in BRIP1 are associated with breast cancer risk: implications for gene panel testing. *J Med Genet*, 53(5): 298-309, 2016.
- 044 Meeks HD, Song H, Michailidou K, Bolla MK, Dennis J, Wang Q, Barrowdale D, Frost D; EMBRACE, McGuffog L, Ellis S, Feng B, Buys SS, Hopper JL, Southey MC, Tesoriero A; kConFab Investigators, James PA, Bruinsma F, Campbell IG; Australia Ovarian Cancer Study Group, Broeks A, Schmidt MK, Hogervorst FB; HEBON, Beckman MW, Fasching PA, Fletcher O, Johnson N, Sawyer EJ, Riboli E, Banerjee S, Menon U, Tomlinson I, Burwinkel B, Hamann U, Marme F, Rudolph A, Janavicius R, Tihomirova L, Tung N, Garber J, Cramer D, Terry KL, Poole EM, Tworoger SS, Dorfling CM, van Rensburg EJ, Godwin AK, Guénel P, Truong T; GEMO Study Collaborators, Stoppa-Lyonnet D, Damiola F, Mazoyer S, Sinilnikova OM, Isaacs C, Maugard C, Bojesen SE, Flyger H, Gerdes AM, Hansen TV, Jensen A, Kjaer SK, Hogdall C, Hogdall E, Pedersen IS, Thomassen M, Benitez J, González-Neira A, Osorio A, Hoya Mde L, Segura PP, Diez O, Lazaro C, Brunet J, Anton-Culver H, Eunjung L, John EM, Neuhausen SL, Ding YC, Castillo D, Weitzel JN, Ganz PA, Nussbaum RL, Chan SB, Karlan BY, Lester J, Wu A, Gayther S, Ramus SJ, Sieh W, Whittermore AS, Monteiro AN, Phelan CM, Terry MB, Piedmonte M, Offit K, Robson M, Levine D, Moysich KB, Cannioto R, Olson SH, Daly MB, Nathanson KL, Domchek SM, Lu KH, Liang D, Hildebrandt MA, Ness R, Modugno F, Pearce L, Goodman MT, Thompson PJ, Brenner H, Butterbach K, Meindl A, Hahnen E, Wappenschmidt B, Brauch H, Brüning T, Blomqvist C, Khan S, Nevanlinna H, Pelttari LM, Aittomäki K, Butzow R, Bogdanova NV, Dörk T, Lindblom A, Margolin S, Rantala J, Kosma VM, Mannermaa A, Lambrechts D, Neven P, Claes KB, Maerken TV, Chang-Claude J, Flesch-Janys D, Heitz F, Varon-Mateeva R, Peterlongo P, Radice P, Viel A, Barile M, Peissel B, Manoukian S, Montagna M, Oliani C, Peixoto A, Teixeira MR, Collavoli A, Hallberg E, Olson JE,

Goode EL, Hart SN, Shimelis H, Cunningham JM, Giles GG, Milne RL, Healey S, Tucker K, Haiman CA, Henderson BE, Goldberg MS, Tischkowitz M, Simard J, Soucy P, Eccles DM, Le N, Borresen-Dale AL, Kristensen V, Salvesen HB, Bjorge L, Bandera EV, Risch H, Zheng W, Beeghly-Fadiel A, Cai H, Pylkäs K, Tollenaar RA, Ouweland AM, Andrulis IL, Knight JA; OCGN, Narod S, Devilee P, Winqvist R, Figueroa J, Greene MH, Mai PL, Loud JT, Garcia-Closas M, Schoemaker MJ, Czene K, Darabi H, McNeish I, Siddiqui N, Glasspool R, Kwong A, Park SK, Teo SH, Yoon SY, Matsuo K, Hosono S, Woo YL, Gao YT, Foretova L, Singer CF, Rappaport-Feurhauser C, Friedman E, Laitman Y, Rennert G, Imyanitov EN, Hulick PJ, Olopade OI, Senter L, Olah E, Doherty JA, Schildkraut J, Koppert LB, Kiemeny LA, Massuger LF, Cook LS, Pejovic T, Li J, Borg A, Öfverholm A, Rossing MA, Wentzensen N, Henriksson K, Cox A, Cross SS, Pasini BJ, Shah M, Kabisch M, Torres D, Jakubowska A, Lubinski J, Gronwald J, Agnarsson BA, Kupryjanczyk J, Moes-Sosnowska J, Fostira F, Konstantopoulou I, Slager S, Jones M; PRestate cancer Association group To Investigate Cancer Associated Alterations in the genome, Antoniou AC, Berchuck A, Swerdlow A, Chenevix-Trench G, Dunning AM, Pharoah PD, Hall P, Easton DF, Couch FJ, Spurdle AB, Goldgar DE : BRCA 2 Polymorphic Stop Codon K3326X and the Risk of Breast, Prostate, and Ovarian Cancers. J Natl Cancer Inst, 108(2), 2016.

- 045 千原 大, 伊藤秀美 : 悪性リンパ腫の疫学/悪性リンパ腫治療マニュアル(改訂第4版); 南江堂; 2015.
- 046 田中英夫 : なぜ子どもの時からがん予防が必要か? . 癌と化学療法, 42: 908-12, 2015.
- 047 谷口千枝, 田中英夫 : 日本での禁煙ホットライン(クイットライン)の展開と、その方向性. 日本公衆衛生雑誌, 62: 125-32, 2015.
- 048 田中英夫 : 膵癌・胆道癌 – 基礎と臨床の最新研究動向 – . 日本臨床, 73:37-41, 2015.
- 049 田中英夫 : 「がん登録推進法」が規定する都道府県がん登録事業における適切な情報の管理とは?. JACR Monograph, 21: 40-7, 2015.
- 050 田中英夫 : 【生活習慣からみたがん発生・予防】個別化がん予防をめざした分子疫学コホート研究. 癌と化学療法, 42: 544-7, 2015.
- 051 尾瀬 功, 伊藤秀美, 松尾恵太郎 : 咽頭癌・食道癌の疫学とリスク因子. 消化器内視鏡, 28: 36-41, 2016.

分子腫瘍学部

- 001 Hikasa H, Sekido Y, Suzuki A : Merlin/NF 2-Lin28B-

let-7 is a tumor-suppressive pathway that is cell-density dependent and Hippo independent. Cell Rep, 14: 2950-61, 2016.

- 002 Nishio M, Sugimachi K, Goto H, Wang J, Morikawa T, Miyachi Y, Takano Y, Hikasa H, Itoh T, Suzuki SO, Kurihara H, Aishima S, Leask A, Sasaki T, Nakano T, Nishina H, Nishikawa Y, Sekido Y, Nakao K, Shinya K, Mimori K, Suzuki A : Dysregulated YAP1/TAZ and TGF- $\beta$  signaling mediate hepatocarcinogenesis in Mob1a/1b-deficient mice. Proc Natl Acad Sci U S A, 113: E71-80, 2016.
- 003 Tanaka K, Hida T, Oya Y, Oguri T, Yoshida T, Shimizu J, Horio Y, Hata A, Kaji R, Fujita S, Sekido Y, Kodaira T, Kokubo M, Katakami N, Yatabe Y : EGFR mutation impact on definitive concurrent chemoradiation therapy for inoperable stage III adenocarcinoma. J Thorac Oncol, 10: 1720-5, 2015.
- 004 Hakiri S, Osada H, Ishiguro F, Murakami H, Murakami-Tonami Y, Yokoi K, Sekido Y : Functional differences between wild-type and mutant-type BRCA1-associated protein 1 tumor suppressor against malignant mesothelioma cells. Cancer Sci, 106: 990-9, 2015.
- 005 Tanahashi K, Natsume A, Ohka F, Motomura K, Alim A, Tanaka I, Senga T, Harada I, Fukuyama R, Sumiyoshi N, Sekido Y, Wakabayashi T : Activation of Yes-associated protein in low-grade meningiomas is regulated by merlin, cell density, and extracellular matrix stiffness. J Neuropathol Exp Neurol, 74: 704-9, 2015.
- 006 Mizuuchi H, Suda K, Sato K, Tomida S, Fujita Y, Kobayashi Y, Maehara Y, Sekido Y, Nishio K, Mitsudomi T : Collateral chemoresistance to anti-microtubule agents in a lung cancer cell line with acquired resistance to Erlotinib. PLoS ONE, 10: e0123901, 2015.
- 007 Nakaguro M, Kiyonari S, Kishida S, Cao D, Murakami-Tonami Y, Ichikawa H, Takeuchi I, Nakamura S, Kadomatsu K : Nucleolar protein PES1 is a marker of neuroblastoma outcome and is associated with neuroblastoma differentiation. Cancer Sci, 106: 237-43, 2015.
- 008 Yamashita R, Sato M, Kakumu T, Hase T, Yogo N, Maruyama E, Sekido Y, Kondo M, Hasegawa Y : Growth inhibitory effects of miR-221 and miR-222 in non-small cell lung cancer cells. Cancer Med, 4: 551-64, 2015.

遺伝子医療研究部

- 001 Sampson JN, Wheeler WA, Yeager M, Panagiotou O, Wang Z, Berndt SI, Lan Q, Abnet CC, Amundadottir LT, Figueroa JD, Landi MT, Mirabello L, Savage SA, Taylor PR, De Vivo I, McGlynn KA, Purdue MP, Rajaraman P, Adami HO, Ahlbom A, Albanes D,

- Amary MF, An SJ, Andersson U, Andriole G Jr, Andrulis IL, Angelucci E, Ansell SM, Arici C, Armstrong BK, Arslan AA, Austin MA, Baris D, Barkauskas DA, Bassig BA, Becker N, Benavente Y, Benhamou S, Berg C, Van Den Berg D, Bernstein L, Bertrand KA, Birmann BM, Black A, Boeing H, Boffetta P, Boutron-Ruault MC, Bracci PM, Brinton L, Brooks-Wilson AR, Bueno-de-Mesquita HB, Burdett L, Buring J, Butler MA, Cai Q, Cancel-Tassin G, Canzian F, Carrato A, Carreon T, Carta A, Chan JK, Chang ET, Chang GC, Chang IS, Chang J, Chang-Claude J, Chen CJ, Chen CY, Chen C, Chen CH, Chen C, Chen H, Chen K, Chen KY, Chen KC, Chen Y, Chen YH, Chen YS, Chen YM, Chien LH, Chirlaque MD, Choi JE, Choi YY, Chow WH, Chung CC, Clavel J, Clavel-Chapelon F, Cocco P, Colt JS, Comperat E, Conde L, Connors JM, Conti D, Cortessis VK, Cotterchio M, Cozen W, Crouch S, Crous-Bou M, Cussenot O, Davis FG, Ding T, Diver WR, Dorronsoro M, Dossus L, Duell EJ, Ennas MG, Erickson RL, Feychting M, Flanagan AM, Foretova L, Fraumeni JF Jr, Freedman ND, Beane Freeman LE, Fuchs C, Gago-Dominguez M, Gallinger S, Gao YT, Gapstur SM, Garcia-Closas M, Garcia-Closas R, Gascoyne RD, Gastier-Foster J, Gaudet MM, Gaziano JM, Giffen C, Giles GG, Giovannucci E, Glimelius B, Goggins M, Gokgoz N, Goldstein AM, Gorlick R, Gross M, Grubb R 3rd, Gu J, Guan P, Gunter M, Guo H, Habermann TM, Haiman CA, Halai D, Hallmans G, Hassan M, Hattinger C, He Q, He X, Helzlsouer K, Henderson B, Henriksson R, Hjalgrim H, Hoffman-Bolton J, Hohensee C, Holford TR, Holly EA, Hong YC, Hoover RN, Horn-Ross PL, Hosain GM, Hosgood HD 3rd, Hsiao CF, Hu N, Hu W, Hu Z, Huang MS, Huerta JM, Hung JY, Hutchinson A, Inskip PD, Jackson RD, Jacobs EJ, Jenab M, Jeon HS, Ji BT, Jin G, Jin L, Johansen C, Johnson A, Jung YJ, Kaaks R, Kamineni A, Kane E, Kang CH, Karagas MR, Kelly RS, Khaw KT, Kim C, Kim HN, Kim JH, Kim JS, Kim YH, Kim YT, Kim YC, Kitahara CM, Klein AP, Klein RJ, Kogevinas M, Kohno T, Kolonel LN, Kooperberg C, Krickler A, Krogh V, Kunitoh H, Kurtz RC, Kweon SS, LaCroix A, Lawrence C, Lecanda F, Lee VH, Li D, Li H, Li J, Li YJ, Li Y, Liao LM, Liebow M, Lightfoot T, Lim WY, Lin CC, Lin D, Lindstrom S, Linet MS, Link BK, Liu C, Liu J, Liu L, Ljungberg B, Lloreta J, Di Lollo S, Lu D, Lund E, Malats N, Mannisto S, Le Marchand L, Marina N, Masala G, Mastrangelo G, Matsuo K, Maynadie M, McKay J, McKean-Cowdin R, Melbye M, Melin BS, Michaud DS, Mitsudomi T, Monnereau A, Montalvan R, Moore LE, Mortensen LM, Nieters A, North KE, Novak AJ, Oberg AL, Offit K, Oh JJ, Olson SH, Palli D, Pao W, Park IK, Park JY, Park KH, Patino-Garcia A, Pavanello S, Peeters PH, Perng RP, Peters U, Petersen GM, Picci P, Pike MC, Porru S, Prescott J, Prokunina-Olsson L, Qian B, Qiao YL, Rais M, Riboli E, Riby J, Risch HA, Rizzato C, Rodabough R, Roman E, Roupert M, Ruder AM, Sanjose S, Scelo G, Schned A, Schumacher F, Schwartz K, Schwenn M, Scottlandi K, Seow A, Serra C, Serra M, Sesso HD, Setiawan VW, Severi G, Severson RK, Shanafelt TD, Shen H, Shen W, Shin MH, Shiraishi K, Shu XO, Siddiq A, Sierrasesumaga L, Sihoe AD, Skibola CF, Smith A, Smith MT, Southey MC, Spinelli JJ, Staines A, Stampfer M, Stern MC, Stevens VL, Stolzenberg-Solomon RS, Su J, Su WC, Sund M, Sung JS, Sung SW, Tan W, Tang W, Tardon A, Thomas D, Thompson CA, Tinker LF, Tirabosco R, Tjonneland A, Travis RC, Trichopoulos D, Tsai F Y, Tsai Y H, Tucker M, Turner J, Vajdic C M, Vermeulen RC, Villano DJ, Vineis P, Virtamo J, Visvanathan K, Wactawski-Wende J, Wang C, Wang CL, Wang JC, Wang J, Wei F, Weiderpass E, Weiner GJ, Weinstein S, Wentzensen N, White E, Witzig TE, Wolpin BM, Wong MP, Wu C, Wu G, Wu J, Wu T, Wu W, Wu X, Wu YL, Wunder JS, Xiang YB, Xu J, Xu P, Yang PC, Yang TY, Ye Y, Yin Z, Yokota J, Yoon HI, Yu CJ, Yu H, Yu K, Yuan JM, Zelenetz A, Zeleniuch-Jacquotte A, Zhang XC, Zhang Y, Zhao X, Zhao Z, Zheng H, Zheng T, Zheng W, Zhou B, Zhu M, Zucca M, Boca SM, Cerhan JR, Ferri GM, Hartge P, Hsiung CA, Magnani C, Miligi L, Morton LM, Smedby KE, Teras LR, Vijai J, Wang SS, Brennan P, Caporaso NE, Hunter DJ, Kraft P, Rothman N, Silverman DT, Slager SL, Chanock SJ, Chatterjee N : Analysis of Heritability and Shared Heritability Based on Genome-Wide Association Studies for Thirteen Cancer Types. *J Natl Cancer Inst*, 107: djv279, 2015.*
- 002 *Fernandez E, Lugo A, Clancy L, Matsuo K, La Vecchia C, Gallus S* : Smoking dependence in 18 European countries: Hard to maintain the hardening hypothesis. *Prev Med*, 81:314-9, 2015.
- 003 *Amankwah EK, Lin HY, Tyrer JP, Lawrenson K, Dennis J, Chornokur G, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Bruinsma F, Bandera EV, Bean YT, Beckmann MW, Bisogna M, Bjorge L, Bogdanova N, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Bunker CH, Butzow R, Campbell IG, Carty K, Chen Z, Chen YA, Chang-Claude J, Cook LS, Cramer DW, Cunningham JM, Cybulski C, Dansonka-Mieszkowska A, du Bois A, Despierre E, Dicks E, Doherty JA, Dork T, Durst M, Easton DF, Eccles DM, Edwards RP, Ekici AB, Fasching PA, Fridley BL, Gao YT, Gentry-Maharaj*



- A, Giles GG, Glasspool R, Goodman MT, Gronwald J, Harrington P, Harter P, Hasmad HN, Hein A, Heitz F, Hildebrandt MA, Hillemanns P, Hogdall CK, Hogdall E, Hosono S, Iversen ES, Jakubowska A, Jensen A, Ji BT, Karlan BY, Jim H, Kellar M, Kiemeny LA, Krakstad C, Kjaer SK, Kupryjanczyk J, Lambrechts D, Lambrechts S, Le ND, Lee AW, Lele S, Leminen A, Lester J, Levine DA, Liang D, Lim BK, Lissowska J, Lu K, Lubinski J, Lundvall L, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, McNeish I, Menon U, Milne RL, Modugno F, Moysich KB, Ness RB, Nevanlinna H, Eilber U, Odunsi K, Olson SH, Orlow I, Orsulic S, Weber RP, Paul J, Pearce CL, Pejovic T, Pelttari LM, Permut-Wey J, Pike MC, Poole EM, Risch HA, Rosen B, Rossing MA, Rothstein JH, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schernhammer E, Schwaab I, Shu XO, Shvetsov YB, Siddiqui N, Sieh W, Song H, Southey MC, Spiewankiewicz B, Sucheston-Campbell L, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Thomsen L, Tangen IL, Tworoger SS, van Altena AM, Vierkant RA, Vergote I, Walsh CS, Wang-Gohrke S, Wentzensen N, Whittemore AS, Wicklund KG, Wilkens LR, Wu AH, Wu X, Woo YL, Yang H, Zheng W, Ziogas A, Kelemen LE, Berchuck A, Schildkraut JM, Ramus SJ, Goode EL, Monteiro AN, Gayther SA, Narod SA, Pharoah PD, Sellers TA, Phelan CM : Epithelial-Mesenchymal Transition (EMT) Gene Variants and Epithelial Ovarian Cancer (EOC) Risk. *Genet Epidemiol*, 39: 689-97, 2015.
- 004 Brenner DR, Amos CI, Brhane Y, Timofeeva MN, Caporaso N, Wang Y, Christiani DC, Bickeboller H, Yang P, Albanes D, Stevens VL, Gapstur S, McKay J, Boffetta P, Zaridze D, Szeszenia-Dabrowska N, Lissowska J, Rudnai P, Fabianova E, Mates D, Bencko V, Foretova L, Janout V, Krokhan HE, Skorpene F, Gabrielsen ME, Vatten L, Njolstad I, Chen C, Goodman G, Lathrop M, Vooder T, Valk K, Nelis M, Metspalu A, Broderick P, Eisen T, Wu X, Zhang D, Chen W, Spitz MR, Wei Y, Su L, Xie D, She J, Matsuo K, Matsuda F, Ito H, Risch A, Heinrich J, Rosenberger A, Muley T, Dienemann H, Field JK, Raji O, Chen Y, Gosney J, Liloglou T, Davies MP, Marcus M, McLaughlin J, Orlow I, Han Y, Li Y, Zong X, Johansson M, Liu G, Tworoger SS, Le Marchand L, Henderson BE, Wilkens LR, Dai J, Shen H, Houlston RS, Landi MT, Brennan P, Hung RJ : Identification of lung cancer histology-specific variants applying Bayesian framework variant prioritization approaches within the TRICL and ILCCO consortia. *Carcinogenesis*, 36: 1314-26, 2015.
- 005 Guo X, Long J, Zeng C, Michailidou K, Ghoussaini M, Bolla MK, Wang Q, Milne RL, Shu XO, Cai Q, Beesley J, Kar SP, Andrulis IL, Anton-Culver H, Arndt V, Beckmann MW, Beeghly-Fadiel A, Benitez J, Blot W, Bogdanova N, Bojesen SE, Brauch H, Brenner H, Brinton L, Broeks A, Bruning T, Burwinkel B, Cai H, Canisius S, Chang-Claude J, Choi JY, Couch FJ, Cox A, Cross SS, Czene K, Darabi H, Devilee P, Droit A, Dork T, Fasching PA, Fletcher O, Flyger H, Fostira F, Gaborieau V, Garcia-Closas M, Giles GG, Grip M, Guenel P, Haiman CA, Hamann U, Hartman M, Hollestelle A, Hopper JL, Hsiung CN, Ito H, Jakubowska A, Johnson N, Kabisch M, Kang D, Khan S, Knight JA, Kosma VM, Lambrechts D, Le Marchand L, Li J, Lindblom A, Lophatananon A, Lubinski J, Mannermaa A, Manoukian S, Margolin S, Marme F, Matsuo K, McLean CA, Meindl A, Muir K, Neuhausen SL, Nevanlinna H, Nord S, Olson JE, Orr N, Peterlongo P, Putti TC, Rudolph A, Sangrajrang S, Sawyer EJ, Schmidt MK, Schmutzler RK, Shen CY, Shi J, Shrubsole MJ, Southey MC, Swerdlow A, Teo SH, Thienpont B, Toland AE, Tollenaar RA, Tomlinson IP, Truong T, Tseng CC, Van den Ouweland A, Wen W, Winqvist R, Wu A, Yip CH, Zamora MP, Zheng Y, Hall P, Pharoah PD, Simard J, Chenevix-Trench G, Dunning AM, Easton DF, Zheng W : Fine-scale mapping of the 4q24 locus identifies two independent loci associated with breast cancer risk. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 24: 1680-91, 2015.
- 006 Huang R, Wei Y, Hung RJ, Liu G, Su L, Zhang R, Zong X, Zhang ZF, Morgenstern H, Bruske I, Heinrich J, Hong YC, Kim JH, Cote M, Wenzlaff A, Schwartz AG, Stucker I, McLaughlin J, Marcus MW, Davies MP, Liloglou T, Field JK, Matsuo K, Barnett M, Thornquist M, Goodman G, Wang Y, Chen S, Yang P, Duell EJ, Andrew AS, Lazarus P, Muscat J, Woll P, Horsman J, Dawn Teare M, Flugelman A, Rennert G, Zhang Y, Brenner H, Stegmaier C, Van der Heijden EH, Aben K, Kiemeny L, Barros-Dios J, Perez-Rios M, Ruano-Ravina A, Caporaso NE, Bertazzi PA, Landi MT, Dai J, Shen H, Fernandez-Tardon G, Rodriguez-Suarez M, Tardon, Christiani DC : Associated Links Among Smoking, Chronic Obstructive Pulmonary Disease, and Small Cell Lung Cancer: A Pooled Analysis in the International Lung Cancer Consortium. *EBioMedicine*, 2: 1677-1685, 2015.
- 007 Lawrenson K, Iversen ES, Tyrer J, Weber RP, Concannon P, Hazelett DJ, Li Q, Marks JR, Berchuck A, Lee JM, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Bandera EV, Bean Y, Beckmann MW, Bisogna M, Bjorge L, Bogdanova N, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Bruinsma F, Butzow R, Campbell IG, Carty K,

- Chang-Claude J, Chenevix-Trench G, Chen A, Chen Z, Cook LS, Cramer DW, Cunningham JM, Cybulski C, Plisiecka-Halasa J, Dennis J, Dicks E, Doherty JA, Dork T, Du Bois A, Eccles D, Easton DT, Edwards RP, Eilber U, Ekici AB, Fasching PA, Fridley BL, Gao YT, Gentry-Maharaj A, Giles GG, Glasspool R, Goode EL, Goodman MT, Gronwald J, Harter P, Hasmad HN, Hein A, Heitz F, Hildebrandt MA, Hillemanns P, Hogdall E, Hogdall C, Hosono S, Jakubowska A, Paul J, Jensen A, Karlan BY, Kjaer SK, Kelemen LE, Kellar M, Kelley JL, Kiemenev LA, Krakstad C, Lambrechts D, Lambrechts S, Le ND, Lee AW, Cannioto R, Leminen A, Lester J, Levine DA, Liang D, Lissowska J, Lu K, Lubinski J, Lundvall L, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, Nevanlinna H, McNeish I, Menon U, Modugno F, Moysich KB, Narod SA, Nedergaard L, Ness RB, Noor Azmi MA, Odunsi K, Olson SH, Orlow I, Orsulic S, Pearce CL, Pejovic T, Pelttari LM, Permuth-Wey J, Phelan CM, Pike MC, Poole EM, Ramus SJ, Risch HA, Rosen B, Rossing MA, Rothstein JH, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Budzilowska A, Sellers TA, Shu XO, Shvetsov YB, Siddiqui N, Sieh W, Song H, Southey MC, Sucheston L, Tangen IL, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Timorek A, Tworoger SS, Van Nieuwenhuysen E, Vergote I, Vierkant RA, Wang-Gohrke S, Walsh C, Wentzensen N, Whittemore AS, Wicklund KG, Wilkens LR, Woo YL, Wu X, Wu AH, Yang H, Zheng W, Ziogas A, Coetzee GA, Freedman ML, Monteiro AN, Moes-Sosnowska J, Kupryjanczyk J, Pharoah PD, Gayther SA, Schildkraut JM : Common variants at the CHEK2 gene locus and risk of epithelial ovarian cancer. *Carcinogenesis*, 36: 1341-53, 2015.
- 008 Kar SP, Tyrer JP, Li Q, Lawrenson K, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Chenevix-Trench G, Baker H, Bandera EV, Bean YT, Beckmann MW, Berchuck A, Bisogna M, Bjorge L, Bogdanova N, Brinton L, Brooks-Wilson A, Butzow R, Campbell I, Carty K, Chang-Claude J, Chen YA, Chen Z, Cook LS, Cramer D, Cunningham JM, Cybulski C, Dansonka-Mieszkowska A, Dennis J, Dicks E, Doherty JA, Dork T, du Bois A, Durst M, Eccles D, Easton DF, Edwards RP, Ekici AB, Fasching PA, Fridley BL, Gao YT, Gentry-Maharaj A, Giles GG, Glasspool R, Goode EL, Goodman MT, Gronwald J, Harrington P, Harter P, Hein A, Heitz F, Hildebrandt MA, Hillemanns P, Hogdall E, Hogdall CK, Hosono S, Iversen ES, Jakubowska A, Paul J, Jensen A, Ji BT, Karlan BY, Kjaer SK, Kelemen LE, Kellar M, Kelley J, Kiemenev LA, Krakstad C, Kupryjanczyk J, Lambrechts D, Lambrechts S, Le ND, Lee AW, Lele S, Leminen A, Lester J, Levine DA, Liang D, Lissowska J, Lu K, Lubinski J, Lundvall L, Massuger L, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, Nevanlinna H, McNeish IA, Menon U, Modugno F, Moysich KB, Narod SA, Nedergaard L, Ness RB, Odunsi K, Olson SH, Orlow I, Orsulic S, Weber RP, Pearce CL, Pejovic T, Pelttari LM, Permuth-Wey J, Phelan CM, Pike MC, Poole EM, Ramus SJ, Risch HA, Rosen B, Rossing MA, Rothstein JH, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schildkraut JM, Schwaab I, Shu XO, Shvetsov YB, Siddiqui N, Sieh W, Song H, Southey MC, Sucheston-Campbell LE, Tangen IL, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Timorek A, Tsai YY, Tworoger SS, van Altena AM, Van Nieuwenhuysen E, Vergote I, Vierkant RA, Wang-Gohrke S, Walsh C, Wentzensen N, Whittemore AS, Wicklund KG, Wilkens LR, Woo YL, Wu X, Wu A, Yang H, Zheng W, Ziogas A, Sellers TA, Monteiro AN, Freedman ML, Gayther SA, Pharoah PD : Network-Based Integration of GWAS and Gene Expression Identifies a HOX-Centric Network Associated with Serous Ovarian Cancer Risk. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*, 24: 1574-84, 2015.
- 009 Kashino I, Mizoue T, Tanaka K, Tsuji I, Tamakoshi A, Matsuo K, Wakai K, Nagata C, Inoue M, Tsugane S, Sasazuki S : Vegetable consumption and colorectal cancer risk: an evaluation based on a systematic review and meta-analysis among the Japanese population. *Jpn J Clin Oncol*, 45: 973-9, 2015.
- 010 Nomoto H, Takami A, Espinoza JL, Matsuo K, Mizuno S, Onizuka M, Kashiwase K, Morishima Y, Fukuda T, Kodera Y, Doki N, Miyamura K, Mori T, Nakao S, Ohtake S, Morishita E : Erratum to: A donor thrombomodulin gene variation predicts graft-versus-host disease development and mortality after bone marrow transplantation. *Int J Hematol*, 102: 507-8, 2015.
- 011 Nomoto H, Takami A, Espinoza JL, Matsuo K, Mizuno S, Onizuka M, Kashiwase K, Morishima Y, Fukuda T, Kodera Y, Doki N, Miyamura K, Mori T, Nakao S, Ohtake S, Morishita E : A donor thrombomodulin gene variation predicts graft-versus-host disease development and mortality after bone marrow transplantation. *Int J Hematol*, 102: 460-70, 2015.
- 012 Yoshida N, Tsuzuki S, Karube K, Takahara T, Suguro M, Miyoshi H, Nishikori M, Shimoyama M, Tsukasaki K, Ohshima K, Seto M : STX11 functions as a novel tumor suppressor gene in peripheral T-cell lymphomas. *Cancer Sci*, 106: 1455-62, 2015.
- 013 Soh J, Toyooka S, Matsuo K, Yamamoto H, Wistuba II, Lam S, Fong KM, Gazdar AF, Miyoshi S : Ethnicity affects and gene alterations of lung adenocarcinoma. *Oncol Lett*, 10: 1775-1782, 2015.

- 014 *Sugita J, Kawashima N, Fujisaki T, Kakihana K, Ota S, Matsuo K, Miyamoto T, Akashi K, Taniguchi S, Harada M, Teshima T* : HLA-Haploidentical Peripheral Blood Stem Cell Transplantation with Post-Transplant Cyclophosphamide after Busulfan-Containing Reduced-Intensity Conditioning. *Biol Blood Marrow Transplant*, 21: 1646-52, 2015.
- 015 *Wakai K, Sugawara Y, Tsuji I, Tamakoshi A, Shimazu T, Matsuo K, Nagata C, Mizoue T, Tanaka K, Inoue M, Tsugane S, Sasazuki S* : Risk of lung cancer and consumption of vegetables and fruit in Japanese: A pooled analysis of cohort studies in Japan. *Cancer Sci*, 106: 1057-65, 2015.
- 016 *Edefonti V, Hashibe M, Parpinel M, Turati F, Serraino D, Matsuo K, Olshan AF, Zevallos JP, Winn DM, Moysich K, Zhang ZF, Morgenstern H, Levi F, Kelsey K, McClean M, Bosetti C, Galeone C, Schantz S, Yu GP, Boffetta P, Amy Lee YC, Chuang SC, La Vecchia C, Decarli A* : Natural vitamin C intake and the risk of head and neck cancer: A pooled analysis in the International Head and Neck Cancer Epidemiology Consortium. *Int J Cancer*, 137: 448-62, 2015.
- 017 *Machiela MJ, Hsiung CA, Shu XO, Seow WJ, Wang Z, Matsuo K, Hong YC, Seow A, Wu C, Hosgood HD 3rd, Chen K, Wang JC, Wen W, Cawthon R, Chatterjee N, Hu W, Caporaso NE, Park JY, Chen CJ, Kim YH, Kim YT, Landi MT, Shen H, Lawrence C, Burdett L, Yeager M, Chang IS, Mitsudomi T, Kim HN, Chang GC, Bassig BA, Tucker M, Wei F, Yin Z, An SJ, Qian B, Lee VH, Lu D, Liu J, Jeon HS, Hsiao CF, Sung JS, Kim JH, Gao YT, Tsai YH, Jung YJ, Guo H, Hu Z, Hutchinson A, Wang WC, Klein RJ, Chung CC, Oh IJ, Chen KY, Berndt SI, Wu W, Chang J, Zhang XC, Huang MS, Zheng H, Wang J, Zhao X, Li Y, Choi JE, Su WC, Park KH, Sung SW, Chen YM, Liu L, Kang CH, Hu L, Chen CH, Pao W, Kim YC, Yang TY, Xu J, Guan P, Tan W, Su J, Wang CL, Li H, Sihoe AD, Zhao Z, Chen Y, Choi YY, Hung JY, Kim JS, Yoon HI, Cai Q, Lin CC, Park IK, Xu P, Dong J, Kim C, He Q, Perng RP, Kohno T, Kweon SS, Chen CY, Vermeulen RC, Wu J, Lim WY, Chen KC, Chow WH, Ji BT, Chan JK, Chu M, Li YJ, Yokota J, Li J, Chen H, Xiang YB, Yu CJ, Kunitoh H, Wu G, Jin L, Lo YL, Shiraishi K, Chen YH, Lin HC, Wu T, Wong MP, Wu YL, Yang PC, Zhou B, Shin MH, Fraumeni JF Jr, Zheng W, Lin D, Chanock SJ, Rothman Nand Lan Q* : Genetic variants associated with longer telomere length are associated with increased lung cancer risk among never-smoking women in Asia: a report from the female lung cancer consortium in Asia. *Int J Cancer*, 137: 311-9, 2015.
- 018 *Darabi H, McCue K, Beesley J, Michailidou K, Nord S, Kar S, Humphreys K, Thompson D, Ghousaini M, Bolla MK, Dennis J, Wang Q, Canisius S, Scott CG, Apicella C, Hopper JL, Southey MC, Stone J, Broeks A, Schmidt MK, Scott RJ, Lophatananon A, Muir K, Beckmann MW, Ekici AB, Fasching PA, Heusinger K, Dos-Santos-Silva I, Peto J, Tomlinson I, Sawyer EJ, Burwinkel B, Marme F, Guenel P, Truong T, Bojesen SE, Flyger H, Benitez J, Gonzalez-Neira A, Anton-Culver H, Neuhausen SL, Arndt V, Brenner H, Engel C, Meindl A, Schmutzler RK, Arnold N, Brauch H, Hamann U, Chang-Claude J, Khan S, Nevanlinna H, Ito H, Matsuo K, Bogdanova NV, Dork T, Lindblom A, Margolin S, Kosma VM, Mannermaa A, Tseng CC, Wu AH, Floris G, Lambrechts D, Rudolph A, Peterlongo P, Radice P, Couch FJ, Vachon C, Giles GG, McLean C, Milne RL, Dugue PA, Haiman CA, Maskarinec G, Woolcott C, Henderson BE, Goldberg MS, Simard J, Teo SH, Mariapun S, Helland A, Haakensen V, Zheng W, Beeghly-Fadiel A, Tamimi R, Jukkola-Vuorinen A, Winqvist R, Andrulis IL, Knight JA, Devilee P, Tollenaar RA, Figueroa J, Garcia-Closas M, Czene K, Hooning MJ, Tilanus-Linthorst M, Li J, Gao YT, Shu XO, Cox A, Cross SS, Luben R, Khaw KT, Choi JY, Kang D, Hartman M, Lim WY, Kabisch M, Torres D, Jakubowska A, Lubinski J, McKay J, Sangrajrang S, Toland AE, Yannoukakos D, Shen CY, Yu JC, Ziogas A, Schoemaker MJ, Swerdlow A, Borresen-Dale AL, Kristensen V, French JD, Edwards SL, Dunning AM, Easton DF, Hall P, Chenevix-Trench G* : Polymorphisms in a Putative Enhancer at the 10q21.2 Breast Cancer Risk Locus Regulate NRBF2 Expression. *Am J Hum Genet*, 97: 22-34, 2015.
- 019 *Chornokur G, Lin HY, Tyrer JP, Lawrenson K, Dennis J, Amankwah EK, Qu X, Tsai YY, Jim HS, Chen Z, Chen AY, Permuth-Wey J, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Bruinsma F, Bandera EV, Bean YT, Beckmann MW, Bisogna M, Borge L, Bogdanova N, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Bunker CH, Butzow R, Campbell IG, Carty K, Chang-Claude J, Cook LS, Cramer DW, Cunningham JM, Cybulski C, Dansonka-Mieszkowska A, Du Bois A, Despiere E, Dicks E, Doherty JA, Dork T, Durst M, Easton DF, Eccles DM, Edwards RP, Ekici AB, Fasching PA, Fridley BL, Gao YT, Gentry-Maharaj A, Giles GG, Glasspool R, Goodman MT, Gronwald J, Harrington P, Harter P, Hein A, Heitz F, Hildebrandt MA, Hillemanns P, Hogdall CK, Hogdall E, Hosono S, Jakubowska A, Jensen A, Ji BT, Karlan BY, Kelemen LE, Kellar M, Kiemeny LA, Krakstad C, Kjaer SK, Kupryjanczyk J, Lambrechts D, Lambrechts S, Le ND, Lee AW, Lele S, Leminen A, Lester J, Levine*



- DA, Liang D, Lim BK, Lissowska J, Lu K, Lubinski J, Lundvall L, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, McNeish I, Menon U, Milne RL, Modugno F, Moysich KB, Ness RB, Nevanlinna H, Eilber U, Odunsi K, Olson SH, Orlow I, Orsulic S, Weber RP, Paul J, Pearce CL, Pejovic T, Pelttari LM, Pike MC, Poole EM, Risch HA, Rosen B, Rossing MA, Rothstein JH, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schernhammer E, Schwaab I, Shu XO, Shvetsov YB, Siddiqui N, Sieh W, Song H, Southey MC, Spiewankiewicz B, Sucheston L, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Thomsen L, Tangen IL, Tworoger SS, van Altena AM, Vierkant RA, Vergote I, Walsh CS, Wang-Gohrke S, Wentzensen N, Whittemore AS, Wicklund KG, Wilkens LR, Wu AH, Wu X, Woo YL, Yang H, Zheng W, Ziogas A, Hasmad HN, Berchuck A, Iversen ES, Schildkraut JM, Ramus SJ, Goode EL, Monteiro AN, Gayther SA, Narod SA, Pharoah PD, Sellers TA, Phelan CM : Common Genetic Variation In Cellular Transport Genes and Epithelial Ovarian Cancer (EOC) Risk. *PLoS One*, 10: e0128106, 2015.
- 020 Lawrenson K, Li Q, Kar S, Seo JH, Tyrer J, Spindler TJ, Lee J, Chen Y, Karst A, Drapkin R, Aben KK, Anton-Culver H, Antonenkova N, Baker H, Bandera EV, Bean Y, Beckmann MW, Berchuck A, Bisogna M, Bjorge L, Bogdanova N, Brinton LA, Brooks-Wilson A, Bruinsma F, Butzow R, Campbell IG, Carty K, Chang-Claude J, Chenevix-Trench G, Chen A, Chen Z, Cook LS, Cramer DW, Cunningham JM, Cybulski C, Dansonka-Mieszkowska A, Dennis J, Dicks E, Doherty JA, Dork T, Du Bois A, Durst M, Eccles D, Easton DT, Edwards RP, Eilber U, Ekici AB, Fasching PA, Fridley BL, Gao YT, Gentry-Maharaj A, Giles GG, Glasspool R, Goode EL, Goodman MT, Grownwald J, Harrington P, Harter P, Hasmad HN, Hein A, Heitz F, Hildebrandt MA, Hillemanns P, Hogdall E, Hogdall C, Hosono S, Iversen ES, Jakubowska A, James P, Jensen A, Ji BT, Karlan BY, Kruger Kjaer S, Kelemen LE, Kellar M, Kelley JL, Kiemeny LA, Krakstad C, Kupryjanczyk J, Lambrechts D, Lambrechts S, Le ND, Lee AW, Lele S, Leminen A, Lester J, Levine DA, Liang D, Lissowska J, Lu K, Lubinski J, Lundvall L, Massuger LF, Matsuo K, McGuire V, McLaughlin JR, Nevanlinna H, McNeish I, Menon U, Modugno F, Moysich KB, Narod SA, Nedergaard L, Ness RB, Azmi MA, Odunsi K, Olson SH, Orlow I, Orsulic S, Weber RP, Pearce CL, Pejovic T, Pelttari LM, Permuth-Wey J, Phelan CM, Pike MC, Poole EM, Ramus SJ, Risch HA, Rosen B, Rossing MA, Rothstein JH, Rudolph A, Runnebaum IB, Rzepecka IK, Salvesen HB, Schildkraut JM, Schwaab I, Sellers TA, Shu XO, Shvetsov YB, Siddiqui N, Sieh W, Song H, Southey MC, Sucheston L, Tangen IL, Teo SH, Terry KL, Thompson PJ, Timorek A, Tsai YY, Tworoger SS, Van Altena AM, Van Nieuwenhuysen E, Vergote I, Vierkant RA, Wang-Gohrke S, Walsh C, Wentzensen N, Whittemore AS, Wicklund KG, Wilkens LR, Woo YL, Wu X, Wu AH, Yang H, Zheng W, Ziogas A, Monteiro A, Pharoah PD, Gayther SA, Freedman ML : Cis-eQTL analysis and functional validation of candidate susceptibility genes for high-grade serous ovarian cancer. *Nat Commun*, 6: 8234, 2015.
- 021 Lei J, Rudolph A, Moysich KB, Rafiq S, Behrens S, Goode EL, Pharoah PP, Seibold P, Fasching PA, Andrulis IL, Kristensen VN, Couch FJ, Hamann U, Hooning MJ, Nevanlinna H, Eilber U, Bolla MK, Dennis J, Wang Q, Lindblom A, Mannermaa A, Lambrechts D, Garcia-Closas M, Hall P, Chenevix-Trench G, Shah M, Luben R, Haeberle L, Ekici AB, Beckmann MW, Knight JA, Glendon G, Tchatchou S, Alnaes GI, Borresen-Dale AL, Nord S, Olson JE, Hallberg E, Vachon C, Torres D, Ulmer HU, Rudiger T, Jager A, van Deurzen CH, Tilanus-Linthorst MM, Muranen TA, Aittomaki K, Blomqvist C, Margolin S, Kosma VM, Hartikainen JM, Kataja V, Hatse S, Wildiers H, Smeets A, Figueroa J, Chanock SJ, Lissowska J, Li J, Humphreys K, Phillips KA, Linn S, Cornelissen S, Van den Broek SA, Kang D, Choi JY, Park SK, Yoo KY, Hsiung CN, Wu PE, Hou MF, Shen CY, Teo SH, Taib NA, Yip CH, Ho GF, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Tajima K, Dunning AM, Benitez J, Czene K, Sucheston LE, Maishman T, Tapper WJ, Eccles D, Easton DF, Schmidt MK, Chang-Claude J : Assessment of variation in immunosuppressive pathway genes reveals TGFBR2 to be associated with prognosis of estrogen receptor-negative breast cancer after chemotherapy. *Breast Cancer Res*, 17: 18, 2015.
- 022 Schumacher FR, Schmit SL, Jiao S, Edlund CK, Wang H, Zhang B, Hsu L, Huang SC, Fischer CP, Harju JF, Idos GE, Lejbkiewicz F, Manion FJ, McDonnell K, McNeil CE, Melas M, Rennert HS, Shi W, Thomas DC, Van Den Berg DJ, Hutter CM, Aragaki AK, Butterbach K, Caan BJ, Carlson CS, Chanock SJ, Curtis KR, Fuchs CS, Gala M, Giovannucci EL, Gogarten SM, Hayes RB, Henderson B, Hunter DJ, Jackson RD, Kolonel LN, Kooperberg C, Kury S, LaCroix A, Laurie CC, Laurie CA, Lemire M, Levine D, Ma J, Makar KW, Qu C, Taverna D, Ulrich CM, Wu K, Kono S, West DW, Berndt SI, Bezieau S, Brenner H, Campbell PT, Chan AT, Chang-Claude J, Coetzee GA, Conti DV, Duggan D, Figueiredo JC, Fortini BK, Gallinger SJ, Gauderman

- WJ, Giles G, Green R, Haile R, Harrison TA, Hoffmeister M, Hopper JL, Hudson TJ, Jacobs E, Iwasaki M, Jee SH, Jenkins M, Jia WH, Joshi A, Li L, Lindor NM, Matsuo K, Moreno V, Mukherjee B, Newcomb PA, Potter JD, Raskin L, Rennert G, Rosse S, Severi G, Schoen RE, Seminara D, Shu XO, Slattery ML, Tsugane S, White E, Xiang YB, Zanke BW, Zheng W, Le Marchand L, Casey G, Gruber SB, Peters U : Genome-wide association study of colorectal cancer identifies six new susceptibility loci. *Nat Commun*, 6 : 7138, 2015.
- 023 Ueno M, Ohkawa S, Morimoto M, Ishii H, Matsuyama M, Kuruma S, Egawa N, Nakao H, Mori M, Matsuo K, Hosono S, Nojima M, Wakai K, Nakamura K, Tamakoshi A, Takahashi M, Shimada K, Nishiyama T, Kikuchi S, Lin Y : Genome-wide association study-identified SNPs (rs3790844, rs3790843) in the NR5A2 gene and risk of pancreatic cancer in Japanese. *Sci Rep*, 5 : 17018, 2015.
- 024 Nakane H, Hirano M, Ito H, Hosono S, Oze I, Matsuda F, Tanaka H, Matsuo K : Impact of metallothionein gene polymorphisms on the risk of lung cancer in a Japanese population. *Mol Carcinog*. 54 Suppl 1 : E122-128, 2015.
- 025 Zhang R, Liu TY, Senju S, Haruta M, Hirosawa N, Suzuki M, Tatsumi M, Ueda N, Maki H, Nakatsuka R, Matsuoka Y, Sasaki Y, Tsuzuki S, Nakanishi H, Araki R, Abe M, Akatsuka Y, Sakamoto Y, Sonoda Y, Nishimura Y, Kuzushima K, Uemura Y : Generation of mouse pluripotent stem cell-derived proliferating myeloid cells as an unlimited source of functional antigen-presenting cells. *Cancer Immunol Res*, 3 : 668-77, 2015.
- 026 Delahaye-Sourdeix M, Anantharaman D, Timofeeva MN, Gaborieau V, Chabrier A, Vallee MP, Lagiou P, Holcatova I, Richiardi L, Kjaerheim K, Agudo A, Castellsague X, Macfarlane TV, Barzan L, Canova C, Thakker NS, Conway DI, Znaor A, Healy CM, Ahrens W, Zaridze D, Szeszenia-Dabrowska N, Lissowska J, Fabianova E, Mates IN, Bencko V, Foretova L, Janout V, Curado MP, Koifman S, Menezes A, Wunsch-Filho V, Eluf-Neto J, Boffetta P, Fernandez Garrote L, Polesel J, Lener M, Jaworowska E, Lubinski J, Boccia S, Rajkumar T, Samant TA, Mahimkar MB, Matsuo K, Franceschi S, Byrnes G, Brennan P, McKay JD : A rare truncating BRCA2 variant and genetic susceptibility to upper aerodigestive tract cancer. *J Natl Cancer Inst*, 107(5) : 2015.
- 027 Fukumoto K, Ito H, Matsuo K, Tanaka H, Yokoi K, Tajima K, Takezaki T : Cigarette smoke inhalation and risk of lung cancer: a case-control study in a large Japanese population. *Eur J Cancer Prev*, 24: 195-200, 2015.
- 028 Orr N, Dudbridge F, Dryden N, Maguire S, Novo D, Perrakis E, Johnson N, Ghossaini M, Hopper JL, Southey MC, Apicella C, Stone J, Schmidt MK, Broeks A, Van't Veer LJ, Hogervorst FB, Fasching PA, Haeberle L, Ekici AB, Beckmann MW, Gibson L, Aitken Z, Warren H, Sawyer E, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Burwinkel B, Marme F, Schneeweiss A, Sohn C, Guenel P, Truong T, Cordina-Duverger E, Sanchez M, Bojesen SE, Nordestgaard BG, Nielsen SF, Flyger H, Benitez J, Zamora MP, Arias Perez JJ, Menendez P, Anton-Culver H, Neuhausen SL, Brenner H, Dieffenbach AK, Arndt V, Stegmaier C, Hamann U, Brauch H, Justenhoven C, Bruning T, Ko YD, Nevanlinna H, Aittomaki K, Blomqvist C, Khan S, Bogdanova N, Dork T, Lindblom A, Margolin S, Mannermaa A, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM, Chenevix-Trench G, Beesley J, Lambrechts D, Moisse M, Floris G, Beuselinck B, Chang-Claude J, Rudolph A, Seibold P, Flesch-Janys D, Radice P, Peterlongo P, Peissel B, Pensotti V, Couch FJ, Olson JE, Slettedahl S, Vachon C, Giles GG, Milne RL, McLean C, Haiman CA, Henderson BE, Schumacher F, Le Marchand L, Simard J, Goldberg MS, Labreche F, Dumont M, Kristensen V, Alnaes GG, Nord S, Borresen-Dale AL, Zheng W, Deming-Halverson S, Shrubsole M, Long J, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Grip M, Andrulis IL, Knight JA, Glendon G, Tchatchou S, Devilee P, Tollenaar RA, Seynaeve CM, Van Asperen CJ, Garcia-Closas M, Figueroa J, Chanock SJ, Lissowska J, Czene K, Darabi H, Eriksson M, Klevebring D, Hooning MJ, Hollestelle A, Van Deurzen CH, Kriege M, Hall P, Li J, Liu J, Humphreys K, Cox A, Cross SS, Reed MW, Pharoah PD, Dunning AM, Shah M, Perkins BJ, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska-Bieniek K, Durda K, Ashworth A, Swerdlow A, Jones M, Schoemaker MJ, Meindl A, Schmutzler RK, Olsowd C, Slager S, Toland AE, Yannoukakis D, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Ishiguro J, Wu AH, Tseng CC, Van Den Berg D, Stram DO, Teo SH, Yip CH, Kang P, Ikram MK, Shu XO, Lu W, Gao YT, Cai H, Kang D, Choi JY, Park SK, Noh DY, Hartman M, Miao H, Lim WY, Lee SC, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Wu PE, Hou MF, Yu JC, Shen CY, Blot W, Cai Q, Signorello LB, Luccarini C, Bayes C, Ahmed S, Maranian M, Healey CS, Gonzalez-Neira A, Pita G, Alonso MR, Alvarez N, Herrero D, Tessier DC, Vincent D, Bacot F, Hunter DJ, Lindstrom S, Dennis J, Michailidou K, Bolla MK, Easton DF, dos Santos Silva I, Fletcher O, Peto J : Fine-mapping identifies two additional breast cancer susceptibility loci at 9q31.2. *Hum Mol Genet*, 24: 2966-

- 029 *Michailidou K, Beesley J, Lindstrom S, Canisius S, Dennis J, Lush MJ, Maranian MJ, Bolla MK, Wang Q, Shah M, Perkins BJ, Czene K, Eriksson M, Darabi H, Brand JS, Bojesen SE, Nordestgaard BG, Flyger H, Nielsen SF, Rahman N, Turnbull C, Fletcher O, Peto J, Gibson L, dos-Santos-Silva I, Chang-Claude J, Flesch-Janys D, Rudolph A, Eilber U, Behrens S, Nevanlinna H, Muranen TA, Aittomaki K, Blomqvist C, Khan S, Aaltonen K, Ahsan H, Kibriya MG, Whittemore AS, John EM, Malone KE, Gammon MD, Santella RM, Ursin G, Makalic E, Schmidt DF, Casey G, Hunter DJ, Gapstur SM, Gaudet MM, Diver WR, Haiman CA, Schumacher F, Henderson BE, Le Marchand L, Berg CD, Chanock SJ, Figueroa J, Hoover RN, Lambrechts D, Neven P, Wildiers H, Van Limbergen E, Schmidt MK, Broeks A, Verhoef S, Cornelissen S, Couch FJ, Olson JE, Hallberg E, Vachon C, Waisfisz Q, Meijers-Heijboer H, Adank MA, Van der Luijt RB, Li J, Liu J, Humphreys K, Kang D, Choi JY, Park SK, Yoo KY, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Tajima K, Guenel P, Truong T, Mulot C, Sanchez M, Burwinkel B, Marme F, Surowy H, Sohn C, Wu AH, Tseng CC, Van Den Berg D, Stram DO, Gonzalez-Neira A, Benitez J, Zamora MP, Perez JL, Shu XO, Lu W, Gao YT, Cai H, Cox A, Cross SS, Reed MW, Andrulis IL, Knight JA, Glendon G, Mulligan AM, Sawyer EJ, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Lindblom A, Margolin S, Teo SH, Yip CH, Taib NA, Tan GH, Hooning MJ, Hollestelle A, Martens JW, Collee JM, Blot W, Signorello LB, Cai Q, Hopper JL, Southey MC, Tsimiklis H, Apicella C, Shen CY, Hsiung CN, Wu PE, Hou MF, Kristensen VN, Nord S, Alnaes GI, Giles GG, Milne RL, McLean C, Canzian F, Trichopoulos D, Peeters P, Lund E, Sund M, Khaw KT, Gunter MJ, Palli D, Mortensen LM, Dossus L, Huerta JM, Meindl A, Schmutzler RK, Sutter C, Yang R, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Hartman M, Miao H, Chia KS, Chan CW, Fasching PA, Hein A, Beckmann MW, Haerle L, Brenner H, Dieffenbach AK, Arndt V, Stegmaier C, Ashworth A, Orr N, Schoemaker MJ, Swerdlow AJ, Brinton L, Garcia-Closas M, Zheng W, Halverson SL, Shrubsole M, Long J, Goldberg MS, Labreche F, Dumont M, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Grip M, Brauch H, Hamann U, Bruning T, Radice P, Peterlongo P, Manoukian S, Bernard L, Bogdanova NV, Dork T, Mannermaa A, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM, Devilee P, Tollenaar RA, Seynaeve C, Van Asperen CJ, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska K, Huzarski T, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Slager S, Toland AE, Ambrosone CB, Yannoukakis D, Kabisch M, Torres D, Neuhausen SL, Anton-Culver H, Luccarini C, Baynes C, Ahmed S, Healey CS, Tessier DC, Vincent D, Bacot F, Pita G, Alonso MR, Alvarez N, Herrero D, Simard J, Pharoah PP, Kraft P, Dunning AM, Chenevix-Trench G, Hall P, Easton DF* : Genome-wide association analysis of more than 120,000 individuals identifies 15 new susceptibility loci for breast cancer. *Nat Genet*, 47: 373-80, 2015.
- 030 *Toporcov TN, Znaor A, Zhang ZF, Yu GP, Winn DM, Wei Q, Vilensky M, Vaughan T, Thomson P, Talamini R, Szeszenia-Dabrowska N, Sturgis EM, Smith E, Shangina O, Schwartz SM, Schantz S, Rudnai P, Richiardi L, Ramroth H, Purdue MP, Olshan AF, Eluf-Neto J, Muscat J, Moyses RA, Morgenstern H, Menezes A, McClean M, Matsuo K, Mates D, Macfarlane TV, Lissowska J, Levi F, Lazarus P, La Vecchia C, Laggiou P, Koifman S, Kjaerheim K, Kelsey K, Holcatova I, Herrero R, Healy C, Hayes RB, Franceschi S, Fernandez L, Fabianova E, Daudt AW, Curioni OA, Maso LD, Curado MP, Conway DI, Chen C, Castellsague X, Canova C, Cadoni G, Brennan P, Boccia S, Antunes JL, Ahrens W, Agudo A, Boffetta P, Hashibe M, Lee YC, Filho VW* : Risk factors for head and neck cancer in young adults: a pooled analysis in the INHANCE consortium. *Int J Epidemiol*, 44: 169-85, 2015.
- 031 *Kadowaki S, Kakuta M, Takahashi S, Takahashi A, Arai Y, Nishimura Y, Yatsuoka T, Ooki A, Yamaguchi K, Matsuo K, Muro K, Akagi K* : Prognostic value of KRAS and BRAF mutations in curatively resected colorectal cancer. *World J Gastroenterol*, 21: 1275-83, 2015.
- 032 *Glubb DM, Maranian MJ, Michailidou K, Pooley KA, Meyer KB, Kar S, Carlebur S, O'Reilly M, Betts JA, Hillman KM, Kaufmann S, Beesley J, Canisius S, Hopper JL, Southey MC, Tsimiklis H, Apicella C, Schmidt MK, Broeks A, Hogervorst FB, Van der Schoot CE, Muir K, Lophatananon A, Stewart-Brown S, Siriwanarangsana P, Fasching PA, Ruebner M, Ekici AB, Beckmann MW, Peto J, Dos-Santos-Silva I, Fletcher O, Johnson N, Pharoah PD, Bolla MK, Wang Q, Dennis J, Sawyer EJ, Tomlinson I, Kerin MJ, Miller N, Burwinkel B, Marme F, Yang R, Surowy H, Guenel P, Truong T, Menegaux F, Sanchez M, Bojesen SE, Nordestgaard BG, Nielsen SF, Flyger H, Gonzalez-Neira A, Benitez J, Zamora MP, Arias Perez JL, Anton-Culver H, Neuhausen SL, Brenner H, Dieffenbach AK, Arndt V, Stegmaier C, Meindl A, Schmutzler RK, Brauch H, Ko YD, Bruning T, Nevanlinna H, Muranen TA, Aittomaki K, Blomqvist C, Matsuo K, Ito H, Iwata H, Tanaka H, Dork T, Bogdanova NV, Helbig S, Lindblom A, Margolin S,*



- Mannermaa A, Kataja V, Kosma VM, Hartikainen JM, Wu AH, Tseng CC, Van Den Berg D, Stram DO, Lambrechts D, Zhao H, Weltens C, van Limbergen E, Chang-Claude J, Flesch-Janys D, Rudolph A, Seibold P, Radice P, Peterlongo P, Barile M, Capra F, Couch FJ, Olson JE, Hallberg E, Vachon C, Giles GG, Milne RL, McLean C, Haiman CA, Henderson BE, Schumacher F, Le Marchand L, Simard J, Goldberg MS, Labreche F, Dumont M, Teo SH, Yip CH, See MH, Cornes B, Cheng CY, Ikram MK, Kristensen V, Zheng W, Halverson SL, Shrubsole M, Long J, Winqvist R, Pylkas K, Jukkola-Vuorinen A, Kauppila S, Andrulis IL, Knight JA, Glendon G, Tchatchou S, Devilee P, Tollenaar RA, Seynaeve C, Van Asperen CJ, Garcia-Closas M, Figueroa J, Chanock SJ, Lissowska J, Czene K, Klevebring D, Darabi H, Eriksson M, Hoening MJ, Hollestelle A, Martens JW, Collee JM, Hall P, Li J, Humphreys K, Shu XO, Lu W, Gao YT, Cai H, Cox A, Cross SS, Reed MW, Blot W, Signorello LB, Cai Q, Shah M, Ghoussaini M, Kang D, Choi JY, Park SK, Noh DY, Hartman M, Miao H, Lim WY, Tang A, Hamann U, Torres D, Jakubowska A, Lubinski J, Jaworska K, Durda K, Sangrajrang S, Gaborieau V, Brennan P, McKay J, Olsowd C, Slager S, Toland AE, Yannoukakos D, Shen CY, Wu PE, Yu JC, Hou MF, Swerdlow A, Ashworth A, Orr N, Jones M, Pita G, Alonso MR, Alvarez N, Herrero D, Tessier DC, Vincent D, Bacot F, Luccarini C, Baynes C, Ahmed S, Healey CS, Brown MA, Ponder BA, Chenevix-Trench G, Thompson DJ, Edwards SL, Easton DF, Dunning AM, French JD* : Fine-scale mapping of the 5q11.2 breast cancer locus reveals at least three independent risk variants regulating MAP3K1. *Am J Hum Genet*, 96: 5-20, 2015.
- 033 *Yasuda T, Tsuzuki S, Kawazu M, Hayakawa F, Kojima S, Ueno T, Imoto N, Kohsaka S, Kunita A, Doi K, Sakura T, Yujiri T, Kondo E, Fujimaki K, Ueda Y, Aoyama Y, Ohtake S, Takita J, Sai E, Taniwaki M, Kurokawa M, Morishita S, Fukayama M, Kiyoi H, Miyazaki Y, Naoe T, Mano H* : Recurrent DUX4 fusions in B cell acute lymphoblastic leukemia of adolescents and young adults. *Nat Genet*, 48: 569-74, 2016.
- 034 *Morishima S, Kashiwase K, Matsuo K, Azuma F, Yabe T, Sato-Otsubo A, Ogawa S, Shiina T, Satake M, Saji H, Kato S, Kodera Y, Sasazuki T, Morishima Y* : High-risk HLA alleles for severe acute graft-versus-host disease and mortality in unrelated donor bone marrow transplantation. *Haematologica*, 101: 491-8, 2016.
- 035 *Masaoka H, Matsuo K, Ito H, Wakai K, Nagata C, Nakayama T, Sadakane A, Tanaka K, Tamakoshi A, Sugawara Y, Mizoue T, Sawada N, Inoue M, Tsugane S, Sasazuki S* : Cigarette smoking and bladder cancer risk: an evaluation based on a systematic review of epidemiologic evidence in the Japanese population. *Jpn J Clin Oncol*, 46: 273-83, 2016.
- 036 *Imoto N, Hayakawa F, Kurahashi S, Morishita T, Kojima Y, Yasuda T, Sugimoto K, Tsuzuki S, Naoe T, Kiyoi H* : B Cell Linker Protein (BLNK) Is a Selective Target of Repression by PAX5-PML Protein in the Differentiation Block That Leads to the Development of Acute Lymphoblastic Leukemia. *J Biol Chem*, 291: 4723-31, 2016.
- 037 *Arakawa F, Kimura Y, Yoshida N, Miyoshi H, Doi A, Yasuda K, Nakajima K, Kiyasu J, Niino D, Sugita Y, Tashiro K, Kuhara S, Seto M, Ohshima K* : Identification of miR-15b as a transformation-related factor in mantle cell lymphoma. *Int J Oncol*, 48: 485-92, 2016.
- 038 *Meeke HD, Song H, Michailidou K, Bolla MK, Dennis J, Wang Q, Barrowdale D, Frost D, McGuffog L, Ellis S, Feng B, Buys SS, Hopper JL, Southey MC, Tesoriero A, James PA, Bruinsma F, Campbell IG, Broeks A, Schmidt MK, Hogervorst FB, Beckman MW, Fasching PA, Fletcher O, Johnson N, Sawyer EJ, Riboli E, Banerjee S, Menon U, Tomlinson I, Burwinkel B, Hamann U, Marme F, Rudolph A, Janavicius R, Tihomirova L, Tung N, Garber J, Cramer D, Terry KL, Poole EM, Tworoger SS, Dorfling CM, Van Rensburg EJ, Godwin AK, Guenel P, Truong T, Stoppa-Lyonnet D, Damiola F, Mazoyer S, Sinilnikova OM, Isaacs C, Maugard C, Bojesen SE, Flyger H, Gerdes AM, Hansen TV, Jensen A, Kjaer SK, Hogdall C, Hogdall E, Pedersen IS, Thomassen M, Benitez J, Gonzalez-Neira A, Osorio A, Hoya Mde L, Segura PP, Diez O, Lazaro C, Brunet J, Anton-Culver H, Eunjung L, John EM, Neuhausen SL, Ding YC, Castillo D, Weitzel JN, Ganz PA, Nussbaum RL, Chan SB, Karlan BY, Lester J, Wu A, Gayther S, Ramus SJ, Sieh W, Whittermore AS, Monteiro AN, Phelan CM, Terry MB, Piedmonte M, Offit K, Robson M, Levine D, Moysich KB, Cannioto R, Olson SH, Daly MB, Nathanson KL, Domchek SM, Lu KH, Liang D, Hildebrandt MA, Ness R, Modugno F, Pearce L, Goodman MT, Thompson PJ, Brenner H, Butterbach K, Meindl A, Hahnen E, Wappenschmidt B, Brauch H, Bruning T, Blomqvist C, Khan S, Nevanlinna H, Pelttari LM, Aittomaki K, Butzow R, Bogdanova NV, Dork T, Lindblom A, Margolin S, Rantala J, Kosma VM, Mannermaa A, Lambrechts D, Neven P, Claes KB, Maerken TV, Chang-Claude J, Flesch-Janys D, Heitz F, Varon-Mateeva R, Peterlongo P, Radice P, Viel A, Barile M, Peissel B, Manoukian S, Montagna M, Oliani C, Peixoto A,*

- Teixeira MR, Collavoli A, Hallberg E, Olson JE, Goode EL, Hart SN, Shimelis H, Cunningham JM, Giles GG, Milne RL, Healey S, Tucker K, Haiman CA, Henderson BE, Goldberg MS, Tischkowitz M, Simard J, Soucy P, Eccles DM, Le N, Borresen-Dale AL, Kristensen V, Salvesen HB, Borge L, Bandera EV, Risch H, Zheng W, Beeghly-Fadiel A, Cai H, Pylkas K, Tollenaar RA, Ouweland AM, Andrulis IL, Knight JA, Narod S, Devilee P, Winqvist R, Figueroa J, Greene MH, Mai PL, Loud JT, Garcia-Closas M, Schoemaker MJ, Czene K, Darabi H, McNeish I, Siddiqui N, Glasspool R, Kwong A, Park SK, Teo SH, Yoon SY, Matsuo K, Hosono S, Woo YL, Gao YT, Foretova L, Singer CF, Rappaport-Furhauser C, Friedman E, Laitman Y, Rennert G, Ilyanov EN, Hulick PJ, Olopade O I, Senter L, Olah E, Doherty JA, Schildkraut J, Koppert LB, Kiemeny LA, Massuger LF, Cook LS, Pejovic T, Li J, Borg A, Ofverholm A, Rossing MA, Wentzensen N, Henriksson K, Cox A, Cross SS, Pasini BJ, Shah M, Kabisch M, Torres D, Jakubowska A, Lubinski J, Gronwald J, Agnarsson BA, Kupryjanczyk J, Moes-Sosnowska J, Fostira F, Konstantopoulou I, Slager S, Jones M, Antoniou AC, Berchuck A, Swerdlow A, Chenevix-Trench G, Dunning AM, Pharoah PD, Hall P, Easton DF, Couch FJ, Spurdle AB, Goldgar DE* : BRCA 2 Polymorphic Stop Codon K3326X and the Risk of Breast, Prostate, and Ovarian Cancers. *J Natl Cancer Inst*, 108(2): djv315, 2016.
- 039 *French JD, Johnatty SE, Lu Y, Beesley J, Gao B, Kalimutho M, Henderson MJ, Russell AJ, Kar S, Chen X, Hillman KM, Kaufmann S, Sivakumaran H, O'Reilly M, Wang C, Korbie DJ, Lambrechts D, Despiere E, Van Nieuwenhuysen E, Lambrechts S, Vergote I, Karlan B, Lester J, Orsulic S, Walsh C, Fasching PA, Beckmann MW, Ekici AB, Hein A, Matsuo K, Hosono S, Pisterer J, Hillemanns P, Nakanishi T, Yatabe Y, Goodman MT, Lurie G, Matsuno RK, Thompson PJ, Pejovic T, Bean Y, Heitz F, Harter P, Du Bois A, Schwaab I, Hogdall E, Kjaer SK, Jensen A, Hogdall C, Lundvall L, Engelholm SA, Brown B, Flanagan JM, Metcalf MD, Siddiqui N, Sellers T, Fridley B, Cunningham J, Schildkraut JM, Iversen E, Weber RP, Brennan D, Berchuck A, Pharoah P, Harnett P, Norris MD, Haber M, Goode EL, Lee JS, Khanna KK, Meyer KB, Chenevix-Trench G, deFazio A, Edwards SL, MacGregor S* : Germline polymorphisms in an enhancer of PSIP1 are associated with progression-free survival in epithelial ovarian cancer. *Oncotarget*, 7: 6353-68, 2016.
- 040 *Wang Z, Seow WJ, Shiraishi K, Hsiung CA, Matsuo K, Liu J, Chen K, Yamji T, Yang Y, Chang IS, Wu C, Hong YC, Burdett L, Wyatt K, Chung CC, Li SA, Yeager M, Hutchinson A, Hu W, Caporaso N, Landi MT, Chatterjee N, Song M, Fraumeni JF Jr, Kohno T, Yokota J, Kunitoh H, Ashikawa K, Momozawa Y, Daigo Y, Mitsudomi T, Yatabe Y, Hida T, Hu Z, Dai J, Ma H, Jin G, Song B, Wang Z, Cheng S, Yin Z, Li X, Ren Y, Guan P, Chang J, Tan W, Chen CJ, Chang GC, Tsai YH, Su WC, Chen KY, Huang MS, Chen YM, Zheng H, Li H, Cui P, Guo H, Xu P, Liu L, Iwasaki M, Shimazu T, Tsugane S, Zhu J, Jiang G, Fei K, Park JY, Kim YH, Sung JS, Park KH, Kim YT, Jung YJ, Kang CH, Park IK, Kim HN, Jeon HS, Choi JE, Choi YY, Kim JH, Oh IJ, Kim YC, Sung SW, Kim JS, Yoon HI, Kweon SS, Shin MH, Seow A, Chen Y, Lim WY, Liu J, Wong MP, Lee VH, Bassig BA, Tucker M, Berndt SI, Chow WH, Ji BT, Wang J, Xu J, Sihoe AD, Ho JC, Chan JK, Wang JC, Lu D, Zhao X, Zhao Z, Wu J, Chen H, Jin L, Wei F, Wu G, An SJ, Zhang XC, Su J, Wu YL, Gao YT, Xiang YB, He X, Li J, Zheng W, Shu XO, Cai Q, Klein R, Pao W, Lawrence C, Hosgood HD 3rd, Hsiao CF, Chien LH, Chen YH, Chen CH, Wang WC, Chen CY, Wang CL, Yu CJ, Chen HL, Su YC, Tsai FY, Chen YS, Li YJ, Yang TY, Lin CC, Yang PC, Wu T, Lin D, Zhou B, Yu J, Shen H, Kubo M, Chanock SJ, Rothman N, Lan Q* : Meta-analysis of genome-wide association studies identifies multiple lung cancer susceptibility loci in never-smoking Asian women. *Hum Mol Genet*, 25: 620-9, 2016.
- 041 *Ito H, Matsuo K* : Molecular epidemiology, and possible real-world applications in breast cancer. *Breast Cancer*, 23: 33-38, 2016.
- 042 千原 大, 伊藤秀美, 松尾恵太郎 : 造血管腫瘍の罹患率と罹患傾向に関する日米での比較検討. *臨床血液*, 56(4): 366-74, 2015.
- 043 都築 忍 : 悪性リンパ腫モデル細胞の作成とその薬剤スクリーニングへの応用. *リンパ腫学*, 日本臨床(増刊号), 196-200, 2015.

腫瘍免疫学部

- 001 *Kitayama S, Zhang R, Liu TY, Ueda N, Iriguchi S, Yasui Y, Kawai Y, Tatsumi M, Hirai N, Mizoro Y, Iwama T, Watanabe A, Nakanishi M, Kuzushima K, Uemura Y, Kaneko S* : Cellular Adjuvant Properties, Direct Cytotoxicity of Re-differentiated V $\alpha$ 24 Invariant NKT-like Cells from Human Induced Pluripotent Stem Cells. *Stem Cell Reports*, 6(2): 213-227, 2016.
- 002 *Inaguma Y, Akatsuka Y, Hosokawa K, Maruyama H, Okamoto A, Katagiri T, Shiraishi K, Murayama Y, Tsuzuki-Iba S, Mizutani Y, Nishii C, Yamamoto N, Demachi-Okamura A, Kuzushima K, Ogawa S, Emi N,*

*Nakao S* : Induction of HLA-B\*40:02-restricted T cells possessing cytotoxic and suppressive functions against haematopoietic progenitor cells from a patient with severe aplastic anaemia. *Br J Haematol*, 172(1): 131-134, 2016.

- 003 *Yamada E, Demachi-Okamura A, Kondo S, Akatsuka Y, Suzuki S, Shibata K, Kikkawa F, Kuzushima K* : Identification of a naturally processed HLA-Cw 7-binding peptide that cross-reacts with HLA-A24-restricted ovarian cancer-specific CTLs. *Tissue Antigens*, 86(3): 164-171, 2015.
- 004 *Fujiwara H, Ochi T, Ochi F, Miyazaki Y, Asai H, Narita M, Okamoto S, Mineno J, Kuzushima K, Shiku H, Yasukawa M* : Antileukemia multifunctionality of CD4(+) T cells genetically engineered by HLA class I-restricted and WT1-specific T-cell receptor gene transfer. *Leukemia*, 29(12): 2393-2401, 2015.
- 005 *Zhang R, Liu TY, Senju S, Haruta M, Hirose N, Suzuki M, Tatsumi M, Ueda N, Maki H, Nakatsuka R, Matsuoka Y, Sasaki Y, Tsuzuki S, Nakanishi H, Araki R, Abe M, Akatsuka Y, Sakamoto Y, Sonoda Y, Nishimura Y, Kuzushima K, Uemura Y* : Generation of mouse pluripotent stem cell-derived proliferating myeloid cells as an unlimited source of functional antigen-presenting cells. *Cancer Immunol Res*, 3(6): 668-677, 2015.
- 006 *Kitabatake M, Soma M, Zhang T, Kuwahara K, Fukushima Y, Nojima T, Kitamura D, Sakaguchi N* : JNK regulatory molecule G5PR induces IgG autoantibody-producing plasmablasts from peritoneal B1a cells. *J Immunol*, 194(4): 1480-1488, 2015.
- 007 *Morishima S, Nakamura S, Yamamoto K, Miyauchi H, Kagami Y, Kinoshita T, Onoda H, Yatabe Y, Ito M, Miyamura K, Nagai H, Moritani S, Sugiura I, Tsushita K, Mihara H, Ohbayashi K, Iba S, Emi N, Okamoto M, Iwata S, Kimura H, Kuzushima K, Morishima Y* : Increased T-cell responses to Epstein-Barr virus with high viral load in patients with Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma. *Leuk Lymphoma*, 56(4): 1072-1078, 2015.

#### 感染腫瘍学部

##### 学会誌への発表

- 001 *Oneyama C, Okada M* : MicroRNAs as the fine-tuners of Src oncogenic signaling. *J Biochem*, 157(6): 431-438, 2015.
- 002 *Kakumoto K, Ikeda J, Okada M, Morii E, Oneyama C* : mLST8 promotes mTOR-mediated tumor progression. *PLoS One*, 10(4): e0119015, 2015.
- 003 *Narita Y, Sugimoto A, Kawashima D, Watanabe T, Kanda T, Kimura H, Tsurumi T, Murata T* : A

herpesvirus specific motif of Epstein-Barr virus DNA polymerase is required for the efficient lytic genome synthesis. *Sci Rep*, 5: 11767, 2015.

- 004 *Oneyama C, Yoshikawa Y, Ninomiya Y, Iino T, Tsukita S, Okada M*. Fer tyrosine kinase oligomer mediates and amplifies Src-induced tumor progression. *Oncogene*, 35(4): 501-512, 2016.
- 005 *Murata T, Noda C, Narita Y, Watanabe T, Yoshida M, Ashio K, Sato Y, Goshima F, Kanda T, Yoshiyama H, Tsurumi T, Kimura H* : Induction of Epstein-Barr Virus Oncoprotein LMP1 by Transcription Factors AP-2 and Early B Cell Factor. *J Virol*, 90(8): 3873-89, 2016.
- 006 *Matsuyama R, Okuzaki D, Okada M, Oneyama C* : miR-27b suppresses tumor progression by regulating ARFGEF1 and the focal adhesion signaling. *Cancer Science*, 107(1): 28-35, 2016.
- 007 *Hashimoto A, Oikawa T, Hashimoto S, Sugino H, Yoshikawa A, Otsuka Y, Handa H, Onodera Y, Nam JM, Oneyama C, Okada M, Fukuda M, Sabe H* : P53- and mevalonate pathway-driven malignancies require Arf6 for metastasis and drug resistance. *J Cell Biol*, 213(1): 81-95, 2016.
- 008 *Kanda T, Furuse Y, Oshitani H, Kiyono T* : Highly Efficient CRISPR/Cas9-Mediated Cloning and Functional Characterization of Gastric Cancer-Derived Epstein-Barr Virus Strains. *J Virol*, 90(9): 4383-93, 2016.
- 009 *Komiya Y, Onodera Y, Kuroiwa M, Nomimura S, Kubo Y, Nam J, Kajiwara K, Nada S, Oneyama C, Sabe H, Okada M*. The Rho guanine nucleotide exchange factor ARHGEF5 promotes tumor malignancy via epithelial-mesenchymal transition. *Oncogenesis*, in press.

##### その他誌上への発表

###### (総説)

- 001 *神田 輝* : 特集 持続感染・潜伏感染の機序と病態「5. EBウイルスの潜伏感染機構」. 化学療法の領域 Vol.31 No.9, 66-73, 医薬ジャーナル社, 2015.
- 002 *小根山千歳, 岡田雅人* : 脂質ラフトによるSrcの空間的制御とがん進展. 実験医学増刊 : 知る・見る・活かす! シグナリング研究2015, Vol.33 No.10, 82-87, 羊土社, 2015.
- 003 *小根山千歳* : がんシグナルとmicroRNA. 生体の科学, 67(1), 81-85, 医学書院, 2016.

##### (単行本分担執筆)

- 001 *神田 輝* : ウイルスプラスミドの複製・維持機構. EBウイルス改訂第3版(高田賢蔵監修, 柳井秀雄, 清水則夫, 吉山裕規編集)55-58, 診断と治療社, 2015.



分子病態学部

【原著】

- 001 *Hijiya N, Tsukamoto Y, Nakada C, Tung NL, Kai T, Matsuura K, Shibata K, Inomata M, Uchida T, Tokunaga A, Amada K, Yamada Y, Mori H, Takeuchi I, Seto M, Aoki M, Takekawa M, Moriyama M* : Genomic loss of DUSP 4 contributes to the progression of intraepithelial neoplasm of pancreas to invasive carcinoma. *Cancer Res*, 76(9): 2612-2625, 2016.

腫瘍医化学部

- 001 *Inaba H, Goto H, Kasahara K, Kumamoto K, Yonemura S, Inoko A, Yamano S, Wanibuchi H, He D, Goshima N, Kiyono T, Hirotsumi S, Inagaki M* : Ndel1 suppresses ciliogenesis in proliferating cells by regulating the trichoplein-Aurora A pathway. *J. Cell Biol*, 212: 409-423, 2016.
- 002 *Goto H, Tanaka H, Kasahara K, Inagaki M* : Phospho-specific antibody proves of intermediate filament proteins. *Methods Enzymol*, 568: 85-111, 2016.
- 003 *Izawa I, Goto H, Kasahara K, Inagaki M* : Current topics of functional links between primary cilia and cell cycle. *Cilia* 4: 12, 2016.
- 004 *Bargagna-Mohan P, Lei L, Thompson A, Shaw C, Kasahara K, Inagaki M, Mohan R* : Vimentin phosphorylation underlies myofibroblast sensitivity to withaferin A in vitro and during corneal fibrosis. *PLoS One* 10: e0133399, 2015.
- 005 *Hyder CL, Kemppainen K, Isoniemi KO, Imanishi SY, Goto H, Inagaki M, Fazeli E, Eriksson JE, Törnquist K* : Sphingolipids inhibit vimentin-dependent cell migration. *J. Cell Sci*, 128:2057-2069, 2015.
- 006 *Tanaka H, Goto H, Inoko A, Makihara H, Enomoto A, Horimoto K, Matsuyama M, Kurita K, Izawa I, Inagaki M* : Cytokinetic failure-induced tetraploidy develops into aneuploidy, triggering skin aging in phospho-vimentin deficient mice. *J. Biol. Chem*, 290: 12984-12998, 2015.
- 007 *Goto H, Kasahara K, Inagaki M* : Novel insights into Chk1 regulation by phosphorylation. *Cell Struct. Funct*, 40: 43-50, 2015.